＜第3章　調査の集計結果＞

第3章　調査の集計結果

１．医療機関の適正受診について

（1）「かかりつけ医」の有無

問１　あなたは、日ごろから病気やけがなどの際に受診や相談をする決まった医療機関（医師）、いわゆる「かかりつけ医」を持っていますか。次の中から１つだけ選んでください。

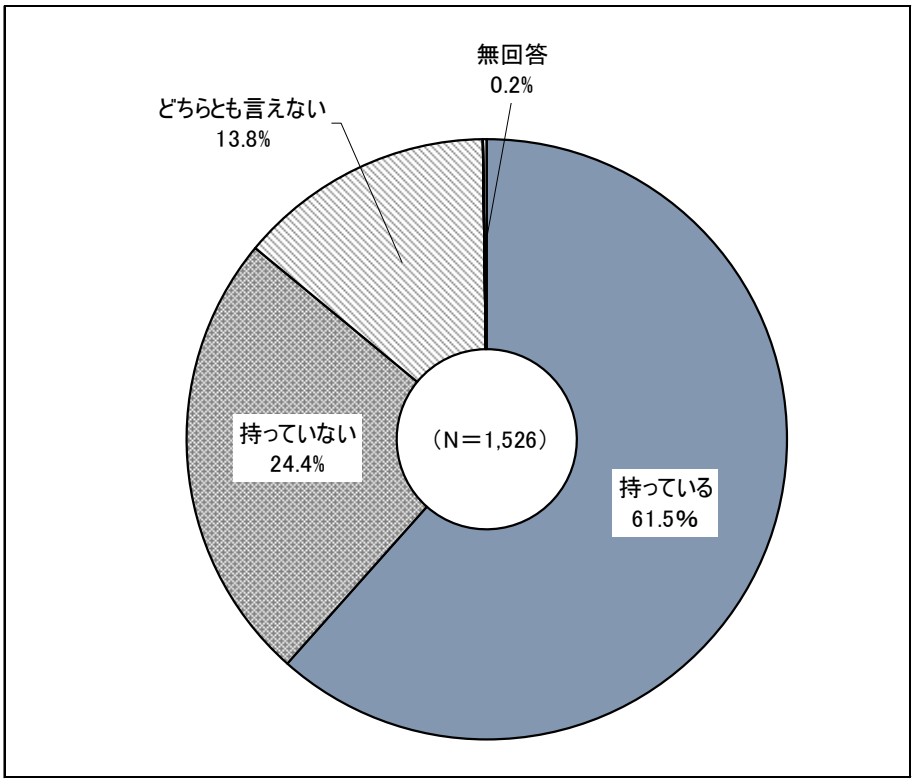
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】

１　持っている	61.5%(59.7%)
２　持っていない	24.4%(26.2%)
３　どちらとも言えない	13.8%(14.0%)
（無回答）	0.2%(0.2%)

「かかりつけ医」の有無について、「持っている」61.5%、「持っていない」24.4%、「どちらとも言えない」13.8%となっている。

図表 1-(1)-1 「かかりつけ医」の有無



「かかりつけ医」の有無について、性別にみると、男女とも「持っている」が最も高く、『男性』63.1%、『女性』61.2%で、これに男女とも「持っていない」が『男性』25.2%、『女性』23.9%と続いている。

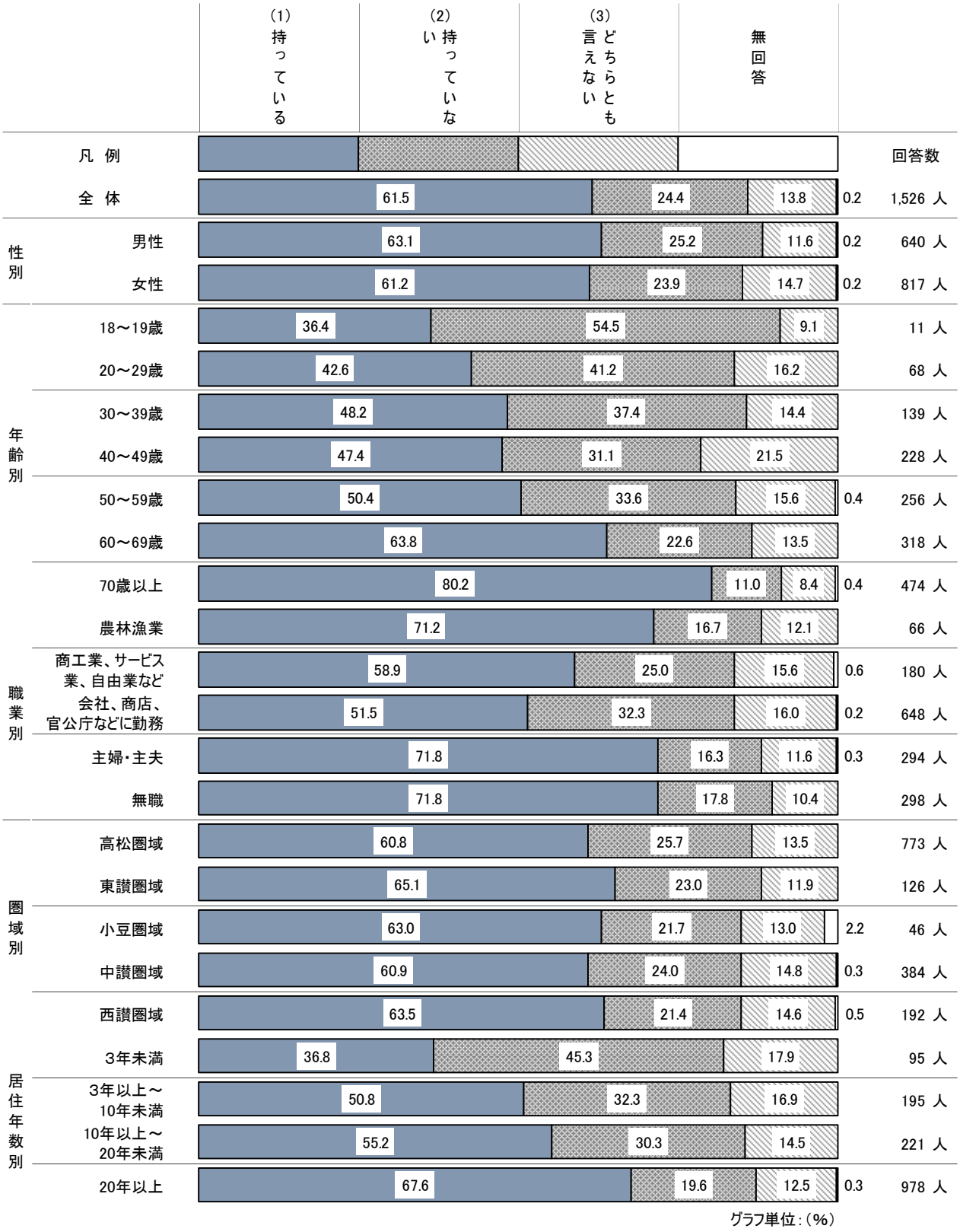
年齢別にみると、『18～19 歳』を除くすべての年齢で「持っている」が４～８割台と最も高く、『18～19 歳』では「持っていない」54.5%が最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「持っている」が５～７割台と最も高く、『主婦・主夫』、『無職』で同率の 71.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「持っている」が６割台と最も高く、『東讃圏域』で 65.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『３年未満』を除くすべての居住年数で「持っている」が５～６割台と最も高く、『３年未満』では「持っていない」45.3%が最も高くなっている。

図表 1-(1)-2 【「かかりつけ医」の有無】



(2)「かかりつけ薬局」の有無

問２　あなたは、どの医療機関から受け取った処方箋でも、いつもそこで調剤を受けたり、薬のことを相談したりする決まった薬局、いわゆる「かかりつけ薬局」を持っていますか。次の中から１つだけ選んでください。

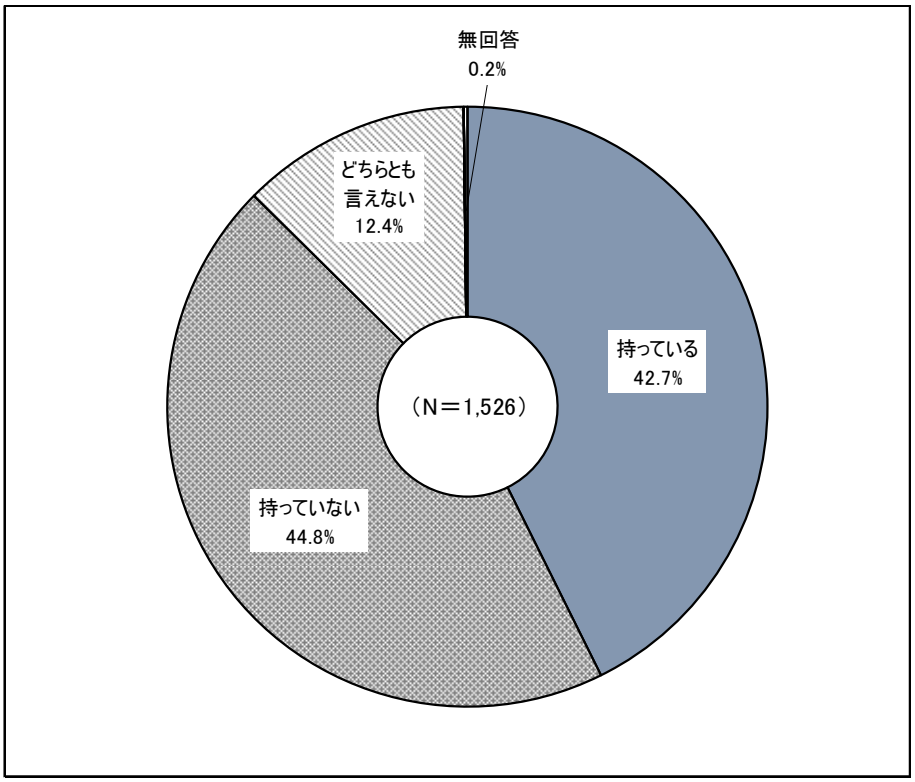
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】

1　持っている	42.7%(40.2%)
2　持っていない	44.8%(47.4%)
3　どちらとも言えない	12.4%(12.2%)
（無回答）	0.2%(0.2%)

「かかりつけ薬局」の有無について、「持っていない」44.8%が最も高く、次いで「持っている」42.7%、「どちらとも言えない」12.4%となっている。

図表 1-(2)-1 「かかりつけ薬局」の有無



「かかりつけ薬局」の有無について、性別にみると、男女とも「持っていない」が最も高く、『男性』46.4%、『女性』44.3%で、これに男女とも「持っている」が『男性』43.6%、『女性』41.6%と続いている。

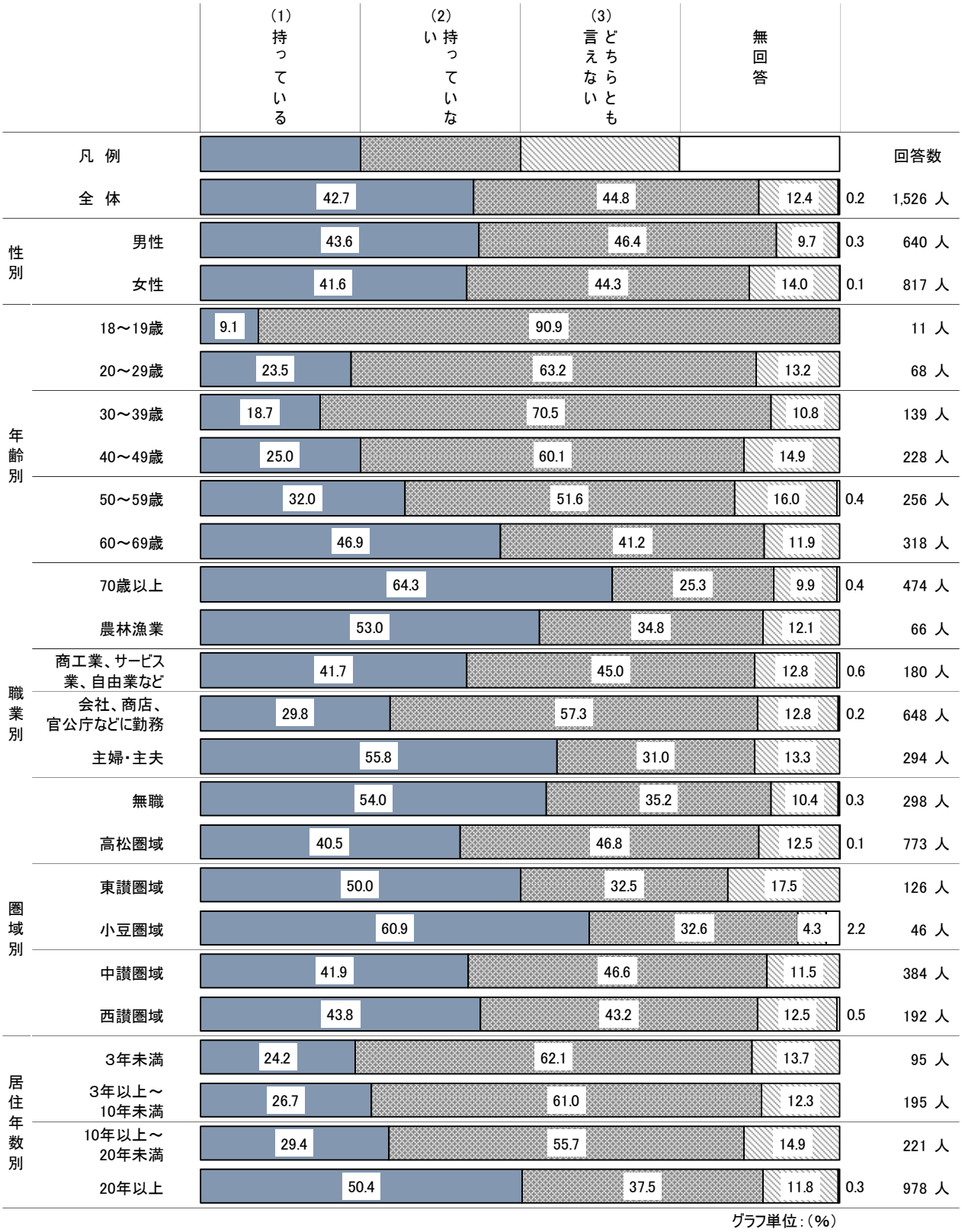
年齢別にみると、『60～69 歳』、『70 歳以上』を除くすべての年齢で「持っていない」が最も高く、『60～69 歳』、『70 歳以上』では「持っている」が最も高くなっている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』を除くすべての職業で「持っている」が最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「持っていない」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『中讃圏域』では「持っていない」が最も高く、『東讃圏域』、『小豆圏域』、『西讃圏域』では「持っている」が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『20 年以上』を除くすべての居住年数で「持っていない」が最も高く、『20 年以上』では「持っている」が最も高くなっている。

図表 1-(2)-2 【「かかりつけ薬局」の有無】



（3）診療時間外の受診を控えているかどうかについて

問３　あなたは夜間などにおいて、比較的症状が軽い場合は、家庭内で対処したり、翌日の通常診療時間内や休日当番医で受診したりするなど、診療時間外の受診を控えるようにしていますか。次の中から１つだけ選んでください。

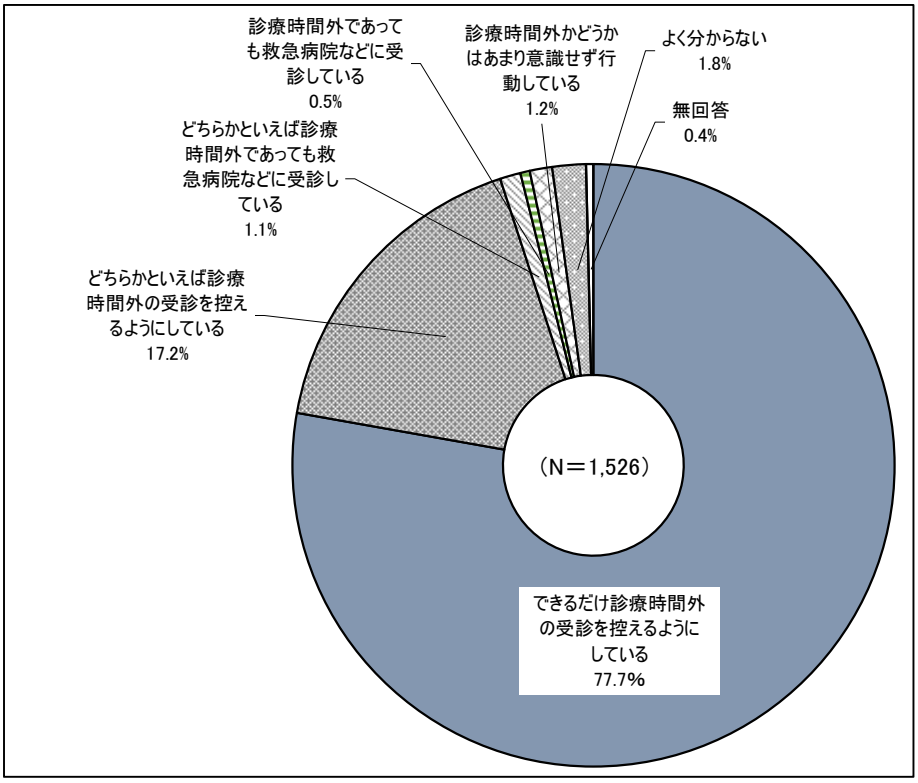
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】

1　できるだけ診療時間外の受診を控えるようにしている	77.7%(78.5%)	
2　どちらかといえば診療時間外の受診を控えるようにしている	17.2%(16.6%)	
3　どちらかといえば診療時間外であっても救急病院などに受診している	1.1%(1.1%)	⇒ 付問1にお進みください
4　診療時間外であっても救急病院などに受診している	0.5%(0.5%)	⇒ 付問1にお進みください
5　診療時間外かどうかはあまり意識せず行動している	1.2%(1.2%)	
6　よく分からない	1.8%(1.7%)	
（無回答）	0.4%(0.3%)	

診療時間外の受診を控えているかどうかについて、「できるだけ診療時間外の受診を控えるようにしている」77.7%が最も高く、次いで「どちらかといえば診療時間外の受診を控えるようにしている」17.2%、「よく分からない」1.8%、「診療時間外かどうかはあまり意識せず行動している」1.2%などとなっている。

図表 1-(3)-1　診療時間外の受診を控えているかどうかについて



診療時間外の受診を控えているかどうかについて、性別にみると、男女とも「できるだけ診療時間外の受診を控えるようにしている」が最も高く、『男性』74.1%、『女性』81.5%で、これに男女とも「どちらかといえば診療時間外の受診を控えるようにしている」が『男性』20.5%、『女性』14.2%と続いている。

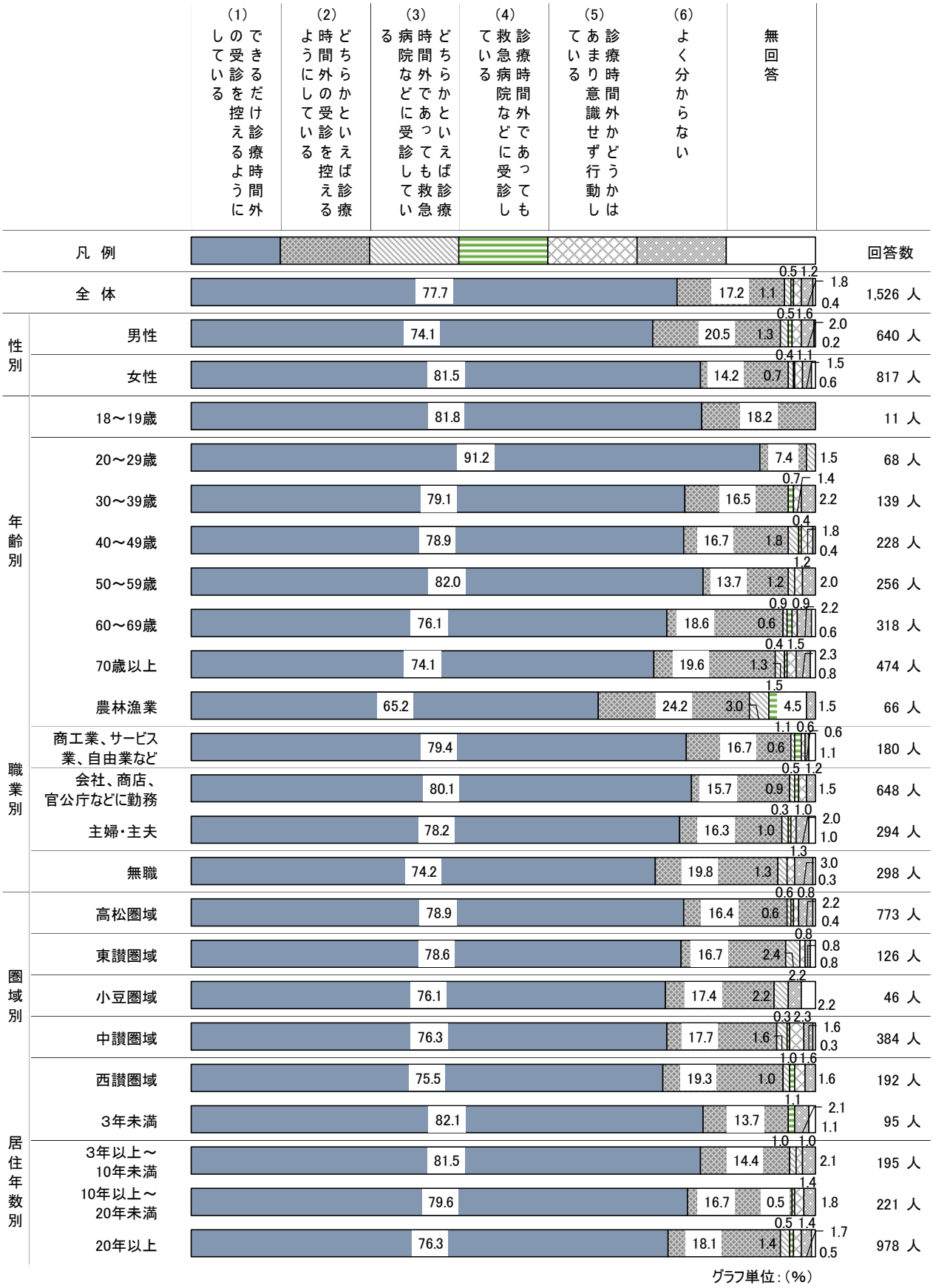
年齢別にみると、いずれも「できるだけ診療時間外の受診を控えるようにしている」が７～９割台と最も高く、『20～29 歳』で 91.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「できるだけ診療時間外の受診を控えるようにしている」が６～８割台と最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』で 80.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「できるだけ診療時間外の受診を控えるようにしている」が７割台と最も高く、『高松圏域』で 78.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「できるだけ診療時間外の受診を控えるようにしている」が７～８割台と最も高く、『３年未満』で 82.1%と最も高くなっている。

図表 1-(3)-2 【診療時間外の受診を控えているかどうかについて】



（4）診療時間外に救急病院を受診する理由について

【問3で「3」または「4」と答えた方にお聞きします】

付問１　診療時間外であっても救急病院などに受診する理由を、次の中から１つだけ選んでください。

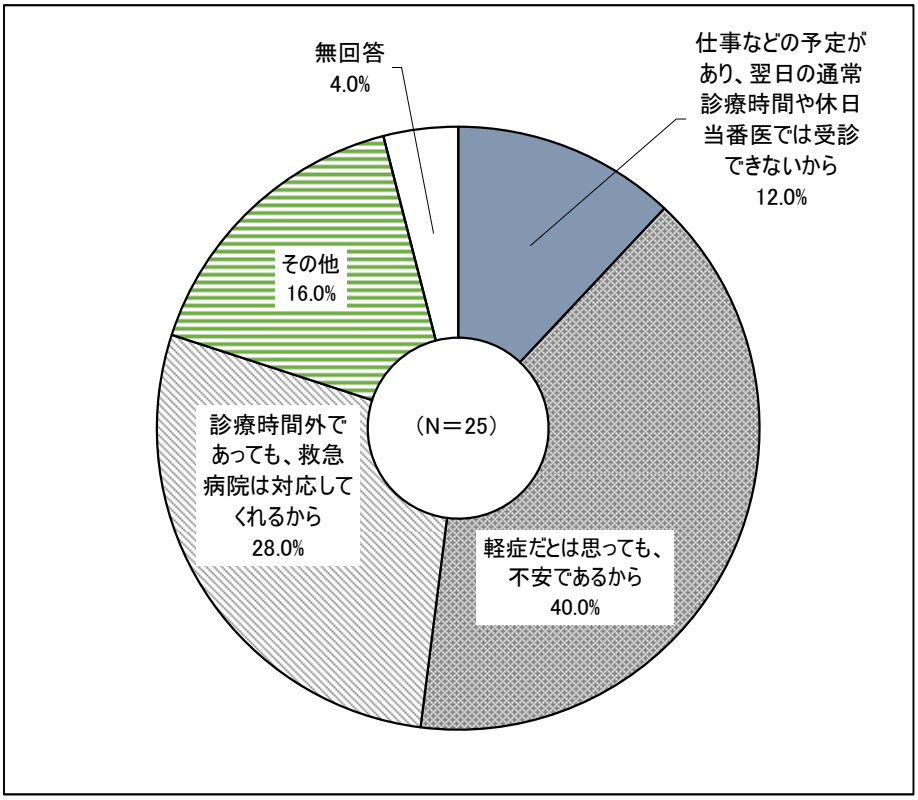
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝25】

１	仕事などの予定があり、翌日の通常診療時間や休日当番医では受診できないから	12.0%(12.6%)
２	軽症だとは思っても、不安であるから	40.0%(44.0%)
３	診療時間外であっても、救急病院は対応してくれるから	28.0%(25.3%)
４	その他	16.0%(14.1%)
（無回答）		4.0%(3.9%)

診療時間外に救急病院を受診する理由について、「軽症だとは思っても、不安であるから」40.0%が最も高く、次いで「診療時間外であっても、救急病院は対応してくれるから」28.0%、「仕事などの予定があり、翌日の通常診療時間や休日当番医では受診できないから」12.0%などとなっている。

図表 1-(4)-1　診療時間外に救急病院を受診する理由について



診療時間外に救急病院を受診する理由について、性別にみると、『男性』では「診療時間外であっても、救急病院は対応してくれるから」45.5%が最も高く、『女性』では「軽症だとは思っても、不安であるから」33.3%が最も高くなっている。

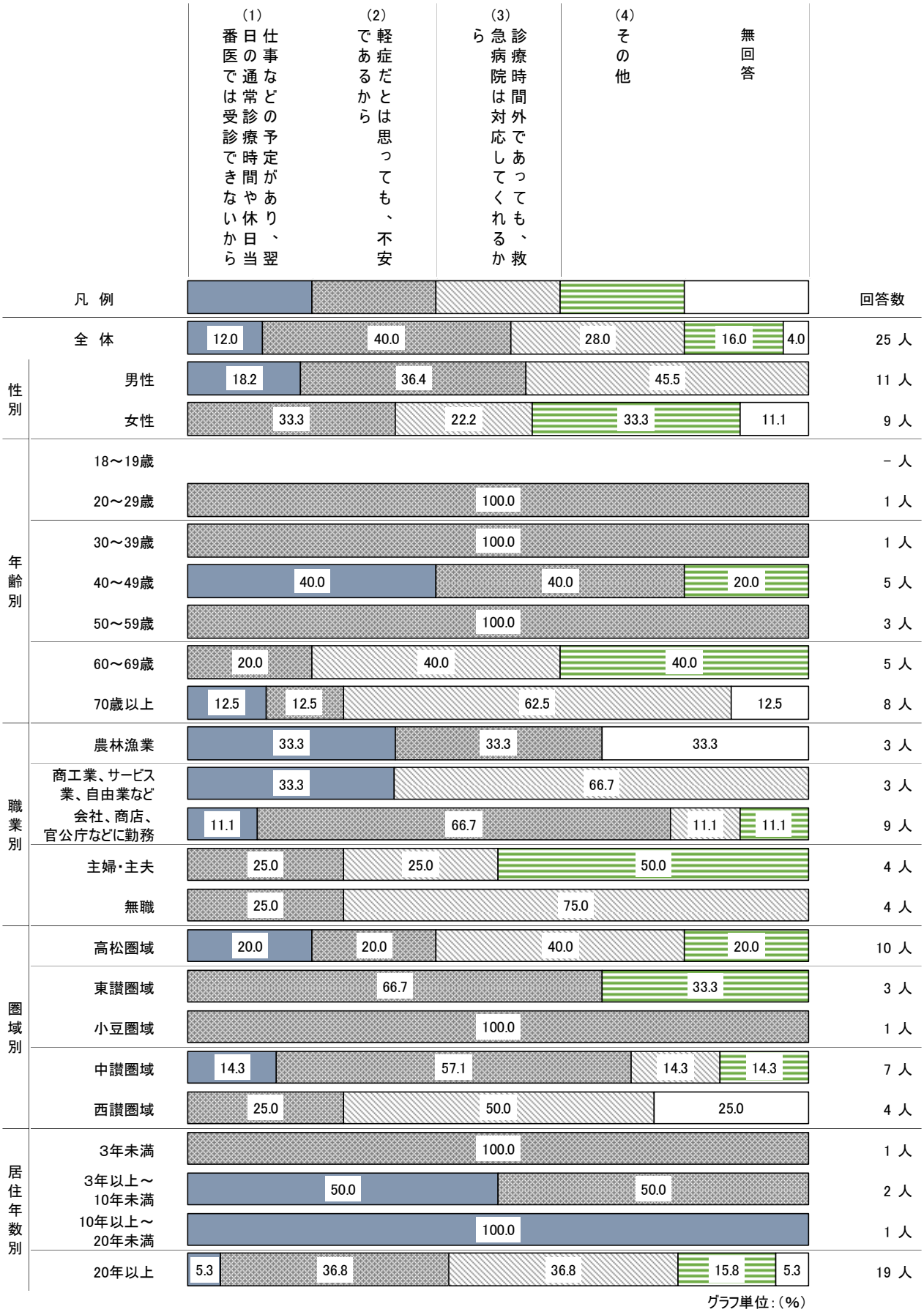
年齢別にみると、『20～29 歳』、『30～39 歳』、『50～59 歳』では「軽症だとは思っても、不安であるから」が最も高く、『40～49 歳』では「仕事などの予定があり、翌日の通常診療時間や休日当番医では受診できないから」、「軽症だとは思っても、不安であるから」が同率の 40.0%で最も高く、『60～69 歳』、『70 歳以上』では「診療時間外であっても、救急病院は対応してくれるから」が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』では「仕事などの予定があり、翌日の通常診療時間や休日当番医では受診できないから」、「軽症だとは思っても、不安であるから」が同率の 33.3%で最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』、『無職』では「診療時間外であっても、救急病院は対応してくれるから」が最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「軽症だとは思っても、不安であるから」が最も高く、『主婦・主夫』では「軽傷だとは思っても、不安であるから」、「診療時間外であっても、救急病院は対応してくれるから」が同率の 25.0%で最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『西讃圏域』では「診療時間外であっても、救急病院は対応してくれるから」が最も高く、『東讃圏域』、『小豆圏域』、『中讃圏域』では「軽症だとは思っても、不安であるから」が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『３年未満』では「軽症だとは思っても、不安であるから」が最も高く、『３年以上～10 年未満』では「仕事などの予定があり、翌日の通常診療時間や休日当番医では受診できないから」、「軽症だとは思っても、不安であるから」が同率の 50.0%と最も高く、『10 年以上～20 年未満』では「仕事などの予定があり、翌日の通常診療時間や休日当番医では受診できないから」が最も高く、『20 年以上』では「軽症だとは思っても、不安であるから」、「診療時間外であっても、救急病院は対応してくれるから」が同率の 36.8%と最も高くなっている。

図表 1-(4)-2 【診療時間外に救急病院を受診する理由について】



(5)診療時間外の特別料金徴収の認知度について

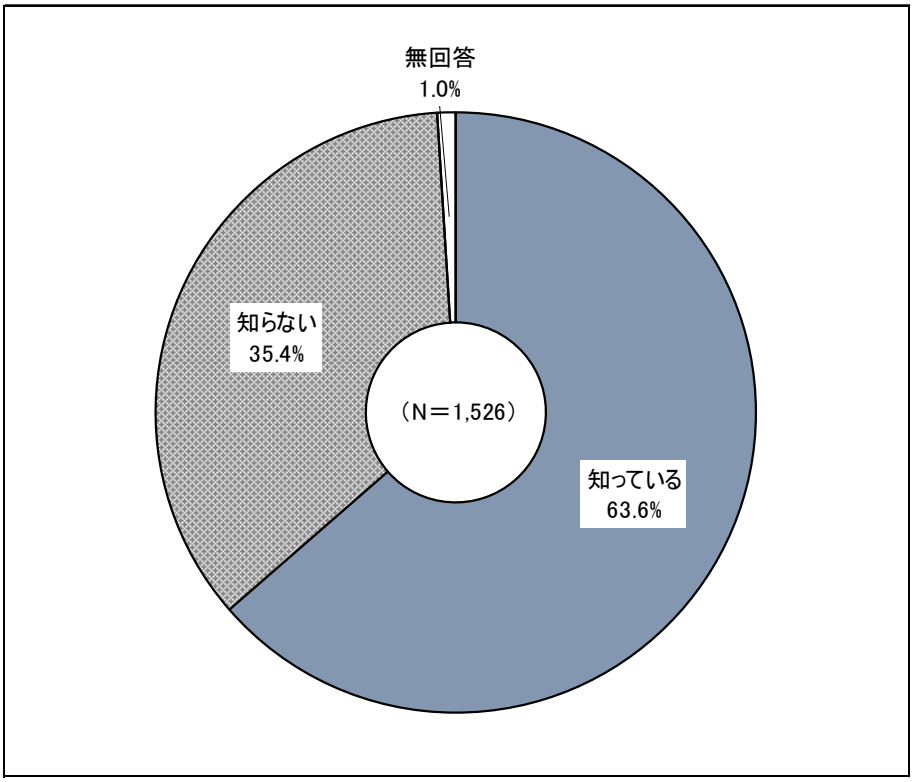
問４　時間外の救急病院への受診は、緊急性が認められないなど、場合によっては、診察代とは別に特別料金を徴収される可能性があることを知っていますか。次の中から１つだけ選んでください。　※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】

１　知っている	63.6%(62.8%)
２　知らない	35.4%(36.2%)
（無回答）	1.0%(1.0%)

診療時間外の特別料金徴収の認知度について、「知っている」63.6%、「知らない」35.4%となっている。

図表 1-(5)-1　診療時間外の特別料金徴収の認知度について



診療時間外の特別料金徴収の認知度について、性別にみると、男女とも「知っている」が最も高く、『男性』54.5%、『女性』70.7%で、これに男女とも「知らない」が『男性』44.4%、『女性』28.3%と続いている。

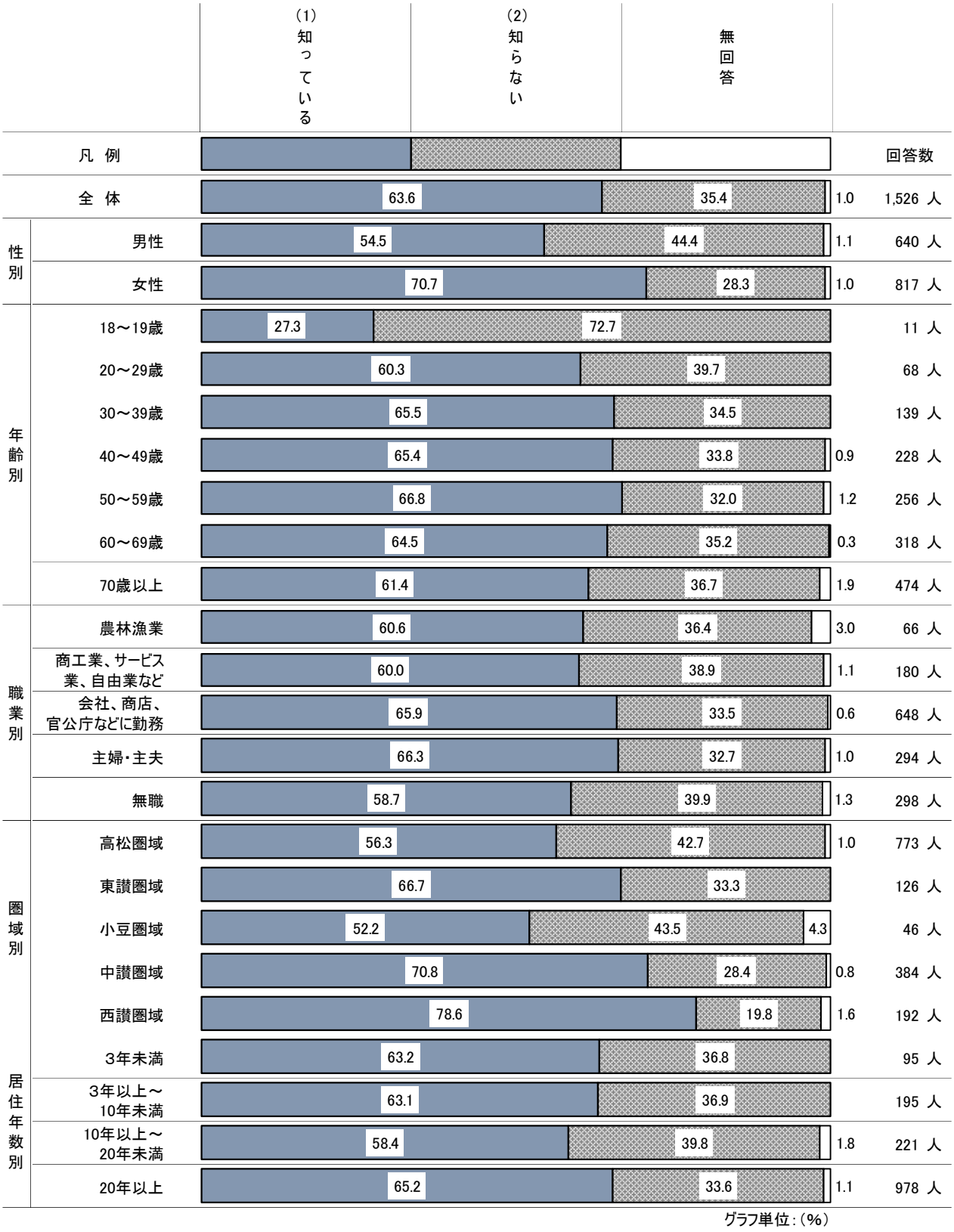
年齢別にみると、『18～19 歳』を除くすべての年齢で「知っている」が６割台と最も高く、『18～19 歳』では「知らない」72.7%が最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「知っている」が５～６割台と最も高く、『主婦・主夫』で 66.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「知っている」が５～７割台と最も高く、『西讃圏域』で 78.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「知っている」が５～６割台と最も高く、『20 年以上』で 65.2%と最も高くなっている。

図表 1-(5)-2 【診療時間外の特別料金徴収の認知度について】



(6)「小児救急電話相談事業」の認知度と利用について

問５　香川県では、子どもの急な病気などについて、毎日午後７時から翌朝８時まで、看護師などが相談に応じる「小児救急電話相談事業」（＃8000、☎087-823-1588）を実施していますが、あなたやあなたの家族はこのことについて知っていますか。また、あなたやあなたの家族は、「小児救急電話相談事業」を利用したことがありますか。次の中から１つだけ選んでください。

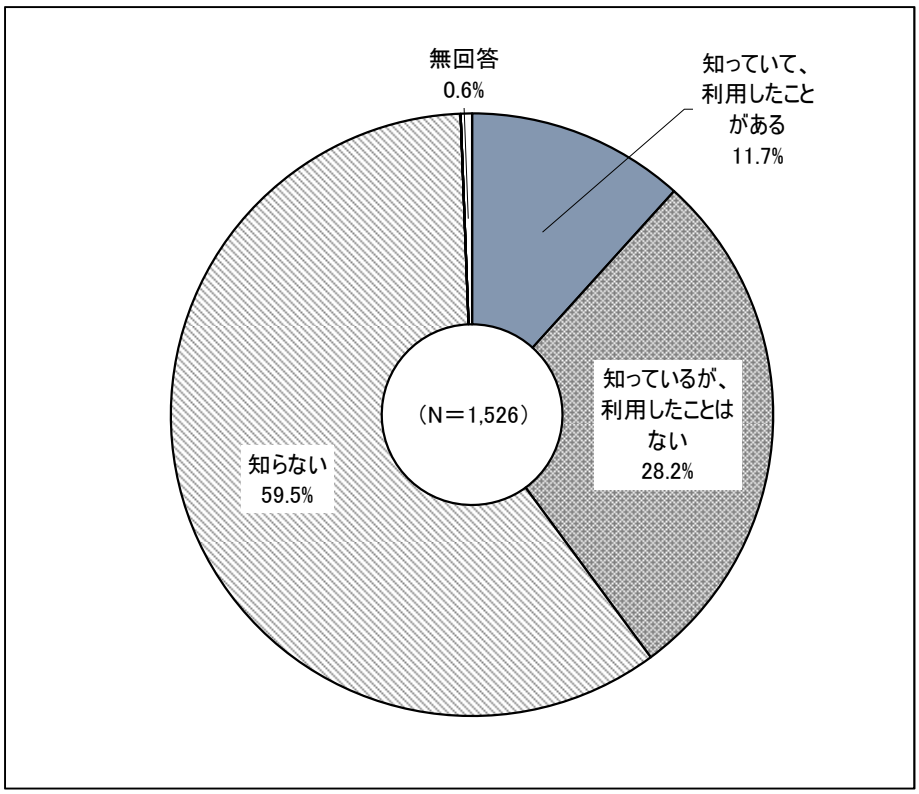
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】

１　知っていて、利用したことがある	11.7%(12.7%)
２　知っているが、利用したことはない	28.2%(27.8%)
３　知らない	59.5%(58.9%)
（無回答）	0.6%(0.5%)

「小児救急電話相談事業」の認知度と利用について、「知らない」59.5%が最も高く、次いで「知っているが、利用したことはない」28.2%、「知っていて、利用したことがある」11.7%となっている。

図表 1-(6)-1 「小児救急電話相談事業」の認知度と利用について



「小児救急電話相談事業」の認知度と利用について、性別にみると、男女とも「知らない」が最も高く、『男性』68.4%、『女性』52.4%で、これに男女とも「知っているが、利用したことはない」が『男性』20.9%、『女性』34.1%と続いている。

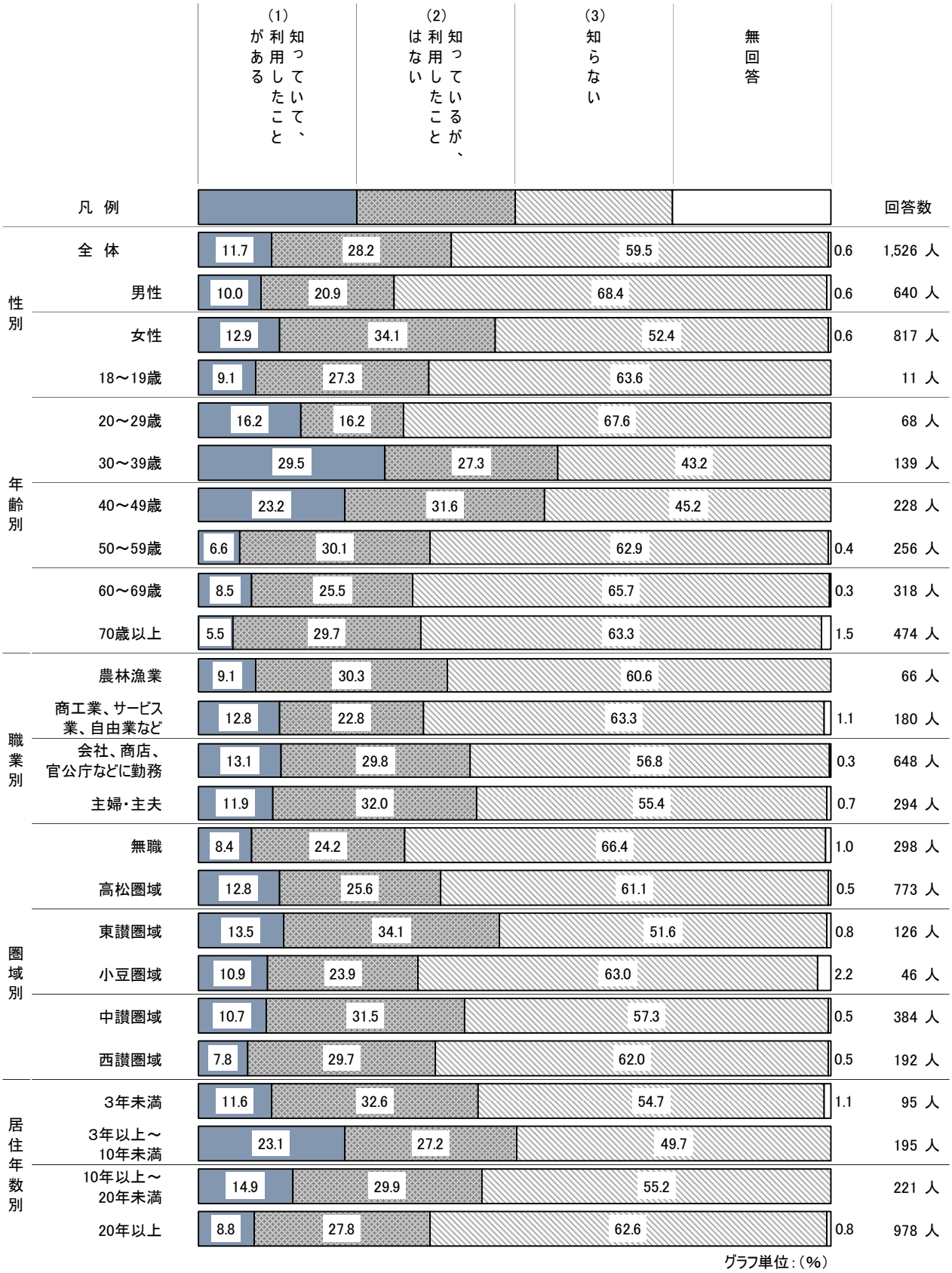
年齢別にみると、いずれも「知らない」が４～６割台と最も高く、『20～29 歳』で 67.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「知らない」が５～６割台と最も高く、『無職』で 66.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「知らない」が５～６割台と最も高く、『小豆圏域』で 63.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「知らない」が４～６割台と最も高く、『20 年以上』で 62.6%と最も高くなっている。

図表 1-(6)-2 【「小児救急電話相談事業」の認知度と利用について】



(7)「一般向け救急電話相談事業」の認知度と利用について

問６　香川県では、毎日午後７時から翌朝８時まで、１５歳以上を対象に、看護師などが相談に応じる「一般向け救急電話相談事業」(#7899、☎087-812-1055）を実施していますが、あなたやあなたの家族はこのことについて知っていますか。また、あなたやあなたの家族は「一般向け救急電話相談事業」を利用したことがありますか。次の中から１つだけ選んでください。

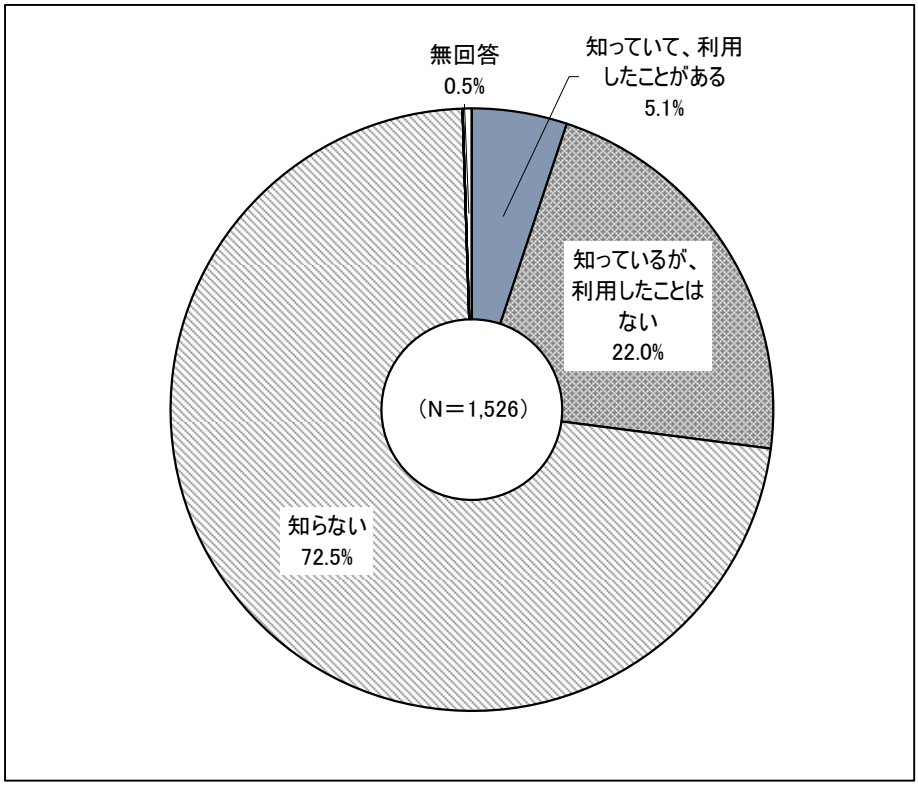
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】

１	知っていて、利用したことがある	5.1%(5.2%)
２	知っているが、利用したことはない	22.0%(21.7%)
３	知らない	72.5%(72.7%)
（無回答）		0.5%(0.4%)

「一般向け救急電話相談事業」の認知度と利用について、「知らない」72.5%が最も高く、次いで「知っているが、利用したことはない」22.0%、「知っていて、利用したことがある」5.1%となっている。

図表 1-(7)-1 「一般向け救急電話相談事業」の認知度と利用について



「一般向け救急電話相談事業」の認知度と利用について、性別にみると、男女とも「知らない」が最も高く、『男性』76.7%、『女性』68.5%で、これに男女とも「知っているが、利用したことはない」が『男性』18.1%、『女性』25.7%と続いている。

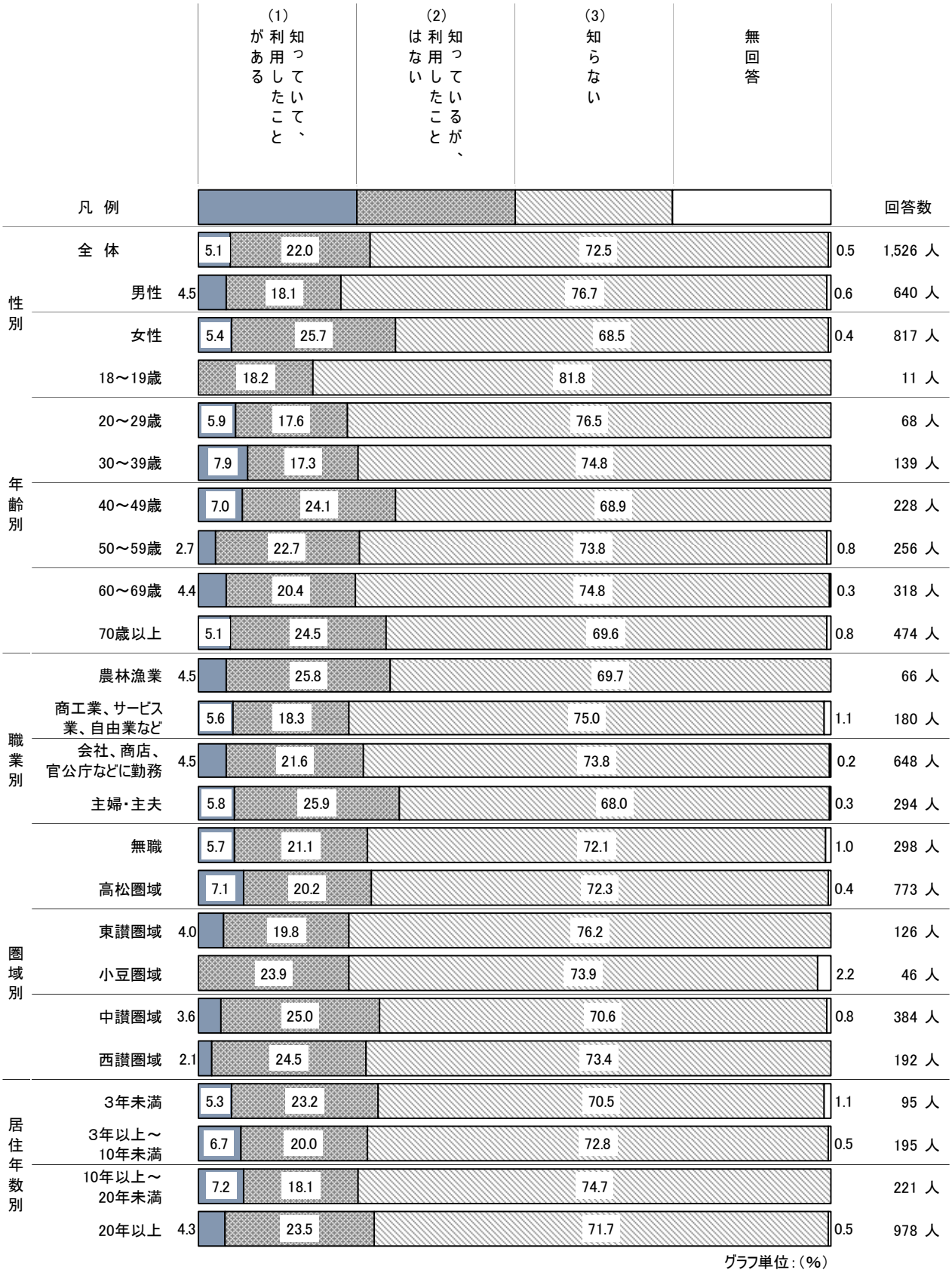
年齢別にみると、いずれも「知らない」が６～８割台と最も高く、『18～19 歳』で 81.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「知らない」が６～７割台と最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』で 75.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「知らない」が７割台と最も高く、『東讃圏域』で 76.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「知らない」が７割台と最も高く、『10 年以上～20 年未満』で 74.7%と最も高くなっている。

図表 1-(7)-2 【「一般向け救急電話相談事業」の認知度と利用について】



(8)救急電話相談事業の必要性について

問７　「小児救急電話相談事業」を利用した方、「一般向け救急電話相談事業」を利用した方のいずれも約７割の方は、経過観察とするなど、医療機関への救急受診を一旦回避しています。このことで、患者やその家族、救急医療機関の負担軽減が図られていますが、あなたは、救急医療体制を確保するため、こうした事業を必要だと思いますか。次の中から１つだけ選んでください。

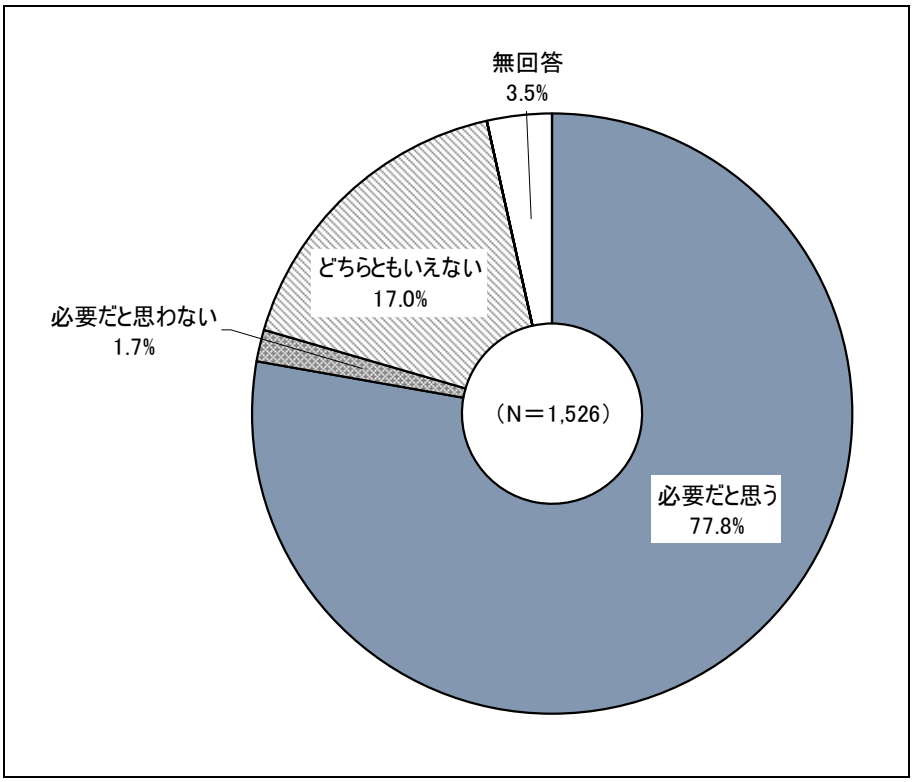
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】

1　必要だと思う	77.8%(78.5%)
2　必要だと思わない	1.7%(1.5%)
3　どちらともいえない	17.0%(16.7%)
(無回答)	3.5%(3.3%)

救急電話相談事業の必要性について、「必要だと思う」77.8%が最も高く、次いで「どちらともいえない」17.0%、「必要だと思わない」1.7%となっている。

図表 1-(8)-1　救急電話相談事業の必要性について



救急電話相談事業の必要性について、性別にみると、男女とも「必要だと思う」が最も高く、『男性』75.9%、『女性』79.9%で、これに男女とも「どちらともいえない」が『男性』18.9%、『女性』15.2%と続いている。

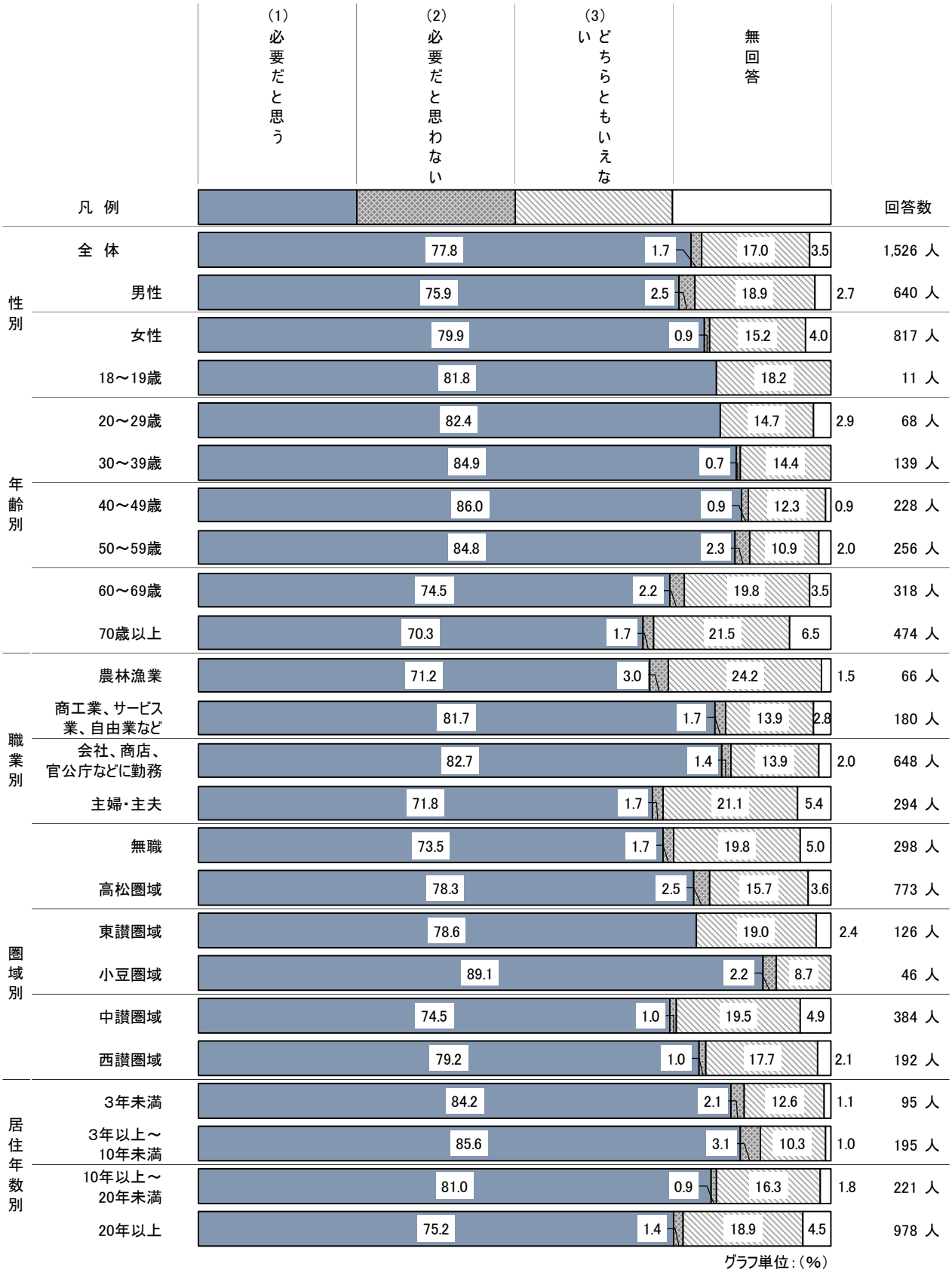
年齢別にみると、いずれも「必要だと思う」が７～８割台と最も高く、『40～49 歳』で 86.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「必要だと思う」が７～８割台と最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』で 82.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「必要だと思う」が７～８割台と最も高く、『小豆圏域』で 89.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「必要だと思う」が７～８割台と最も高く、『３年以上～10 年未満』で 85.6%と最も高くなっている。

図表 1-(8)-2【救急電話相談事業の必要性について】



(9)救急電話相談事業の今後の利用意向について

問８　今後、夜間・早朝に急病などで医療機関を受診するかどうか迷った場合、「小児救急電話相談事業」や「一般向け救急電話相談事業」を利用しますか。次の中から１つだけ選んでください。

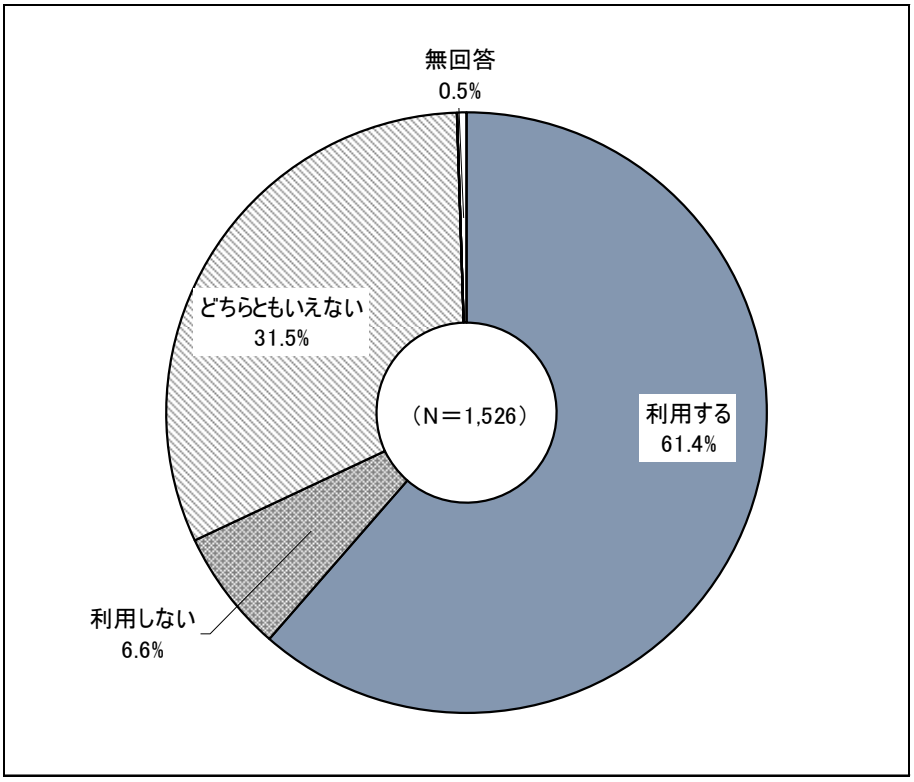
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】

1　利用する	61.4%(61.3%)
2　利用しない	6.6%(6.9%)
3　どちらともいえない	31.5%(31.4%)
（無回答）	0.5%(0.4%)

救急電話相談事業の今後の利用意向について、「利用する」61.4%が最も高く、次いで「どちらともいえない」31.5%、「利用しない」6.6%となっている。

図表 1-(9)-1　救急電話相談事業の今後の利用意向について



救急電話相談事業の今後の利用意向について、性別にみると、男女とも「利用する」が最も高く、『男性』58.4%、『女性』64.7%で、これに男女とも「どちらともいえない」が『男性』32.7%、『女性』29.6%と続いている。

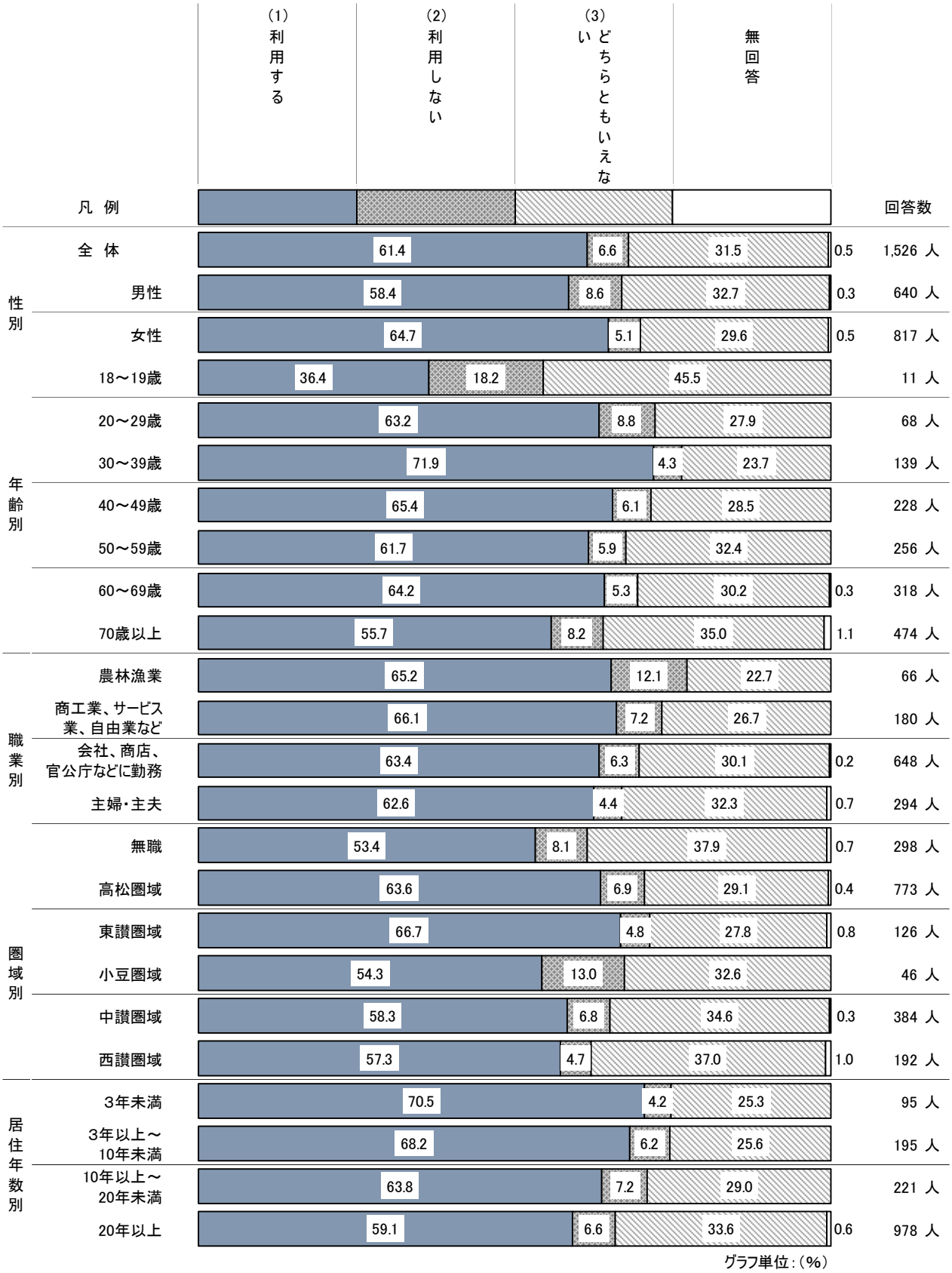
年齢別にみると、『18～19 歳』を除くすべての年齢で「利用する」が５～７割台と最も高く、『18～19 歳』では「どちらともいえない」45.5%が最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「利用する」が５～６割台と最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』で 66.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「利用する」が５～６割台と最も高く、『東讃圏域』で 66.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「利用する」が５～７割台と最も高く、『３年未満』で 70.5%と最も高くなっている。

図表 1-(9)-2 【救急電話相談事業の今後の利用意向について】



(10)最期を迎えたい場所について

問９　万が一、あなたが治る見込みがない病気などになった場合、最期はどこで迎えたいと思いますか。次の中から１つだけ選んでください。

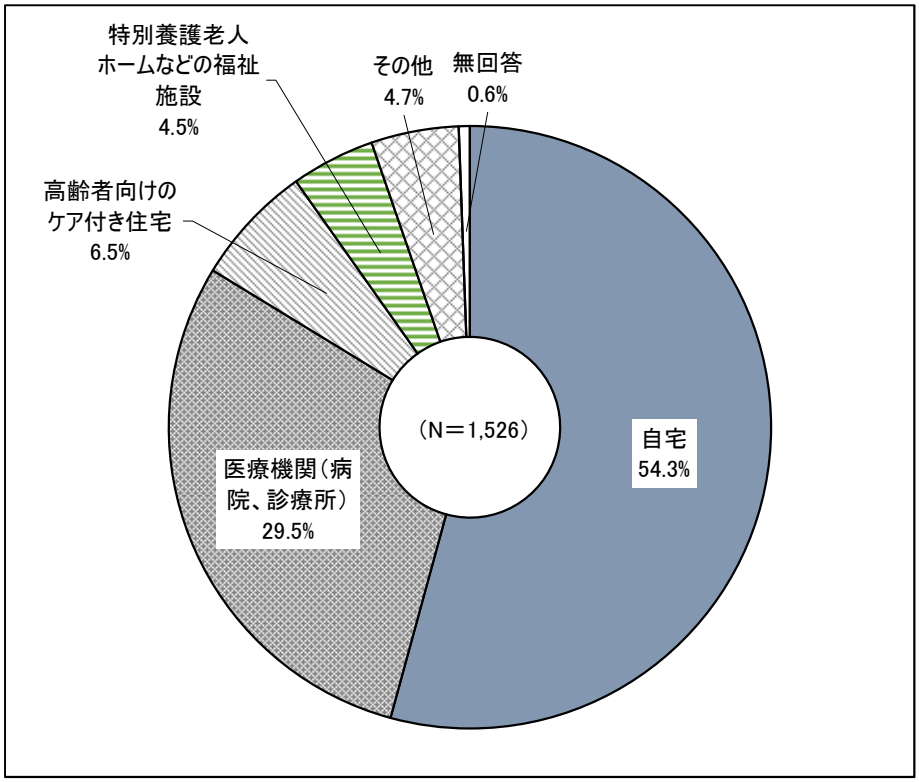
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】

1	自宅	54.3%(56.6%)
2	医療機関（病院、診療所）	29.5%(28.0%)
3	高齢者向けのケア付き住宅	6.5%(6.0%)
4	特別養護老人ホームなどの福祉施設	4.5%(4.2%)
5	その他	4.7%(4.8%)
（無回答）		0.6%(0.5%)

最期を迎えたい場所について、「自宅」54.3%が最も高く、次いで「医療機関（病院、診療所）」29.5%、「高齢者向けのケア付き住宅」6.5%、「特別養護老人ホームなどの福祉施設」4.5%となっている。

図表 1-(10)-1　最期を迎えたい場所について



最期を迎えたい場所について、性別にみると、男女とも「自宅」が最も高く、『男性』59.4%、『女性』50.7%で、これに男女とも「医療機関（病院、診療所）」が『男性』26.6%、『女性』31.6%と続いている。

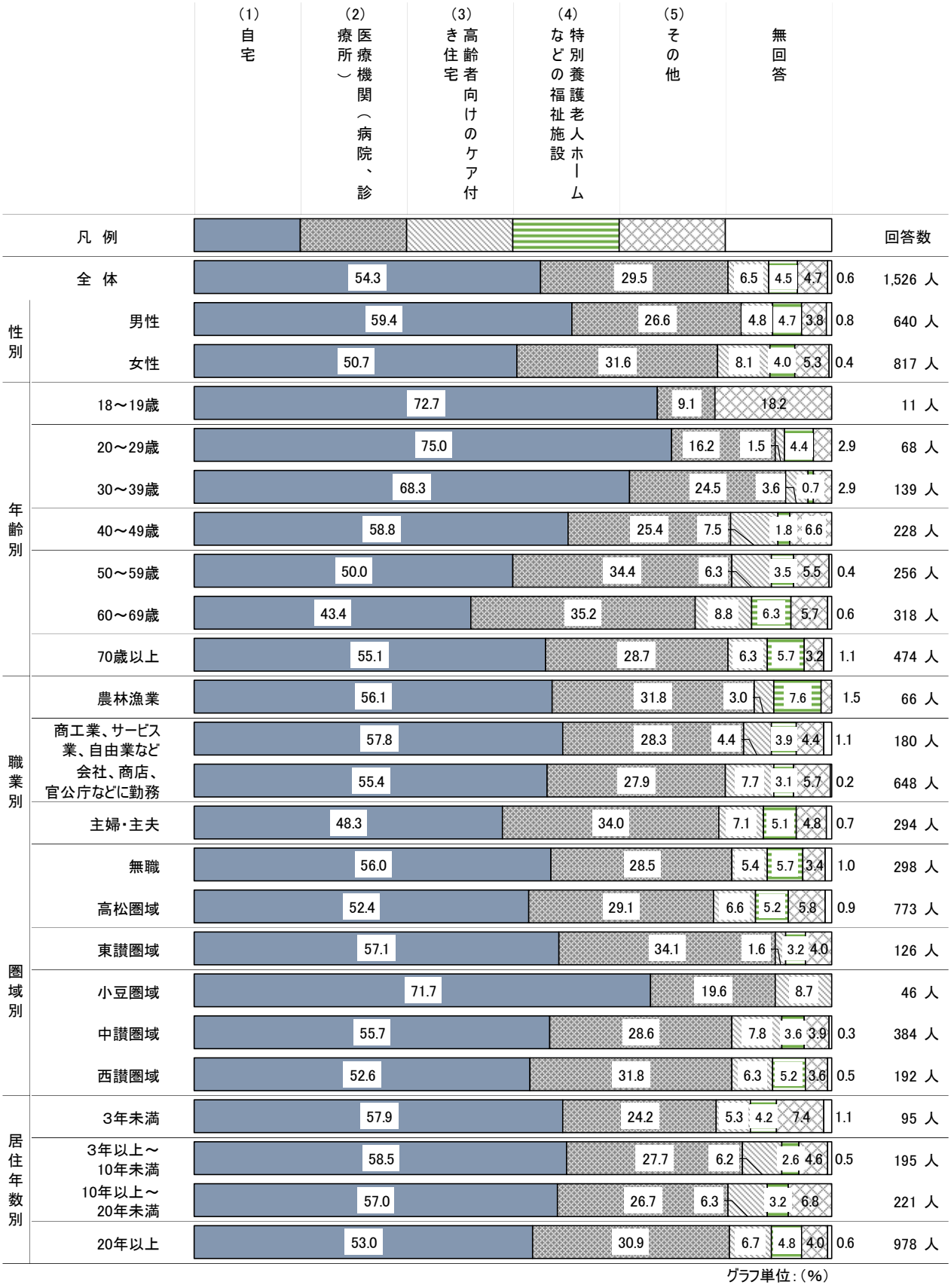
年齢別にみると、いずれも「自宅」が４～７割台と最も高く、『20～29 歳』で 75.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「自宅」が４～５割台と最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』で 57.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「自宅」が５～７割台と最も高く、『小豆圏域』で 71.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「自宅」が５割台と最も高く、『３年以上～10 年未満』で 58.5%と最も高くなっている。

図表 1-(10)-2 【最期を迎えたい場所について】



２．地産地消について

（1）地産地消の認知度について

問10　地産地消という言葉や意味を知っていますか。次の中から１つだけ選んでください。

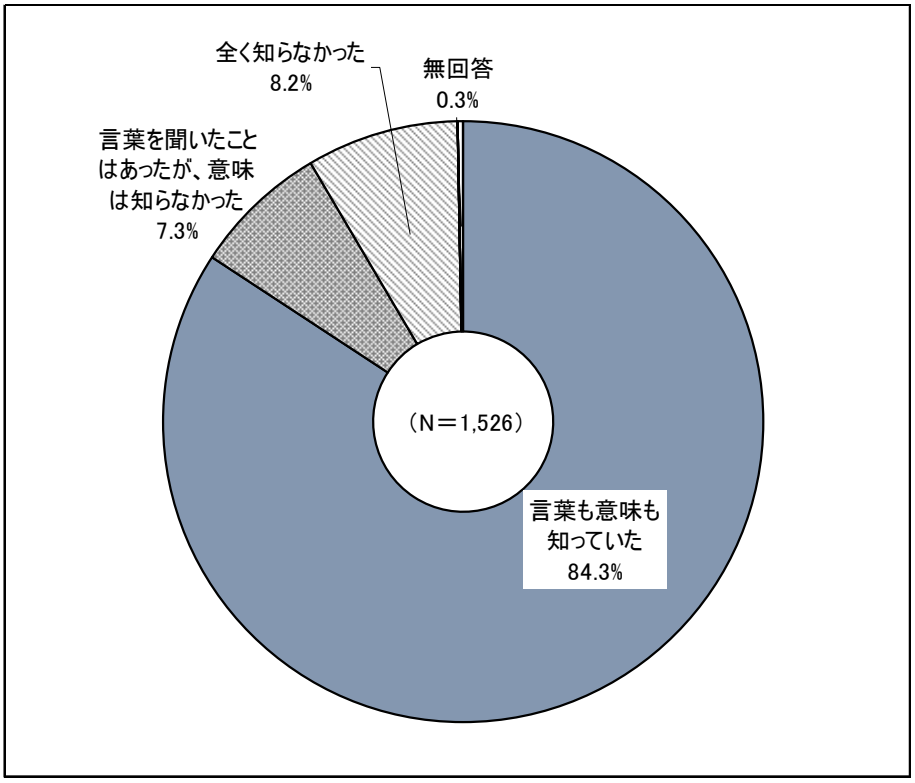
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】

1	言葉も意味も知っていた	84.3%(84.5%)
2	言葉を聞いたことはあったが、意味は知らなかった	7.3%(7.0%)
3	全く知らなかった	8.2%(8.3%)
（無回答）		0.3%(0.3%)

地産地消の認知度について、「言葉も意味も知っていた」84.3%が最も高く、次いで「全く知らなかった」8.2%、「言葉を聞いたことはあったが、意味は知らなかった」7.3%となっている。

図表 2-(1)-1　地産地消の認知度について



地産地消の認知度について、性別にみると、男女とも「言葉も意味も知っていた」が最も高く、『男性』85.5%、『女性』83.5%で、これに男女とも「全く知らなかった」が『男性』8.0%、『女性』8.3%と続いている。

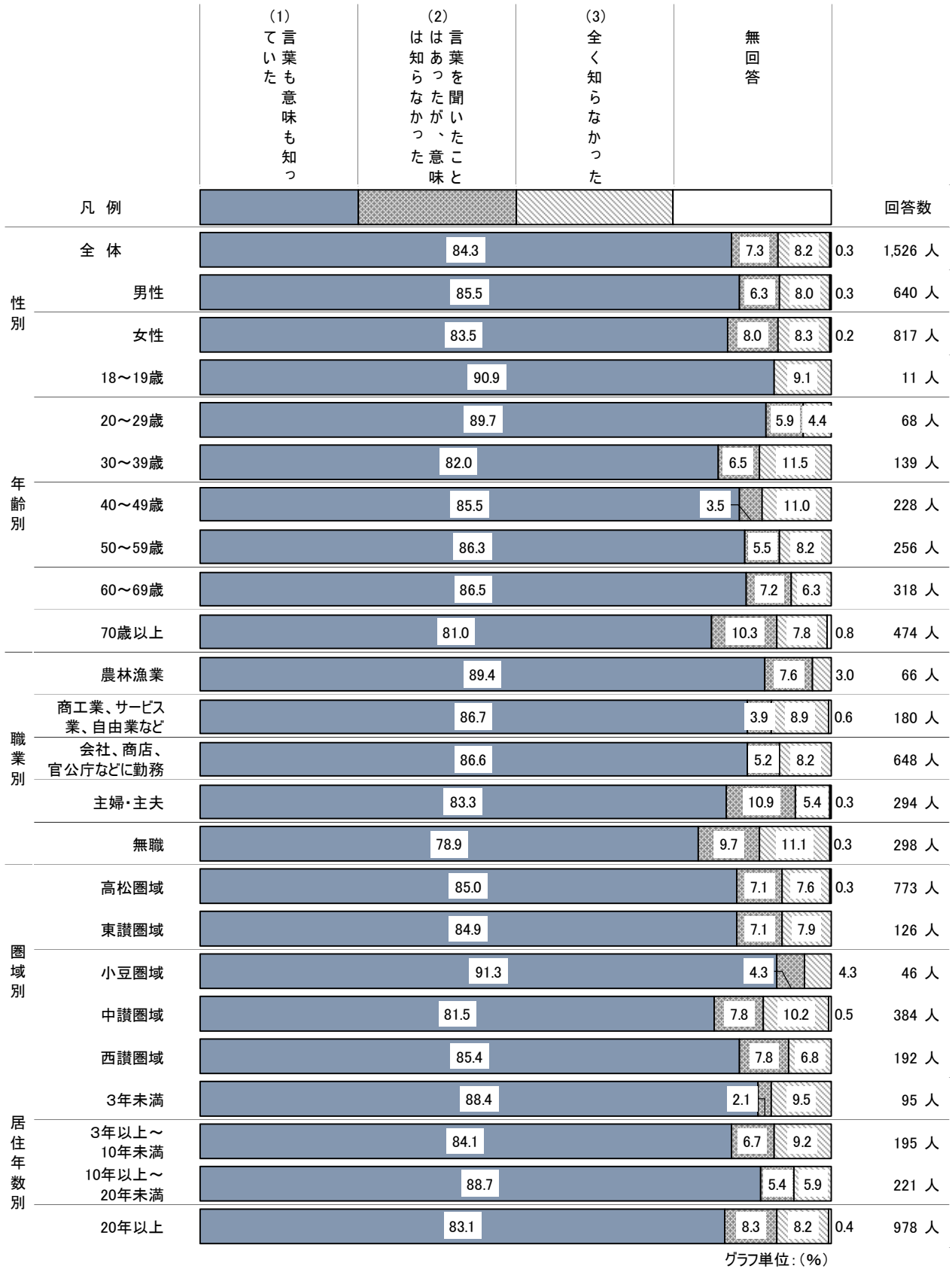
年齢別にみると、いずれも「言葉も意味も知っていた」が８～９割台と最も高く、『18～19 歳』で 90.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「言葉も意味も知っていた」が７～８割台と最も高く、『農林漁業』で 89.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「言葉も意味も知っていた」が８～９割台と最も高く、『小豆圏域』で 91.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「言葉も意味も知っていた」が８割台と最も高く、『10 年以上～20 年未満』で 88.7%と最も高くなっている。

図表 2-(1)-2 【地産地消の認知度について】



（2）産地にこだわって食材を購入しているかについて

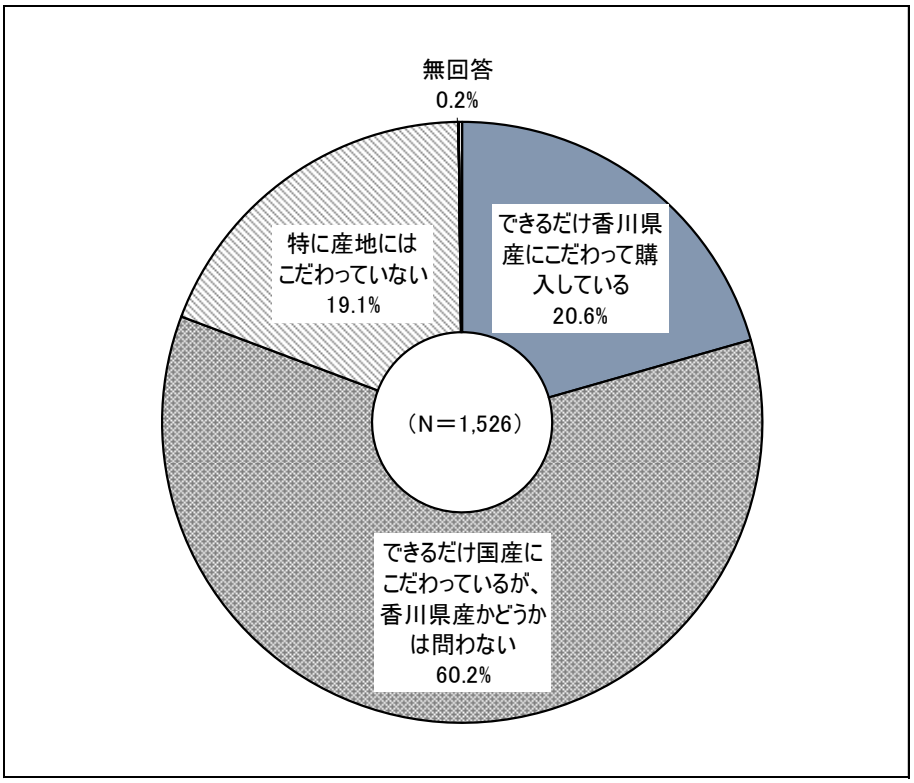
問11　あなたの家庭では、産地にこだわって食材を購入していますか。次の中から１つだけ選んでください。　※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】

1	できるだけ香川県産にこだわって購入している **⇒ 付問２にお進みください**	20.6%(19.3%)
2	できるだけ国産にこだわっているが、香川県産かどうかは問わない　**⇒ 付問３にお進みください**	60.2%(59.6%)
3	特に産地にはこだわっていない **⇒ 付問３にお進みください**	19.1%(20.9%)
（無回答）		0.2%(0.2%)

産地にこだわって食材を購入しているかについて、「できるだけ国産にこだわっているが、香川県産かどうかは問わない」60.2%が最も高く、次いで「できるだけ香川県産にこだわって購入している」20.6%、「特に産地にはこだわっていない」19.1%となっている。

図表 2-(2)-1　産地にこだわって食材を購入しているかについて



産地にこだわって食材を購入しているかについて、性別にみると、男女とも「できるだけ国産にこだわっているが、香川県産かどうかは問わない」が最も高く、『男性』58.1%、『女性』62.2%で、これに『男性』は「特に産地にはこだわっていない」24.2%、『女性』は「できるだけ香川県産にこだわって購入している」22.5%が続いている。

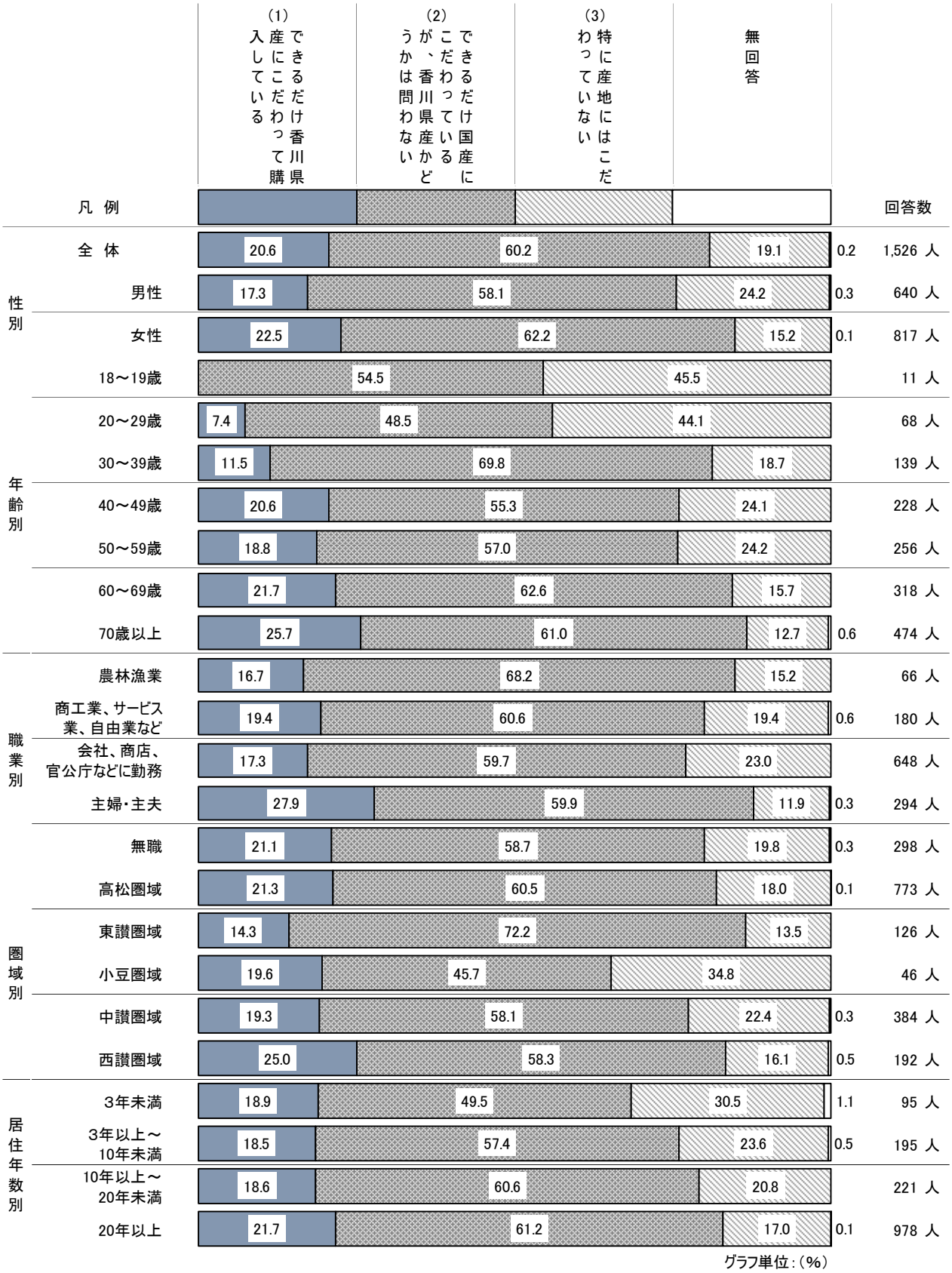
年齢別にみると、いずれも「できるだけ国産にこだわっているが、香川県産かどうかは問わない」が４～６割台と最も高く、『30～39 歳』で 69.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「できるだけ国産にこだわっているが、香川県産かどうかは問わない」が５～６割台と最も高く、『農林漁業』で 68.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「できるだけ国産にこだわっているが、香川県産かどうかは問わない」が４～７割台と最も高く、『東讃圏域』で 72.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「できるだけ国産にこだわっているが、香川県産かどうかは問わない」が４～６割台と最も高く、『20 年以上』で 61.2%と最も高くなっている。

図表 2-(2)-2 【産地にこだわって食材を購入しているかについて】



(3)香川県産にこだわって購入している理由について

【問 11 で「1」と答えた方にお聞きします】

付問２　その理由は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※（）内の割合はウェイトバックした値

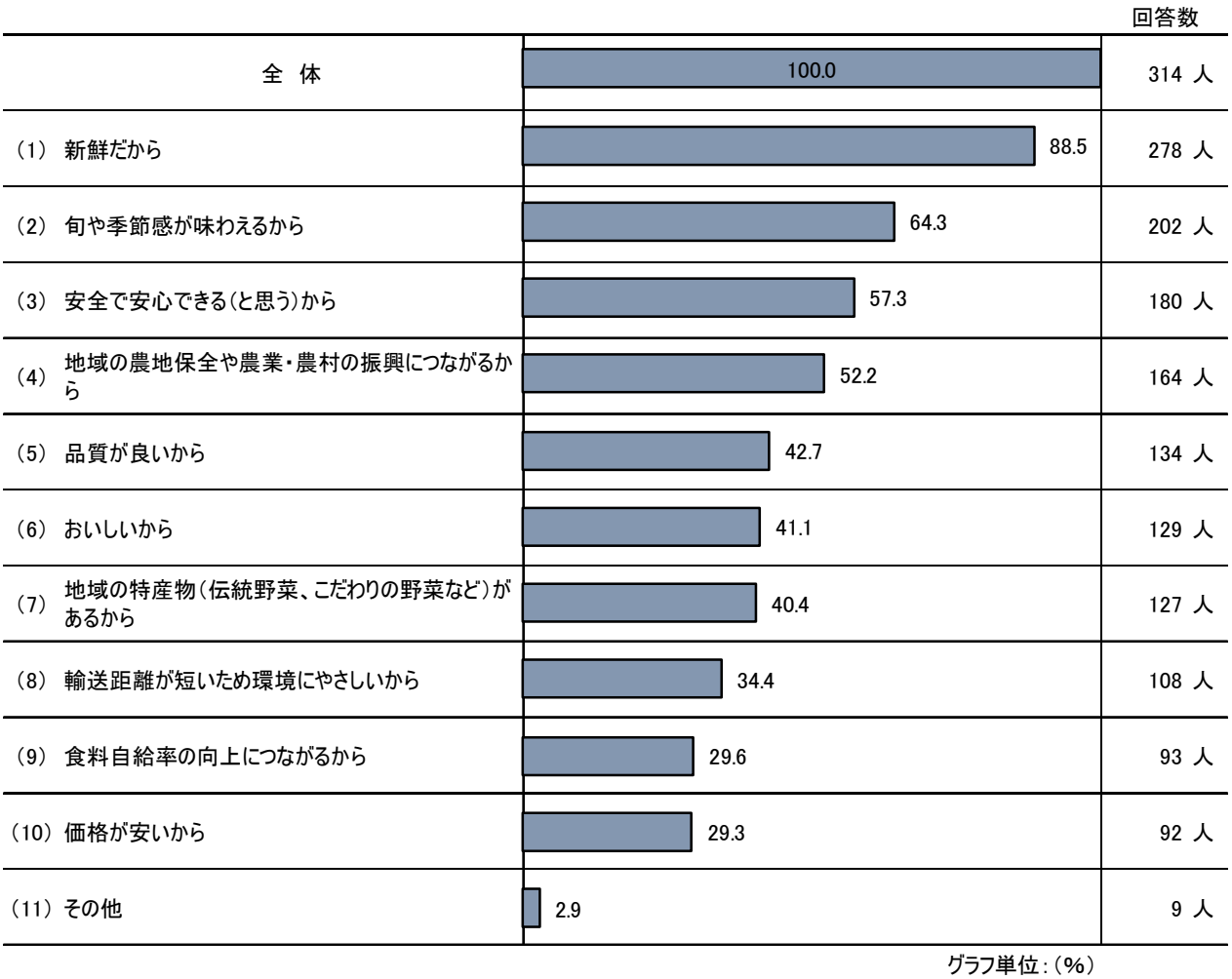
【回答者数＝314】※回答数の多い順に並び替え

1	新鮮だから	88.5%(88.4%)
2	旬や季節感が味わえるから	64.3%(63.6%)
3	安全で安心できる（と思う）から	57.3%(55.9%)
4	地域の農地保全や農業・農村の振興につながるから	52.2%(52.7%)
5	品質が良いから	42.7%(43.2%)
6	おいしいから	41.1%(41.4%)
7	地域の特産物（伝統野菜、こだわりの野菜など）があるから	40.4%(41.1%)
8	輸送距離が短いため環境にやさしいから	34.4%(34.9%)
9	食料自給率の向上につながるから	29.6%(29.9%)
10	価格が安いから	29.3%(29.5%)
11	その他	2.9%(2.8%)

⇒ 問 12 にお進みください

香川県産にこだわって購入している理由について、「新鮮だから」88.5%が最も高く、次いで「旬や季節感が味わえるから」64.3%、「安全で安心できる（と思う）から」57.3%、「地域の農地保全や農業・農村の振興につながるから」52.2%となっている。

図表 2-(3)-1　香川県産にこだわって購入している理由について



香川県産にこだわって購入している理由について、性別にみると、男女とも「新鮮だから」が最も高く、『男性』82.0%、『女性』92.9%で、これに『男性』は「地域の農地保全や農業・農村の振興につながるから」57.7%、『女性』は「旬や季節感が味わえるから」70.1%が続いている。

年齢別にみると、いずれも「新鮮だから」が最も高く、『20～29 歳』で 100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「新鮮だから」が８～９割台と最も高く、『主婦・主夫』で 93.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』を除くすべての圏域で「新鮮だから」が最も高く、『小豆圏域』では「新鮮だから」、「旬や季節感が味わえるから」が同率の 88.9%で最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「新鮮だから」が７～９割台と最も高く、『３年未満』で 94.4%と最も高くなっている。

図表 2-(3)-2 【香川県産にこだわって購入している理由について】

【表の見方】
単位＝比率(%)

		全体（人）	(1) 新鮮だから	(2) 旬や季節感が味わえるから	(3) 安全で安心できる（と思う）から	(4) 地域の農地保全や農業・農村の振興につながるから	(5) 品質が良いから	(6) おいしいから	(7) 地域の特産物（伝統野菜、こだわりの野菜など）があるから	(8) 輸送距離が短いため環境にやさしいから	(9) 食料自給率の向上につながるから	(10) 価格が安いから	(11) その他	無回答
全体		314	88.5	64.3	57.3	52.2	42.7	41.1	40.4	34.4	29.6	29.3	2.9	－
性別	男性	111	82.0	55.0	54.1	57.7	45.9	37.8	40.5	35.1	32.4	27.0	2.7	－
	女性	184	92.9	70.1	59.2	50.5	40.2	41.8	41.3	33.7	28.8	31.5	3.3	－
年齢別	18～19歳	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	20～29歳	5	100.0	60.0	40.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	40.0	40.0	－	－
	30～39歳	16	75.0	56.3	37.5	56.3	31.3	18.8	62.5	37.5	25.0	18.8	6.3	－
	40～49歳	47	85.1	57.4	42.6	57.4	36.2	40.4	36.2	17.0	17.0	29.8	2.1	－
	50～59歳	48	85.4	64.6	56.3	52.1	43.8	43.8	41.7	31.3	25.0	25.0	4.2	－
	60～69歳	69	91.3	71.0	66.7	49.3	34.8	34.8	40.6	31.9	24.6	27.5	2.9	－
	70歳以上	122	90.2	63.1	62.3	53.3	48.4	45.1	38.5	41.8	41.0	31.1	2.5	－
職業別	農林漁業	11	90.9	36.4	63.6	54.5	63.6	45.5	36.4	45.5	18.2	9.1	9.1	－
	商工業、サービス業、自由業など	35	80.0	65.7	48.6	60.0	42.9	48.6	45.7	31.4	34.3	31.4	5.7	－
	会社、商店、官公庁などに勤務	112	87.5	63.4	54.5	53.6	34.8	38.4	41.1	27.7	21.4	27.7	1.8	－
	主婦・主夫	82	93.9	70.7	65.9	51.2	47.6	45.1	47.6	43.9	40.2	30.5	2.4	－
	無職	63	88.9	63.5	60.3	52.4	42.9	36.5	31.7	33.3	33.3	30.2	1.6	－
圏域別	高松圏域	165	86.1	67.3	60.0	56.4	35.8	40.0	44.2	35.2	30.3	27.3	3.0	－
	東讃圏域	18	100.0	72.2	72.2	55.6	61.1	55.6	44.4	38.9	38.9	33.3	－	－
	小豆圏域	9	88.9	88.9	55.6	55.6	55.6	44.4	33.3	11.1	33.3	66.7	－	－
	中讃圏域	74	85.1	52.7	44.6	39.2	44.6	35.1	35.1	25.7	16.2	25.7	4.1	－
	西讃圏域	48	97.9	64.6	62.5	56.3	54.2	47.9	35.4	47.9	43.8	33.3	2.1	－
居住年数別	3年未満	18	94.4	72.2	44.4	55.6	38.9	33.3	61.1	22.2	22.2	27.8	－	－
	3年以上～10年未満	36	80.6	61.1	33.3	66.7	22.2	33.3	41.7	27.8	22.2	27.8	2.8	－
	10年以上～20年未満	41	78.0	51.2	53.7	43.9	39.0	39.0	43.9	36.6	24.4	31.7	2.4	－
	20年以上	212	91.0	66.0	63.7	52.4	46.2	42.9	38.2	35.8	33.5	28.3	3.3	－

（4）香川県産の食材にこだわらない理由について

【問 11 で「2」または「3」と答えた方にお聞きします】

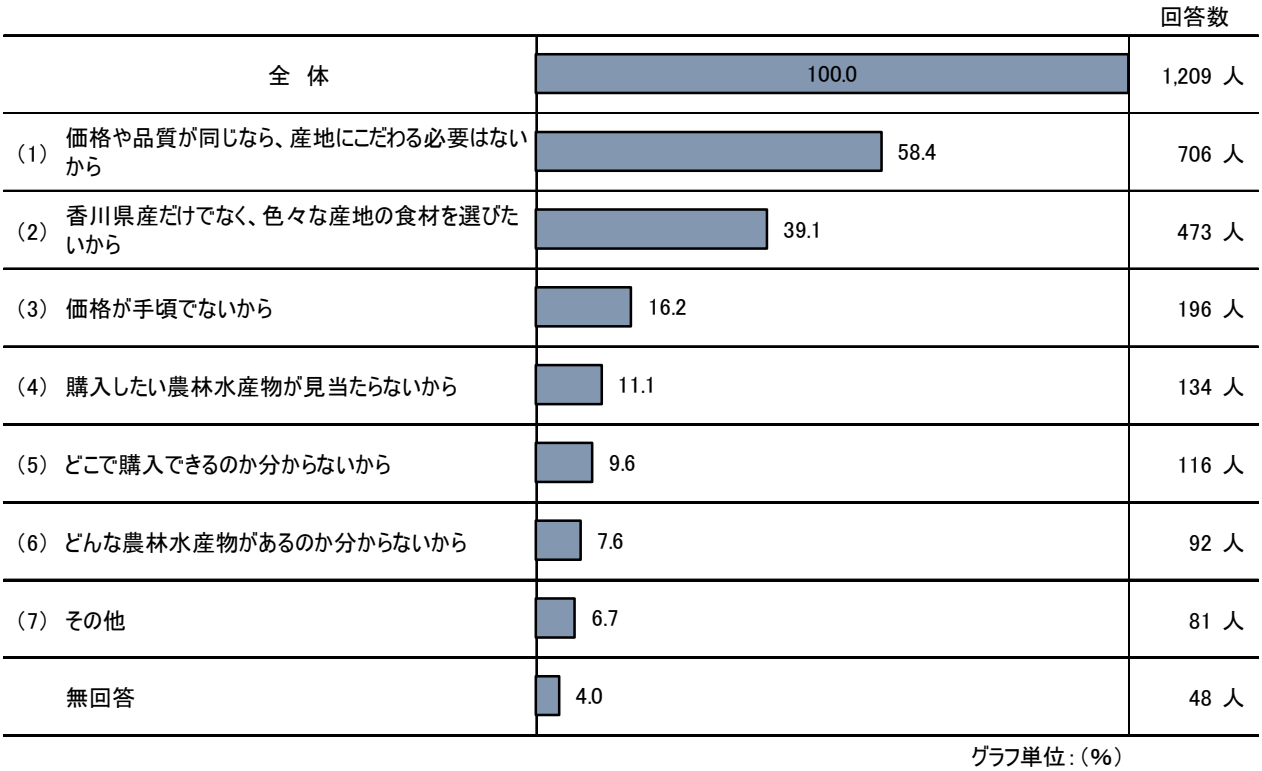
付問３　香川県産の食材にこだわらない理由は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。　※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,209】※回答数の多い順に並び替え

1	価格や品質が同じなら、産地にこだわる必要はないから	58.4%(58.8%)
2	香川県産だけでなく、色々な産地の食材を選びたいから	39.1%(36.9%)
3	価格が手頃でないから	16.2%(17.5%)
4	購入したい農林水産物が見当たらないから	11.1%(10.6%)
5	どこで購入できるのか分からないから	9.6%(9.3%)
6	どんな農林水産物があるのか分からないから	7.6%(7.2%)
7	その他	6.7%(6.9%)
（無回答）		4.0%(3.9%)

香川県産の食材にこだわらない理由について、「価格や品質が同じなら、産地にこだわる必要はないから」58.4%が最も高く、次いで「香川県産だけでなく、色々な産地の食材を選びたいから」39.1%、「価格が手頃でないから」16.2%、「購入したい農林水産物が見当たらないから」11.1%となっている。

図表 2-(4)-1　香川県産の食材にこだわらない理由について



香川県産の食材にこだわらない理由について、性別にみると、男女とも「価格や品質が同じなら、産地にこだわる必要はないから」が最も高く、『男性』58.3%、『女性』59.3%で、これに男女とも「香川県産だけでなく、色々な産地の食材を選びたいから」が『男性』39.1%、『女性』38.6%と続いている。

年齢別にみると、いずれも「価格や品質が同じなら、産地にこだわる必要はないから」が５～７割台と最も高く、『18～19 歳』で 72.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「価格や品質が同じなら、産地にこだわる必要はないから」が５～６割台と最も高く、『農林漁業』で 60.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「価格や品質が同じなら、産地にこだわる必要はないから」が５～６割台と最も高く、『東讃圏域』で 63.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「価格や品質が同じなら、産地にこだわる必要はないから」が５～６割台と最も高く、『３年以上～10 年未満』で 60.1%と最も高くなっている。

図表 2-(4)-2 【香川県産の食材にこだわらない理由について】

【表の見方】 単位＝比率(%)		全体（人）	(1) 価格や品質が同じなら、産地にこだわる必要はないから	(2) 香川県産だけでなく、色々な産地の食材を選びたいから	(3) 価格が手頃でないから	(4) 購入したい農林水産物が見当たらないから	(5) どこで購入できるのか分からないから	(6) どんな農林水産物があるのか分からないから	(7) その他	無回答
全体		1,209	58.4	39.1	16.2	11.1	9.6	7.6	6.7	4.0
性別	男性	527	58.3	39.1	17.1	10.2	10.6	8.0	5.5	4.6
	女性	632	59.3	38.6	14.9	11.4	8.7	6.8	7.8	3.5
年齢別	18～19歳	11	72.7	9.1	27.3	－	－	9.1	－	9.1
	20～29歳	63	60.3	14.3	34.9	9.5	9.5	3.2	9.5	3.2
	30～39歳	123	60.2	35.0	18.7	10.6	5.7	1.6	8.1	2.4
	40～49歳	181	64.1	33.7	14.9	10.5	7.7	7.2	9.9	0.6
	50～59歳	208	55.3	39.4	19.7	5.8	10.1	6.7	7.7	6.3
	60～69歳	249	61.0	39.4	16.1	14.9	8.8	8.0	4.4	3.2
	70歳以上	349	55.6	47.9	10.6	12.0	12.0	10.0	5.2	5.4
職業別	農林漁業	55	60.0	36.4	16.4	16.4	10.9	10.9	16.4	7.3
	商工業、サービス業、自由業など	144	59.0	38.2	8.3	11.8	6.9	6.9	5.6	4.2
	会社、商店、官公庁などに勤務	536	59.5	35.4	20.3	10.4	9.9	5.8	6.9	2.4
	主婦・主夫	211	56.4	50.2	11.4	11.8	5.7	9.0	5.7	3.3
	無職	234	59.8	37.2	16.7	9.4	13.2	9.4	5.6	6.4
圏域別	高松圏域	607	56.3	40.0	15.3	10.0	9.7	7.4	8.2	3.8
	東讃圏域	108	63.0	40.7	17.6	11.1	13.0	11.1	2.8	2.8
	小豆圏域	37	59.5	48.6	10.8	10.8	13.5	8.1	2.7	5.4
	中讃圏域	309	60.2	35.9	16.8	13.9	8.4	7.4	5.5	4.2
	西讃圏域	143	60.1	39.9	18.2	9.1	7.7	5.6	7.0	4.9
居住年数別	3年未満	76	59.2	28.9	21.1	5.3	9.2	3.9	14.5	1.3
	3年以上～10年未満	158	60.1	35.4	19.0	8.9	9.5	8.2	6.3	1.3
	10年以上～20年未満	180	58.3	35.6	18.3	7.8	8.3	3.3	5.6	3.3
	20年以上	765	58.4	41.6	14.9	12.5	9.9	8.6	6.3	5.0

(5)農林水産物を購入する場所について

問12　普段、農林水産物はどこで購入することが多いですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

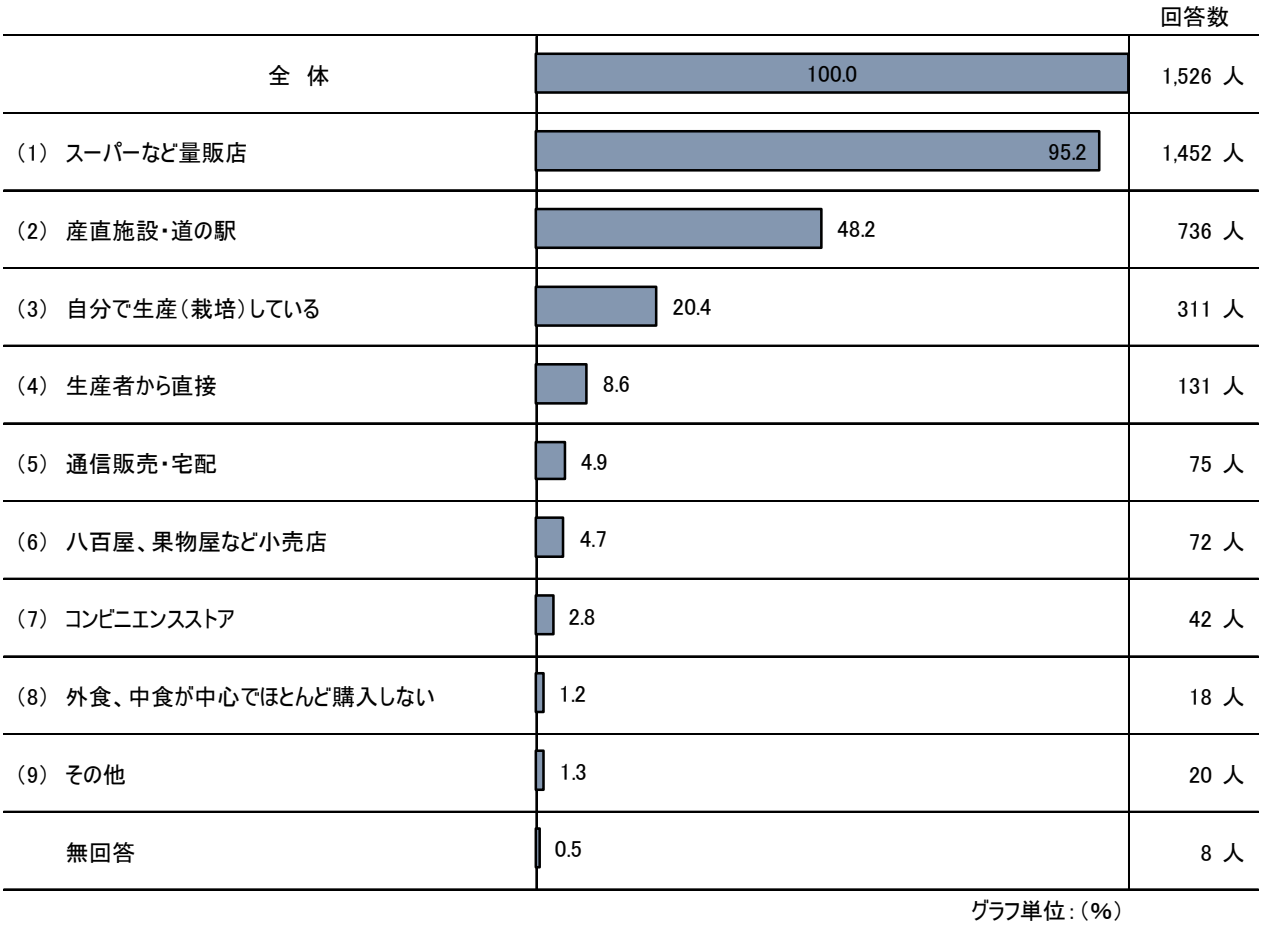
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】※回答数の多い順に並び替え

1	スーパーなど量販店	95.2%(95.5%)
2	産直施設・道の駅	48.2%(45.6%)
3	自分で生産（栽培）している	20.4%(19.4%)
4	生産者から直接	8.6%(8.2%)
5	通信販売・宅配	4.9%(4.8%)
6	八百屋、果物屋など小売店	4.7%(4.8%)
7	コンビニエンスストア	2.8%(2.8%)
8	外食、中食が中心でほとんど購入しない	1.2%(1.1%)
9	その他	1.3%(1.3%)
（無回答）		0.5%(0.5%)

農林水産物を購入する場所について、「スーパーなど量販店」95.2%が最も高く、次いで「産直施設・道の駅」48.2%、「自分で生産（栽培）している」20.4%、「生産者から直接」8.6%となっている。

図表 2-(5)-1　農林水産物を購入する場所について



農林水産物を購入する場所について、性別にみると、男女とも「スーパーなど量販店」が最も高く、『男性』94.4%、『女性』95.8%で、これに男女とも「産直施設・道の駅」が『男性』42.5%、『女性』52.4%と続いている。

年齢別にみると、いずれも「スーパーなど量販店」が９割台～10 割と最も高く、『18～19 歳』、『20～29 歳』で 100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「スーパーなど量販店」が９割台と最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』で 96.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「スーパーなど量販店」が９割台と最も高く、『高松圏域』で 96.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「スーパーなど量販店」が９割台～10 割と最も高く、『３年未満』で 100.0%と最も高くなっている。

図表 2-(5)-2 【農林水産物を購入する場所について】

【表の見方】 単位＝比率(%)		全体（人）	(1) スーパーなど量販店	(2) 産直施設・道の駅	(3) 自分で生産（栽培）している	(4) 生産者から直接	(5) 通信販売・宅配	(6) 八百屋、果物屋など小売店	(7) コンビニエンスストア	(8) 外食、中食が中心でほとんど購入しない	(9) その他	無回答
全体		1,526	95.2	48.2	20.4	8.6	4.9	4.7	2.8	1.2	1.3	0.5
性別	男性	640	94.4	42.5	20.9	8.1	3.4	4.7	3.6	1.6	0.9	0.6
	女性	817	95.8	52.4	20.0	9.2	6.0	4.5	2.1	0.9	1.5	0.4
年齢別	18～19歳	11	100.0	9.1	9.1	－	－	9.1	9.1	－	－	－
	20～29歳	68	100.0	17.6	11.8	7.4	2.9	4.4	1.5	－	2.9	－
	30～39歳	139	97.1	38.8	15.1	7.9	6.5	5.0	3.6	0.7	－	－
	40～49歳	228	96.5	48.2	15.4	6.6	6.1	4.8	3.5	2.6	1.8	－
	50～59歳	256	96.5	46.1	13.7	9.4	2.3	3.5	3.1	2.0	0.8	－
	60～69歳	318	96.2	54.1	24.8	11.3	6.3	4.4	2.2	0.6	1.6	0.3
	70歳以上	474	91.6	52.5	26.2	8.2	4.6	5.3	2.5	0.8	1.1	1.3
職業別	農林漁業	66	92.4	50.0	63.6	6.1	4.5	3.0	4.5	1.5	1.5	－
	商工業、サービス業、自由業など	180	93.9	51.1	17.2	13.3	5.0	9.4	1.1	0.6	1.7	1.1
	会社、商店、官公庁などに勤務	648	96.9	44.8	14.4	8.8	4.6	3.4	3.4	2.0	1.2	0.2
	主婦・主夫	294	95.2	57.1	24.5	8.8	6.8	4.1	1.0	0.3	1.0	0.3
	無職	298	93.0	43.3	21.8	6.0	3.4	5.7	3.7	0.3	1.0	1.0
圏域別	高松圏域	773	96.6	45.3	17.1	7.5	4.3	6.0	3.0	1.6	1.7	0.3
	東讃圏域	126	93.7	46.0	27.8	11.9	8.7	4.0	－	0.8	1.6	0.8
	小豆圏域	46	95.7	45.7	13.0	15.2	6.5	2.2	4.3	－	－	2.2
	中讃圏域	384	94.0	51.8	21.9	8.1	4.2	2.6	3.4	0.8	0.5	1.0
	西讃圏域	192	92.2	55.2	27.6	9.9	6.3	5.2	2.1	1.0	1.6	－
居住年数別	3年未満	95	100.0	34.7	7.4	6.3	3.2	1.1	2.1	4.2	2.1	－
	3年以上～10年未満	195	97.4	46.2	10.3	7.7	6.7	8.2	2.6	1.5	1.5	－
	10年以上～20年未満	221	95.9	45.2	13.1	9.0	3.2	4.1	4.5	0.9	1.4	－
	20年以上	978	94.0	50.2	25.2	9.0	5.0	4.5	2.6	0.9	0.9	0.7

(6)「かがわ地産地消協力店」の認知度と利用について

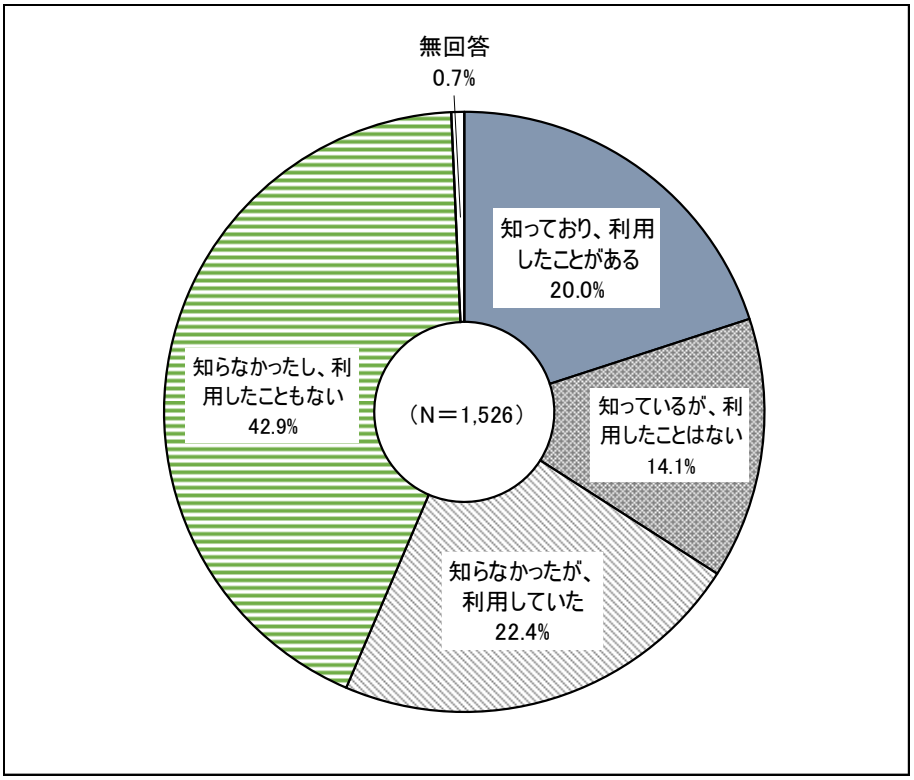
問13　県では香川県産の食材にこだわって料理を提供する飲食店や、旬の県産農林水産物を販売する産直施設・量販店など、積極的に地産地消に取り組む店舗を「かがわ地産地消協力店」として約400店舗登録していますが、知っていますか。また、利用していますか。次の中から１つだけ選んでください。　※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】

1	知っており、利用したことがある	20.0%(20.0%)	⇒ 付問4にお進みください
2	知っているが、利用したことはない	14.1%(13.4%)	
3	知らなかったが、利用していた	22.4%(22.3%)	⇒ 問14にお進みください
4	知らなかったし、利用したこともない	42.9%(43.7%)	
	(無回答)	0.7%(0.6%)	

「かがわ地産地消協力店」の認知度と利用について、「知らなかったし、利用したこともない」42.9%が最も高く、次いで「知らなかったが、利用していた」22.4%、「知っており、利用したことがある」20.0%、「知っているが、利用したことはない」14.1%となっている。

図表 2-(6)-1 「かがわ地産地消協力店」の認知度と利用について



「かがわ地産地消協力店」の認知度と利用について、性別にみると、男女とも「知らなかったし、利用したこともない」が最も高く、『男性』47.5%、『女性』39.0%で、これに男女とも「知らなかったが、利用していた」が『男性』21.4%、『女性』23.4%と続いている。

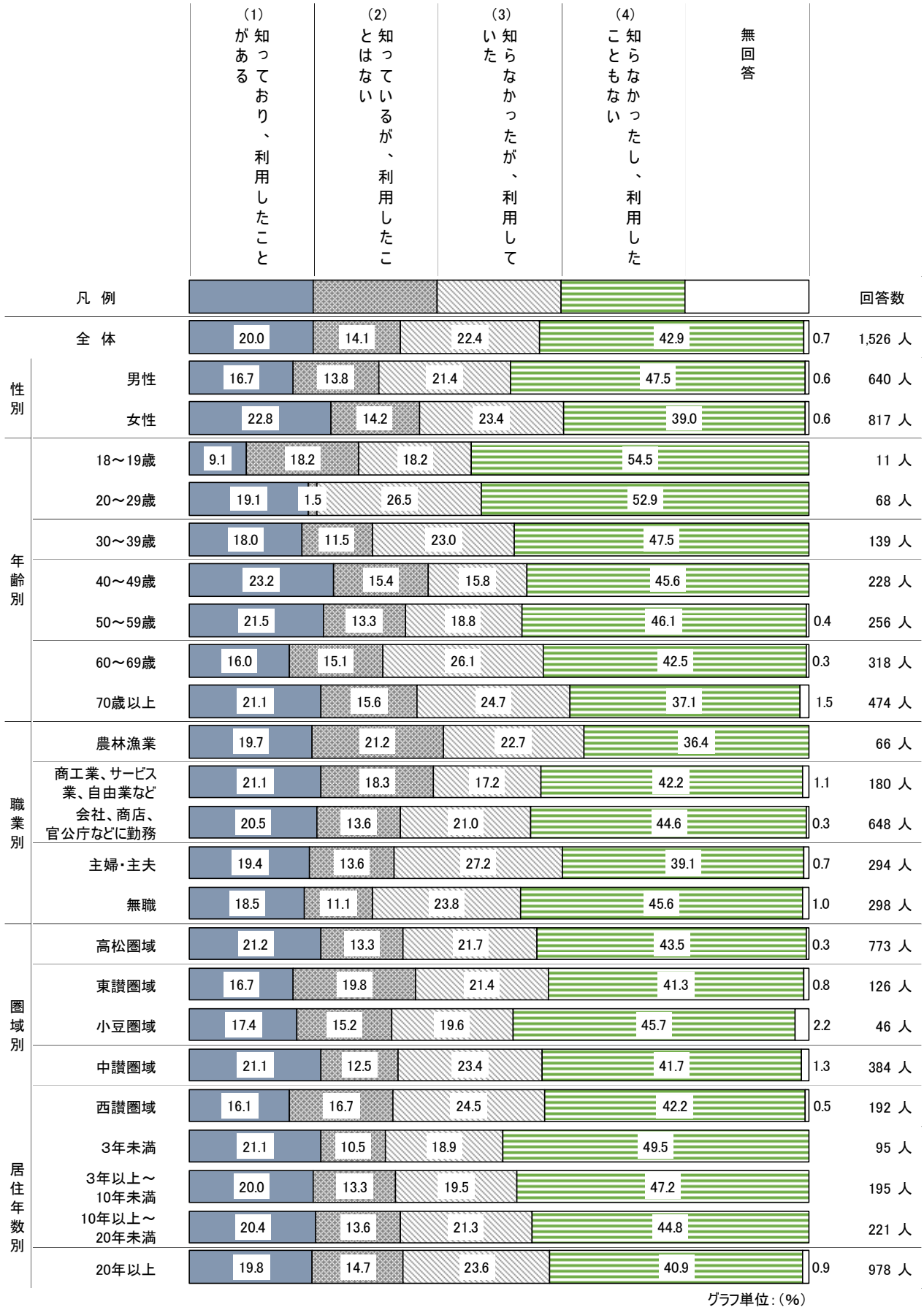
年齢別にみると、いずれも「知らなかったし、利用したこともない」が３～５割台と最も高く、『18～19 歳』で 54.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「知らなかったし、利用したこともない」が３～４割台と最も高く、『無職』で 45.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「知らなかったし、利用したこともない」が４割台と最も高く、『小豆圏域』で 45.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「知らなかったし、利用したこともない」が４割台と最も高く、『３年未満』で 49.5%と最も高くなっている。

図表 2-(6)-2 【「かがわ地産地消協力店」の認知度と利用について】



(7)「かがわ地産地消協力店」の情報の入手先について

【問 13 で「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

付問４　あなたはどこで、「かがわ地産地消協力店」の情報を知りましたか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

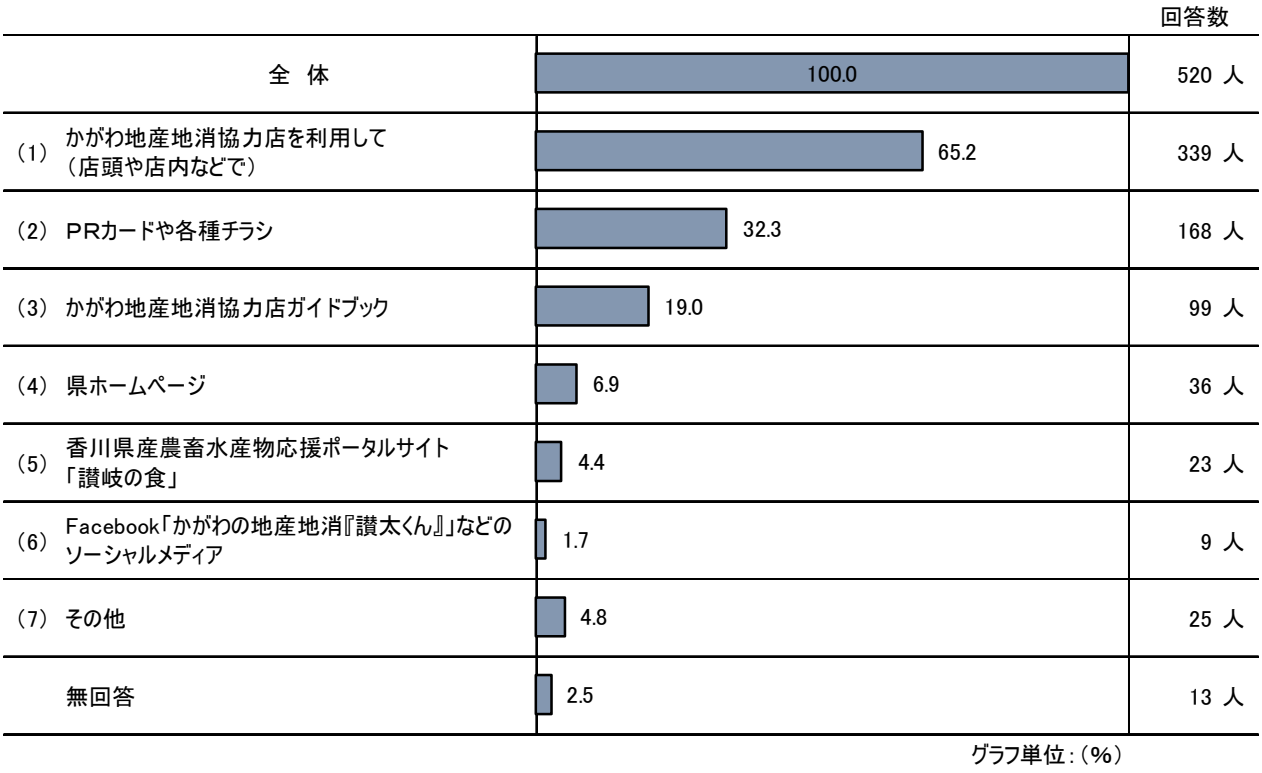
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝520】※回答数の多い順に並び替え

1	かがわ地産地消協力店を利用して（店頭や店内などで）	65.2%(65.2%)
2	ＰＲカードや各種チラシ	32.3%(31.1%)
3	かがわ地産地消協力店ガイドブック	19.0%(18.0%)
4	県ホームページ	6.9%(6.7%)
5	香川県産農畜水産物応援ポータルサイト「讃岐の食」	4.4%(4.4%)
6	Facebook「かがわの地産地消『讃太くん』」などのソーシャルメディア	1.7%(1.6%)
7	その他	4.8%(5.1%)
（無回答）		2.5%(2.5%)

「かがわ地産地消協力店」の情報の入手先について、「かがわ地産地消協力店を利用して（店頭や店内などで）」65.2%が最も高く、次いで「ＰＲカードや各種チラシ」32.3%、「かがわ地産地消協力店ガイドブック」19.0%、「県ホームページ」6.9%となっている。

図表 2-(7)-1 「かがわ地産地消協力店」の情報の入手先について



「かがわ地産地消協力店」の情報の入手先について、性別にみると、男女とも「かがわ地産地消協力店を利用して（店頭や店内などで）」が最も高く、『男性』62.1％、『女性』67.9％で、これに男女とも「ＰＲカードや各種チラシ」が『男性』35.4％、『女性』29.5％と続いている。

年齢別にみると、『18～19 歳』を除くすべての年齢で「かがわ地産地消協力店を利用して（店頭や店内などで）」が最も高く、『18～19 歳』では「かがわ地産地消協力店を利用して（店頭や店内などで）」、「ＰＲカードや各種チラシ」が同率の 33.3％で最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「かがわ地産地消協力店を利用して（店頭や店内などで）」が６～７割台と最も高く、『農林漁業』で 74.1％と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「かがわ地産地消協力店を利用して（店頭や店内などで）」が５～６割台と最も高く、『中讃圏域』で 69.8％と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「かがわ地産地消協力店を利用して（店頭や店内などで）」が６～７割台と最も高く、『３年以上～10 年未満』で 72.3％と最も高くなっている。

図表 2-(7)-2 【「かがわ地産地消協力店」の情報の入手先について】

【表の見方】 単位＝比率(%)		全体（人）	(1) かがわ地産地消協力店を利用して（店頭や店内などで）	(2) ＰＲカードや各種チラシ	(3) かがわ地産地消協力店ガイドブック	(4) 県ホームページ	(5) 香川県産農畜水産物応援ポータルサイト「讃岐の食」	(6) Ｆａｃｅｂｏｏｋ「かがわの地産地消『讃太くん』」などのソーシャルメディア	(7) その他	無回答
全体		520	65.2	32.3	19.0	6.9	4.4	1.7	4.8	2.5
性別	男性	195	62.1	35.4	20.5	8.2	4.6	2.1	4.1	－
	女性	302	67.9	29.5	16.2	5.3	3.6	1.3	5.3	4.0
年齢別	18～19歳	3	33.3	33.3	－	－	－	－	33.3	－
	20～29歳	14	64.3	14.3	14.3	－	7.1	－	7.1	－
	30～39歳	41	78.0	17.1	7.3	2.4	－	－	－	2.4
	40～49歳	88	64.8	34.1	11.4	9.1	5.7	－	4.5	2.3
	50～59歳	89	67.4	34.8	19.1	7.9	4.5	2.2	7.9	－
	60～69歳	99	61.6	39.4	24.2	4.0	4.0	2.0	4.0	－
	70歳以上	174	64.9	31.0	21.8	8.6	4.6	2.9	4.6	5.2
職業別	農林漁業	27	74.1	29.6	29.6	14.8	14.8	3.7	7.4	－
	商工業、サービス業、自由業など	71	66.2	32.4	19.7	7.0	4.2	4.2	2.8	1.4
	会社、商店、官公庁などに勤務	221	63.3	32.1	16.7	7.2	5.4	1.4	5.9	0.9
	主婦・主夫	97	69.1	35.1	20.6	5.2	3.1	－	2.1	7.2
	無職	88	63.6	31.8	17.0	5.7	－	2.3	6.8	1.1
圏域別	高松圏域	267	66.3	31.5	17.2	6.0	4.9	1.5	6.0	1.9
	東讃圏域	46	56.5	39.1	21.7	8.7	6.5	2.2	2.2	10.9
	小豆圏域	15	60.0	33.3	20.0	－	－	－	6.7	－
	中讃圏域	129	69.8	27.9	24.0	7.8	4.7	2.3	4.7	－
	西讃圏域	63	58.7	39.7	14.3	9.5	1.6	1.6	1.6	4.8
居住年数別	3年未満	30	60.0	23.3	16.7	6.7	－	－	6.7	6.7
	3年以上～10年未満	65	72.3	27.7	6.2	4.6	3.1	1.5	9.2	3.1
	10年以上～20年未満	75	66.7	28.0	17.3	10.7	5.3	1.3	2.7	1.3
	20年以上	338	64.5	34.9	21.3	6.5	4.7	2.1	4.4	2.1

（8）地産地消をより推進するために効果的な取り組みについて

問14　地産地消をより推進するためには、どのような取り組みが効果的だと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

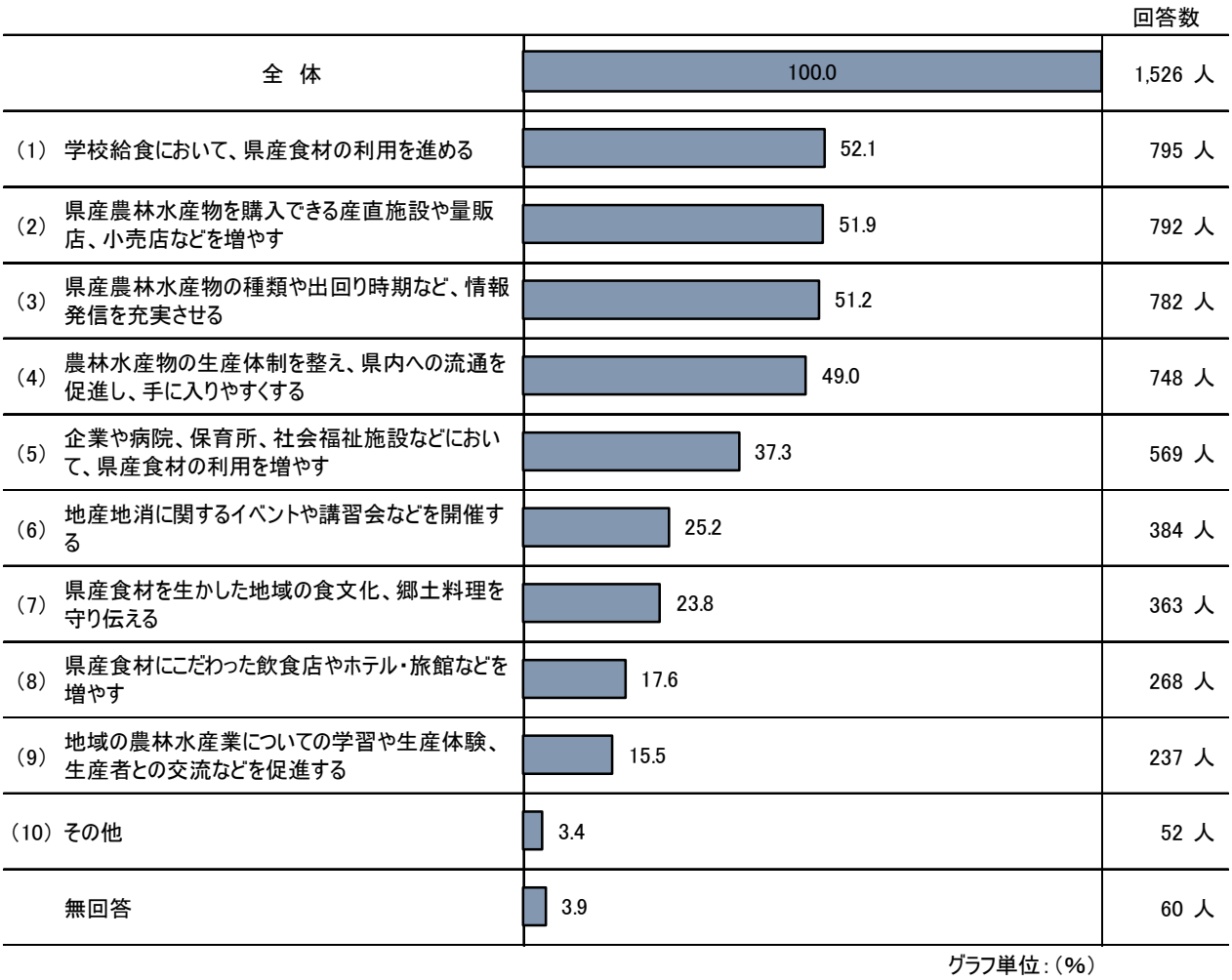
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】※回答数の多い順に並び替え

1	学校給食において、県産食材の利用を進める	52.1%(53.4%)
2	県産農林水産物を購入できる産直施設や量販店、小売店などを増やす	51.9%(50.9%)
3	県産農林水産物の種類や出回り時期など、情報発信を充実させる	51.2%(50.9%)
4	農林水産物の生産体制を整え、県内への流通を促進し、手に入りやすくする	49.0%(48.5%)
5	企業や病院、保育所、社会福祉施設などにおいて、県産食材の利用を増やす	37.3%(37.4%)
6	地産地消に関するイベントや講習会などを開催する	25.2%(25.2%)
7	県産食材を生かした地域の食文化、郷土料理を守り伝える	23.8%(24.5%)
8	県産食材にこだわった飲食店やホテル・旅館などを増やす	17.6%(19.0%)
9	地域の農林水産業についての学習や生産体験、生産者との交流などを促進する	15.5%(15.9%)
10	その他	3.4%(3.4%)
（無回答）		3.9%(3.6%)

地産地消をより推進するために効果的な取り組みについて、「学校給食において、県産食材の利用を進める」52.1%が最も高く、次いで「県産農林水産物を購入できる産直施設や量販店、小売店などを増やす」51.9%、「県産農林水産物の種類や出回り時期など、情報発信を充実させる」51.2%、「農林水産物の生産体制を整え、県内への流通を促進し、手に入りやすくする」49.0%となっている。

図表 2-(8)-1　地産地消をより推進するために効果的な取り組みについて



地産地消をより推進するために効果的な取り組みについて、性別にみると、『男性』では「県産農林水産物の種類や出回り時期など、情報発信を充実させる」52.2%が最も高く、『女性』では「県産農林水産物を購入できる産直施設や量販店、小売店などを増やす」54.8%が最も高くなっている。これに男女とも「学校給食において、県産食材の利用を進める」が『男性』49.7%、『女性』54.2%と続いている。

年齢別にみると、『18～19 歳』、『70 歳以上』では「県産農林水産物の種類や出回り時期など、情報発信を充実させる」が最も高く、『20～29 歳』、『30～39 歳』、『40～49 歳』では「学校給食において、県産食材の利用を進める」が最も高く、『50～59 歳』、『60～69 歳』では「県産農林水産物を購入できる産直施設や量販店、小売店などを増やす」が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「学校給食において、県産食材の利用を進める」が最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』、『主婦・主夫』、『無職』では「県産農林水産物を購入できる産直施設や量販店、小売店などを増やす」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『東讃圏域』では「県産農林水産物を購入できる産直施設や量販店、小売店などを増やす」が最も高く、『小豆圏域』では「農林水産物の生産体制を整え、県内への流通を促進し、手に入りやすくする」が最も高く、『中讃圏域』では「県産農林水産物の種類や出回り時期など、情報発信を充実させる」が最も高く、『西讃圏域』では「学校給食において、県産食材の利用を進める」が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『３年未満』では「県産農林水産物を購入できる産直施設や量販店、小売店などを増やす」が最も高く、『３年以上～10 年未満』、『10 年以上～20 年未満』では「学校給食において、県産食材の利用を進める」が最も高く、『20 年以上』では「県産農林水産物の種類や出回り時期など、情報発信を充実させる」が最も高くなっている。

図表 2-(8)-2 【地産地消をより推進するために効果的な取り組みについて】

【表の見方】 単位＝比率(%)		全体（人）	(1) 学校給食において、県産食材の利用を進める	(2) 県産農林水産物を購入できる産直施設や量販店、小売店などを増やす	(3) 県産農林水産物の種類や出回り時期など、情報発信を充実させる	(4) 農林水産物の生産体制を整え、県内への流通を促進し、手に入りやすくする	(5) 企業や病院、保育所、社会福祉施設などにおいて、県産食材の利用を増やす	(6) 地産地消に関するイベントや講習会などを開催する	(7) 県産食材を生かした地域の食文化、郷土料理を守り伝える	(8) 県産食材にこだわった飲食店やホテル・旅館などを増やす	(9) 地域の農林水産業についての学習や生産体験、生産者との交流などを促進する	(10) その他	無回答
全体		1,526	52.1	51.9	51.2	49.0	37.3	25.2	23.8	17.6	15.5	3.4	3.9
性別	男性	640	49.7	48.6	52.2	49.4	34.7	27.3	24.1	17.5	16.6	4.5	3.6
	女性	817	54.2	54.8	51.3	49.0	39.7	23.9	23.3	17.9	14.8	2.2	3.8
年齢別	18～19歳	11	45.5	36.4	63.6	45.5	27.3	54.5	27.3	27.3	9.1	－	－
	20～29歳	68	63.2	38.2	44.1	41.2	35.3	17.6	33.8	38.2	20.6	4.4	－
	30～39歳	139	69.8	54.0	52.5	51.8	41.7	27.3	27.3	25.2	23.0	4.3	0.7
	40～49歳	228	57.0	50.9	47.8	44.7	40.8	24.6	24.1	21.9	18.4	3.5	0.9
	50～59歳	256	50.8	56.3	52.3	52.7	38.7	25.4	21.9	20.7	18.0	2.3	2.3
	60～69歳	318	46.5	53.8	53.5	49.4	34.0	27.0	22.3	16.0	14.5	3.8	4.1
	70歳以上	474	48.3	51.3	51.5	49.4	36.7	24.7	22.8	10.1	11.2	2.7	7.2
職業別	農林漁業	66	63.6	48.5	60.6	51.5	47.0	30.3	31.8	19.7	25.8	4.5	1.5
	商工業、サービス業、自由業など	180	47.8	52.2	49.4	46.1	31.1	22.8	21.1	16.7	10.6	3.3	3.9
	会社、商店、官公庁などに勤務	648	56.2	52.2	51.5	49.5	41.0	24.8	24.1	22.1	19.0	2.8	2.2
	主婦・主夫	294	52.7	55.4	53.4	52.7	38.1	26.2	24.5	12.6	11.6	2.7	4.1
	無職	298	44.3	50.0	49.0	46.0	31.2	25.2	21.8	14.1	13.4	3.7	6.7
圏域別	高松圏域	773	52.1	55.0	52.1	50.8	39.1	25.0	23.5	18.5	14.5	3.1	3.5
	東讃圏域	126	54.0	57.1	50.8	55.6	38.1	30.2	26.2	13.5	21.4	4.0	3.2
	小豆圏域	46	39.1	45.7	50.0	52.2	28.3	17.4	19.6	17.4	17.4	6.5	8.7
	中讃圏域	384	48.7	45.8	50.0	43.2	29.9	21.4	22.1	16.1	13.8	3.6	5.5
	西讃圏域	192	60.4	49.0	50.5	47.4	45.8	31.3	27.6	18.8	18.8	3.1	2.1
居住年数別	3年未満	95	55.8	60.0	43.2	49.5	37.9	25.3	20.0	24.2	13.7	6.3	－
	3年以上～10年未満	195	62.6	47.2	46.2	48.2	41.5	26.7	24.1	25.1	16.9	4.6	2.6
	10年以上～20年未満	221	56.6	52.5	48.4	47.5	37.1	25.8	21.7	19.0	15.8	2.7	2.7
	20年以上	978	49.1	52.1	53.9	49.3	36.8	24.7	24.3	15.4	15.4	2.8	4.6

(9)「地産地消」に取り組みやすくなるための情報について

問15　県では、さまざまな媒体で県産農林水産物に関する情報発信を行っていますが、あなたは、どのような情報があれば、より「地産地消」に取り組みやすくなると思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

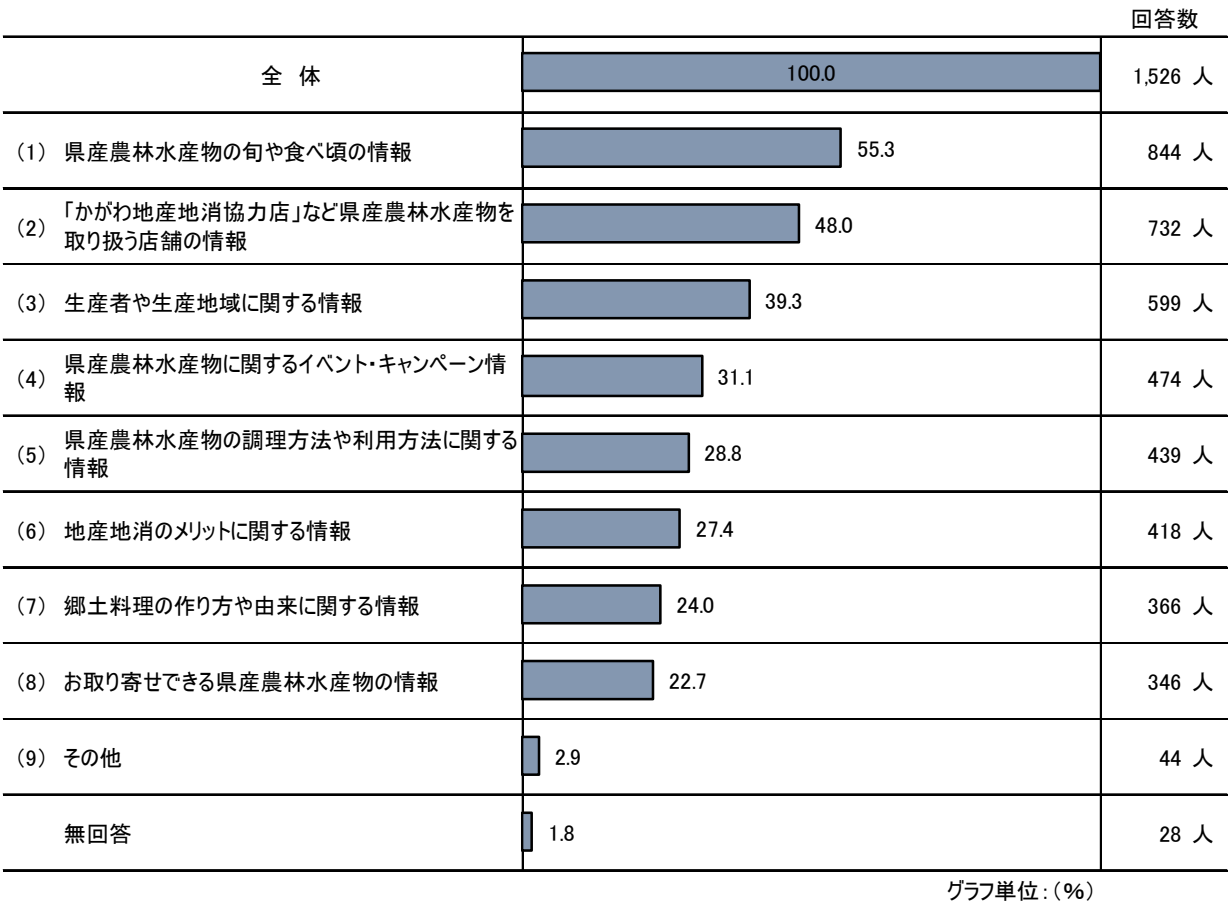
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】※回答数の多い順に並び替え

1	県産農林水産物の旬や食べ頃の情報	55.3%(55.2%)
2	「かがわ地産地消協力店」など県産農林水産物を取り扱う店舗の情報	48.0%(47.1%)
3	生産者や生産地域に関する情報	39.3%(38.2%)
4	県産農林水産物に関するイベント・キャンペーン情報	31.1%(31.0%)
5	県産農林水産物の調理方法や利用方法に関する情報	28.8%(27.9%)
6	地産地消のメリットに関する情報	27.4%(28.8%)
7	郷土料理の作り方や由来に関する情報	24.0%(24.3%)
8	お取り寄せできる県産農林水産物の情報	22.7%(22.9%)
9	その他	2.9%(2.9%)
	(無回答)	1.8%(1.7%)

「地産地消」に取り組みやすくなるための情報について、「県産農林水産物の旬や食べ頃の情報」55.3%が最も高く、次いで「「かがわ地産地消協力店」など県産農林水産物を取り扱う店舗の情報」48.0%、「生産者や生産地域に関する情報」39.3%、「県産農林水産物に関するイベント・キャンペーン情報」31.1%となっている。

図表 2-(9)-1 「地産地消」に取り組みやすくなるための情報について



「地産地消」に取り組みやすくなるための情報について、性別にみると、男女とも「県産農林水産物の旬や食べ頃の情報」が『男性』52.7%、『女性』56.9%と最も高く、これに男女とも「「かがわ地産地消協力店」など県産農林水産物を取り扱う店舗の情報」が『男性』47.0%、『女性』49.6%と続いている。

年齢別にみると、いずれも「県産農林水産物の旬や食べ頃の情報」が４～７割台と最も高く、『18～19 歳』で 72.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「県産農林水産物の旬や食べ頃の情報」が５～６割台と最も高く、『農林漁業』で 69.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『東讃圏域』を除くすべての圏域で「県産農林水産物の旬や食べ頃の情報」が最も高く、『東讃圏域』では「「かがわ地産地消協力店」など県産農林水産物を取り扱う店舗の情報」53.2%が最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「県産農林水産物の旬や食べ頃の情報」が４～５割台と最も高く、『20 年以上』で 57.4%と最も高くなっている。

図表 2-(9)-2 【「地産地消」に取り組みやすくなるための情報について】

【表の見方】 単位＝比率(%)		全体（人）	(1) 県産農林水産物の旬や食べ頃の情報	(2) 「かがわ地産地消協力店」など県産農林水産物を取り扱う店舗の情報	(3) 生産者や生産地域に関する情報	(4) 県産農林水産物に関するイベント・キャンペーン情報	(5) 県産農林水産物の調理方法や利用方法に関する情報	(6) 地産地消のメリットに関する情報	(7) 郷土料理の作り方や由来に関する情報	(8) お取り寄せできる県産農林水産物の情報	(9) その他	無回答
全体		1,526	55.3	48.0	39.3	31.1	28.8	27.4	24.0	22.7	2.9	1.8
性別	男性	640	52.7	47.0	40.9	31.1	24.4	28.9	21.7	21.7	3.1	1.9
	女性	817	56.9	49.6	37.8	30.8	31.9	27.3	25.8	23.5	2.4	1.8
年齢別	18～19歳	11	72.7	36.4	36.4	27.3	18.2	54.5	36.4	9.1	－	－
	20～29歳	68	47.1	44.1	22.1	29.4	16.2	38.2	25.0	33.8	2.9	－
	30～39歳	139	58.3	46.8	36.7	34.5	27.3	35.3	24.5	21.6	4.3	0.7
	40～49歳	228	47.8	39.0	34.2	36.0	25.9	37.7	21.5	21.1	3.1	0.4
	50～59歳	256	57.4	49.2	40.2	37.9	27.7	26.2	16.8	23.0	3.9	0.4
	60～69歳	318	54.7	54.4	39.3	30.8	30.2	24.8	23.3	24.2	2.8	1.3
	70歳以上	474	57.0	49.6	44.1	24.5	31.0	21.5	28.9	21.1	1.7	4.4
職業別	農林漁業	66	69.7	53.0	50.0	34.8	40.9	33.3	24.2	25.8	3.0	－
	商工業、サービス業、自由業など	180	53.3	50.6	42.8	30.6	28.9	25.0	20.0	21.7	2.8	3.3
	会社、商店、官公庁などに勤務	648	53.9	46.0	36.9	34.7	24.1	31.5	20.8	23.5	3.2	0.5
	主婦・主夫	294	57.8	54.4	37.8	29.3	35.7	24.1	33.0	23.5	2.7	2.7
	無職	298	52.7	45.0	40.6	24.2	28.5	24.8	24.2	20.1	1.7	3.4
圏域別	高松圏域	773	57.1	47.5	39.6	32.9	30.1	28.7	22.6	22.4	3.4	1.7
	東讃圏域	126	50.8	53.2	39.7	27.0	27.0	29.4	20.6	27.0	1.6	1.6
	小豆圏域	46	52.2	50.0	41.3	23.9	21.7	26.1	13.0	21.7	2.2	4.3
	中讃圏域	384	51.0	43.5	37.2	28.4	26.3	24.2	24.7	21.1	2.9	2.3
	西讃圏域	192	60.4	55.2	41.7	32.3	31.3	27.1	32.8	23.4	1.6	1.0
居住年数別	3年未満	95	50.5	46.3	34.7	33.7	24.2	32.6	26.3	20.0	8.4	－
	3年以上～10年未満	195	52.8	40.5	33.8	38.5	23.6	37.9	22.1	17.9	3.1	1.0
	10年以上～20年未満	221	48.4	48.0	36.7	32.6	23.5	25.8	20.4	23.5	3.6	0.9
	20年以上	978	57.4	50.1	41.2	28.9	30.9	25.8	24.9	23.5	1.9	2.5

３．障害福祉について

（1）障害福祉への関心度

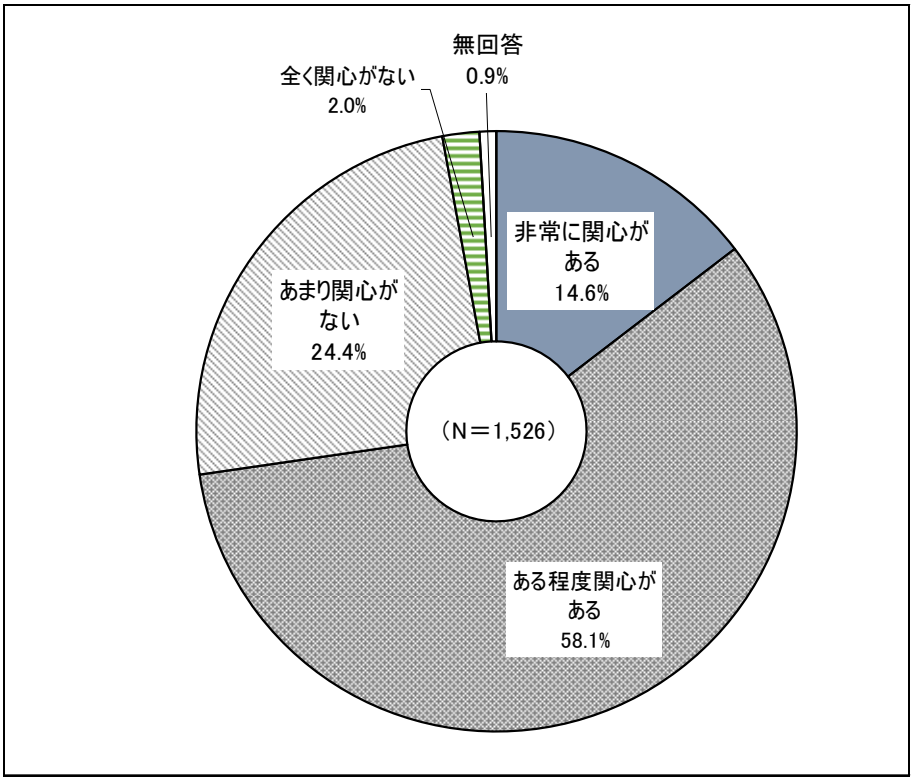
問16　あなたは、障害福祉についてどの程度ご関心がありますか。次の中から１つだけ選んでください。　※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】

1	非常に関心がある	14.6%(14.3%)	⇒ 問17にお進みください
2	ある程度関心がある	58.1%(57.9%)	
3	あまり関心がない	24.4%(24.6%)	⇒ 付問5にお進みください
4	全く関心がない	2.0%(2.3%)	
	(無回答)	0.9%(0.9%)	

障害福祉への関心度について、「ある程度関心がある」58.1%が最も高く、次いで「あまり関心がない」24.4%、「非常に関心がある」14.6%、「全く関心がない」2.0%となっている。

図表 3-(1)-1　障害福祉への関心度



障害福祉への関心度について、性別にみると、「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた【関心がある】の割合は『男性』70.3%、『女性』74.4%で、「あまり関心がない」と「全く関心がない」を合わせた【関心がない】の割合は『男性』29.1%、『女性』24.5%となっており、男女とも【関心がある】の割合が【関心がない】の割合を上回っている。

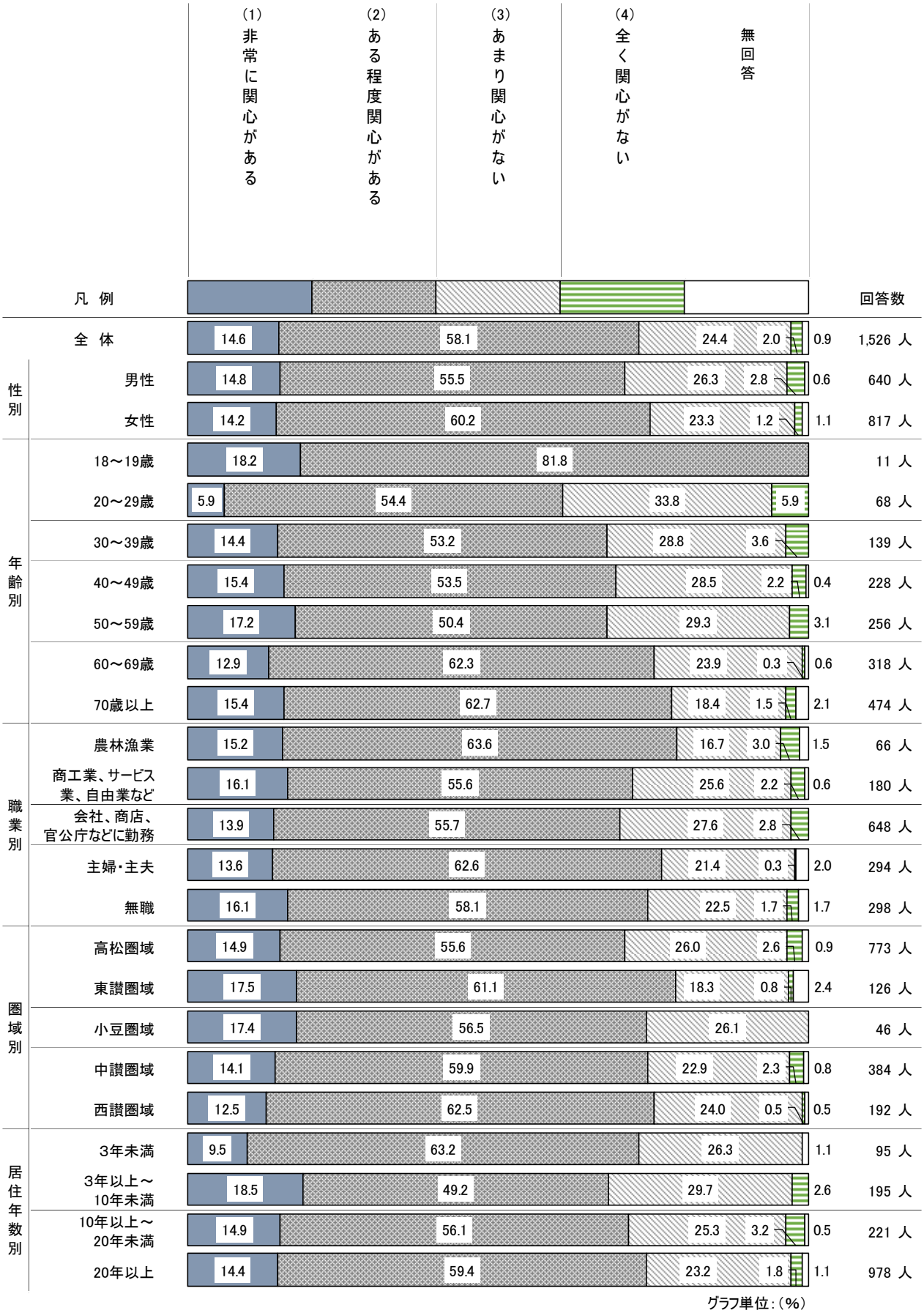
年齢別にみると、【関心がある】の割合は、いずれも【関心がない】の割合を上回っており、『18～19 歳』で 100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【関心がある】の割合は、いずれも【関心がない】の割合を上回っており、『農林漁業』で 78.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【関心がある】の割合は、いずれも【関心がない】の割合を上回っており、『東讃圏域』で 78.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【関心がある】の割合は、いずれも【関心がない】の割合を上回っており、『20 年以上』で 73.8%と最も高くなっている。

図表 3-(1)-2 【障害福祉への関心度について】



(2)障害福祉に関心が持てない理由について

【問16で「3」または「4」と答えた方にお聞きします】

付問５　障害福祉に関心が持てない理由を、次の中から１つだけ選んでください。

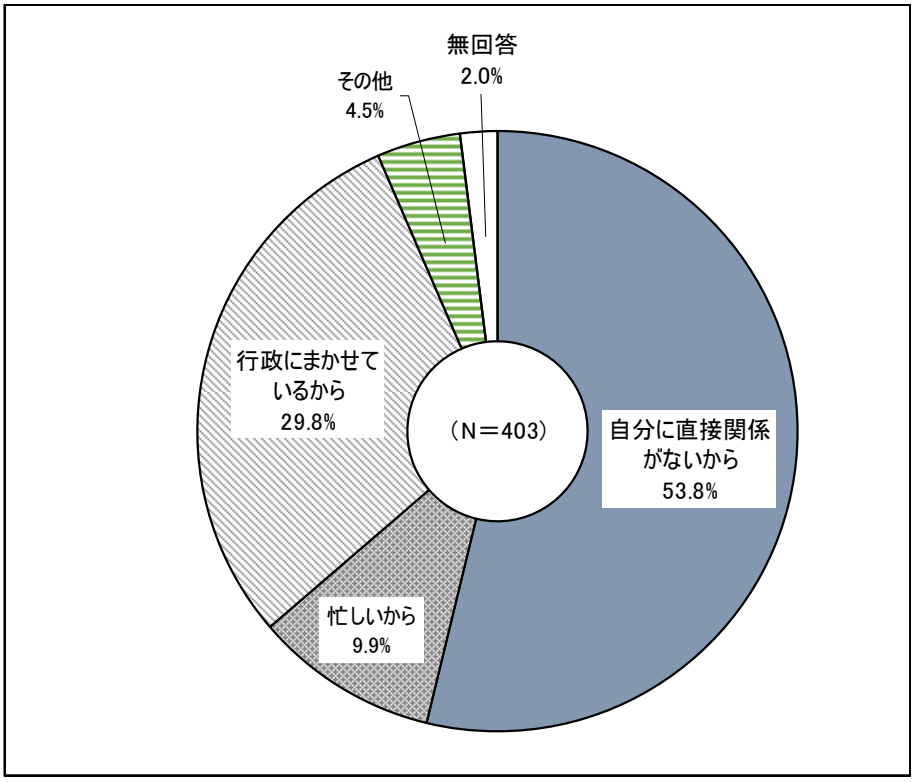
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝403】

１　自分に直接関係がないから	53.8%(53.2%)
２　忙しいから	9.9%(10.6%)
３　行政にまかせているから	29.8%(29.7%)
４　その他	4.5%(4.3%)
（無回答）	2.0%(2.1%)

障害福祉に関心が持てない理由について、「自分に直接関係がないから」53.8%が最も高く、次いで「行政にまかせているから」29.8%、「忙しいから」9.9%、「その他」4.5%となっている。

図表 3-(2)-1　障害福祉に関心が持てない理由について



障害福祉に関心が持てない理由について、性別にみると、男女とも「自分に直接関係がないから」が最も高く、『男性』56.5%、『女性』52.0%で、これに男女とも「行政にまかせているから」が『男性』30.1%、『女性』29.0%と続いている。

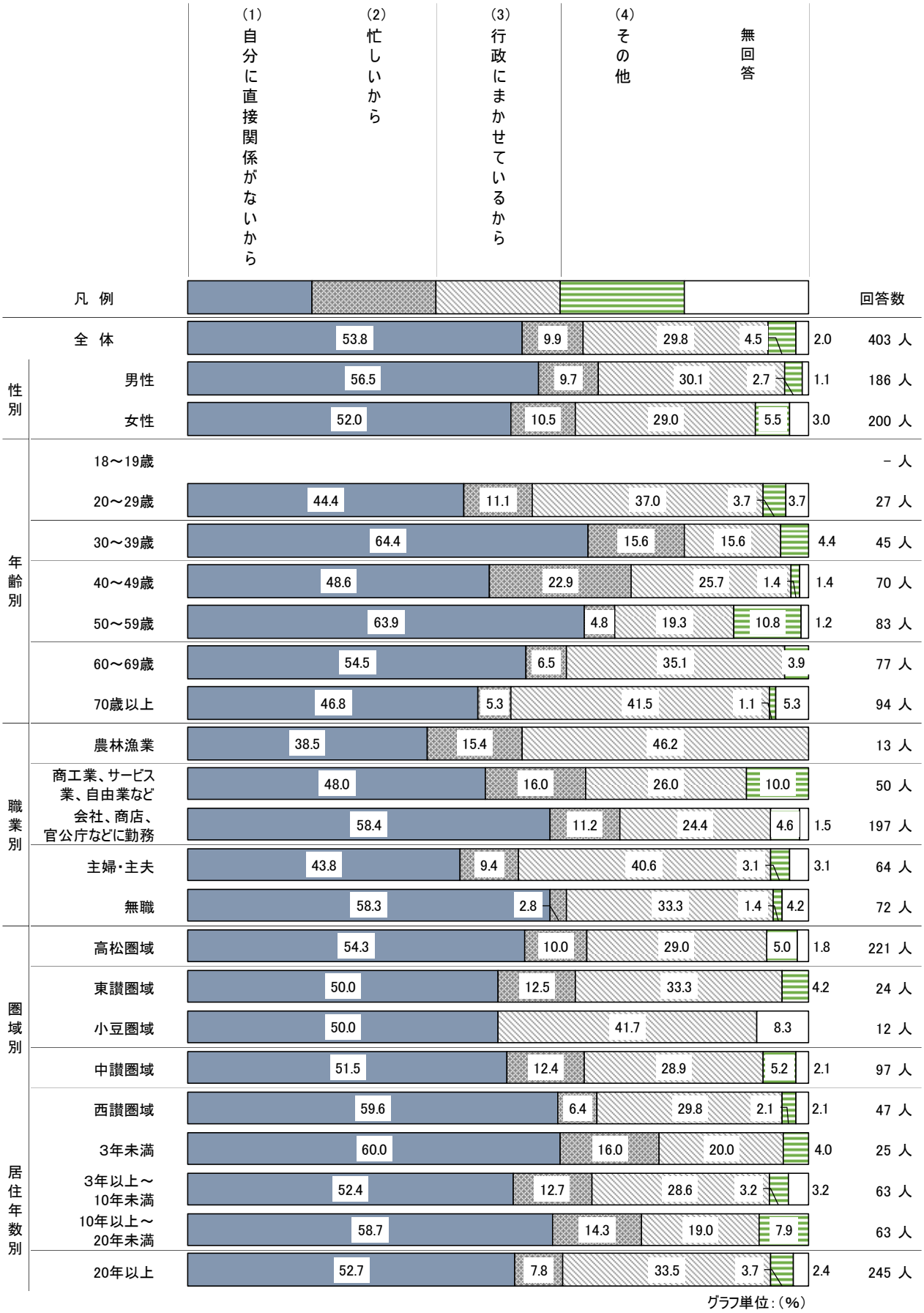
年齢別にみると、いずれも「自分に直接関係がないから」が４～６割台と最も高く、『30～39 歳』で 64.4%と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』を除くすべての職業で「自分に直接関係がないから」が最も高く、『農林漁業』では「行政にまかせているから」46.2%が最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「自分に直接関係がないから」が５割台と最も高く、『西讃圏域』で 59.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「自分に直接関係がないから」が５～６割台と最も高く、『３年未満』で 60.0%と最も高くなっている。

図表 3-(2)-2 【障害福祉に関心が持てない理由について】



(3)障害のある方の地域生活への移行について

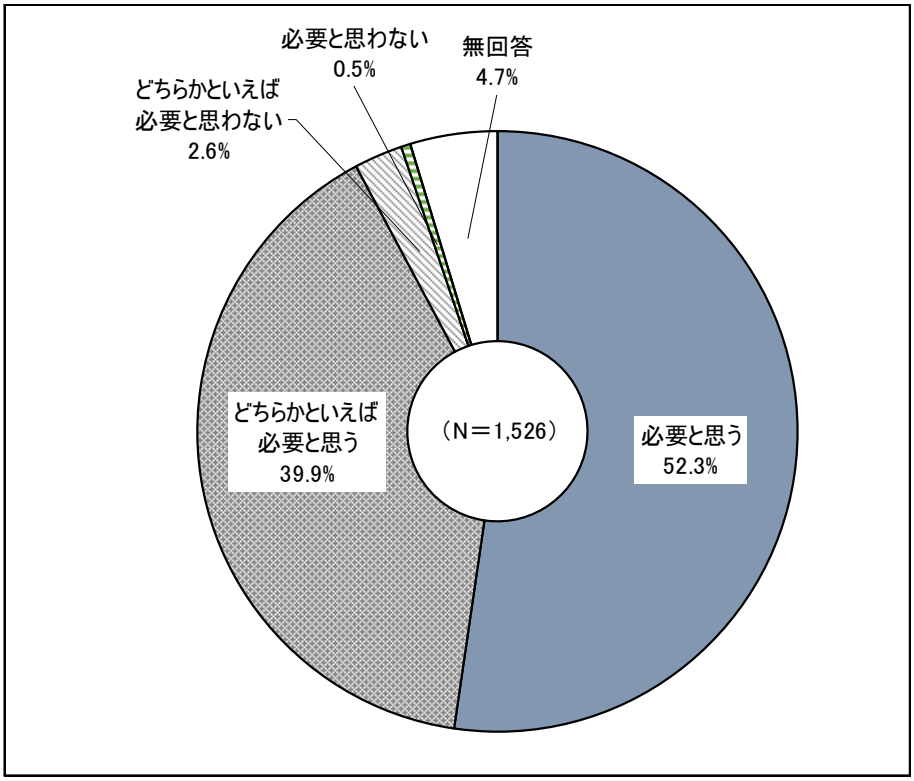
問17　障害者総合支援法では、障害のある方も可能な限り地域において生活できる社会を目指すことが大きなテーマの一つになっています。具体的には、入所施設を利用し続けるのではなく、地域で福祉サービスを利用しながら自宅やグループホームなどで生活することを目指すものですが、このような考え方について、どのように思いますか。次の中から１つだけ選んでください。　※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】

1　必要と思う	52.3%(53.1%)	⇒ 付問6にお進みください
2　どちらかといえば必要と思う	39.9%(39.4%)	
3　どちらかといえば必要と思わない	2.6%(2.6%)	⇒ 問18にお進みください
4　必要と思わない	0.5%(0.5%)	
（無回答）	4.7%(4.3%)	

障害のある方の地域生活への移行について、「必要と思う」52.3%が最も高く、次いで「どちらかといえば必要と思う」39.9%、「どちらかといえば必要と思わない」2.6%、「必要と思わない」0.5%となっている。

図表 3-(3)-1　障害のある方の地域生活への移行について



障害のある方の地域生活への移行について、性別にみると、「必要と思う」と「どちらかといえば必要と思う」を合わせた【必要と思う】の割合は『男性』92.7%、『女性』91.8%で、「どちらかといえば必要と思わない」と「必要と思わない」を合わせた【必要と思わない】の割合は『男性』3.9%、『女性』2.4%となっており、男女とも【必要と思う】の割合が【必要と思わない】の割合を上回っている。

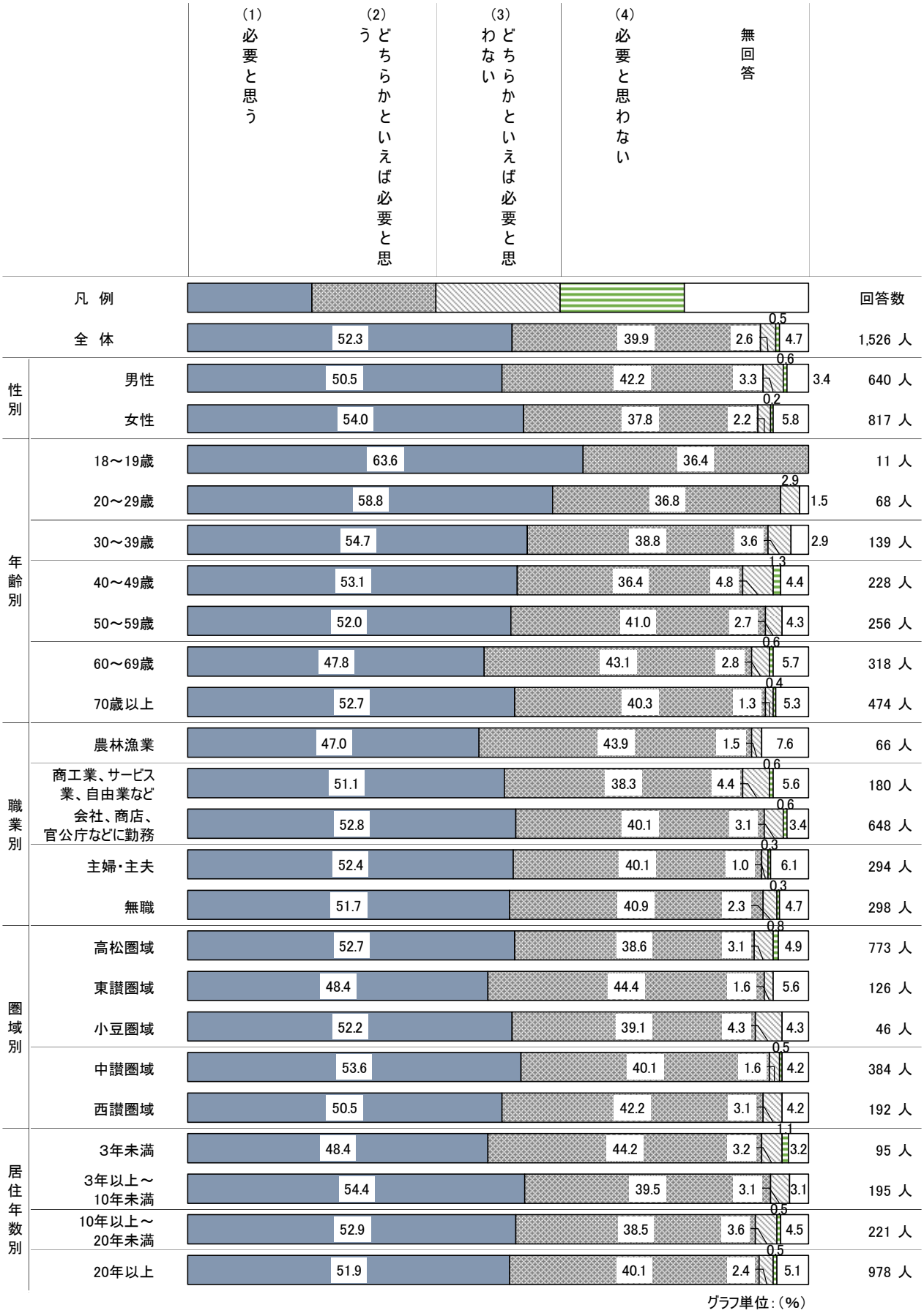
年齢別にみると、【必要と思う】の割合は、いずれも【必要と思わない】の割合を上回っており、『18～19 歳』で 100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【必要と思う】の割合は、いずれも【必要と思わない】の割合を上回っており、『会社、商店、官公庁などに勤務』で 92.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【必要と思う】の割合は、いずれも【必要と思わない】の割合を上回っており、『中讃圏域』で 93.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【必要と思う】の割合は、いずれも【必要と思わない】の割合を上回っており、『３年以上～10 年未満』で 93.9%と最も高くなっている。

図表 3-(3)-2 【障害のある方の地域生活への移行について】



（4）障害のある方が地域で生活していくために必要なことについて

【問 17 で「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

付問６　障害のある方が地域で生活していくためには何が必要だと思いますか。次の中から２つまで選んでください。

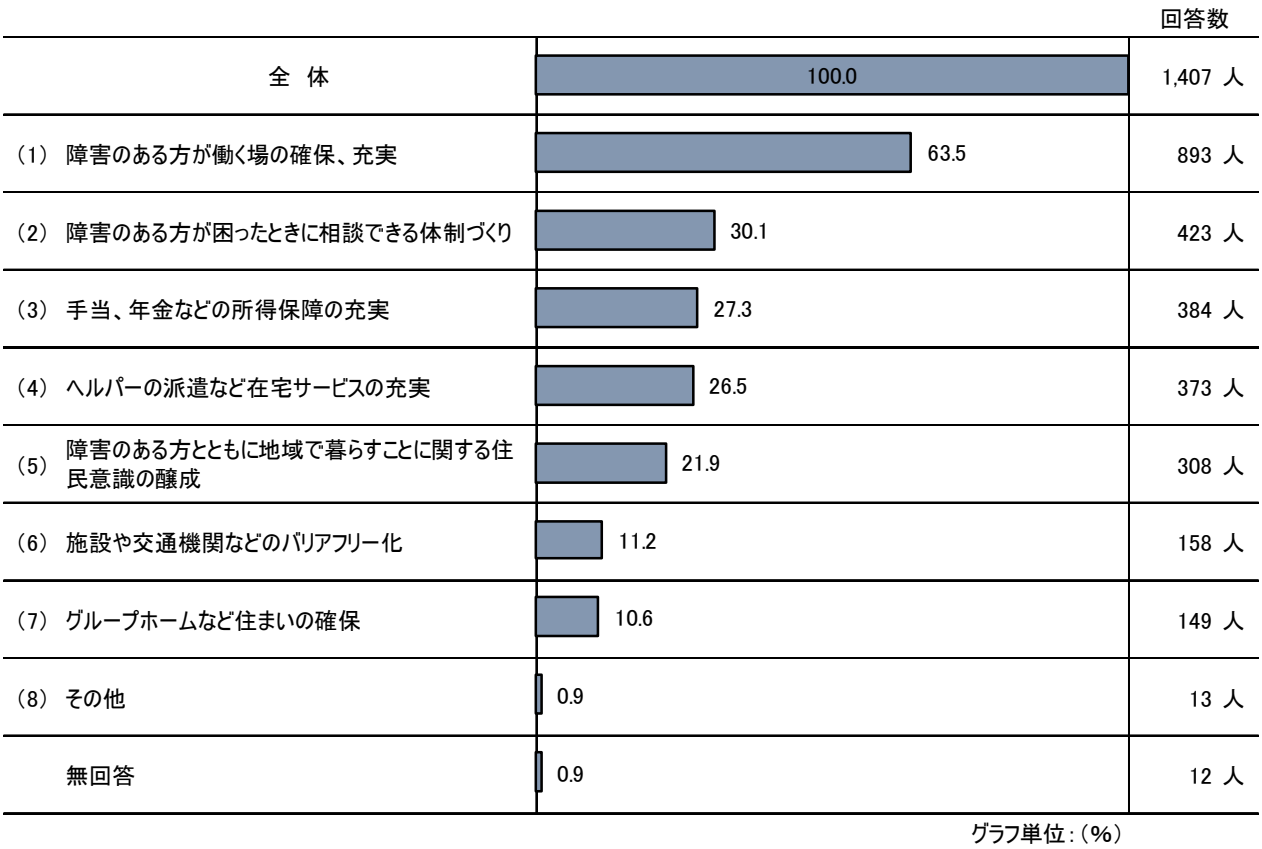
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,407】※回答数の多い順に並び替え

1	障害のある方が働く場の確保、充実	63.5%(62.8%)
2	障害のある方が困ったときに相談できる体制づくり	30.1%(28.9%)
3	手当、年金などの所得保障の充実	27.3%(27.4%)
4	ヘルパーの派遣など在宅サービスの充実	26.5%(26.7%)
5	障害のある方とともに地域で暮らすことに関する住民意識の醸成	21.9%(22.6%)
6	施設や交通機関などのバリアフリー化	11.2%(11.9%)
7	グループホームなど住まいの確保	10.6%(10.6%)
8	その他	0.9%(1.0%)
（無回答）		0.9%(0.7%)

障害のある方が地域で生活していくために必要なことについて、「障害のある方が働く場の確保、充実」63.5%が最も高く、次いで「障害のある方が困ったときに相談できる体制づくり」30.1%、「手当、年金などの所得保障の充実」27.3%、「ヘルパーの派遣など在宅サービスの充実」26.5%などとなっている。

図表 3-(4)-1　障害のある方が地域で生活していくために必要なことについて



障害のある方が地域で生活していくために必要なことについて、性別にみると、男女とも「障害のある方が働く場の確保、充実」が最も高く、『男性』64.1%、『女性』64.3%で、これに男女とも「障害のある方が困ったときに相談できる体制づくり」が『男性』28.7%、『女性』30.4%と続いている。

年齢別にみると、いずれも「障害のある方が働く場の確保、充実」が４～７割台と最も高く、『18～19 歳』で 72.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「障害のある方が働く場の確保、充実」が５～６割台と最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』で 68.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「障害のある方が働く場の確保、充実」が６割台と最も高く、『小豆圏域』で 69.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「障害のある方が働く場の確保、充実」が６割台と最も高く、『３年以上～10 年未満』で 68.9%と最も高くなっている。

図表 3-(4)-2 【障害のある方が地域で生活していくために必要なことについて】

【表の見方】 単位＝比率(%)		全体（人）	(1) 障害のある方が働く場の確保、充実	(2) 障害のある方が困ったときに相談できる体制づくり	(3) 手当、年金などの所得保障の充実	(4) ヘルパーの派遣など在宅サービスの充実	(5) 障害のある方とともに地域で暮らすことに関する住民意識の醸成	(6) 施設や交通機関などのバリアフリー化	(7) グループホームなど住まいの確保	(8) その他	無回答
全体		1,407	63.5	30.1	27.3	26.5	21.9	11.2	10.6	0.9	0.9
性別	男性	593	64.1	28.7	28.5	23.8	22.1	9.8	11.5	1.0	1.2
	女性	750	64.3	30.4	25.9	28.7	21.7	11.9	10.3	0.7	0.7
年齢別	18～19歳	11	72.7	9.1	36.4	27.3	27.3	9.1	－	－	－
	20～29歳	65	49.2	21.5	29.2	27.7	29.2	23.1	10.8	1.5	－
	30～39歳	130	68.5	16.9	25.4	30.0	26.9	13.1	13.8	0.8	－
	40～49歳	204	69.6	26.0	22.1	24.5	26.0	13.7	11.3	1.0	－
	50～59歳	238	68.1	23.5	26.5	27.3	19.7	12.2	12.2	0.8	1.3
	60～69歳	289	68.2	30.8	27.0	25.6	20.8	10.0	9.3	0.3	1.0
	70歳以上	441	56.5	39.2	30.4	26.5	20.0	7.7	9.8	1.1	1.4
職業別	農林漁業	60	58.3	30.0	40.0	30.0	21.7	8.3	6.7	－	－
	商工業、サービス業、自由業など	161	68.9	25.5	25.5	23.0	23.0	10.6	14.3	1.9	0.6
	会社、商店、官公庁などに勤務	602	67.1	23.1	24.3	28.6	23.4	13.5	12.3	0.5	0.8
	主婦・主夫	272	62.5	39.7	29.8	25.0	18.8	7.4	8.8	1.1	1.1
	無職	276	56.2	35.5	30.1	25.0	22.1	10.5	7.6	1.1	1.1
圏域別	高松圏域	705	63.0	29.6	27.4	27.1	20.4	12.6	10.2	0.7	1.0
	東讃圏域	117	66.7	41.9	28.2	19.7	20.5	12.8	7.7	－	－
	小豆圏域	42	69.0	21.4	14.3	40.5	28.6	11.9	11.9	－	－
	中讃圏域	360	62.5	30.6	27.2	23.9	25.6	8.6	11.7	1.1	1.4
	西讃圏域	178	63.5	25.3	29.8	30.3	19.7	10.1	11.8	2.2	－
居住年数別	3年未満	88	68.2	18.2	29.5	29.5	28.4	10.2	6.8	1.1	－
	3年以上～10年未満	183	68.9	23.5	26.2	24.6	24.6	13.1	11.5	1.1	0.5
	10年以上～20年未満	202	63.9	30.2	24.8	25.7	19.3	10.4	13.9	2.0	1.0
	20年以上	900	62.3	31.8	28.0	26.4	21.7	11.0	10.2	0.6	1.0

(5)障害のある方の就労支援について

問18　障害者総合支援法では、障害のある方の就労支援もテーマになっています。これは、障害のある方もできる限りその能力を最大限に生かして働くことができる社会の実現を目指すものですが、このような考え方についてどのように思いますか。次の中から１つだけ選んでください。（なお、ここでいう障害のある方とは、障害のある児童や高齢者は含みません。）

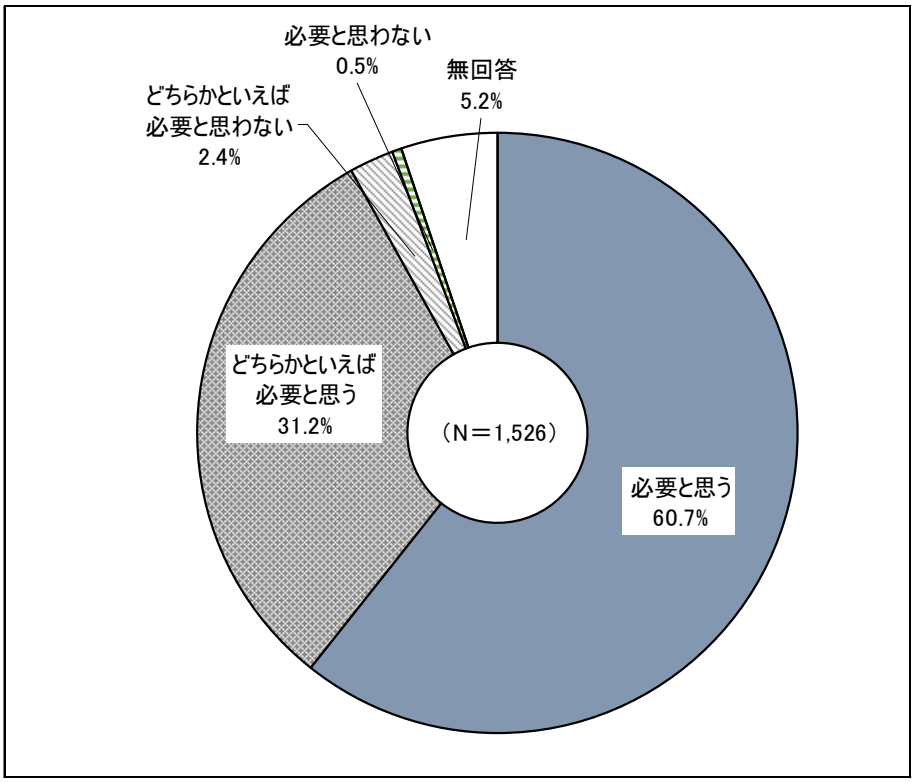
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】

1　必要と思う	60.7%(61.5%)	⇒ 付問7にお進みください
2　どちらかといえば必要と思う	31.2%(30.5%)	
3　どちらかといえば必要と思わない	2.4%(2.6%)	⇒ 問19にお進みください
4　必要と思わない	0.5%(0.6%)	
（無回答）	5.2%(4.9%)	

障害のある方の就労支援について、「必要と思う」60.7%が最も高く、次いで「どちらかといえば必要と思う」31.2%、「どちらかといえば必要と思わない」2.4%、「必要と思わない」0.5%となっている。

図表 3-(5)-1　障害のある方の就労支援について



障害のある方の就労支援について、性別にみると、「必要と思う」と「どちらかといえば必要と思う」を合わせた【必要と思う】の割合は『男性』92.1%、『女性』92.7%で、男女とも「どちらかといえば必要と思わない」と「必要と思わない」を合わせた【必要と思わない】の割合を上回っている。

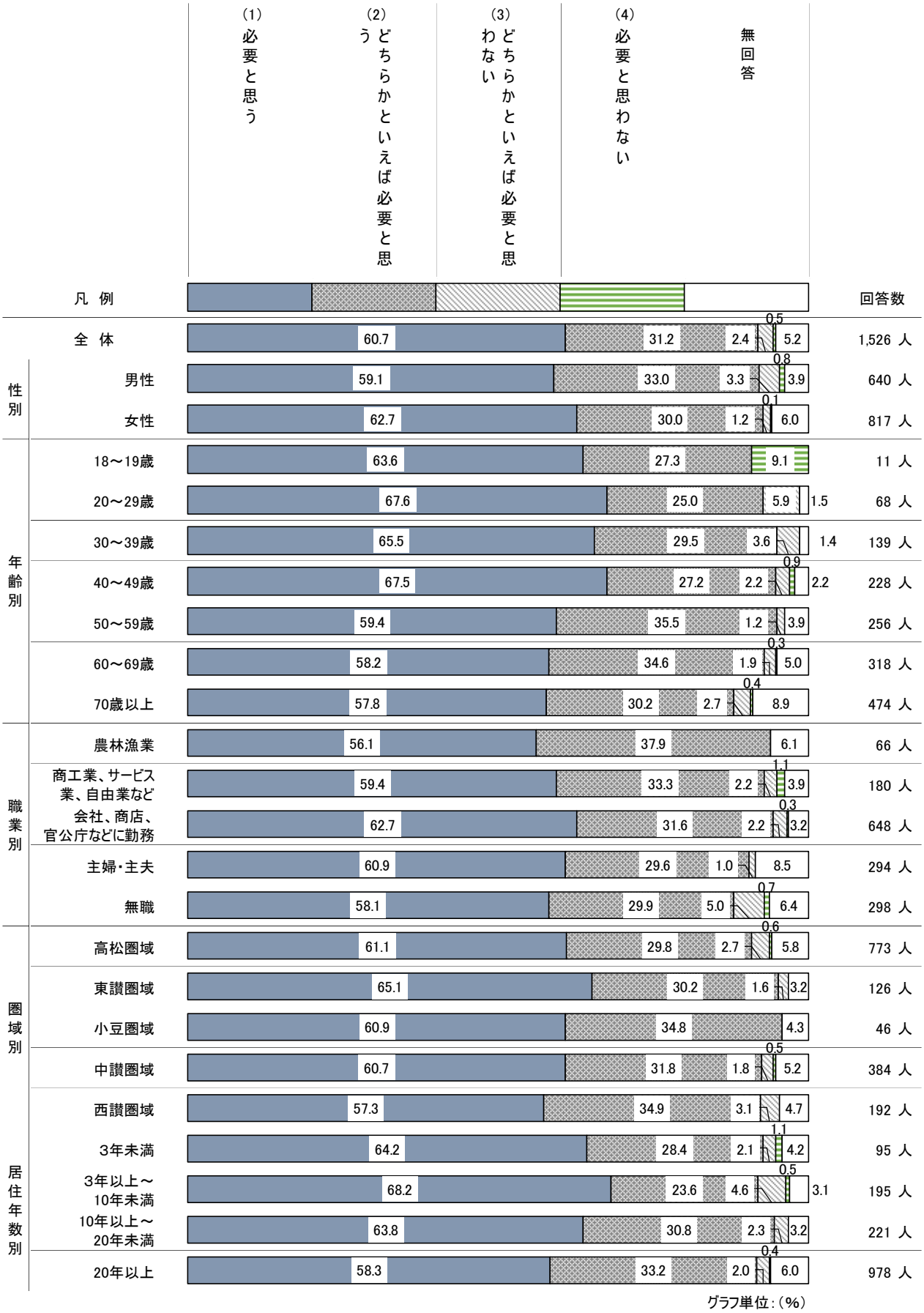
年齢別にみると、【必要と思う】の割合は、いずれも【必要と思わない】の割合を上回っており、『30～39 歳』で 95.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【必要と思う】の割合は、いずれも【必要と思わない】の割合を上回っており、『会社、商店、官公庁などに勤務』で 94.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【必要と思う】の割合は、いずれも【必要と思わない】の割合を上回っており、『小豆圏域』で 95.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【必要と思う】の割合は、いずれも【必要と思わない】の割合を上回っており、『10 年以上～20 年未満』で 94.6%と最も高くなっている。

図表 3-(5)-2 【障害のある方の就労支援について】



(6)障害のある方が就労するために必要なことについて

【問 18 で「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

付問７　障害のある方が就労するためには何が必要だと思いますか。次の中から２つまで選んでください。

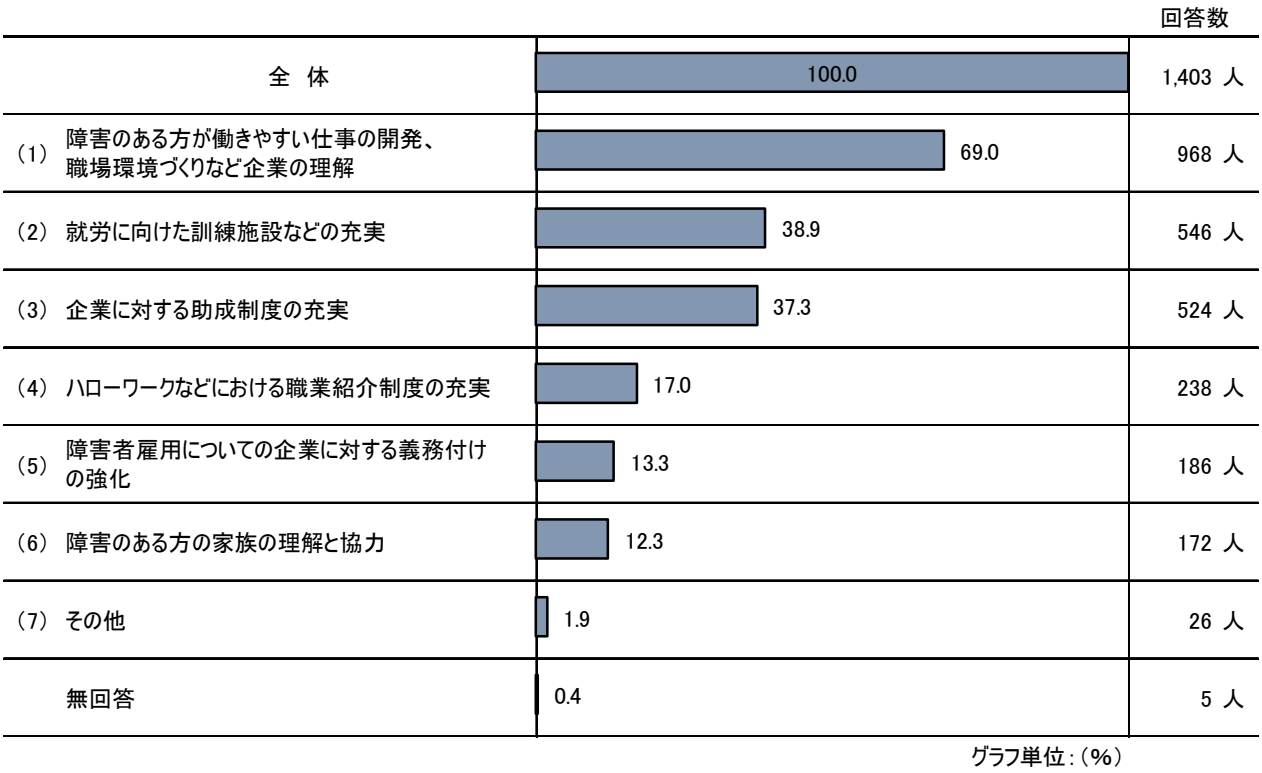
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,403】※回答数の多い順に並び替え

1	障害のある方が働きやすい仕事の開発、職場環境づくりなど企業の理解	69.0%(68.6%)
2	就労に向けた訓練施設などの充実	38.9%(38.1%)
3	企業に対する助成制度の充実	37.3%(38.4%)
4	ハローワークなどにおける職業紹介制度の充実	17.0%(17.3%)
5	障害者雇用についての企業に対する義務付けの強化	13.3%(12.5%)
6	障害のある方の家族の理解と協力	12.3%(12.4%)
7	その他	1.9%(1.8%)
（無回答）		0.4%(0.4%)

障害のある方が就労するために必要なことについて、「障害のある方が働きやすい仕事の開発、職場環境づくりなど企業の理解」69.0%が最も高く、次いで「就労に向けた訓練施設などの充実」38.9%、「企業に対する助成制度の充実」37.3%、「ハローワークなどにおける職業紹介制度の充実」17.0%などとなっている。

図表 3-(6)-1　障害のある方が就労するために必要なことについて



障害のある方が就労するために必要なことについて、性別にみると、男女とも「障害のある方が働きやすい仕事の開発、職場環境づくりなど企業の理解」が最も高く、『男性』65.5%、『女性』71.5%で、これに『男性』は「企業に対する助成制度の充実」40.6%、『女性』は「就労に向けた訓練施設などの充実」40.0%が続いている。

年齢別にみると、いずれも「障害のある方が働きやすい仕事の開発、職場環境づくりなど企業の理解」が６～７割台と最も高く、『60～69 歳』で 74.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「障害のある方が働きやすい仕事の開発、職場環境づくりなど企業の理解」が６～７割台と最も高く、『主婦・主夫』で 71.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「障害のある方が働きやすい仕事の開発、職場環境づくりなど企業の理解」が６～７割台と最も高く、『小豆圏域』で 77.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「障害のある方が働きやすい仕事の開発、職場環境づくりなど企業の理解」が６割台と最も高く、『10 年以上～20 年未満』で 69.9%と最も高くなっている。

図表 3-(6)-2 【障害のある方が就労するために必要なことについて】

【表の見方】 単位＝比率(%)		全体（人）	(1) 障害のある方が働きやすい仕事の開発、職場環境づくりなど企業の理解	(2) 就労に向けた訓練施設などの充実	(3) 企業に対する助成制度の充実	(4) ハローワークなどにおける職業紹介制度の充実	(5) 障害者雇用についての企業に対する義務付けの強化	(6) 障害のある方の家族の理解と協力	(7) その他	無回答
全体		1,403	69.0	38.9	37.3	17.0	13.3	12.3	1.9	0.4
性別	男性	589	65.5	36.8	40.6	20.0	14.8	11.0	2.0	0.2
	女性	757	71.5	40.0	35.3	15.2	12.3	13.3	1.5	0.5
年齢別	18～19歳	10	70.0	20.0	50.0	30.0	－	10.0	－	－
	20～29歳	63	68.3	31.7	41.3	22.2	7.9	14.3	1.6	－
	30～39歳	132	65.9	41.7	41.7	18.2	9.1	11.4	1.5	0.8
	40～49歳	216	71.8	34.3	44.0	17.6	11.6	7.9	2.8	－
	50～59歳	243	68.7	36.6	34.2	18.9	14.0	10.7	2.5	0.8
	60～69歳	295	74.2	43.4	28.8	18.6	15.3	8.8	1.4	－
	70歳以上	417	65.0	38.8	40.3	13.7	15.1	18.0	1.4	0.5
職業別	農林漁業	62	61.3	35.5	46.8	22.6	21.0	8.1	1.6	－
	商工業、サービス業、自由業など	167	64.1	43.7	37.7	15.0	10.8	13.8	3.6	－
	会社、商店、官公庁などに勤務	611	71.5	35.8	36.0	19.0	13.6	10.6	2.0	0.2
	主婦・主夫	266	71.8	40.6	37.6	15.4	12.4	13.2	1.1	0.4
	無職	262	65.6	40.5	38.9	15.3	14.1	14.5	1.1	0.8
圏域別	高松圏域	702	70.1	37.6	37.7	16.8	13.2	11.5	2.1	0.4
	東讃圏域	120	65.8	39.2	40.8	20.8	15.8	7.5	－	0.8
	小豆圏域	44	77.3	38.6	43.2	6.8	15.9	11.4	－	－
	中讃圏域	355	67.6	36.9	34.9	17.7	12.7	17.2	2.3	0.3
	西讃圏域	177	67.2	48.6	36.2	15.8	12.4	9.0	1.7	－
居住年数別	3年未満	88	64.8	34.1	42.0	19.3	12.5	11.4	3.4	－
	3年以上～10年未満	179	69.3	28.5	38.0	20.7	17.3	11.7	1.7	－
	10年以上～20年未満	209	69.9	39.7	38.8	16.7	8.1	12.9	2.4	－
	20年以上	895	68.9	40.7	36.6	16.5	14.0	12.3	1.6	0.6

（7）障害のある方の権利擁護のために行政が力を入れるべきことについて

問19　障害を理由とする差別の解消に向けて、平成２８年４月に障害者差別解消法が施行され、平成３０年４月からは「香川県障害のある人もない人も共に安心して暮らせる社会づくり条例」が施行されています。障害のある方の権利擁護（差別や虐待の防止など）について、行政はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。次の中から２つまで選んでください。

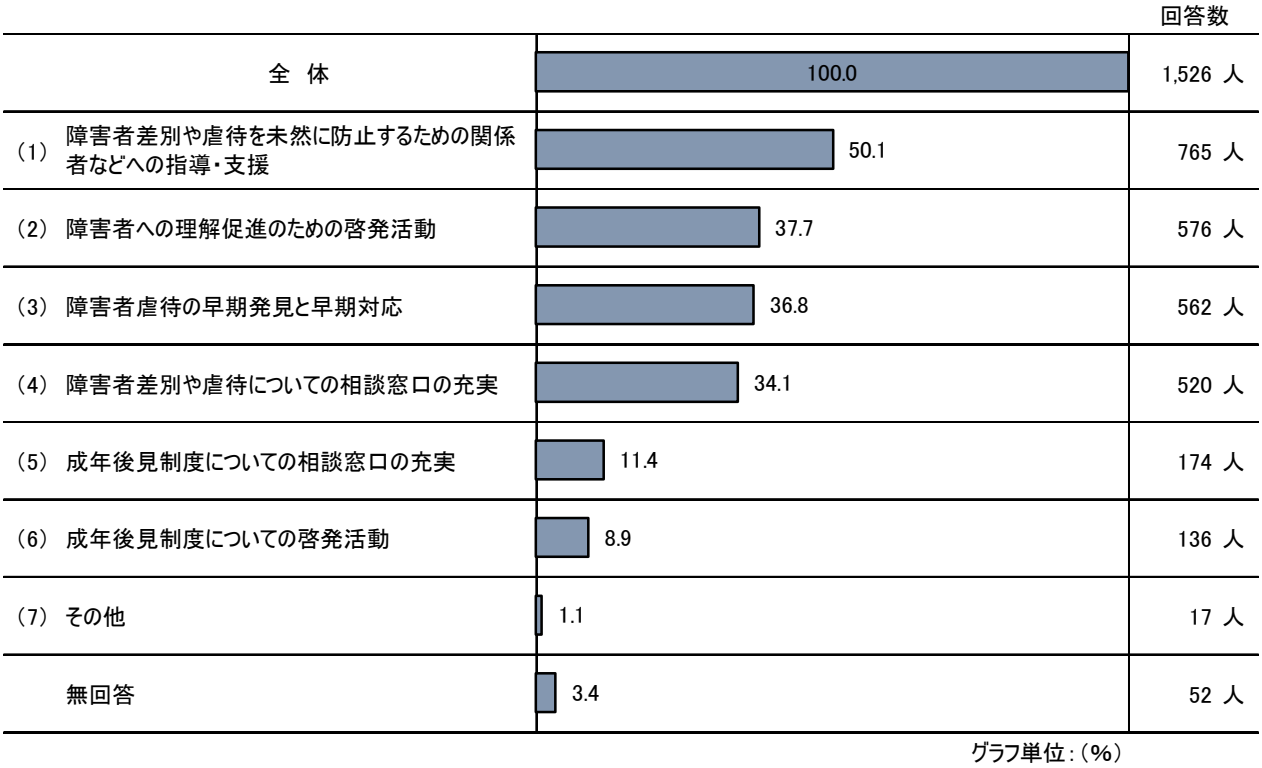
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】※回答数の多い順に並び替え

1	障害者差別や虐待を未然に防止するための関係者などへの指導・支援	50.1%(49.9%)
2	障害者への理解促進のための啓発活動	37.7%(38.5%)
3	障害者虐待の早期発見と早期対応	36.8%(36.9%)
4	障害者差別や虐待についての相談窓口の充実	34.1%(33.4%)
5	成年後見制度についての相談窓口の充実	11.4%(11.1%)
6	成年後見制度についての啓発活動	8.9%(9.1%)
7	その他	1.1%(1.2%)
（無回答）		3.4%(3.3%)

障害のある方の権利擁護のために行政が力を入れるべきことについて、「障害者差別や虐待を未然に防止するための関係者などへの指導・支援」50.1%が最も高く、次いで「障害者への理解促進のための啓発活動」37.7%、「障害者虐待の早期発見と早期対応」36.8%、「障害者差別や虐待についての相談窓口の充実」34.1%などとなっている。

図表 3-(7)-1　障害のある方の権利擁護のために行政が力を入れるべきことについて



障害のある方の権利擁護のために行政が力を入れるべきことについて、性別にみると、男女とも「障害者差別や虐待を未然に防止するための関係者などへの指導・支援」が最も高く、『男性』48.8%、『女性』51.2%で、これに『男性』は「障害者への理解促進のための啓発活動」38.8%、『女性』は「障害者虐待の早期発見と早期対応」38.8%が続いている。

年齢別にみると、『18～19 歳』を除くすべての年齢で「障害者差別や虐待を未然に防止するための関係者などへの指導・支援」が４～５割台と最も高く、『18～19 歳』では「障害者への理解促進のための啓発活動」54.5%が最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「障害者差別や虐待を未然に防止するための関係者などへの指導・支援」が４～５割台と最も高く、『主婦・主夫』で 51.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』を除くすべての圏域で「障害者差別や虐待を未然に防止するための関係者などへの指導・支援」が４～５割台と最も高く、『小豆圏域』では「障害者虐待の早期発見と早期対応」45.7%が最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「障害者差別や虐待を未然に防止するための関係者などへの指導・支援」が４～５割台と最も高く、『３年未満』で 55.8%と最も高くなっている。

図表 3-(7)-2 【障害のある方の権利擁護のために行政が力を入れるべきことについて】

【表の見方】 単位＝比率(%)		全体（人）	(1) 障害者差別や虐待を未然に防止するための関係者などへの指導・支援	(2) 障害者への理解促進のための啓発活動	(3) 障害者虐待の早期発見と早期対応	(4) 障害者差別や虐待についての相談窓口の充実	(5) 成年後見制度についての相談窓口の充実	(6) 成年後見制度についての啓発活動	(7) その他	無回答
全体		1,526	50.1	37.7	36.8	34.1	11.4	8.9	1.1	3.4
性別	男性	640	48.8	38.8	34.1	35.9	12.0	9.2	1.3	2.7
	女性	817	51.2	37.2	38.8	32.8	10.9	8.8	0.7	4.0
年齢別	18～19歳	11	45.5	54.5	36.4	36.4	－	－	－	－
	20～29歳	68	48.5	44.1	36.8	30.9	10.3	14.7	1.5	－
	30～39歳	139	51.1	39.6	40.3	22.3	11.5	12.2	2.2	2.2
	40～49歳	228	50.4	45.2	38.2	31.1	10.1	8.8	0.4	0.9
	50～59歳	256	48.4	37.1	36.7	31.6	10.5	8.6	1.2	2.7
	60～69歳	318	53.1	36.8	37.1	38.1	12.3	9.1	0.6	0.9
	70歳以上	474	48.9	34.0	34.8	38.2	12.0	8.0	1.1	7.4
職業別	農林漁業	66	47.0	31.8	28.8	43.9	13.6	15.2	1.5	4.5
	商工業、サービス業、自由業など	180	50.6	40.6	32.8	32.8	11.7	10.0	1.1	2.8
	会社、商店、官公庁などに勤務	648	51.5	41.2	39.4	30.9	10.2	9.0	0.9	1.1
	主婦・主夫	294	51.7	33.3	35.7	33.7	11.9	8.8	0.7	7.1
	無職	298	45.6	35.6	36.6	40.6	13.1	7.7	1.0	4.0
圏域別	高松圏域	773	51.6	35.6	37.5	32.3	12.9	8.9	1.4	3.9
	東讃圏域	126	46.8	41.3	39.7	41.3	8.7	6.3	0.8	3.2
	小豆圏域	46	43.5	41.3	45.7	30.4	10.9	4.3	－	4.3
	中讃圏域	384	49.0	39.6	34.9	33.1	9.6	9.6	0.8	3.1
	西讃圏域	192	50.0	39.6	33.9	39.1	10.9	10.4	1.0	2.1
居住年数別	3年未満	95	55.8	35.8	38.9	26.3	12.6	3.2	3.2	2.1
	3年以上～10年未満	195	51.8	37.4	40.5	29.7	11.8	11.3	0.5	1.0
	10年以上～20年未満	221	43.0	38.0	35.7	30.8	12.2	10.9	1.4	4.5
	20年以上	978	50.6	38.2	36.0	36.6	10.9	8.8	0.8	3.7

（8）障害のある方の防災対策として必要なことについて

問20　東日本大震災や熊本地震のような災害に備えるため、障害のある方の防災対策として何が必要だと思いますか。次の中から２つまで選んでください。

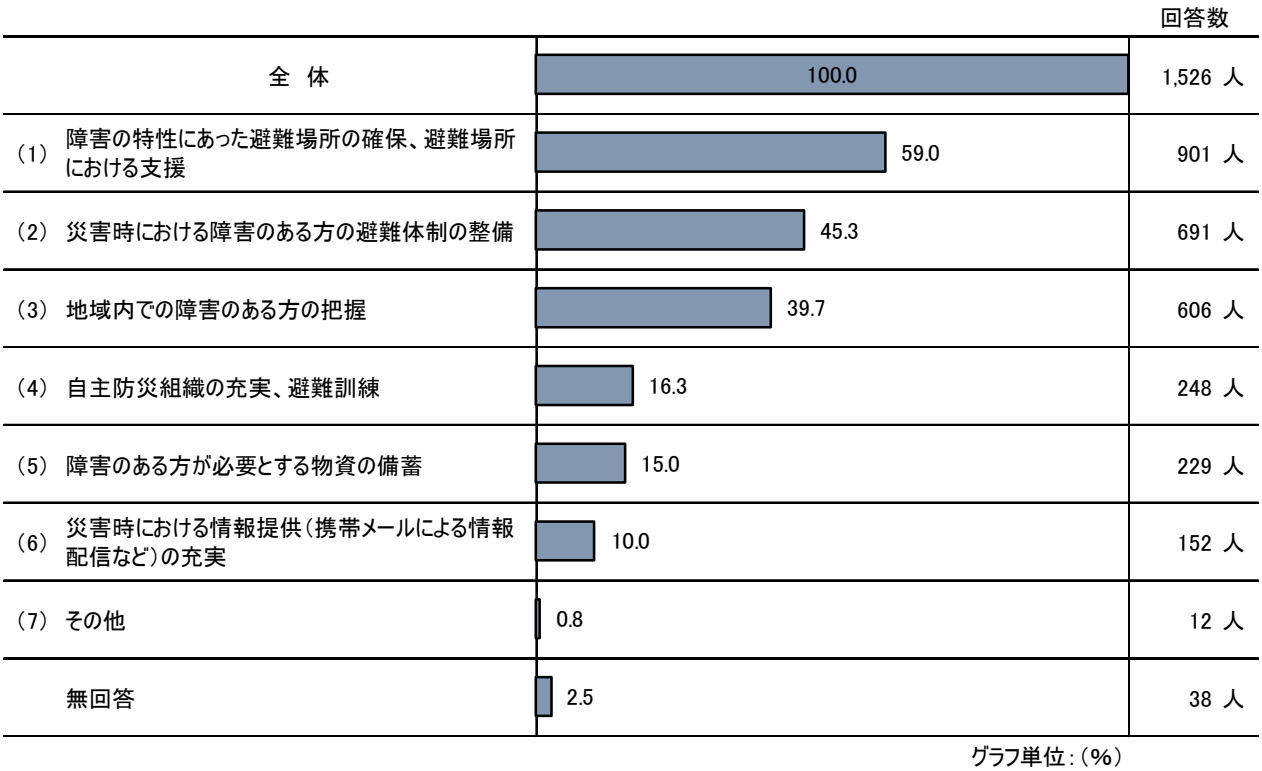
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】※回答数の多い順に並び替え

1	障害の特性にあった避難場所の確保、避難場所における支援	59.0%(58.3%)
2	災害時における障害のある方の避難体制の整備	45.3%(44.1%)
3	地域内での障害のある方の把握	39.7%(39.2%)
4	自主防災組織の充実、避難訓練	16.3%(17.0%)
5	障害のある方が必要とする物資の備蓄	15.0%(16.1%)
6	災害時における情報提供（携帯メールによる情報配信など）の充実	10.0%(10.3%)
7	その他	0.8%(0.9%)
（無回答）		2.5%(2.4%)

障害のある方の防災対策として必要なことについて、「障害の特性にあった避難場所の確保、避難場所における支援」59.0%が最も高く、次いで「災害時における障害のある方の避難体制の整備」45.3%、「地域内での障害のある方の把握」39.7%、「自主防災組織の充実、避難訓練」16.3%などとなっている。

図表 3-(8)-1　障害のある方の防災対策として必要なことについて



障害のある方の防災対策として必要なことについて、性別にみると、男女とも「障害の特性にあった避難場所の確保、避難場所における支援」が最も高く、『男性』57.8%、『女性』59.9%で、これに男女とも「災害時における障害のある方の避難体制の整備」が『男性』47.2%、『女性』44.4%と続いている。

年齢別にみると、いずれも「障害の特性にあった避難場所の確保、避難場所における支援」が４～８割台と最も高く、『18～19 歳』で 81.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「障害の特性にあった避難場所の確保、避難場所における支援」が５割台と最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『無職』で同率の 59.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「障害の特性にあった避難場所の確保、避難場所における支援」が５～６割台と最も高く、『高松圏域』で 60.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「障害の特性にあった避難場所の確保、避難場所における支援」が４～５割台と最も高く、『20 年以上』で 59.7%と最も高くなっている。

図表 3-(8)-2 【障害のある方の防災対策として必要なことについて】

【表の見方】 単位＝比率(%)		全体（人）	(1) 障害の特性にあった避難場所の確保、避難場所における支援	(2) 災害時における障害のある方の避難体制の整備	(3) 地域内での障害のある方の把握	(4) 自主防災組織の充実、避難訓練	(5) 障害のある方が必要とする物資の備蓄	(6) 災害時における情報提供（携帯メールによる情報配信など）の充実	(7) その他	無回答
全体		1,526	59.0	45.3	39.7	16.3	15.0	10.0	0.8	2.5
性別	男性	640	57.8	47.2	35.2	18.9	15.0	10.8	0.8	2.2
	女性	817	59.9	44.4	43.2	14.2	14.7	9.3	0.5	2.8
年齢別	18～19歳	11	81.8	18.2	27.3	18.2	27.3	9.1	－	－
	20～29歳	68	44.1	38.2	30.9	26.5	29.4	16.2	2.9	－
	30～39歳	139	57.6	37.4	42.4	20.1	19.4	10.8	0.7	1.4
	40～49歳	228	56.1	47.4	39.5	18.0	14.9	11.8	0.9	0.4
	50～59歳	256	62.9	39.1	44.5	16.4	15.2	7.4	1.2	1.2
	60～69歳	318	62.6	51.3	38.4	15.4	13.2	11.0	－	0.6
	70歳以上	474	57.6	47.7	39.7	13.7	12.2	8.4	0.6	6.1
職業別	農林漁業	66	56.1	43.9	36.4	22.7	15.2	13.6	1.5	3.0
	商工業、サービス業、自由業など	180	58.9	45.0	41.1	15.0	14.4	10.0	1.1	2.2
	会社、商店、官公庁などに勤務	648	59.4	43.5	43.5	17.7	15.0	9.6	0.5	0.8
	主婦・主夫	294	58.5	47.6	37.4	13.3	15.0	9.5	1.0	4.4
	無職	298	59.4	48.7	34.6	16.1	15.4	9.4	0.7	3.7
圏域別	高松圏域	773	60.4	47.7	36.9	14.4	15.3	10.7	0.8	2.1
	東讃圏域	126	60.3	39.7	44.4	15.1	12.7	12.7	0.8	3.2
	小豆圏域	46	56.5	45.7	52.2	21.7	8.7	4.3	2.2	2.2
	中讃圏域	384	57.0	41.4	40.4	17.7	16.7	8.6	0.8	4.2
	西讃圏域	192	57.3	47.4	43.2	20.8	13.5	8.9	0.5	0.5
居住年数別	3年未満	95	49.5	43.2	40.0	16.8	16.8	14.7	1.1	2.1
	3年以上～10年未満	195	59.0	45.6	35.9	17.4	19.0	9.7	2.1	0.5
	10年以上～20年未満	221	58.8	41.6	43.4	14.0	17.2	11.8	0.5	1.8
	20年以上	978	59.7	46.4	39.8	16.6	13.5	9.1	0.5	3.1

(9)障害のある方が地域でいきいきと暮らすために行政が力を入れるべきことについて

問21　障害のある方が地域でいきいきと暮らすために、行政はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。次の中から３つまで選んでください。

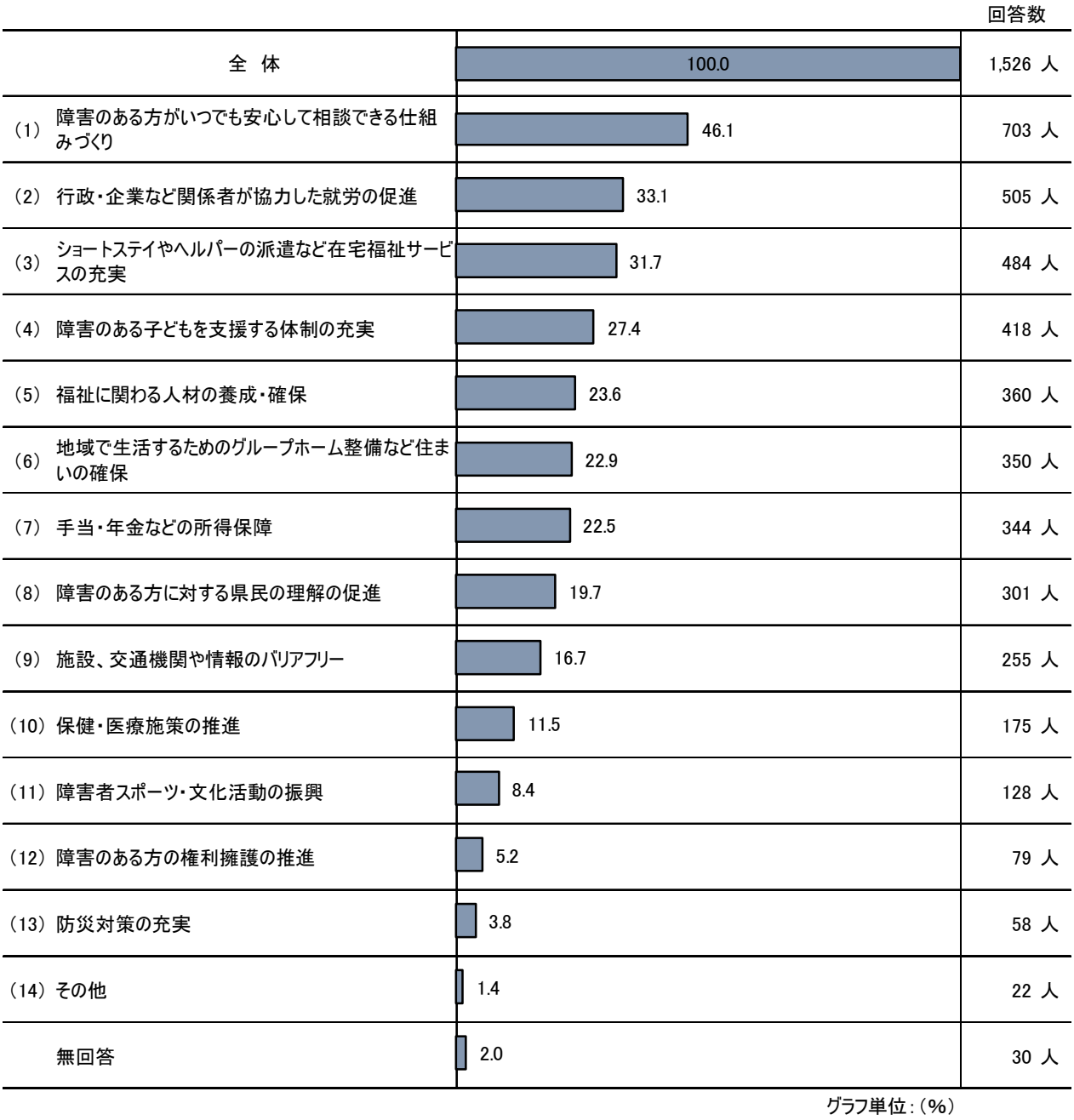
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】※回答数の多い順に並び替え

1	障害のある方がいつでも安心して相談できる仕組みづくり	46.1%(45.0%)
2	行政・企業など関係者が協力した就労の促進	33.1%(32.7%)
3	ショートステイやヘルパーの派遣など在宅福祉サービスの充実	31.7%(31.9%)
4	障害のある子どもを支援する体制の充実	27.4%(27.3%)
5	福祉に関わる人材の養成・確保	23.6%(23.8%)
6	地域で生活するためのグループホーム整備など住まいの確保	22.9%(22.4%)
7	手当・年金などの所得保障	22.5%(22.2%)
8	障害のある方に対する県民の理解の促進	19.7%(20.3%)
9	施設、交通機関や情報のバリアフリー	16.7%(17.6%)
10	保健・医療施策の推進	11.5%(10.9%)
11	障害者スポーツ・文化活動の振興	8.4%(8.6%)
12	障害のある方の権利擁護の推進	5.2%(5.2%)
13	防災対策の充実	3.8%(3.9%)
14	その他	1.4%(1.6%)
（無回答）		2.0%(1.9%)

障害のある方が地域でいきいきと暮らすために行政が力を入れるべきことについて、「障害のある方がいつでも安心して相談できる仕組みづくり」46.1%が最も高く、次いで「行政・企業など関係者が協力した就労の促進」33.1%、「ショートステイやヘルパーの派遣など在宅福祉サービスの充実」31.7%、「障害のある子どもを支援する体制の充実」27.4%などとなっている。

図表 3-(9)-1　障害のある方が地域でいきいきと暮らすために行政が力を入れるべきことについて



障害のある方が地域でいきいきと暮らすために行政が力を入れるべきことについて、性別にみると、男女とも「障害のある方がいつでも安心して相談できる仕組みづくり」が最も高く、『男性』47.3%、『女性』44.9%で、これに『男性』は「行政・企業など関係者が協力した就労の促進」38.3%、『女性』は「ショートステイやヘルパーの派遣など在宅福祉サービスの充実」35.9%が続いている。

年齢別にみると、『18～19 歳』では「行政・企業など関係者が協力した就労の促進」、「施設、交通機関や情報のバリアフリー」が同率の 45.5%で最も高く、『20～29 歳』、『50～59 歳』、『60～69 歳』、『70 歳以上』では「障害のある方がいつでも安心して相談できる仕組みづくり」が４～５割台と最も高く、『30～39 歳』では「ショートステイやヘルパーの派遣など在宅福祉サービスの充実」36.0%が最も高く、『40～49 歳』では「ショートステイやヘルパーの派遣など在宅福祉サービスの充実」、「行政・企業など関係者が協力した就労の促進」が同率の 35.1%で最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「障害のある方がいつでも安心して相談できる仕組みづくり」が３～５割台と最も高く、『無職』で 54.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「障害のある方がいつでも安心して相談できる仕組みづくり」が４～５割台と最も高く、『東讃圏域』で 55.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『３年以上～10 年未満』を除くすべての居住年数で「障害のある方がいつでも安心して相談できる仕組みづくり」が３～５割台と最も高く、『３年以上～10 年未満』では「行政・企業など関係者が協力した就労の促進」36.4%が最も高くなっている。

図表 3-(9)-2 【障害のある方が地域でいきいきと暮らすために行政が力を入れるべきことについて】

【表の見方】 単位＝比率(%)		全体（人）	(1) 障害のある方がいつでも安心して相談できる仕組みづくり	(2) 行政・企業など関係者が協力した就労の促進	(3) ショートステイやヘルパーの派遣など在宅福祉サービスの充実	(4) 障害のある子どもを支援する体制の充実	(5) 福祉に関わる人材の養成・確保	(6) 地域で生活するためのグループホーム整備など住まいの確保	(7) 手当・年金などの所得保障	(8) 障害のある方に対する県民の理解の促進	(9) 施設、交通機関や情報のバリアフリー	(10) 保健・医療施策の推進	(11) 障害者スポーツ・文化活動の振興	(12) 障害のある方の権利擁護の推進	(13) 防災対策の充実	(14) その他	無回答
全体		1,526	46.1	33.1	31.7	27.4	23.6	22.9	22.5	19.7	16.7	11.5	8.4	5.2	3.8	1.4	2.0
性別	男性	640	47.3	38.3	26.9	26.7	22.5	20.5	24.1	17.0	13.4	12.8	10.6	5.2	4.7	1.4	2.2
	女性	817	44.9	29.7	35.9	28.0	24.7	25.3	20.8	21.9	18.7	10.0	6.7	5.0	2.9	1.0	1.8
年齢別	18～19歳	11	27.3	45.5	27.3	18.2	9.1	－	36.4	27.3	45.5	－	9.1	9.1	9.1	－	－
	20～29歳	68	44.1	23.5	30.9	23.5	27.9	23.5	14.7	23.5	30.9	8.8	10.3	4.4	2.9	2.9	－
	30～39歳	139	30.2	33.8	36.0	35.3	28.1	23.0	17.3	23.7	18.0	6.5	7.9	3.6	5.0	1.4	1.4
	40～49歳	228	34.6	35.1	35.1	30.3	25.9	21.5	21.9	22.8	13.6	12.3	11.0	5.3	4.4	2.2	0.4
	50～59歳	256	42.6	34.8	35.2	25.8	21.5	23.8	21.5	17.2	18.8	9.8	10.5	5.5	2.3	2.0	1.2
	60～69歳	318	48.1	35.8	29.6	27.7	23.6	27.0	22.3	17.0	21.1	13.8	6.9	5.0	3.8	0.3	0.3
	70歳以上	474	56.8	30.4	28.3	25.7	22.4	21.3	25.5	20.3	11.4	12.4	7.2	5.7	3.8	0.8	4.6
職業別	農林漁業	66	51.5	39.4	36.4	24.2	22.7	24.2	22.7	16.7	10.6	22.7	7.6	3.0	1.5	－	3.0
	商工業、サービス業、自由業など	180	45.6	31.1	26.1	25.0	27.2	26.1	19.4	20.0	15.0	8.9	10.6	6.1	5.0	2.8	1.7
	会社、商店、官公庁などに勤務	648	39.0	35.3	34.9	29.9	24.1	23.8	20.4	19.3	18.5	10.3	10.2	5.6	3.5	1.4	0.6
	主婦・主夫	294	52.7	29.6	29.3	26.5	23.1	22.8	24.1	23.1	15.6	11.6	5.4	4.8	1.7	1.0	3.7
	無職	298	54.0	31.5	28.9	25.8	21.5	20.8	26.8	18.8	15.8	12.8	6.7	5.0	5.7	0.7	3.0
圏域別	高松圏域	773	42.7	34.4	32.1	25.7	24.8	23.2	22.3	19.4	16.9	11.8	9.4	5.2	3.8	1.7	1.8
	東讃圏域	126	55.6	38.1	28.6	28.6	21.4	22.2	18.3	18.3	15.9	11.9	5.6	8.7	1.6	0.8	1.6
	小豆圏域	46	52.2	17.4	39.1	28.3	28.3	15.2	15.2	21.7	19.6	4.3	8.7	2.2	8.7	2.2	2.2
	中讃圏域	384	50.0	31.5	27.9	29.2	21.1	21.4	22.4	22.1	16.4	12.5	8.9	5.5	3.9	1.0	2.9
	西讃圏域	192	44.3	31.8	37.5	29.7	22.9	27.6	29.2	17.2	16.1	9.9	5.2	3.1	4.2	1.6	1.0
居住年数別	3年未満	95	36.8	31.6	32.6	27.4	27.4	18.9	20.0	16.8	16.8	9.5	10.5	4.2	3.2	5.3	2.1
	3年以上～10年未満	195	31.8	36.4	34.4	29.2	25.1	21.0	23.1	24.6	16.9	9.2	8.2	7.2	5.1	2.1	0.5
	10年以上～20年未満	221	41.2	33.5	31.2	27.1	25.3	21.7	21.7	19.5	16.7	10.4	13.1	4.5	2.3	1.8	1.8
	20年以上	978	50.7	32.7	30.8	27.3	22.7	24.2	22.8	19.4	16.6	12.1	7.4	5.1	3.9	0.6	2.2

４．性的少数者（LGBT）について

（１）性的少数者に関連する言葉の認知度について

問22　次の①～⑩の言葉について、言葉や意味を知っていますか。①～⑩の右欄に、それぞれ１～３のうち該当する番号を１つだけ選んで、○をつけてください。

※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】　（単位：％）

言　葉	(1) 言葉も意味も知っている	(2) 言葉は知っているが意味は知らない	(3) 知らない	無回答
①性的少数者（セクシュアル・マイノリティ、性的マイノリティ）	57.3 (59.0)	24.6 (23.6)	14.9 (14.4)	3.1 (3.0)
②ＬＧＢＴ	53.3 (56.2)	22.9 (21.7)	20.2 (18.7)	3.5 (3.4)
③レズビアン	87.6 (88.1)	6.9 (6.5)	2.8 (2.9)	2.6 (2.5)
④ゲイ	86.9 (87.8)	7.7 (7.2)	2.4 (2.2)	2.9 (2.8)
⑤バイセクシュアル	55.1 (58.2)	18.7 (17.7)	22.3 (20.6)	3.8 (3.6)
⑥トランスジェンダー	55.0 (58.0)	23.1 (21.8)	18.3 (17.0)	3.5 (3.3)
⑦カミングアウト	64.8 (65.7)	14.0 (13.6)	17.9 (17.5)	3.3 (3.2)
⑧アウティング	8.6 (9.6)	9.2 (10.1)	78.2 (76.6)	4.0 (3.8)
⑨ＳＯＧＩ（ソジ）	2.5 (3.1)	5.4 (5.8)	88.7 (87.8)	3.5 (3.3)
⑩ＡＬＬＹ（アライ）	2.4 (2.9)	5.0 (5.4)	89.1 (88.4)	3.4 (3.2)

【①性的少数者】について、「言葉も意味も知っている」57.3％が最も高く、次いで「言葉は知っているが意味は知らない」24.6％、「知らない」14.9％となっている。

【②ＬＧＢＴ】について、「言葉も意味も知っている」53.3％が最も高く、次いで「言葉は知っているが意味は知らない」22.9％、「知らない」20.2％となっている。

【③レズビアン】について、「言葉も意味も知っている」87.6％が最も高く、次いで「言葉は知っているが意味は知らない」6.9％、「知らない」2.8％となっている。

【④ゲイ】について、「言葉も意味も知っている」86.9％が最も高く、次いで「言葉は知っているが意味は知らない」7.7％、「知らない」2.4％となっている。

【⑤バイセクシュアル】について、「言葉も意味も知っている」55.1％が最も高く、次いで「知らない」22.3％、「言葉は知っているが意味は知らない」18.7％となっている。

【⑥トランスジェンダー】について、「言葉も意味も知っている」55.0％が最も高く、次いで「言葉は知っているが意味は知らない」23.1％、「知らない」18.3％となっている。

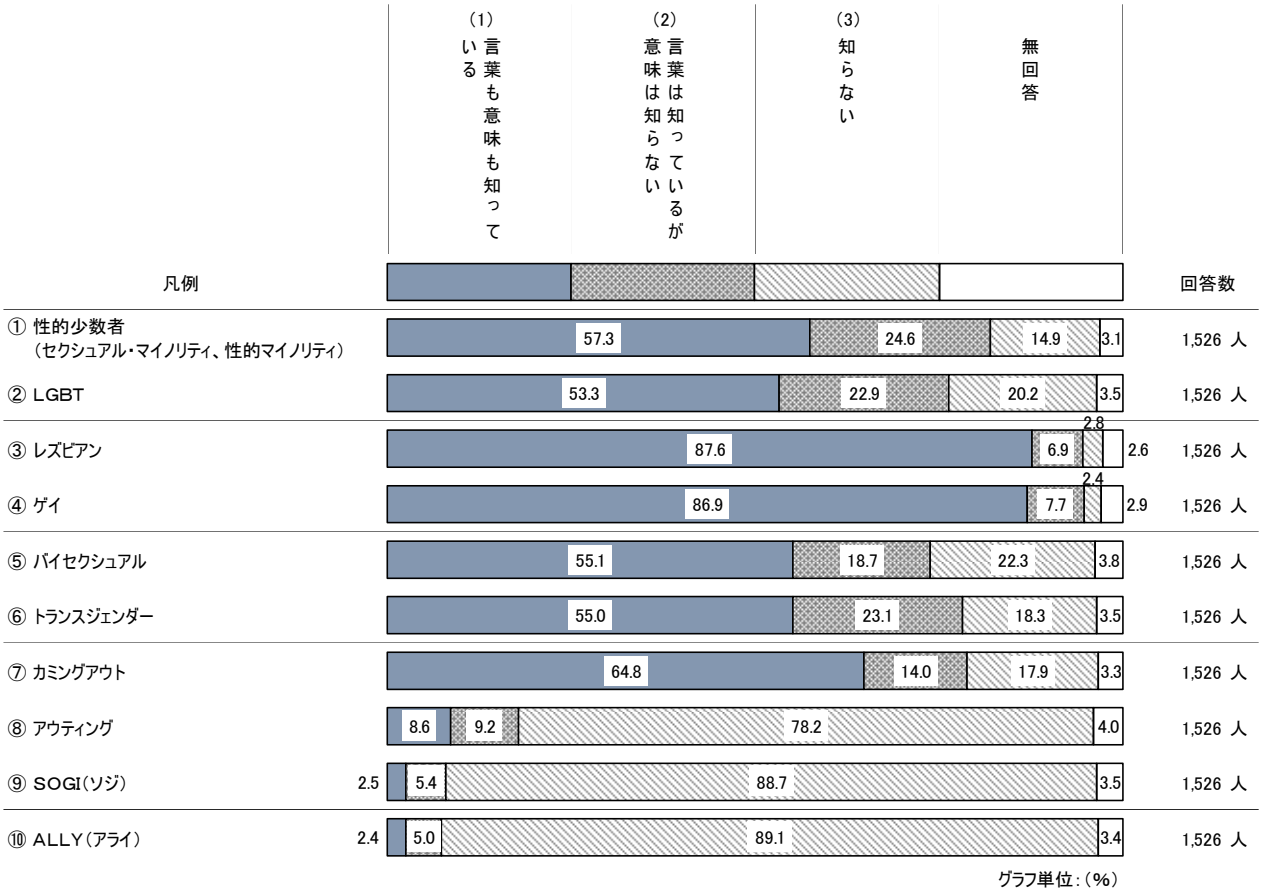
【⑦カミングアウト】について、「言葉も意味も知っている」64.8％が最も高く、次いで「知らない」17.9％、「言葉は知っているが意味は知らない」14.0％となっている。

【⑧アウティング】について、「知らない」78.2％が最も高く、次いで「言葉は知っているが意味は知らない」9.2％、「言葉も意味も知っている」8.6％となっている。

【⑨ＳＯＧＩ（ソジ)】について、「知らない」88.7％が最も高く、次いで「言葉は知っているが意味は知らない」5.4％、「言葉も意味も知っている」2.5％となっている。

【⑩ＡＬＬＹ（アライ)】について、「知らない」89.1％が最も高く、次いで「言葉は知っているが意味は知らない」5.0％、「言葉も意味も知っている」2.4％となっている。

図表 4-(1)-1　性的少数者に関連する言葉の認知度について



【①性的少数者】について、性別にみると、男女とも「言葉も意味も知っている」が最も高く、『男性』57.5%、『女性』56.9%で、これに男女とも「言葉は知っているが意味は知らない」が『男性』21.9%、『女性』27.3%と続いている。

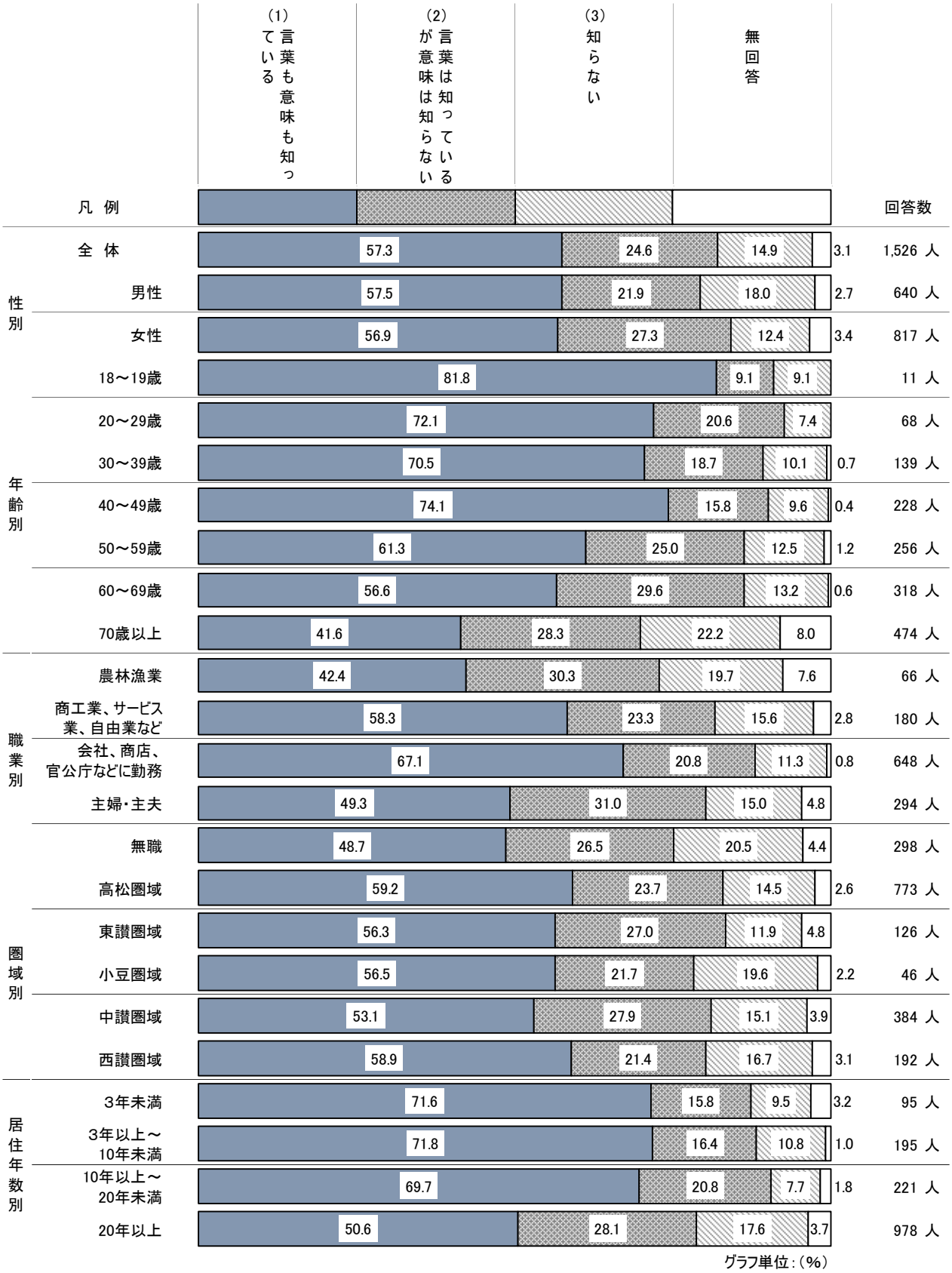
年齢別にみると、いずれも「言葉も意味も知っている」が４～８割台と最も高く、『18～19 歳』で81.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「言葉も意味も知っている」が４～６割台と最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』で 67.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「言葉も意味も知っている」が５割台と最も高く、『高松圏域』で59.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「言葉も意味も知っている」が５～７割台と最も高く、『３年以上～10 年未満』で 71.8%と最も高くなっている。

図表 4-(1)-2 【①性的少数者】



【②ＬＧＢＴ】について、性別にみると、男女とも「言葉も意味も知っている」が最も高く、『男性』56.4%、『女性』50.7%で、これに『男性』は「知らない」20.9%、『女性』は「言葉は知っているが意味は知らない」25.5%と続いている。

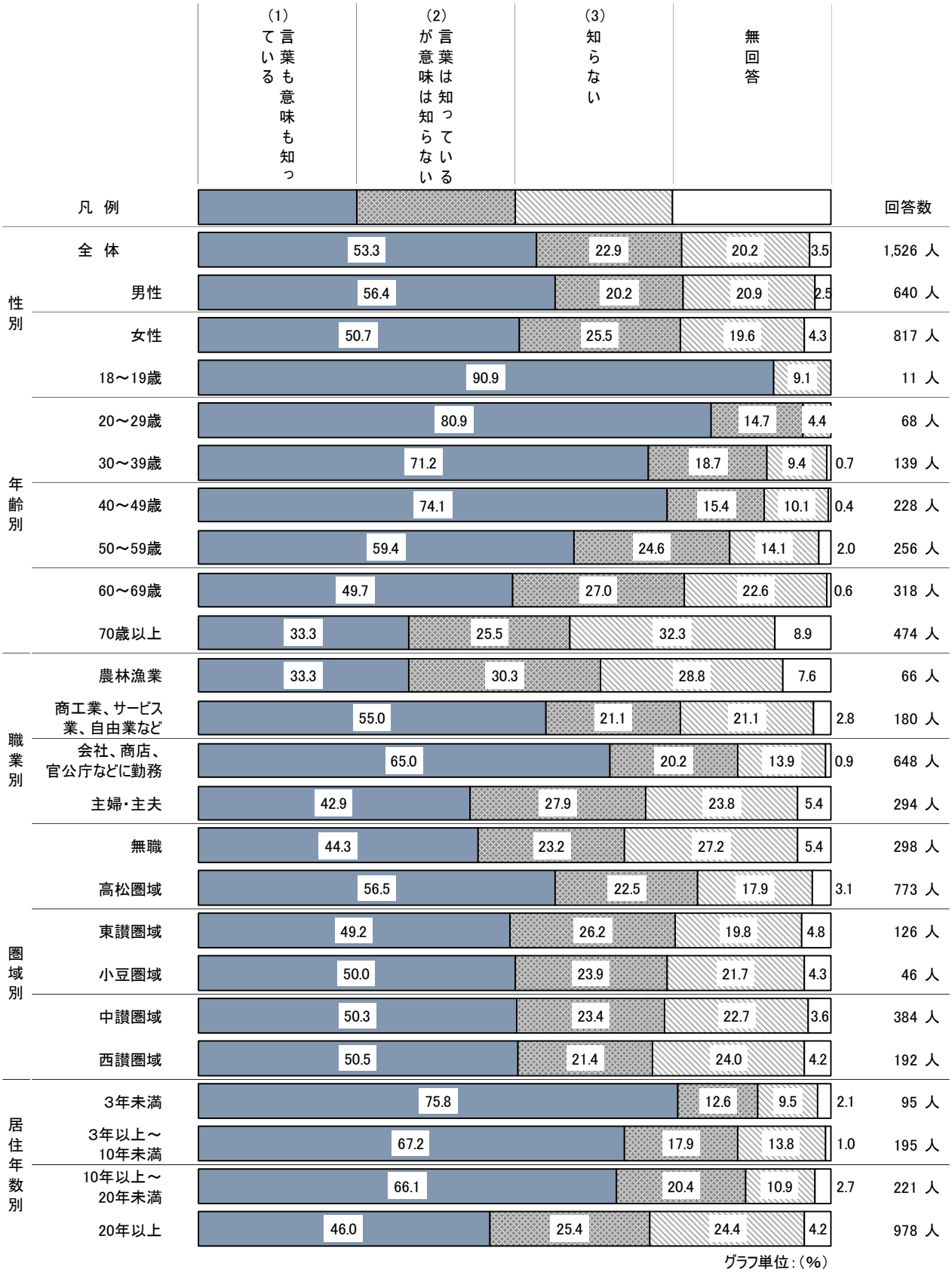
年齢別にみると、いずれも「言葉も意味も知っている」が３～９割台と最も高く、『18～19 歳』で90.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「言葉も意味も知っている」が３～６割台と最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』で 65.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「言葉も意味も知っている」が４～５割台と最も高く、『高松圏域』で56.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「言葉も意味も知っている」が４～７割台と最も高く、『３年未満』で 75.8%と最も高くなっている。

図表 4-(1)-3 【②LGBT】


(1) 言葉も意味も知っている
(2) 言葉は知っているが意味は知らない
(3) 知らない
無回答
凡 例
回答数
性別
全 体 53.3 22.9 20.2 3.5 1,526 人
男性 56.4 20.2 20.9 2.5 640 人
女性 50.7 25.5 19.6 4.3 817 人
年齢別
18～19歳 90.9 9.1 11 人
20～29歳 80.9 14.7 4.4 68 人
30～39歳 71.2 18.7 9.4 0.7 139 人
40～49歳 74.1 15.4 10.1 0.4 228 人
50～59歳 59.4 24.6 14.1 2.0 256 人
60～69歳 49.7 27.0 22.6 0.6 318 人
70歳以上 33.3 25.5 32.3 8.9 474 人
職業別
農林漁業 33.3 30.3 28.8 7.6 66 人
商工業、サービス業、自由業など 55.0 21.1 21.1 2.8 180 人
会社、商店、官公庁などに勤務 65.0 20.2 13.9 0.9 648 人
主婦・主夫 42.9 27.9 23.8 5.4 294 人
無職 44.3 23.2 27.2 5.4 298 人
圏域別
高松圏域 56.5 22.5 17.9 3.1 773 人
東讃圏域 49.2 26.2 19.8 4.8 126 人
小豆圏域 50.0 23.9 21.7 4.3 46 人
中讃圏域 50.3 23.4 22.7 3.6 384 人
西讃圏域 50.5 21.4 24.0 4.2 192 人
居住年数別
3年未満 75.8 12.6 9.5 2.1 95 人
3年以上～10年未満 67.2 17.9 13.8 1.0 195 人
10年以上～20年未満 66.1 20.4 10.9 2.7 221 人
20年以上 46.0 25.4 24.4 4.2 978 人
グラフ単位：(%)

【③レズビアン】について、性別にみると、男女とも「言葉も意味も知っている」が最も高く、『男性』88.8%、『女性』87.1%で、これに男女とも「言葉は知っているが意味は知らない」が『男性』5.8%、『女性』7.6%と続いている。

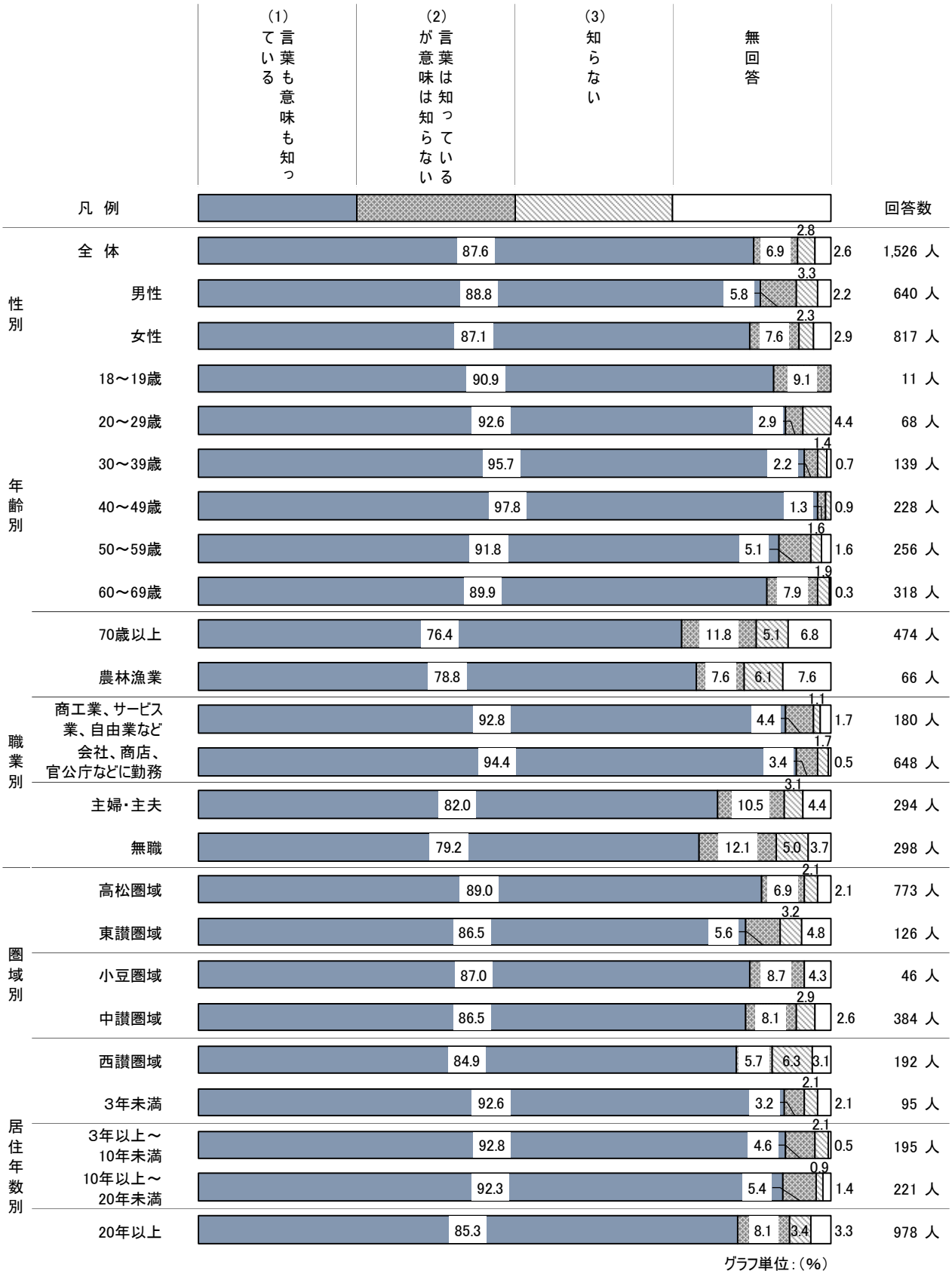
年齢別にみると、いずれも「言葉も意味も知っている」が７～９割台と最も高く、『40～49 歳』で97.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「言葉も意味も知っている」が７～９割台と最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』で 94.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「言葉も意味も知っている」が８割台と最も高く、『高松圏域』で89.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「言葉も意味も知っている」が８～９割台と最も高く、『３年以上～10 年未満』で 92.8%と最も高くなっている。

図表 4-(1)-4 【③レズビアン】



【④ゲイ】について、性別にみると、男女とも「言葉も意味も知っている」が最も高く、『男性』88.1%、『女性』86.3%で、これに男女とも「言葉は知っているが意味は知らない」が『男性』6.4%、『女性』8.7%と続いている。

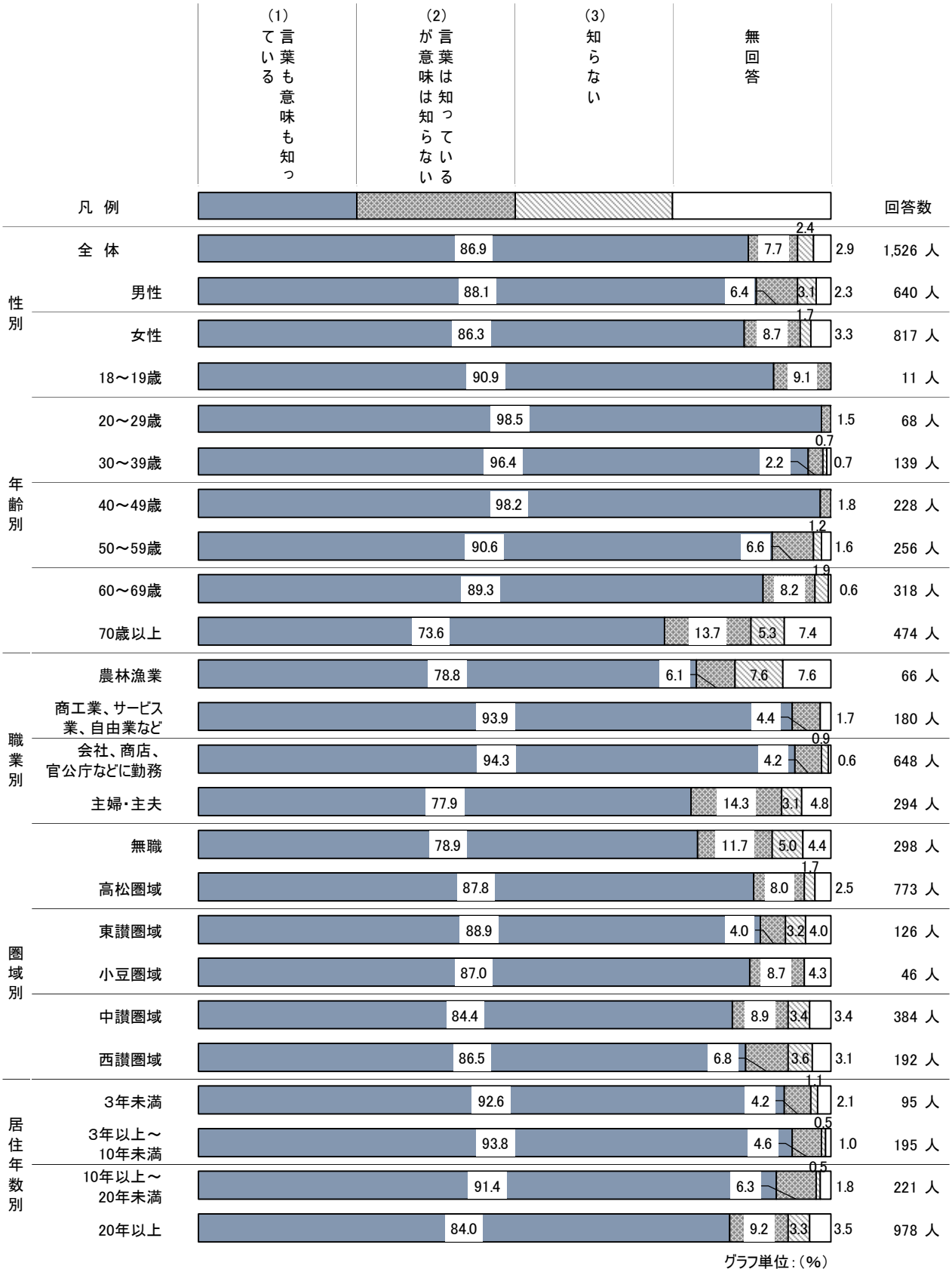
年齢別にみると、いずれも「言葉も意味も知っている」が７～９割台と最も高く、『20～29 歳』で98.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「言葉も意味も知っている」が７～９割台と最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』で 94.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「言葉も意味も知っている」が８割台と最も高く、『東讃圏域』で88.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「言葉も意味も知っている」が８～９割台と最も高く、『３年以上～10 年未満』で 93.8%と最も高くなっている。

図表 4-(1)-5 【④ゲイ】


(1) 言葉も意味も知っている
(2) 言葉は知っているが意味は知らない
(3) 知らない
無回答
凡 例
回答数
性別
全 体 86.9 7.7 2.4 2.9 1,526 人
男性 88.1 6.4 3.1 2.3 640 人
女性 86.3 8.7 1.7 3.3 817 人
年齢別
18～19歳 90.9 9.1 11 人
20～29歳 98.5 1.5 68 人
30～39歳 96.4 2.2 0.7 0.7 139 人
40～49歳 98.2 1.8 228 人
50～59歳 90.6 6.6 1.2 1.6 256 人
60～69歳 89.3 8.2 1.9 0.6 318 人
70歳以上 73.6 13.7 5.3 7.4 474 人
職業別
農林漁業 78.8 6.1 7.6 7.6 66 人
商工業、サービス業、自由業など 93.9 4.4 1.7 180 人
会社、商店、官公庁などに勤務 94.3 4.2 0.9 0.6 648 人
主婦・主夫 77.9 14.3 3.1 4.8 294 人
無職 78.9 11.7 5.0 4.4 298 人
圏域別
高松圏域 87.8 8.0 1.7 2.5 773 人
東讃圏域 88.9 4.0 3.2 4.0 126 人
小豆圏域 87.0 8.7 4.3 46 人
中讃圏域 84.4 8.9 3.4 3.4 384 人
西讃圏域 86.5 6.8 3.6 3.1 192 人
居住年数別
3年未満 92.6 4.2 1.1 2.1 95 人
3年以上～10年未満 93.8 4.6 0.5 1.0 195 人
10年以上～20年未満 91.4 6.3 0.5 1.8 221 人
20年以上 84.0 9.2 3.3 3.5 978 人
グラフ単位：(%)

【⑤バイセクシュアル】について、性別にみると、男女とも「言葉も意味も知っている」が最も高く、『男性』56.4%、『女性』54.1%で、これに男女とも「知らない」が『男性』23.0%、『女性』21.5%と続いている。

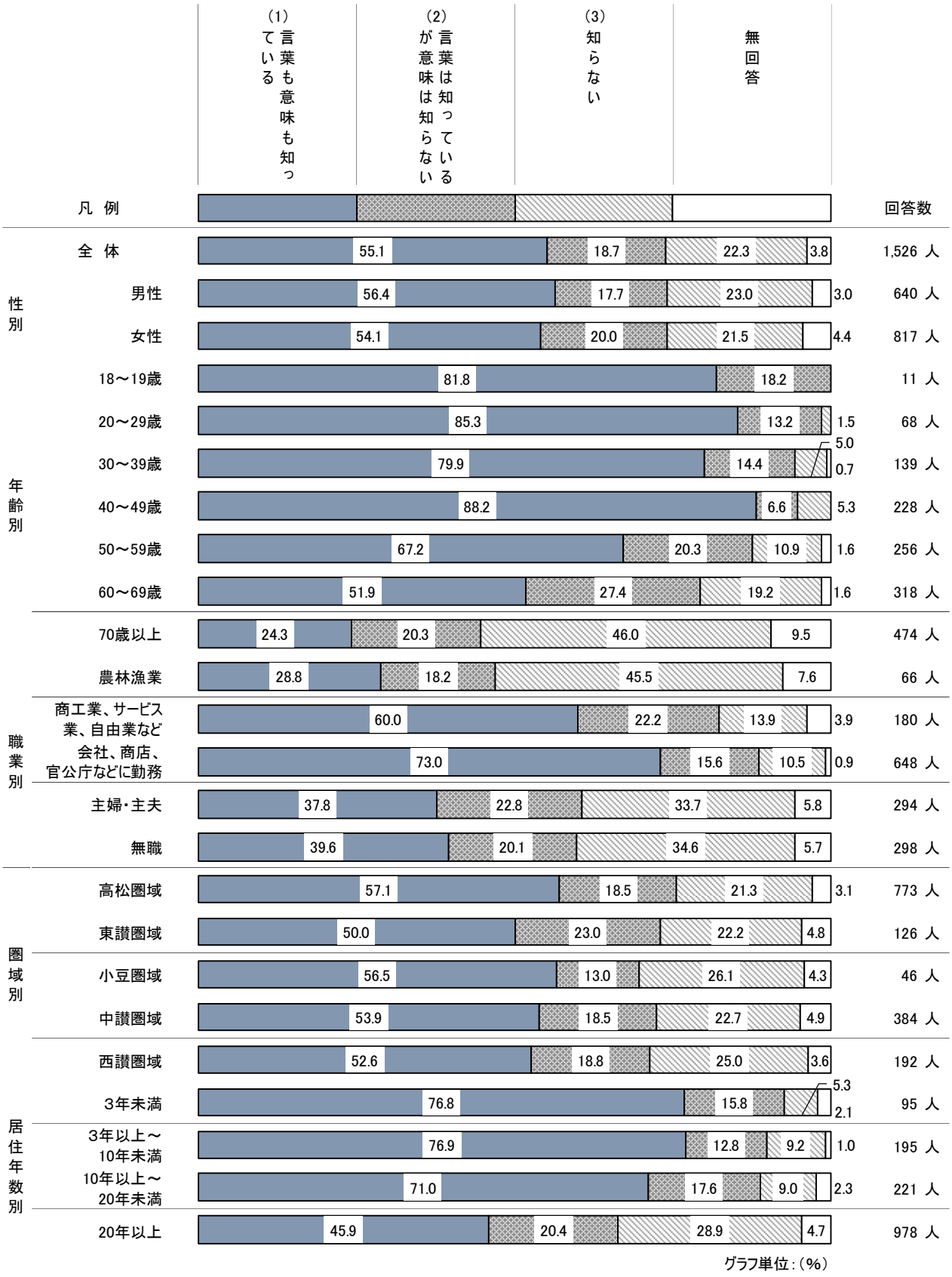
年齢別にみると、『70 歳以上』を除くすべての年齢で「言葉も意味も知っている」が５～８割台と最も高く、『70 歳以上』では「知らない」46.0%が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』を除くすべての職業で「言葉も意味も知っている」が３～７割台と最も高く、『農林漁業』では「知らない」45.5%が最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「言葉も意味も知っている」が５割台と最も高く、『高松圏域』で57.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「言葉も意味も知っている」が４～７割台と最も高く、『３年以上～10 年未満』で 76.9%と最も高くなっている。

図表 4-(1)-6 【⑤バイセクシュアル】



【⑥トランスジェンダー】について、性別にみると、男女とも「言葉も意味も知っている」が最も高く、『男性』54.4%、『女性』55.9%で、これに男女とも「言葉は知っているが意味は知らない」が『男性』22.7%、『女性』23.7%と続いている。

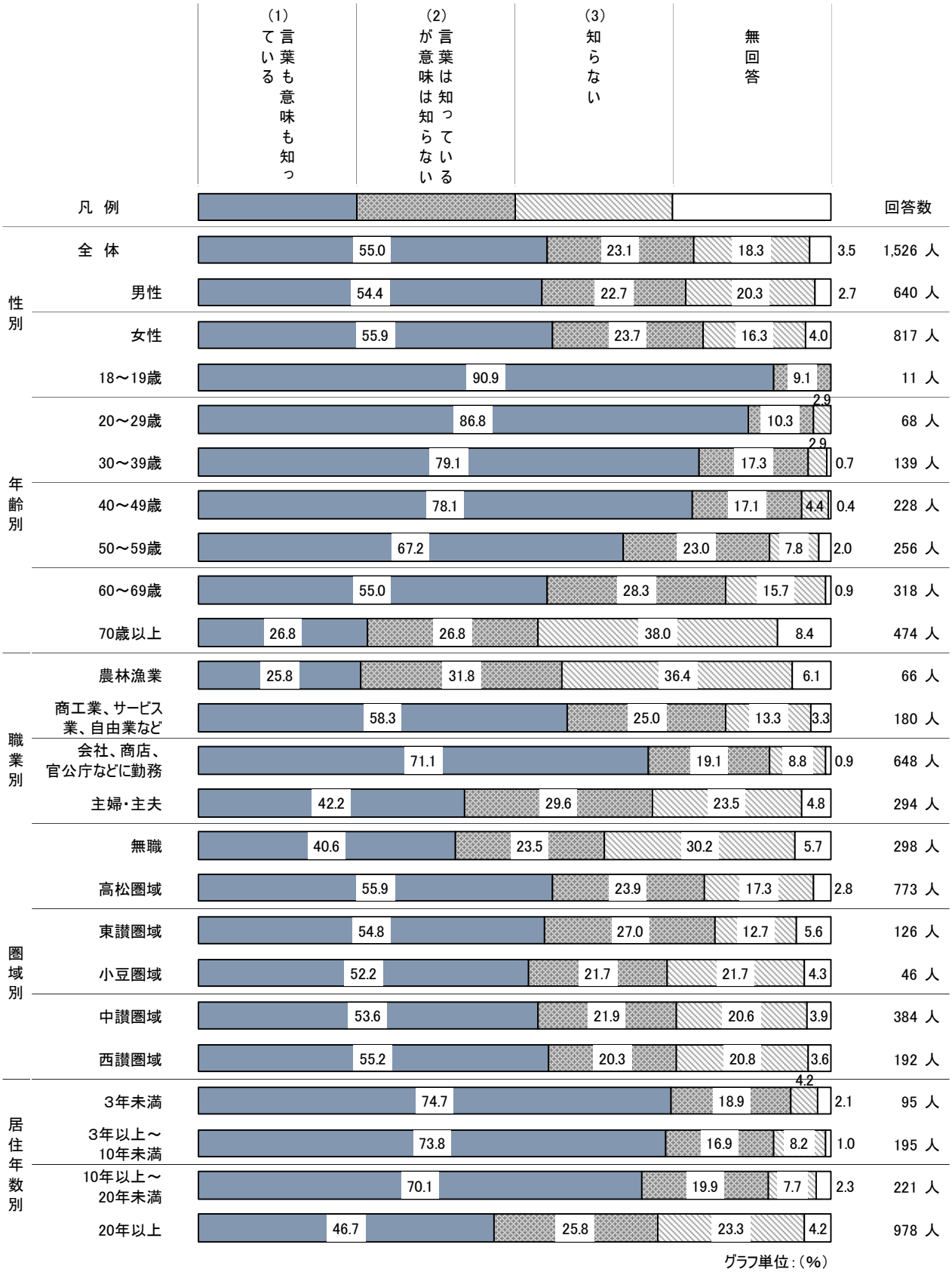
年齢別にみると、『70 歳以上』を除くすべての年齢で「言葉も意味も知っている」が５～９割台と最も高く、『70 歳以上』では「知らない」38.0%が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』を除くすべての職業で「言葉も意味も知っている」が４～７割台と最も高く、『農林漁業』では「知らない」36.4%が最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「言葉も意味も知っている」が５割台と最も高く、『高松圏域』で55.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「言葉も意味も知っている」が４～７割台と最も高く、『３年未満』で 74.7%と最も高くなっている。

図表 4-(1)-7 【⑥トランスジェンダー】



【⑦カミングアウト】について、性別にみると、男女とも「言葉も意味も知っている」が最も高く、『男性』61.9%、『女性』67.9%で、これに男女とも「知らない」が『男性』20.3%、『女性』16.2%と続いている。

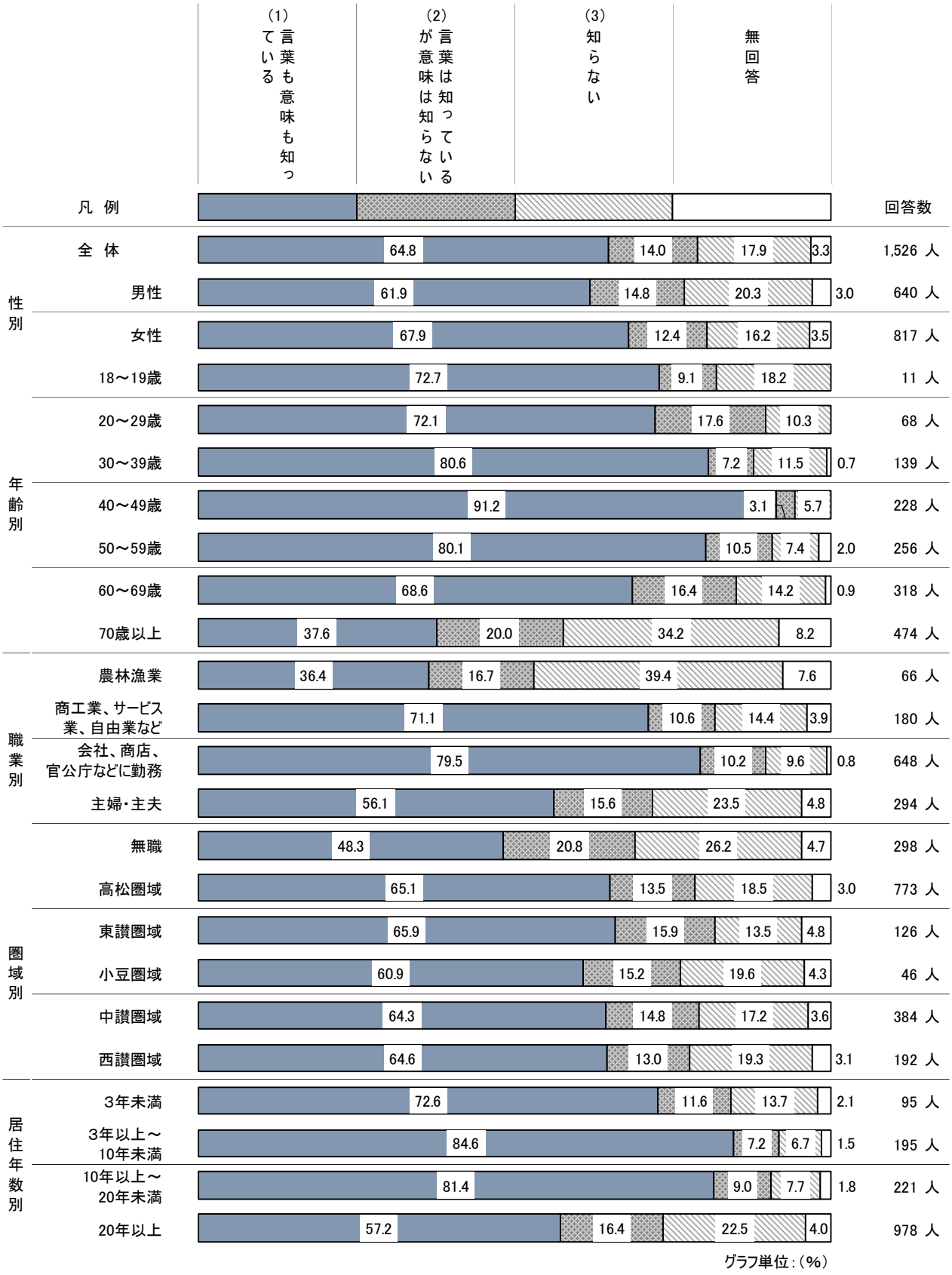
年齢別にみると、いずれも「言葉も意味も知っている」が３～９割台と最も高く、『40～49 歳』で91.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』を除くすべての職業で「言葉も意味も知っている」が４～７割台と最も高く、『農林漁業』では「知らない」39.4%が最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「言葉も意味も知っている」が６割台と最も高く、『東讃圏域』で65.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「言葉も意味も知っている」が５～８割台と最も高く、『３年以上～10 年未満』で 84.6%と最も高くなっている。

図表 4-(1)-8 【⑦カミングアウト】



【⑧アウティング】について、性別にみると、男女とも「知らない」が最も高く、『男性』79.8%、『女性』77.4%で、これに『男性』は「言葉も意味も知っている」8.6%、『女性』は「言葉は知っているが意味は知らない」10.0%が続いている。

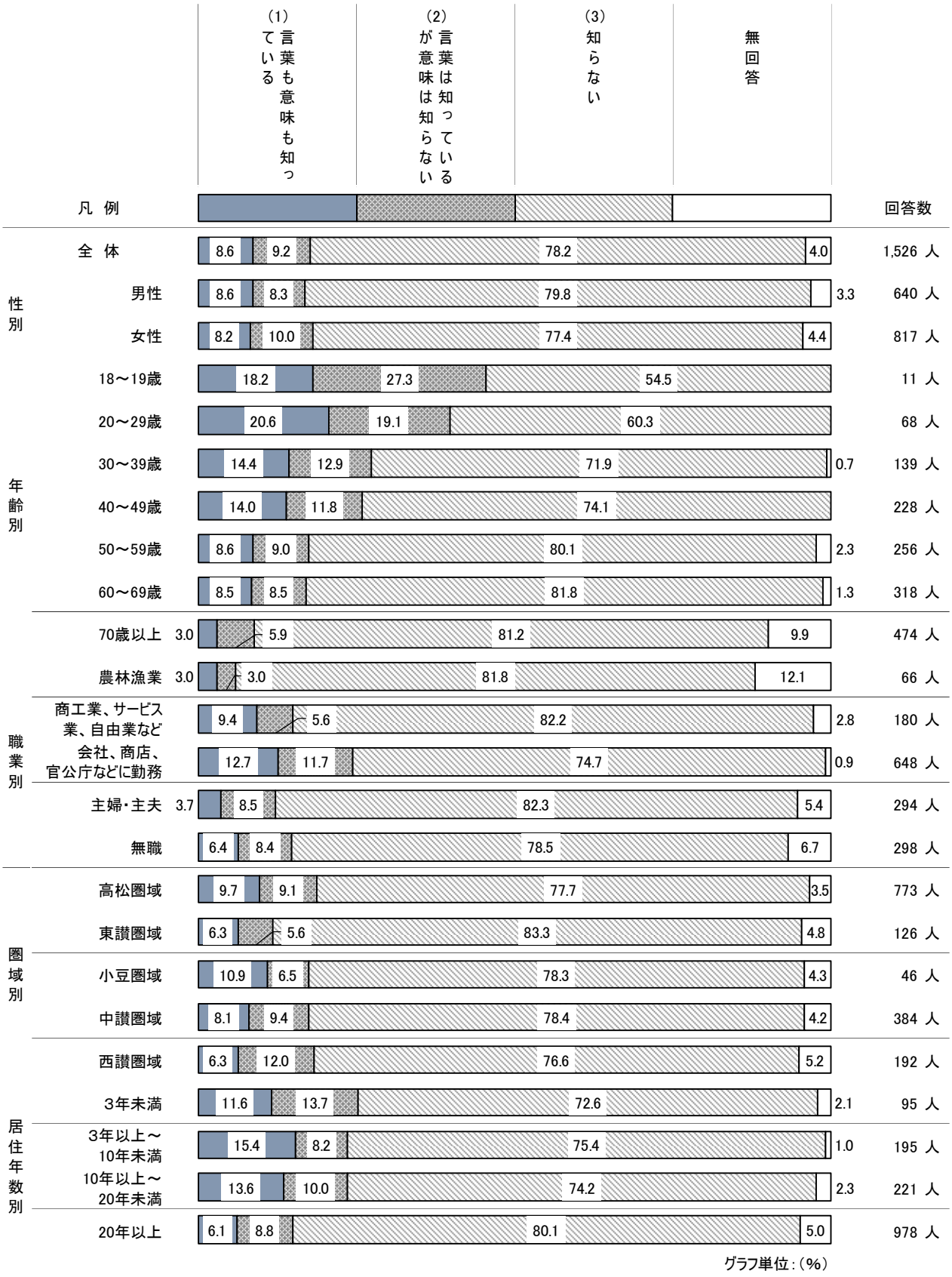
年齢別にみると、いずれも「知らない」が５～８割台と最も高く、『60～69 歳』で 81.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「知らない」が７～８割台と最も高く、『主婦・主夫』で 82.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「知らない」が７～８割台と最も高く、『東讃圏域』で 83.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「知らない」が７～８割台と最も高く、『20 年以上』で 80.1%と最も高くなっている。

図表 4-(1)-9 【⑧アウティング】



【⑨ＳＯＧＩ（ソジ)】について、性別にみると、男女とも「知らない」が最も高く、『男性』88.0%、『女性』89.4%で、これに男女とも「言葉は知っているが意味は知らない」が『男性』6.1%、『女性』4.9%と続いている。

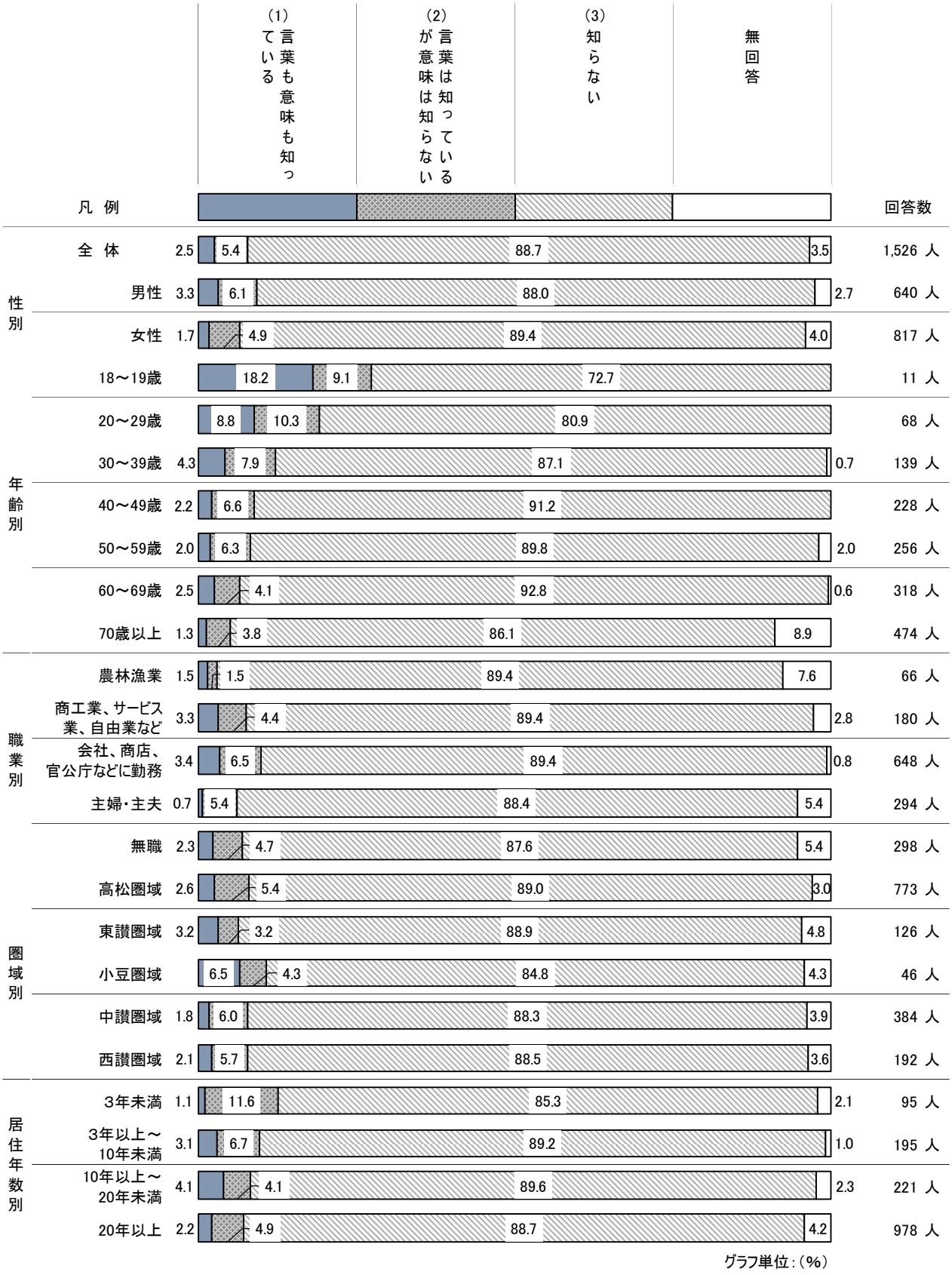
年齢別にみると、いずれも「知らない」が７～９割台と最も高く、『60～69 歳』で 92.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「知らない」が８割台と最も高く、『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』で同率の 89.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「知らない」が８割台と最も高く、『高松圏域』で 89.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「知らない」が８割台と最も高く、『10 年以上～20 年未満』で 89.6%と最も高くなっている。

図表 4-(1)-10 【⑨SOGI(ソジ)】



【⑩ＡＬＬＹ（アライ）】について、性別にみると、男女とも「知らない」が最も高く、『男性』88.8％、『女性』89.7％で、これに男女とも「言葉は知っているが意味は知らない」が『男性』5.5％、『女性』4.8％と続いている。

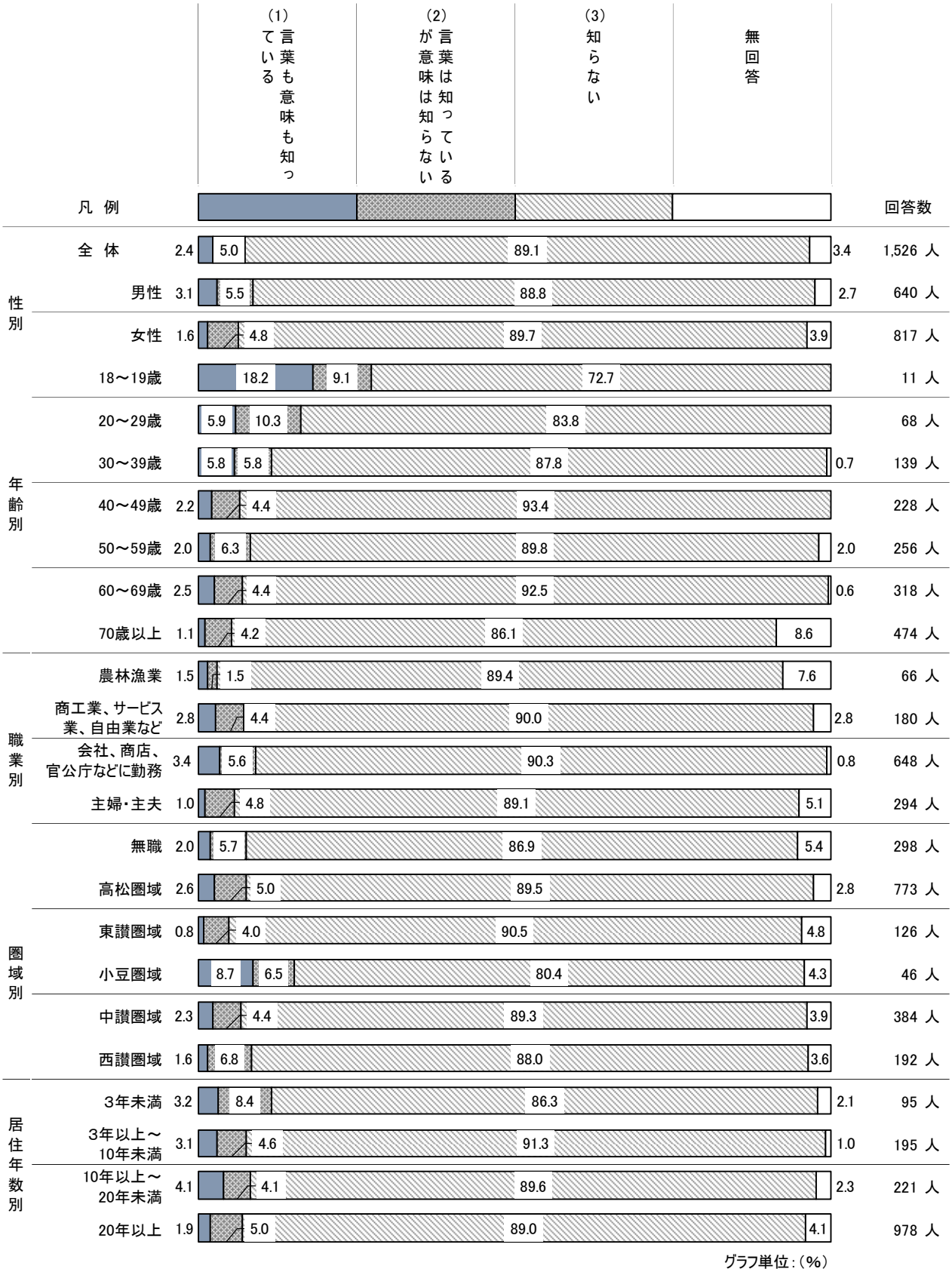
年齢別にみると、いずれも「知らない」が７～９割台と最も高く、『40～49 歳』で 93.4％と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「知らない」が８～９割台と最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』で 90.3％と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「知らない」が８～９割台と最も高く、『東讃圏域』で 90.5％と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「知らない」が８～９割台と最も高く、『３年以上～10 年未満』で 91.3％と最も高くなっている。

図表 4-(1)-11 【⑩ALLY(アライ)】



(2)性の多様性への意識について

問23　次の①～⑦の考え方について、あなたはどのように思いますか。①～⑦の右欄に、それぞれ１～４のうちあなたの考えに近い番号を１つだけ選んで、○をつけてください。

※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】　（単位：％）

項　　目	(1) そう思う	(2) どちらかといえばそう思う	(3) どちらかといえばそう思わない	(4) そう思わない	無回答
①男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきである	19.1 (18.0)	37.7 (36.2)	18.5 (18.9)	23.1 (25.4)	1.6 (1.5)
②男性が男性のパートナーと交際するのは不快である	11.9 (11.1)	28.6 (27.0)	25.6 (24.9)	31.5 (34.8)	2.4 (2.3)
③女性が女性のパートナーと交際するのは不快である	9.7 (9.1)	26.7 (25.0)	27.9 (26.8)	33.1 (36.7)	2.6 (2.4)
④男性が女性の格好をするのは不快である	11.7 (11.1)	26.5 (25.3)	27.3 (26.7)	31.9 (34.5)	2.6 (2.4)
⑤女性が男性の格好をするのは不快である	8.7 (8.1)	19.4 (18.0)	32.0 (30.7)	37.4 (40.8)	2.6 (2.4)
⑥性別を男性から女性に変えるのは不快である	13.8 (12.8)	18.2 (17.3)	26.7 (26.1)	38.7 (41.4)	2.6 (2.4)
⑦性別を女性から男性に変えるのは不快である	13.4 (12.4)	17.8 (16.8)	27.3 (26.8)	38.9 (41.6)	2.6 (2.4)

【①男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきである】について、「どちらかといえばそう思う」37.7％が最も高く、次いで「そう思わない」23.1％、「そう思う」19.1％、「どちらかといえばそう思わない」18.5％となっている。

【②男性が男性のパートナーと交際するのは不快である】について、「そう思わない」31.5％が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」28.6％、「どちらかといえばそう思わない」25.6％、「そう思う」11.9％となっている。

【③女性が女性のパートナーと交際するのは不快である】について、「そう思わない」33.1％が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」27.9％、「どちらかといえばそう思う」26.7％、「そう思う」9.7％となっている。

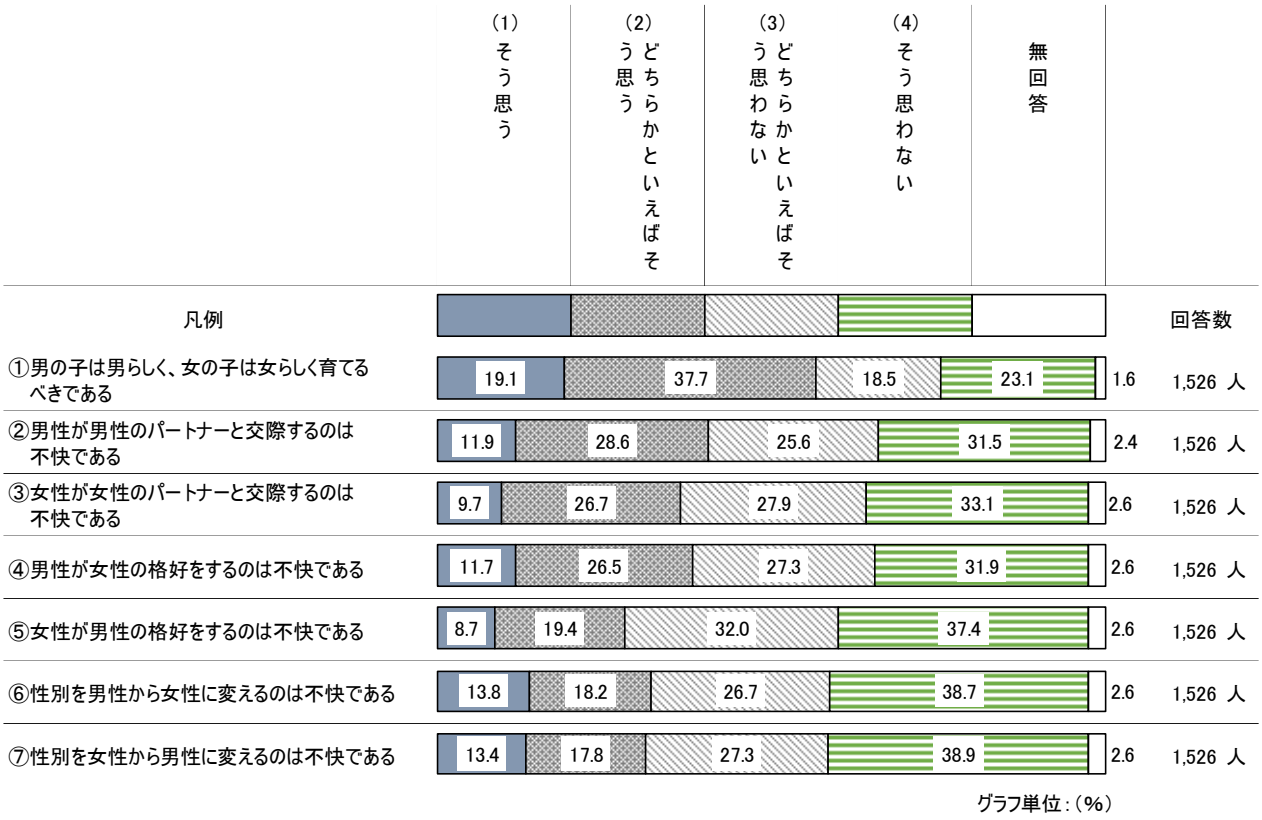
【④男性が女性の格好をするのは不快である】について、「そう思わない」31.9％が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」27.3％、「どちらかといえばそう思う」26.5％、「そう思う」11.7％となっている。

【⑤女性が男性の格好をするのは不快である】について、「そう思わない」37.4％が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」32.0％、「どちらかといえばそう思う」19.4％、「そう思う」8.7％となっている。

【⑥性別を男性から女性に変えるのは不快である】について、「そう思わない」38.7%が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」26.7%、「どちらかといえばそう思う」18.2%、「そう思う」13.8%となっている。

【⑦性別を女性から男性に変えるのは不快である】について、「そう思わない」38.9%が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」27.3%、「どちらかといえばそう思う」17.8%、「そう思う」13.4%となっている。

図表 4-(2)-1　性の多様性への意識について



【①男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきである】について、性別にみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】の割合は、『男性』69.2%、『女性』47.9%で、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【そう思わない】の割合は『男性』29.1%、『女性』50.8%となっており、『男性』では【そう思う】の割合が【そう思わない】の割合を上回っており、『女性』では【そう思わない】の割合が【そう思う】の割合を上回っている。

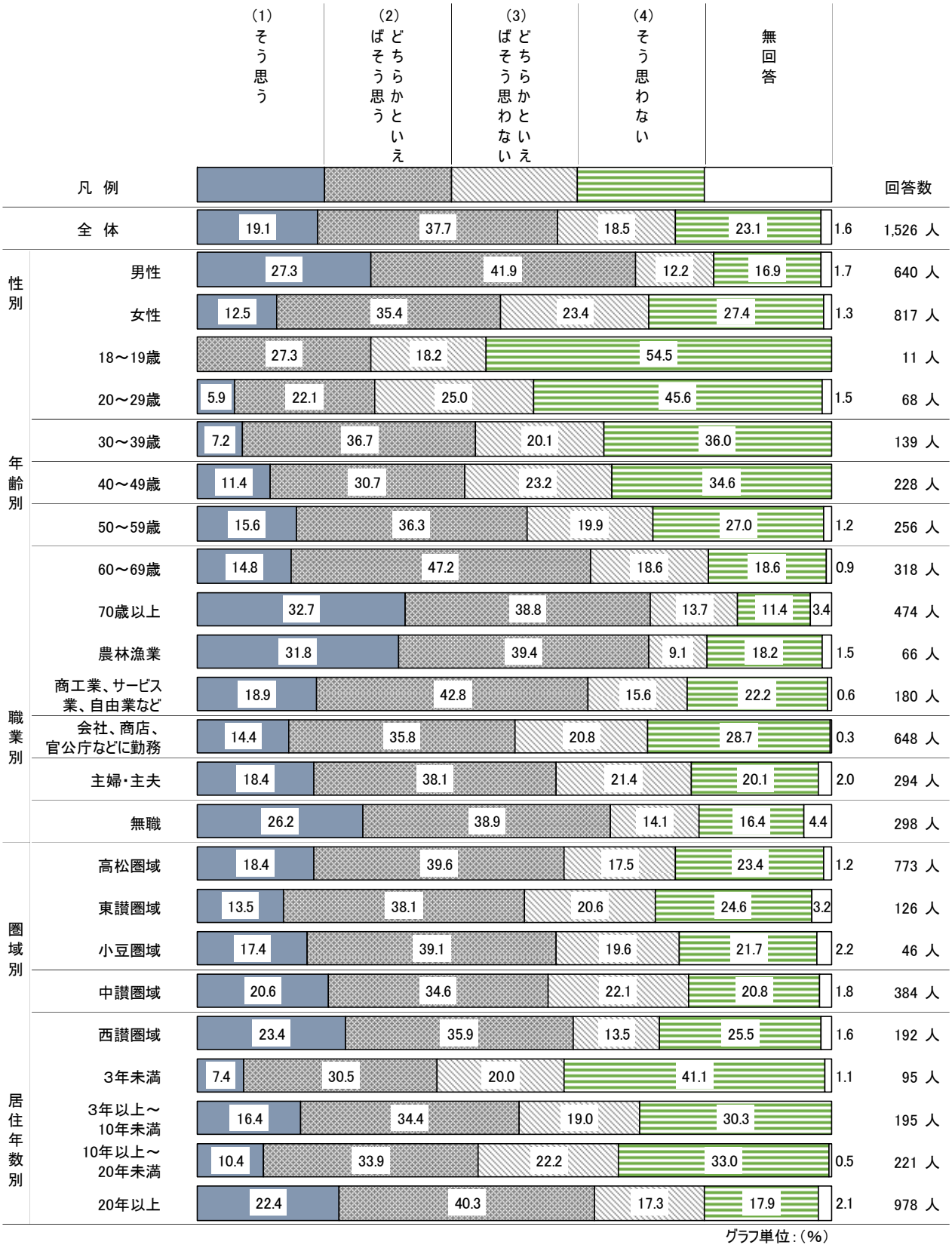
年齢別にみると、【そう思わない】の割合は、『18～19 歳』、『20～29 歳』、『30～39 歳』、『40～49 歳』では【そう思う】の割合を上回っており、『50～59 歳』、『60～69 歳』、『70 歳以上』では【そう思う】の割合が【そう思わない】の割合を上回っている。

職業別にみると、【そう思う】の割合は、いずれも【そう思わない】の割合を上回っており、『農林漁業』で 71.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【そう思う】の割合は、いずれも【そう思わない】の割合を上回っており、『西讃圏域』で 59.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【そう思わない】の割合は、『３年未満』、『10 年以上～20 年未満』では【そう思う】の割合を上回っており、『３年以上～10 年未満』、『20 年以上』では【そう思う】の割合が【そう思わない】の割合を上回っている。

図表 4-(2)-2 【①男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきである】



【②男性が男性のパートナーと交際するのは不快である】について、性別にみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】の割合は『男性』50.9%、『女性』32.8%で、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【そう思わない】の割合は『男性』47.0%、『女性』64.7%となっており、『男性』では【そう思う】の割合が【そう思わない】の割合を上回っており、『女性』では【そう思わない】の割合が【そう思う】の割合を上回っている。

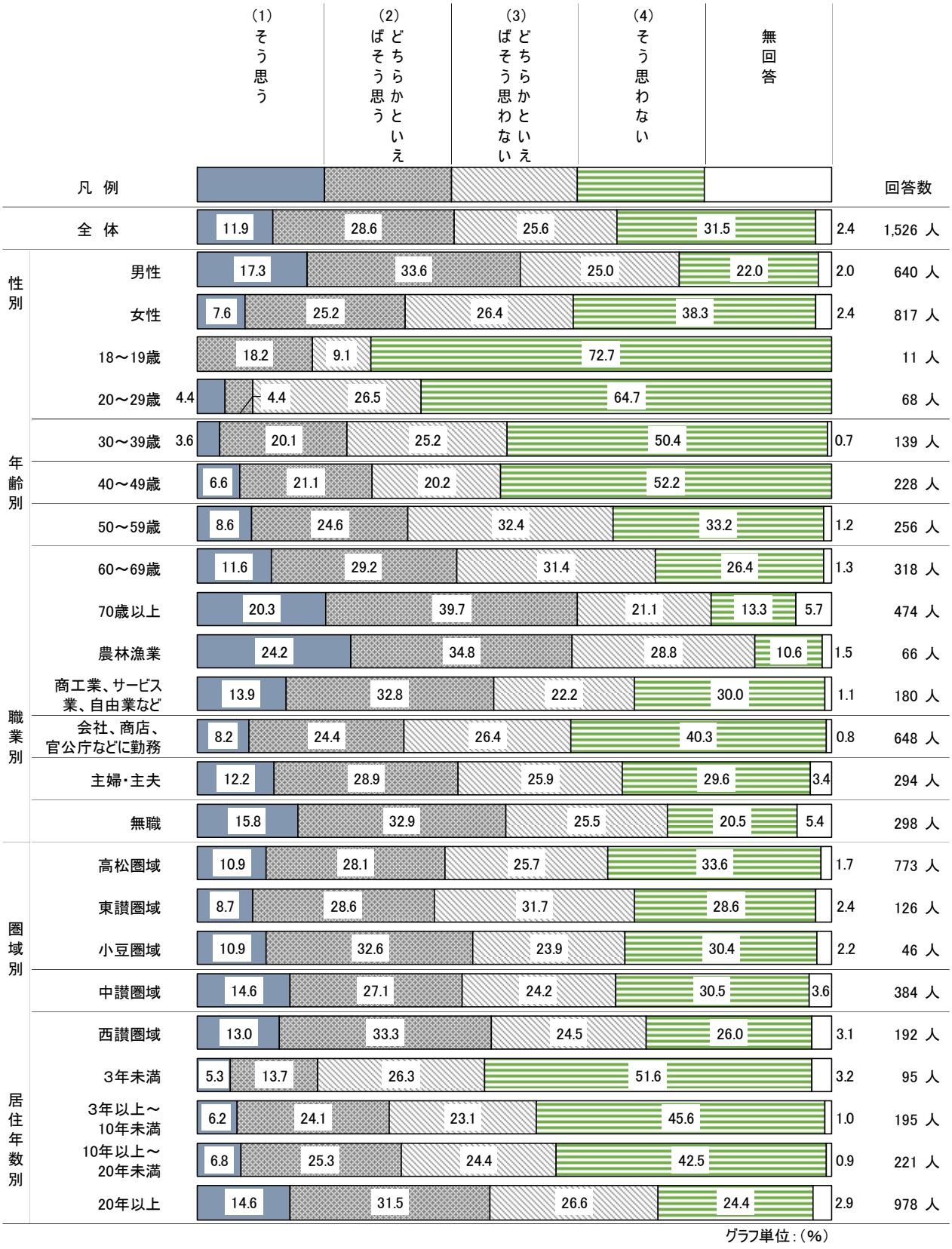
年齢別にみると、【そう思わない】の割合は、『70 歳以上』を除くすべての年齢で【そう思う】の割合を上回っており、『70 歳以上』では【そう思う】の割合が【そう思わない】の割合を上回っている。

職業別にみると、【そう思う】の割合は、『農林漁業』、『無職』では【そう思わない】の割合を上回っており、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では【そう思わない】の割合が【そう思う】の割合を上回っている。

圏域別にみると、【そう思わない】の割合は、いずれも【そう思う】の割合を上回っており、『東讃圏域』で 60.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【そう思わない】の割合は、いずれも【そう思う】の割合を上回っており、『３年未満』で 77.9%と最も高くなっている。

図表 4-(2)-3 【②男性が男性のパートナーと交際するのは不快である】



【③女性が女性のパートナーと交際するのは不快である】について、性別にみると、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【そう思わない】の割合は『男性』55.0%、『女性』65.6%で、男女とも「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】の割合を上回っている。

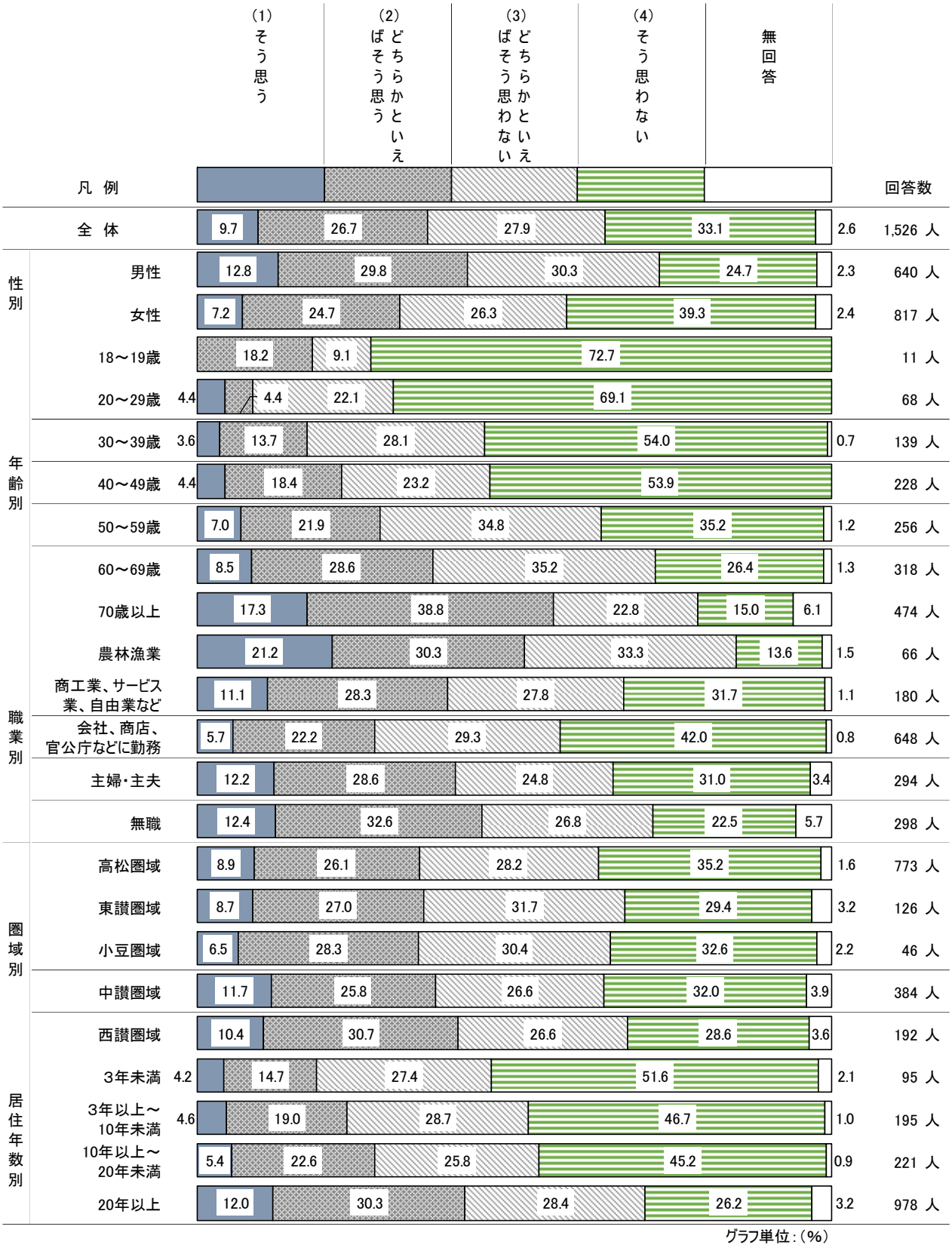
年齢別にみると、【そう思わない】の割合は、『70 歳以上』を除くすべての年齢で【そう思う】の割合を上回っており、『70 歳以上』では【そう思う】の割合が【そう思わない】の割合を上回っている。

職業別にみると、【そう思わない】の割合は、『農林漁業』を除くすべての職業で【そう思う】の割合を上回っており、『農林漁業』では【そう思う】の割合が【そう思わない】の割合を上回っている。

圏域別にみると、【そう思わない】の割合は、いずれも【そう思う】の割合を上回っており、『高松圏域』で 63.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【そう思わない】の割合は、いずれも【そう思う】の割合を上回っており、『３年未満』で 79.0%と最も高くなっている。

図表 4-(2)-4 【③女性が女性のパートナーと交際するのは不快である】



【④男性が女性の格好をするのは不快である】について、性別にみると、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【そう思わない】の割合は『男性』49.8%、『女性』66.7%で、男女とも「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】の割合を上回っている。

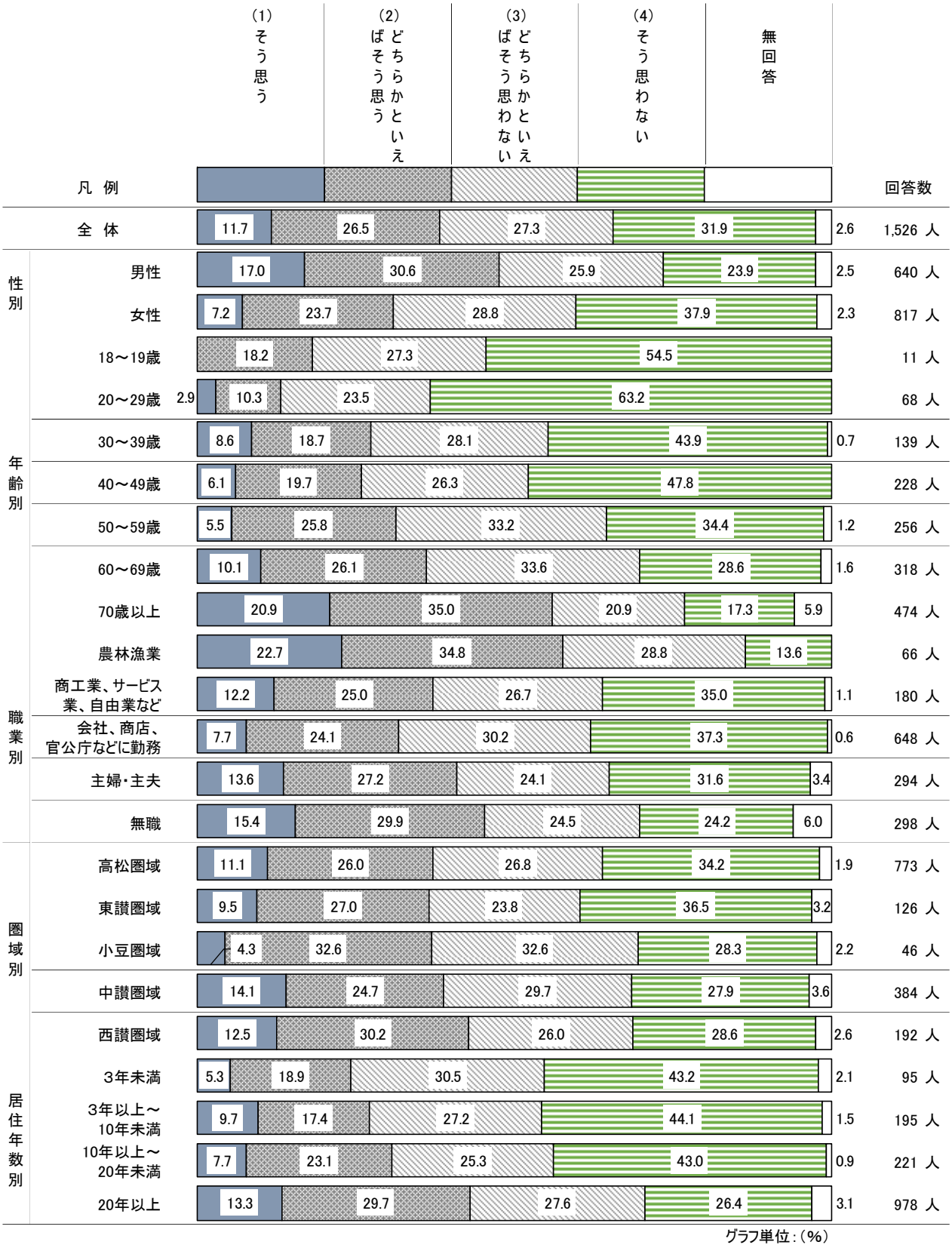
年齢別にみると、【そう思わない】の割合は、『70 歳以上』を除くすべての年齢で【そう思う】の割合を上回っており、『70 歳以上』では【そう思う】の割合が【そう思わない】の割合を上回っている。

職業別にみると、【そう思わない】の割合は、『農林漁業』を除くすべての職業で【そう思う】の割合を上回っており、『農林漁業』では【そう思う】の割合が【そう思わない】の割合を上回っている。

圏域別にみると、【そう思わない】の割合は、いずれも【そう思う】の割合を上回っており、『高松圏域』で 61.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【そう思わない】の割合は、いずれも【そう思う】の割合を上回っており、『３年未満』で 73.7%と最も高くなっている。

図表 4-(2)-5 【④男性が女性の格好をするのは不快である】



【⑤女性が男性の格好をするのは不快である】について、性別にみると、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【そう思わない】の割合は『男性』63.3%、『女性』74.1%で、男女とも「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】の割合を上回っている。

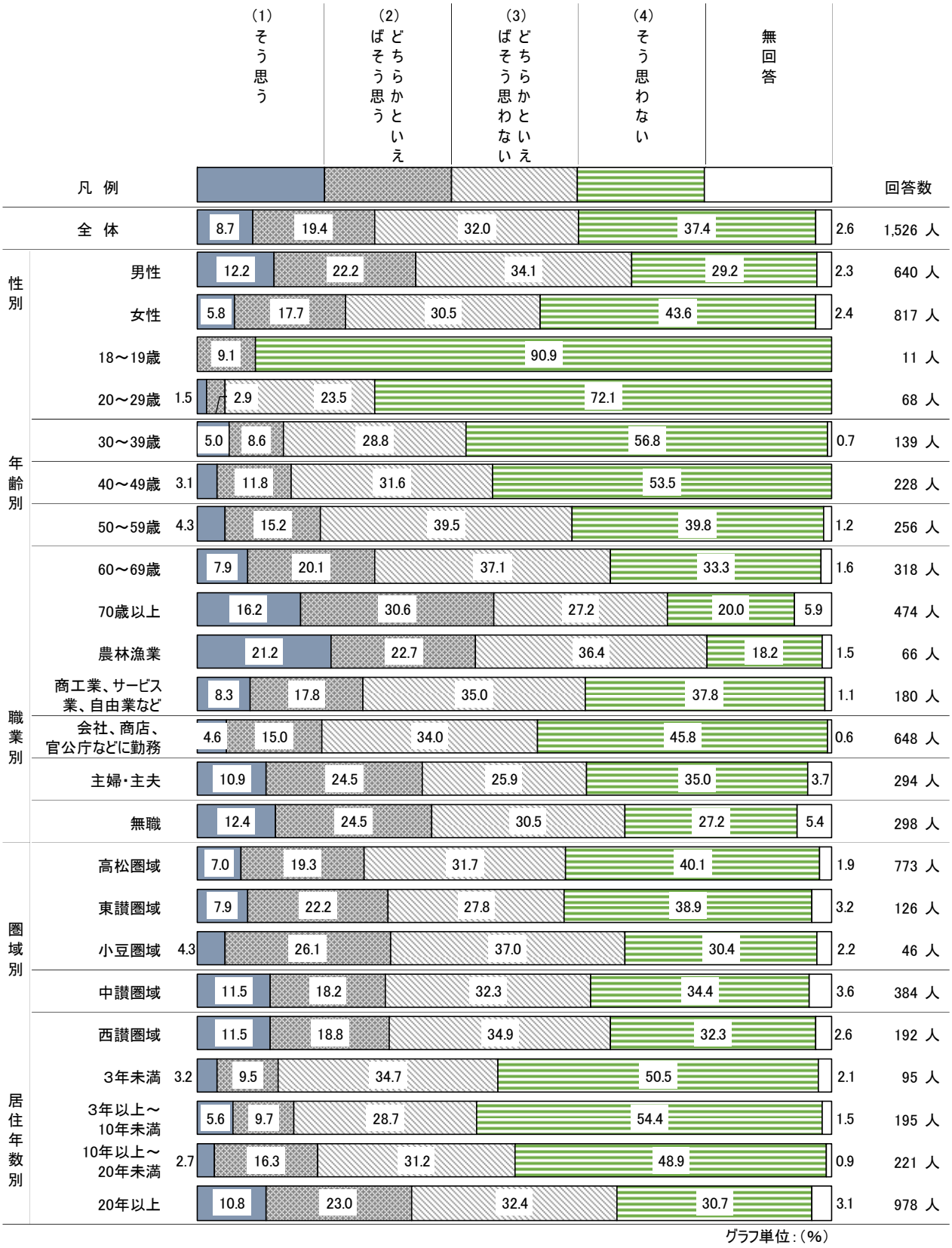
年齢別にみると、【そう思わない】の割合は、いずれも【そう思う】の割合を上回っており、『20～29 歳』で 95.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、【そう思わない】の割合は、いずれも【そう思う】の割合を上回っており、『会社、商店、官公庁などに勤務』で 79.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【そう思わない】の割合は、いずれも【そう思う】の割合を上回っており、『高松圏域』で 71.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【そう思わない】の割合は、いずれも【そう思う】の割合を上回っており、『３年未満』で 85.2%と最も高くなっている。

図表 4-(2)-6 【⑤女性が男性の格好をするのは不快である】



【⑥性別を男性から女性に変えるのは不快である】について、性別にみると、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【そう思わない】の割合は『男性』59.4%、『女性』70.2%で、男女とも「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】の割合を上回っている。

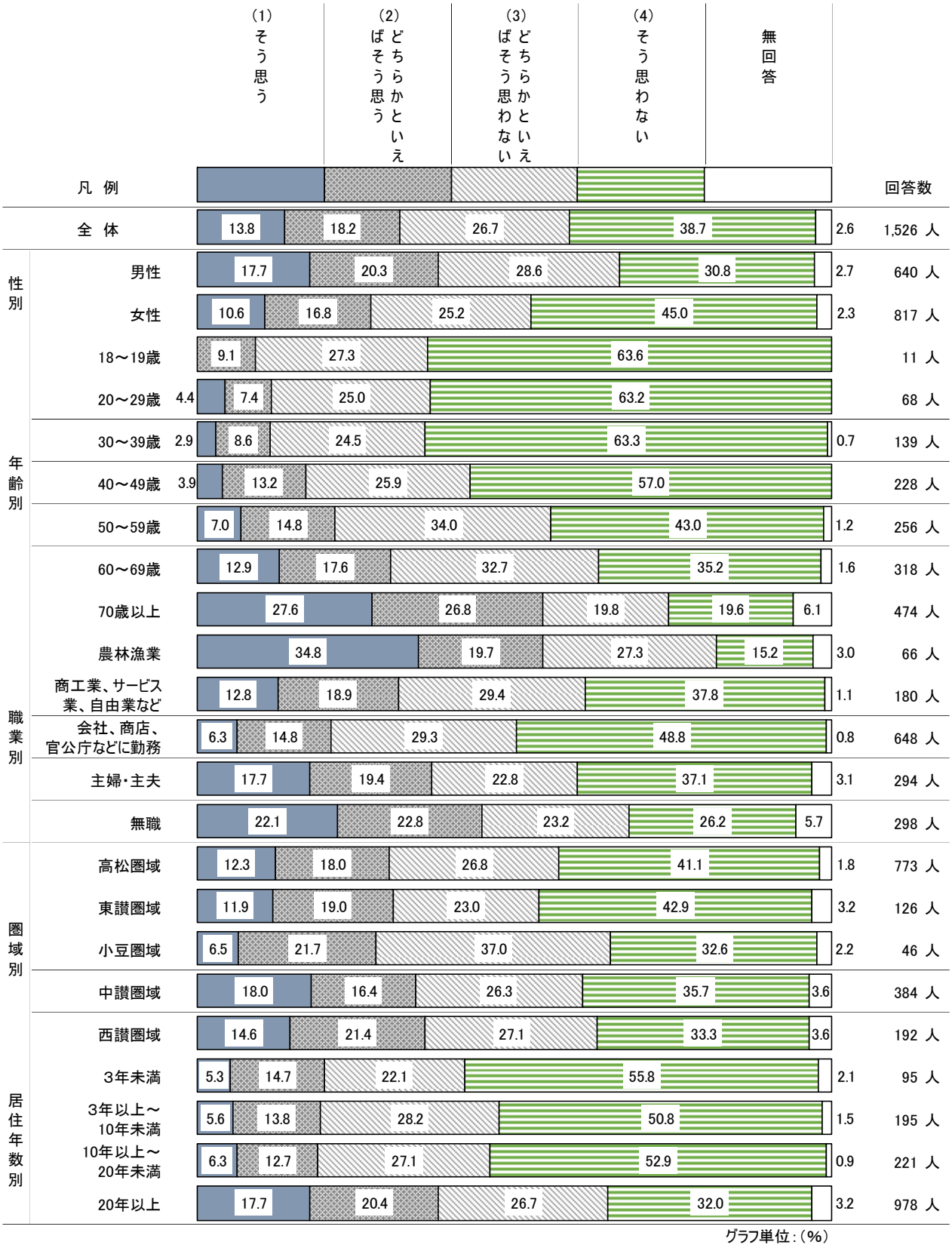
年齢別にみると、【そう思わない】の割合は、『70 歳以上』を除くすべての年齢で【そう思う】の割合を上回っており、『70 歳以上』では【そう思う】の割合が【そう思わない】の割合を上回っている。

職業別にみると、【そう思わない】の割合は、『農林漁業』を除くすべての職業で【そう思う】の割合を上回っており、『農林漁業』では【そう思う】の割合が【そう思わない】の割合を上回っている。

圏域別にみると、【そう思わない】の割合は、いずれも【そう思う】の割合を上回っており、『小豆圏域』で 69.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【そう思わない】の割合は、いずれも【そう思う】の割合を上回っており、『10 年以上～20 年未満』で 80.0%と最も高くなっている。

図表 4-(2)-7 【⑥性別を男性から女性に変えるのは不快である】



【⑦性別を女性から男性に変えるのは不快である】について、性別にみると、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【そう思わない】の割合は『男性』60.4%、『女性』70.8%で、男女とも「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】の割合を上回っている。

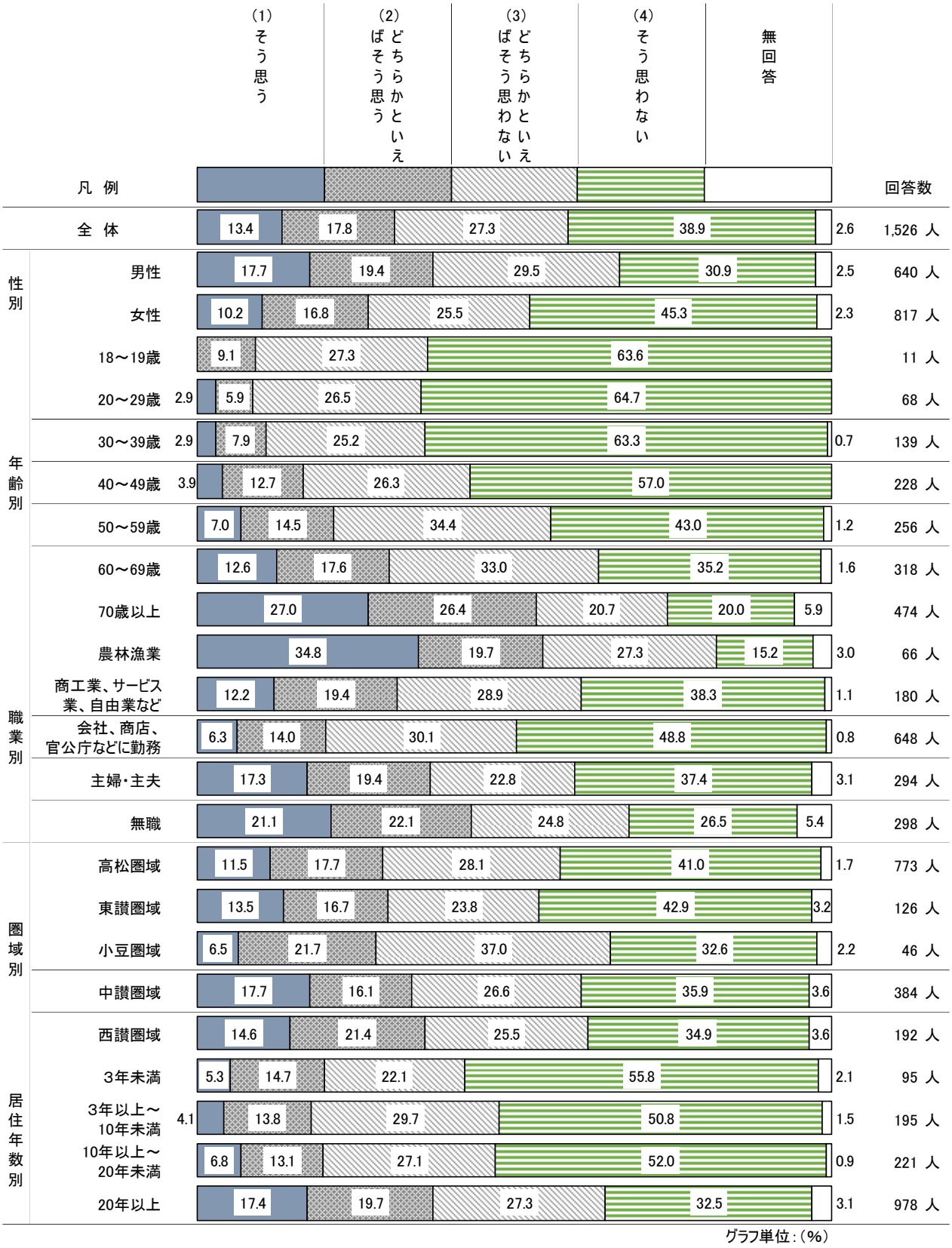
年齢別にみると、【そう思わない】の割合は、『70 歳以上』を除くすべての年齢で【そう思う】の割合を上回っており、『70 歳以上』では【そう思う】の割合が【そう思わない】の割合を上回っている。

職業別にみると、【そう思わない】の割合は、『農林漁業』を除くすべての職業で【そう思う】の割合を上回っており、『農林漁業』では【そう思う】の割合が【そう思わない】の割合を上回っている。

圏域別にみると、【そう思わない】の割合は、いずれも【そう思う】の割合を上回っており、『小豆圏域』で 69.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【そう思わない】の割合は、いずれも【そう思う】の割合を上回っており、『３年以上～10 年未満』で 80.5%と最も高くなっている。

図表 4-(2)-8 【⑦性別を女性から男性に変えるのは不快である】



(3)性的少数者に関して、人権上問題があると思われる行為等について

問24　性的少数者に関して、人権上問題があると思われるものは何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

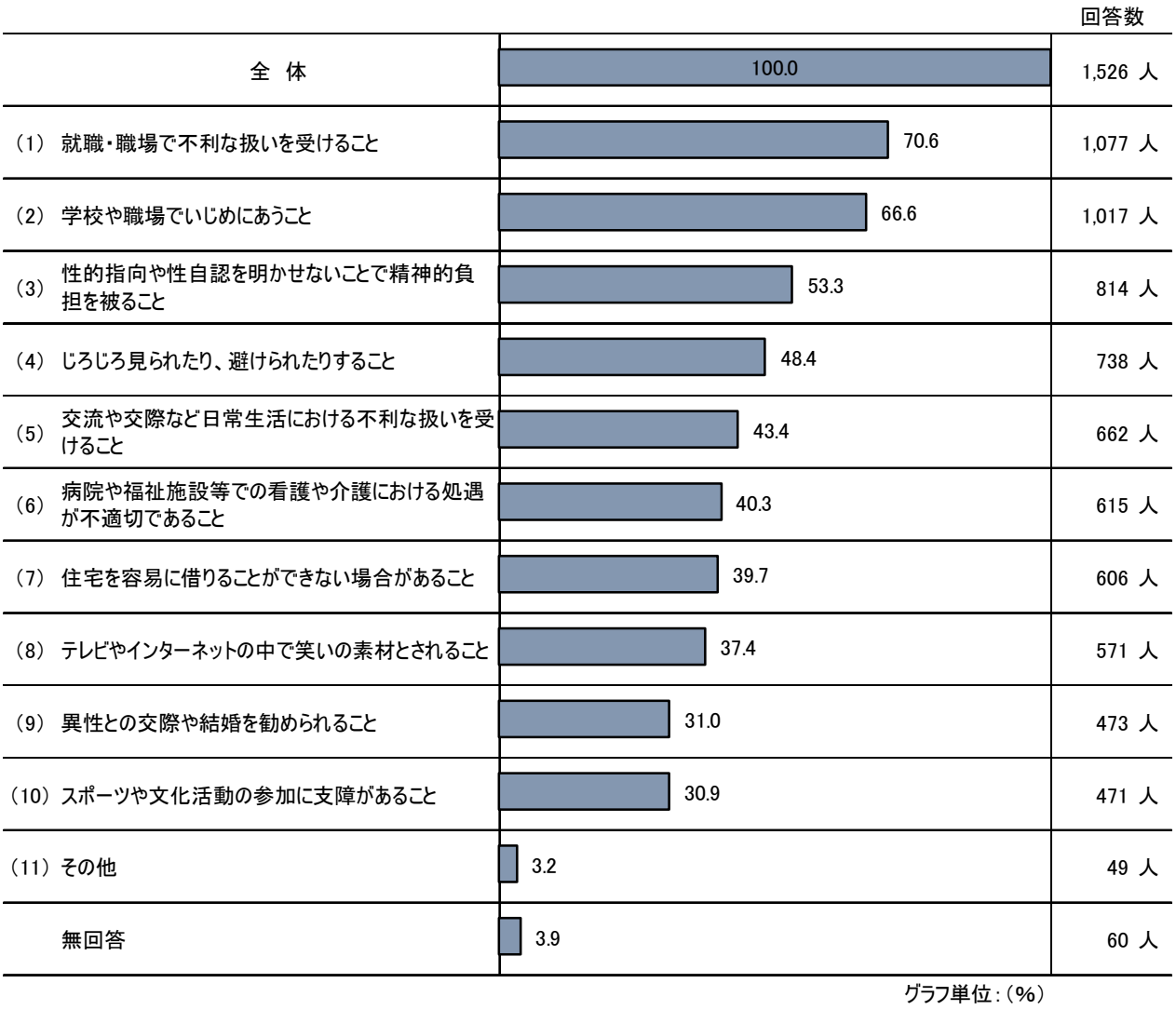
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】※回答数の多い順に並び替え

1	就職・職場で不利な扱いを受けること	70.6%(71.0%)
2	学校や職場でいじめにあうこと	66.6%(67.1%)
3	性的指向や性自認を明かせないことで精神的負担を被ること	53.3%(54.0%)
4	じろじろ見られたり、避けられたりすること	48.4%(49.1%)
5	交流や交際など日常生活における不利な扱いを受けること	43.4%(44.5%)
6	病院や福祉施設等での看護や介護における処遇が不適切であること	40.3%(40.7%)
7	住宅を容易に借りることができない場合があること	39.7%(41.0%)
8	テレビやインターネットの中で笑いの素材とされること	37.4%(38.5%)
9	異性との交際や結婚を勧められること	31.0%(33.2%)
10	スポーツや文化活動の参加に支障があること	30.9%(31.3%)
11	その他	3.2%(3.3%)
（無回答）		3.9%(3.7%)

性的少数者に関して、人権上問題があると思われる行為等について、「就職・職場で不利な扱いを受けること」70.6%が最も高く、次いで「学校や職場でいじめにあうこと」66.6%、「性的指向や性自認を明かせないことで精神的負担を被ること」53.3%、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」48.4%などとなっている。

図表 4-(3)-1　性的少数者に関して、人権上問題があると思われる行為等について



性的少数者に関して、人権上問題があると思われる行為等について、性別にみると、男女とも「就職・職場で不利な扱いを受けること」が最も高く、『男性』69.2%、『女性』71.6%で、これに男女とも「学校や職場でいじめにあうこと」が『男性』64.1%、『女性』69.3%と続いている。

年齢別にみると、『30～39 歳』を除くすべての年齢で「就職・職場で不利な扱いを受けること」が６～８割台と最も高く、『30～39 歳』では「学校や職場でいじめにあうこと」82.7%が最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「就職・職場で不利な扱いを受けること」が６～７割台と最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』で 72.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「就職・職場で不利な扱いを受けること」が６～７割台と最も高く、『東讃圏域』で 75.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「就職・職場で不利な扱いを受けること」が６～７割台と最も高く、『３年未満』で 75.8%と最も高くなっている。

図表 4-(3)-2 【性的少数者に関して、人権上問題があると思われる行為等について】

【表の見方】
単位＝比率(%)

		全体（人）	(1) 就職・職場で不利な扱いを受けること	(2) 学校や職場でいじめにあうこと	(3) 性的指向や性自認を明かせないことで精神的負担を被ること	(4) じろじろ見られたり、避けられたりすること	(5) 交流や交際など日常生活における不利な扱いを受けること	(6) 病院や福祉施設等での看護や介護における処遇が不適切であること	(7) 住宅を容易に借りることができない場合があること	(8) テレビやインターネットの中で笑いの素材とされること	(9) 異性との交際や結婚を勧められること	(10) スポーツや文化活動の参加に支障があること	(11) その他	無回答
全体		1,526	70.6	66.6	53.3	48.4	43.4	40.3	39.7	37.4	31.0	30.9	3.2	3.9
性別	男性	640	69.2	64.1	48.1	43.9	38.9	36.9	35.8	36.4	25.9	31.6	3.9	3.8
	女性	817	71.6	69.3	57.6	52.0	46.5	42.8	42.8	38.3	34.4	29.9	2.3	3.9
年齢別	18～19歳	11	81.8	72.7	72.7	63.6	54.5	45.5	45.5	54.5	63.6	45.5	－	－
	20～29歳	68	75.0	69.1	58.8	54.4	52.9	38.2	52.9	50.0	42.6	27.9	4.4	－
	30～39歳	139	79.1	82.7	58.3	59.0	58.3	49.6	56.8	48.9	56.1	40.3	2.9	1.4
	40～49歳	228	69.7	68.0	63.6	51.8	48.7	46.5	42.1	39.5	43.4	33.8	4.4	－
	50～59歳	256	71.1	69.9	58.2	50.8	45.7	43.8	42.6	39.1	34.8	34.0	2.7	2.0
	60～69歳	318	73.9	69.5	54.7	50.6	43.1	38.7	37.4	39.3	25.5	28.9	1.9	2.2
	70歳以上	474	64.8	58.0	43.0	40.3	34.0	34.6	32.3	29.3	17.3	26.8	3.8	9.1
職業別	農林漁業	66	62.1	59.1	43.9	42.4	40.9	48.5	34.8	37.9	27.3	31.8	9.1	6.1
	商工業、サービス業、自由業など	180	68.3	65.0	55.6	48.3	41.1	36.7	32.8	33.3	27.8	34.4	4.4	3.3
	会社、商店、官公庁などに勤務	648	72.8	72.4	58.3	53.4	46.9	43.1	45.5	40.9	39.0	33.5	2.6	0.9
	主婦・主夫	294	68.4	65.3	52.7	46.9	47.3	39.8	38.8	36.4	27.6	27.2	3.1	6.5
	無職	298	71.5	59.4	46.0	41.9	34.9	36.6	35.9	34.2	21.5	27.9	2.3	6.4
圏域別	高松圏域	773	70.0	68.8	52.5	47.7	45.9	41.4	42.0	39.7	34.2	32.2	3.8	3.6
	東讃圏域	126	75.4	65.1	57.9	50.0	44.4	40.5	36.5	35.7	30.2	26.2	2.4	4.8
	小豆圏域	46	73.9	65.2	60.9	52.2	34.8	37.0	39.1	28.3	19.6	34.8	2.2	2.2
	中讃圏域	384	69.3	62.5	51.3	44.0	36.5	38.5	35.9	34.9	26.6	28.4	3.4	4.7
	西讃圏域	192	71.9	67.2	54.7	56.8	48.4	40.1	40.1	36.5	30.2	32.3	1.6	3.6
居住年数別	3年未満	95	75.8	72.6	63.2	55.8	60.0	40.0	47.4	45.3	52.6	34.7	4.2	1.1
	3年以上～10年未満	195	74.4	70.8	60.0	51.8	49.2	49.2	51.8	43.1	39.5	38.5	4.6	2.1
	10年以上～20年未満	221	72.4	69.2	59.3	48.0	43.4	43.0	42.5	39.8	35.7	32.1	2.3	1.4
	20年以上	978	68.7	65.0	50.2	47.3	40.7	38.3	36.2	35.2	26.5	29.0	3.1	5.0

(4)性的少数者に対する差別的な言動を見聞きしたシーンについて

問25　性的少数者に対する差別的な言動を、見聞きしたことがありますか。ある場合は、どのような場で見聞きしましたか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

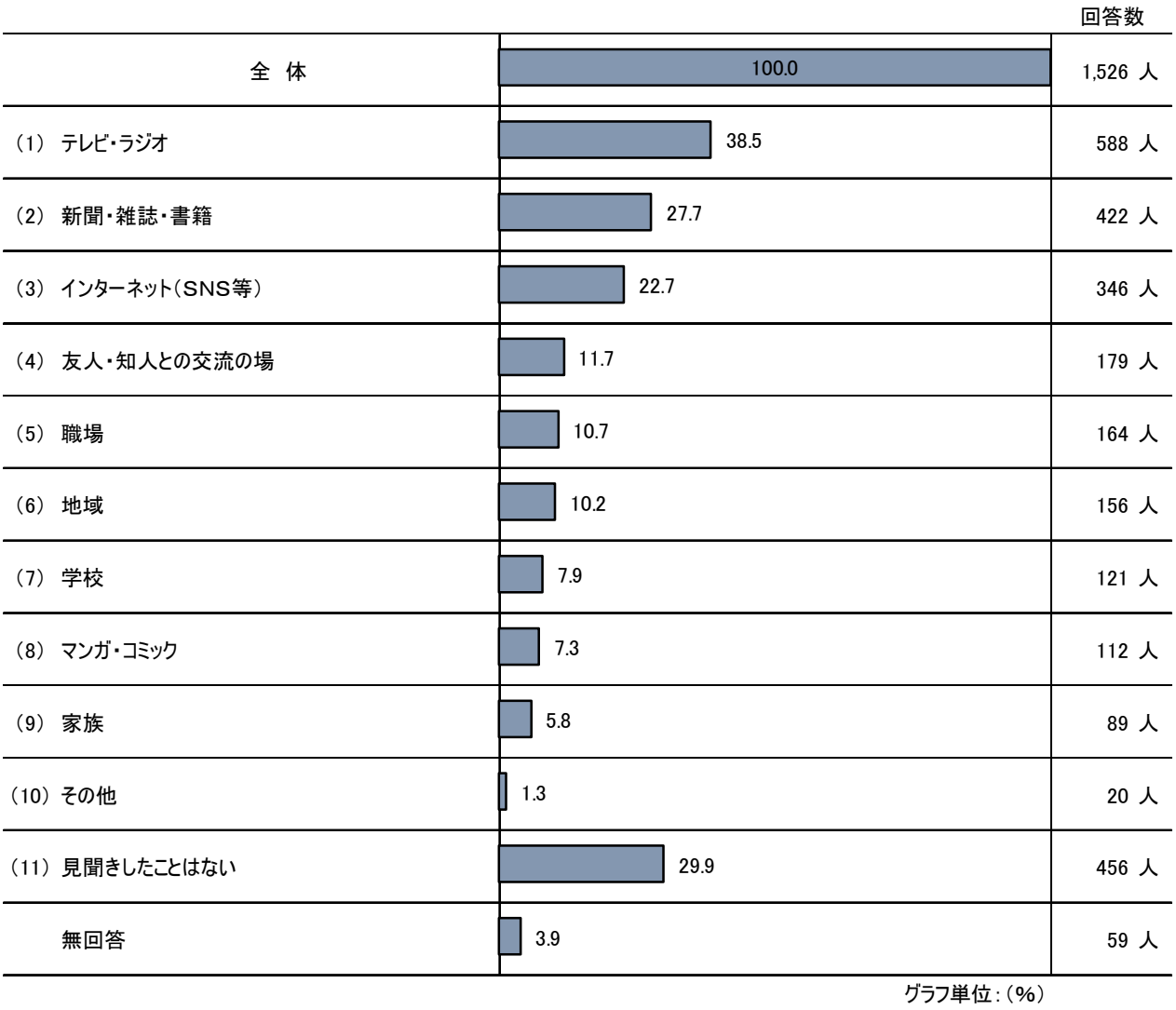
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】※回答数の多い順に並び替え

1	テレビ・ラジオ	38.5%(37.1%)
2	新聞・雑誌・書籍	27.7%(25.9%)
3	インターネット（ＳＮＳ等）	22.7%(25.0%)
4	友人・知人との交流の場	11.7%(12.3%)
5	職場	10.7%(11.0%)
6	地域	10.2%(10.1%)
7	学校	7.9%(9.5%)
8	マンガ・コミック	7.3%(7.9%)
9	家族	5.8%(6.1%)
10	その他	1.3%(1.4%)
11	見聞きしたことはない	29.9%(29.5%)
（無回答）		3.9%(3.6%)

性的少数者に対する差別的な言動を見聞きしたシーンについて、「テレビ・ラジオ」38.5%が最も高く、次いで「新聞・雑誌・書籍」27.7%、「インターネット（ＳＮＳ等）」22.7%、「友人・知人との交流の場」11.7%などとなっている。

図表 4-(4)-1　性的少数者に対する差別的な言動を見聞きしたシーンについて



性的少数者に対する差別的な言動を見聞きしたシーンについて、男女とも「テレビ・ラジオ」が最も高く、『男性』36.7%、『女性』39.9%で、これに男女とも「見聞きしたことはない」が『男性』30.3%、『女性』29.6%と続いている。

年齢別にみると、『18～19 歳』では「学校」、「友人・知人との交流の場」が同率で 45.5%と最も高く、『20～29 歳』、『30～39 歳』では「インターネット（ＳＮＳ等)」が最も高く、『40～49 歳』、『50～59 歳』、『60～69 歳』、『70 歳以上』では「テレビ・ラジオ」が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』を除くすべての職業で「テレビ・ラジオ」が３～４割台と最も高く、『農林漁業』では「新聞・雑誌・書籍」40.9%が最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「テレビ・ラジオ」が３～４割台と最も高く、『小豆圏域』で 41.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『３年未満』を除くすべての居住年数で「テレビ・ラジオ」が３～４割台と最も高く、『３年未満』では「インターネット（ＳＮＳ等)」34.7%と最も高くなっている。

図表 4-(4)-2 【性的少数者に対する差別的な言動を見聞きしたシーンについて】

【表の見方】
単位＝比率(%)

		全体（人）	(1) テレビ・ラジオ	(2) 新聞・雑誌・書籍	(3) インターネット（ＳＮＳ等）	(4) 友人・知人との交流の場	(5) 職場	(6) 地域	(7) 学校	(8) マンガ・コミック	(9) 家族	(10) その他	(11) 見聞きしたことはない	無回答
全体		1,526	38.5	27.7	22.7	11.7	10.7	10.2	7.9	7.3	5.8	1.3	29.9	3.9
性別	男性	640	36.7	29.8	25.3	11.1	12.8	10.2	7.8	8.1	4.2	1.6	30.3	3.4
	女性	817	39.9	25.9	21.1	12.4	9.3	10.5	8.1	6.7	7.1	1.1	29.6	3.9
年齢別	18～19歳	11	27.3	9.1	36.4	45.5	9.1	9.1	45.5	27.3	－	－	9.1	－
	20～29歳	68	29.4	14.7	50.0	8.8	10.3	7.4	17.6	7.4	10.3	1.5	25.0	－
	30～39歳	139	30.2	12.2	43.9	15.8	15.8	10.8	14.4	15.1	7.9	2.2	30.2	－
	40～49歳	228	36.4	19.3	36.0	12.7	16.2	11.0	14.5	10.5	9.2	2.2	28.1	1.3
	50～59歳	256	38.3	22.3	24.6	11.7	11.7	8.6	7.4	6.6	5.9	0.4	35.2	2.3
	60～69歳	318	48.1	34.0	21.1	11.0	8.8	10.7	2.8	6.9	5.7	0.9	24.8	2.8
	70歳以上	474	37.6	37.1	6.8	9.9	7.4	11.0	4.6	3.6	3.4	1.5	32.9	8.0
職業別	農林漁業	66	34.8	40.9	18.2	15.2	9.1	16.7	4.5	9.1	4.5	1.5	28.8	6.1
	商工業、サービス業、自由業など	180	37.2	26.1	25.6	16.7	11.7	13.3	6.1	7.8	4.4	3.9	27.8	1.7
	会社、商店、官公庁などに勤務	648	36.9	19.4	31.6	11.0	14.4	9.3	10.5	9.1	7.1	1.2	30.6	1.7
	主婦・主夫	294	43.2	33.7	12.9	9.9	6.8	9.9	5.8	4.8	6.1	0.3	31.3	6.8
	無職	298	39.9	38.3	14.1	11.1	7.0	9.4	6.7	5.4	4.4	1.0	29.5	5.4
圏域別	高松圏域	773	40.0	28.3	22.5	12.7	9.8	9.3	8.0	7.5	6.2	1.4	29.8	3.5
	東讃圏域	126	39.7	28.6	24.6	12.7	12.7	11.1	7.1	7.1	6.3	－	28.6	4.8
	小豆圏域	46	41.3	23.9	19.6	10.9	4.3	13.0	4.3	6.5	4.3	－	26.1	6.5
	中讃圏域	384	36.2	26.3	22.4	10.4	11.7	9.9	8.6	6.0	6.5	1.6	30.7	3.4
	西讃圏域	192	35.4	28.1	23.4	9.9	12.5	12.5	7.8	9.4	3.1	1.6	30.7	5.2
居住年数別	3年未満	95	26.3	16.8	34.7	11.6	15.8	13.7	16.8	4.2	7.4	－	29.5	2.1
	3年以上～10年未満	195	41.5	22.6	35.9	16.9	15.4	10.3	10.8	11.8	9.7	3.1	28.2	0.5
	10年以上～20年未満	221	38.5	22.6	26.7	10.0	11.8	8.6	10.9	9.0	5.4	2.3	29.4	1.4
	20年以上	978	39.2	30.7	18.2	10.9	9.1	10.1	6.0	6.1	5.1	0.9	30.8	5.1

(5)性的少数者が学校で直面していると思う課題について

問26　性的少数者が学校で直面している課題は何であると思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

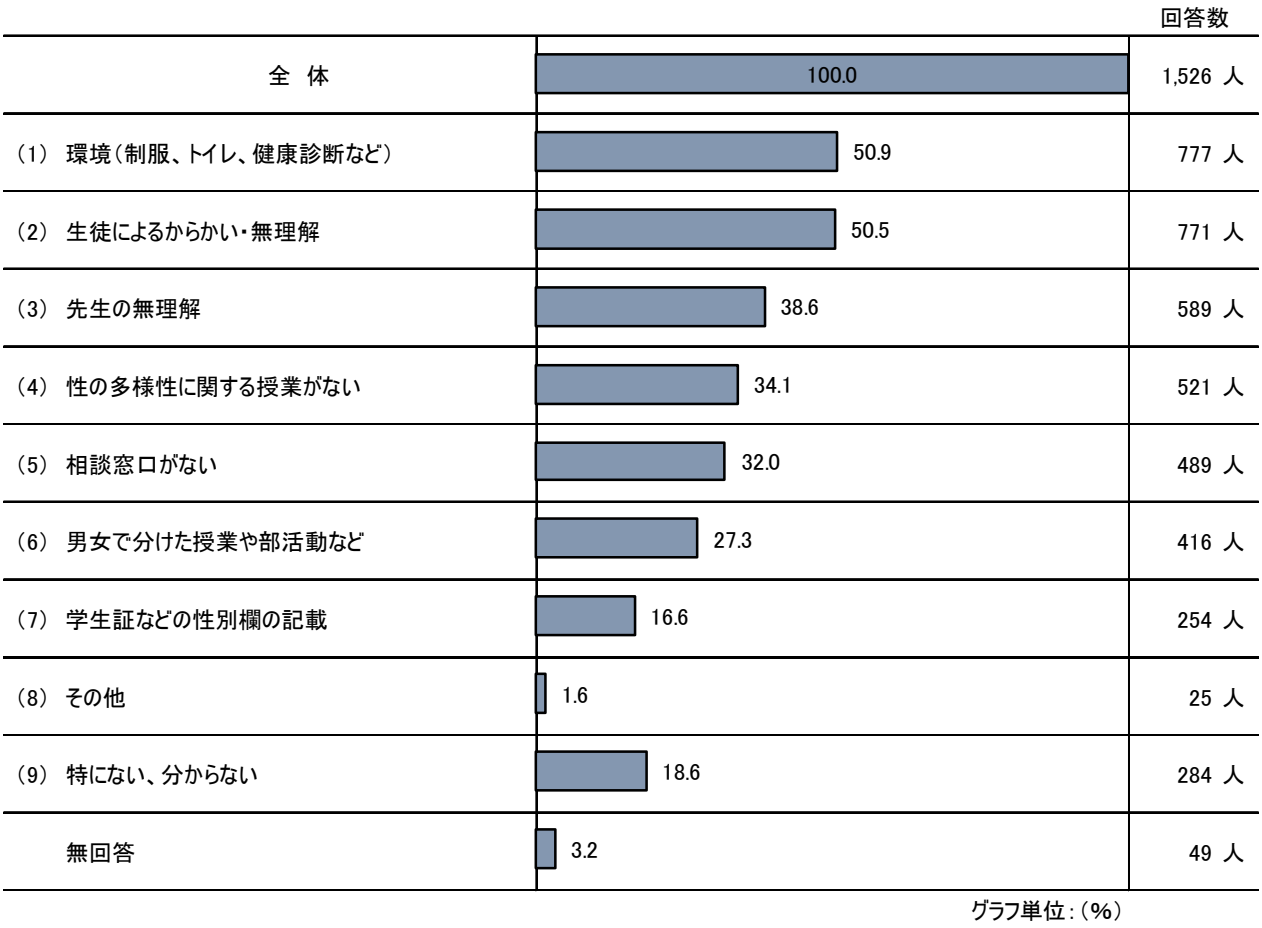
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】※回答数の多い順に並び替え

1	環境（制服、トイレ、健康診断など）	50.9%(51.3%)
2	生徒によるからかい・無理解	50.5%(51.5%)
3	先生の無理解	38.6%(39.0%)
4	性の多様性に関する授業がない	34.1%(34.5%)
5	相談窓口がない	32.0%(31.4%)
6	男女で分けた授業や部活動など	27.3%(28.0%)
7	学生証などの性別欄の記載	16.6%(17.3%)
8	その他	1.6%(1.7%)
9	特にない、分からない	18.6%(17.6%)
（無回答）		3.2%(3.0%)

性的少数者が学校で直面していると思う課題について、「環境（制服、トイレ、健康診断など）」50.9%が最も高く、次いで「生徒によるからかい・無理解」50.5%、「先生の無理解」38.6%、「性の多様性に関する授業がない」34.1%などとなっている。

図表 4-(5)-1　性的少数者が学校で直面していると思う課題について



性的少数者が学校で直面していると思う課題について、性別にみると、『男性』では「生徒によるからかい・無理解」45.9％が最も高く、『女性』では「環境（制服、トイレ、健康診断など）」56.9％が最も高くなっている。これに『男性』では「環境（制服、トイレ、健康診断など）」43.0％、『女性』では「生徒によるからかい・無理解」54.5％と続いている。

年齢別にみると、『18～19 歳』、『20～29 歳』、『30～39 歳』、『40～49 歳』では「生徒によるからかい・無理解」が最も高く、『50～59 歳』、『60～69 歳』、『70 歳以上』では「環境（制服、トイレ、健康診断など）」が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「生徒によるからかい・無理解」が最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』、『主婦・主夫』、『無職』では「環境（制服、トイレ、健康診断など）」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『西讃圏域』では「環境（制服、トイレ、健康診断など）」が最も高く、『東讃圏域』、『小豆圏域』、『中讃圏域』では「生徒によるからかい・無理解」が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『３年未満』、『３年以上～10 年未満』では「生徒によるからかい・無理解」が最も高く、『10 年以上～20 年未満』、『20 年以上』では「環境（制服、トイレ、健康診断など）」が最も高くなっている。

図表 4-(5)-2 【性的少数者が学校で直面していると思う課題について】

【表の見方】
単位＝比率(%)

		全体（人）	(1) 環境（制服、トイレ、健康診断など）	(2) 生徒によるからかい・無理解	(3) 先生の無理解	(4) 性の多様性に関する授業がない	(5) 相談窓口がない	(6) 男女で分けた授業や部活動など	(7) 学生証などの性別欄の記載	(8) その他	(9) 特にない、分からない	無回答
全体		1,526	50.9	50.5	38.6	34.1	32.0	27.3	16.6	1.6	18.6	3.2
性別	男性	640	43.0	45.9	35.5	32.5	29.1	21.6	13.4	2.5	24.1	2.8
	女性	817	56.9	54.5	40.5	35.1	34.4	31.1	18.2	1.0	14.0	3.3
年齢別	18～19歳	11	63.6	72.7	27.3	18.2	9.1	36.4	36.4	－	－	－
	20～29歳	68	57.4	60.3	42.6	41.2	29.4	30.9	19.1	1.5	8.8	－
	30～39歳	139	51.1	56.1	47.5	41.7	33.1	30.9	19.4	3.6	10.8	0.7
	40～49歳	228	62.7	64.0	48.2	40.8	32.0	39.5	20.2	1.3	9.2	－
	50～59歳	256	60.2	55.9	43.0	31.3	32.4	32.8	20.3	0.8	12.5	1.6
	60～69歳	318	54.1	53.5	38.1	36.2	35.8	23.6	14.5	0.9	17.6	1.9
	70歳以上	474	37.8	35.7	29.3	28.7	30.2	19.2	12.7	2.3	30.8	7.4
職業別	農林漁業	66	34.8	42.4	28.8	34.8	27.3	24.2	6.1	3.0	36.4	4.5
	商工業、サービス業、自由業など	180	52.2	50.0	44.4	26.1	29.4	22.8	15.6	2.8	20.6	2.8
	会社、商店、官公庁などに勤務	648	57.9	58.2	43.1	38.4	31.0	31.9	17.4	1.5	11.7	0.6
	主婦・主夫	294	49.3	45.6	33.3	31.6	36.1	24.5	17.0	1.0	20.7	6.5
	無職	298	41.6	41.3	32.9	33.2	32.6	23.5	17.4	1.7	25.8	4.4
圏域別	高松圏域	773	51.5	50.8	40.2	34.0	31.7	25.7	16.9	1.9	19.8	2.3
	東讃圏域	126	51.6	54.0	37.3	36.5	34.1	26.2	15.9	－	13.5	6.3
	小豆圏域	46	50.0	54.3	45.7	26.1	23.9	19.6	10.9	2.2	19.6	4.3
	中讃圏域	384	47.9	49.5	36.7	32.0	31.5	28.1	15.6	1.8	19.3	3.9
	西讃圏域	192	54.2	46.9	34.9	39.1	33.9	33.9	19.3	1.0	16.1	3.1
居住年数別	3年未満	95	60.0	61.1	43.2	38.9	29.5	26.3	22.1	4.2	6.3	1.1
	3年以上～10年未満	195	50.8	57.9	46.2	41.5	31.3	34.4	19.0	1.5	16.4	－
	10年以上～20年未満	221	57.9	54.8	38.5	32.1	30.8	29.9	18.1	1.8	13.6	1.4
	20年以上	978	48.8	47.0	36.7	32.8	32.7	25.5	15.2	1.4	21.3	4.3

(6)性的少数者が日常生活で直面していると思う課題について

問27　性的少数者が日常生活を営む上で直面している課題は何であると思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

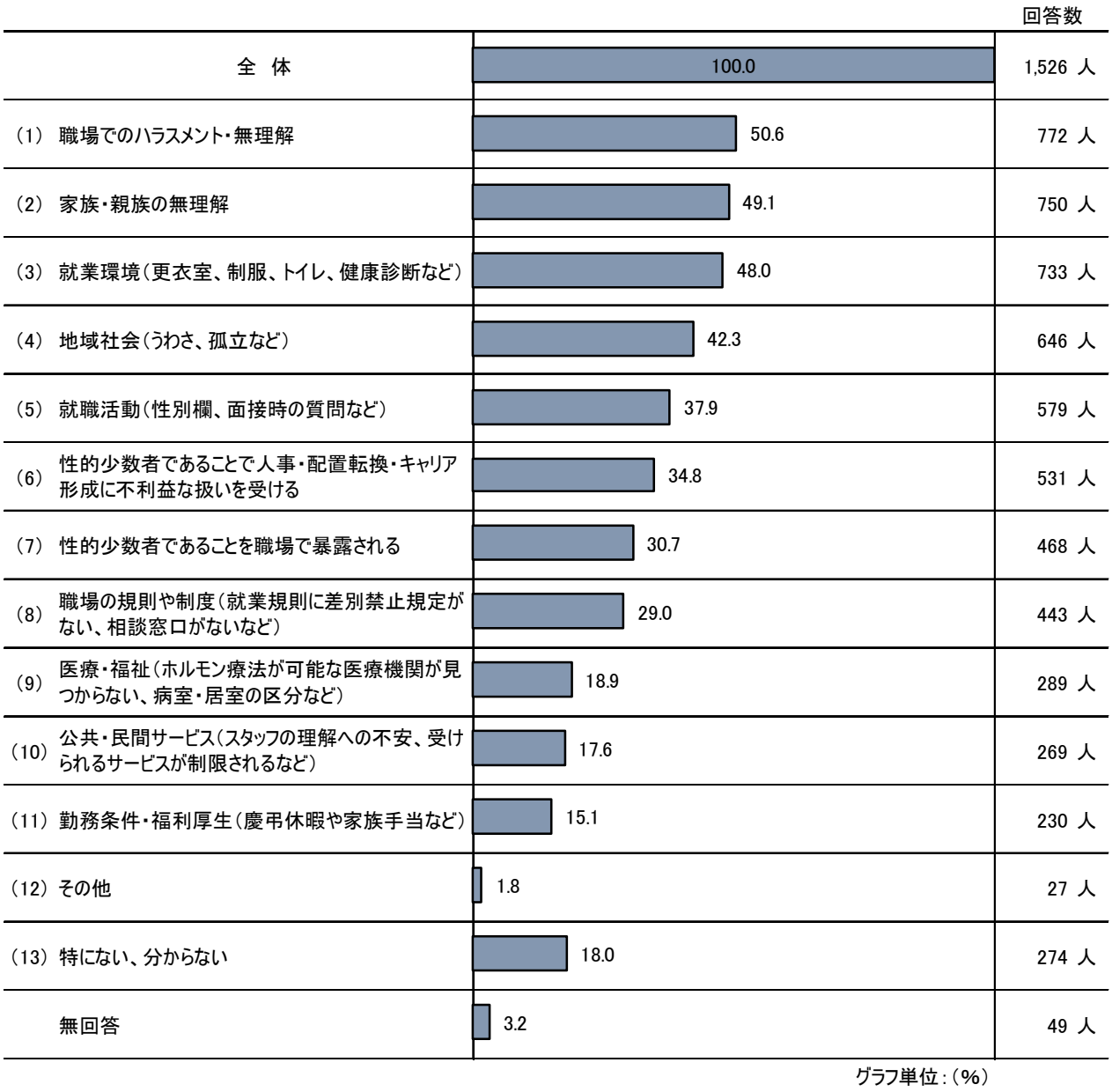
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】※回答数の多い順に並び替え

1	職場でのハラスメント・無理解	50.6%(50.8%)
2	家族・親族の無理解	49.1%(50.3%)
3	就業環境（更衣室、制服、トイレ、健康診断など）	48.0%(48.1%)
4	地域社会（うわさ、孤立など）	42.3%(43.3%)
5	就職活動（性別欄、面接時の質問など）	37.9%(38.3%)
6	性的少数者であることで人事・配置転換・キャリア形成に不利益な扱いを受ける	34.8%(35.0%)
7	性的少数者であることを職場で暴露される	30.7%(31.4%)
8	職場の規則や制度（就業規則に差別禁止規定がない、相談窓口がないなど）	29.0%(29.2%)
9	医療・福祉（ホルモン療法が可能な医療機関が見つからない、病室・居室の区分など）	18.9%(19.4%)
10	公共・民間サービス（スタッフの理解への不安、受けられるサービスが制限されるなど）	17.6%(18.7%)
11	勤務条件・福利厚生（慶弔休暇や家族手当など）	15.1%(15.7%)
12	その他	1.8%(1.7%)
13	特にない、分からない	18.0%(17.1%)
（無回答）		3.2%(3.0%)

性的少数者が日常生活で直面していると思う課題について、「職場でのハラスメント・無理解」50.6%が最も高く、次いで「家族・親族の無理解」49.1%、「就業環境（更衣室、制服、トイレ、健康診断など）」48.0%、「地域社会（うわさ、孤立など）」42.3%などとなっている。

図表 4-(6)-1　性的少数者が日常生活で直面していると思う課題について



性的少数者が日常生活で直面していると思う課題について、性別にみると、『男性』では「職場でのハラスメント・無理解」49.2%が最も高く、『女性』では「家族・親族の無理解」54.2%が最も高くなっている。これに『男性』では「家族・親族の無理解」43.3%、『女性』では「就業環境（更衣室、制服、トイレ、健康診断など)」52.8%が続いている。

年齢別にみると、『18～19 歳』では「家族・親族の無理解」、「職場でのハラスメント・無理解」、「就業環境（更衣室、制服、トイレ、健康診断など)」、「地域社会（うわさ、孤立など)」が同率の54.5%と最も高く、『20～29 歳』、『30～39 歳』、『40～49 歳』では「家族・親族の無理解」が最も高く、『50～59 歳』では「就業環境（更衣室、制服、トイレ、健康診断など)」59.4%が最も高く、『60～69 歳』、『70 歳以上』では「職場でのハラスメント・無理解」が最も高くなっている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』を除くすべての職業で「職場でのハラスメント・無理解」が４割台と最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「家族・親族の無理解」57.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『小豆圏域』では「職場でのハラスメント・無理解」が５割台と最も高く、『東讃圏域』では「就業環境（更衣室、制服、トイレ、健康診断など)」48.4%が最も高く、『中讃圏域』では「家族・親族の無理解」52.3%が最も高く、『西讃圏域』では「職場でのハラスメント・無理解」、「就業環境（更衣室、制服、トイレ、健康診断など)」が同率の 53.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『３年未満』、『10 年以上～20 年未満』では「家族・親族の無理解」が最も高く、『３年以上～10 年未満』では「家族・親族の無理解」、「職場でのハラスメント・無理解」が同率の 60.5%と最も高く、『20 年以上』では「職場でのハラスメント・無理解」48.0%が最も高くなっている。

図表 4-(6)-2 【性的少数者が日常生活で直面していると思う課題について】

【表の見方】
単位＝比率(%)

		全体（人）	(1) 職場でのハラスメント・無理解	(2) 家族・親族の無理解	(3) 就業環境（更衣室、制服、トイレ、健康診断など）	(4) 地域社会（うわさ、孤立など）	(5) 就職活動（性別欄、面接時の質問など）	(6) 性的少数者であることで人事・配置転換・キャリア形成に不利益な扱いを受ける	(7) 性的少数者であることを職場で暴露される	(8) 職場の規則や制度（就業規則に差別禁止規定がない、相談窓口がないなど）	(9) 医療・福祉（ホルモン療法が可能な医療機関が見つからない、病室・居室の区分など）	(10) 公共・民間サービス（スタッフの理解への不安、受けられるサービスが制限されるなど）	(11) 勤務条件・福利厚生（慶弔休暇や家族手当など）	(12) その他	(13) 特にない、分からない	無回答
全体		1,526	50.6	49.1	48.0	42.3	37.9	34.8	30.7	29.0	18.9	17.6	15.1	1.8	18.0	3.2
性別	男性	640	49.2	43.3	42.3	41.4	35.5	33.4	28.9	29.1	16.1	16.7	11.3	2.2	22.2	2.8
	女性	817	52.4	54.2	52.8	43.5	40.3	35.4	31.9	29.0	20.6	18.1	17.9	1.5	14.2	3.3
年齢別	18～19歳	11	54.5	54.5	54.5	54.5	36.4	45.5	36.4	36.4	18.2	27.3	18.2	－	9.1	－
	20～29歳	68	54.4	63.2	48.5	51.5	44.1	36.8	33.8	29.4	17.6	27.9	19.1	－	4.4	－
	30～39歳	139	59.7	61.9	49.6	52.5	42.4	41.0	42.4	31.7	30.9	23.0	24.5	3.6	10.8	0.7
	40～49歳	228	57.5	64.0	58.3	52.2	46.1	40.4	41.2	34.2	23.2	24.6	20.2	1.8	9.6	－
	50～59歳	256	55.5	54.3	59.4	45.3	41.4	38.7	34.8	33.2	26.2	19.1	17.6	1.2	10.5	1.2
	60～69歳	318	55.7	50.3	50.9	43.1	39.6	39.3	28.9	30.8	15.1	14.8	12.9	1.3	14.2	2.2
	70歳以上	474	38.8	33.3	35.0	31.2	29.3	24.9	21.3	22.6	12.0	12.4	9.3	2.3	32.3	7.4
職業別	農林漁業	66	43.9	34.8	40.9	31.8	31.8	33.3	31.8	22.7	16.7	9.1	9.1	3.0	37.9	4.5
	商工業、サービス業、自由業など	180	49.4	46.7	45.0	47.2	34.4	35.0	32.2	26.1	16.7	16.1	11.1	2.2	18.3	2.8
	会社、商店、官公庁などに勤務	648	57.3	57.9	56.2	48.3	43.1	38.7	35.8	32.9	23.8	20.8	19.6	1.9	10.8	0.6
	主婦・主夫	294	46.6	44.9	43.2	36.1	33.3	31.6	25.5	27.2	15.0	14.3	15.0	2.0	21.8	6.5
	無職	298	43.6	40.3	39.9	36.9	35.9	29.9	25.5	26.5	14.8	17.8	9.7	1.0	24.5	4.4
圏域別	高松圏域	773	51.1	47.5	48.4	43.3	37.1	35.7	30.7	28.2	19.1	18.8	14.6	2.3	19.1	2.5
	東讃圏域	126	46.8	44.4	48.4	35.7	34.1	33.3	27.8	31.7	19.8	15.9	13.5	－	15.9	6.3
	小豆圏域	46	58.7	50.0	45.7	43.5	41.3	32.6	28.3	19.6	15.2	10.9	13.0	－	23.9	6.5
	中讃圏域	384	48.7	52.3	44.8	40.6	37.8	33.6	31.8	28.9	17.4	18.0	16.1	1.6	16.9	3.9
	西讃圏域	192	53.1	51.6	53.1	44.8	43.2	34.4	30.2	32.3	20.8	14.6	15.1	1.6	15.6	2.1
居住年数別	3年未満	95	56.8	58.9	57.9	43.2	44.2	34.7	29.5	26.3	26.3	21.1	18.9	3.2	9.5	1.1
	3年以上～10年未満	195	60.5	60.5	52.3	54.4	45.6	44.6	37.9	30.8	27.2	24.1	20.0	2.6	12.8	－
	10年以上～20年未満	221	52.5	56.6	50.2	47.1	42.1	35.3	35.3	31.2	18.6	18.1	18.6	3.2	14.5	1.4
	20年以上	978	48.0	44.6	46.0	39.0	35.0	32.8	28.7	28.6	16.6	16.2	13.0	1.2	20.4	4.3

(7)勤務先での性的少数者に対する配慮や支援の内容の現状について

問28　あなたの主な勤務先では、性的少数者に対する配慮や支援はありますか。ある場合、どのような配慮や支援ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

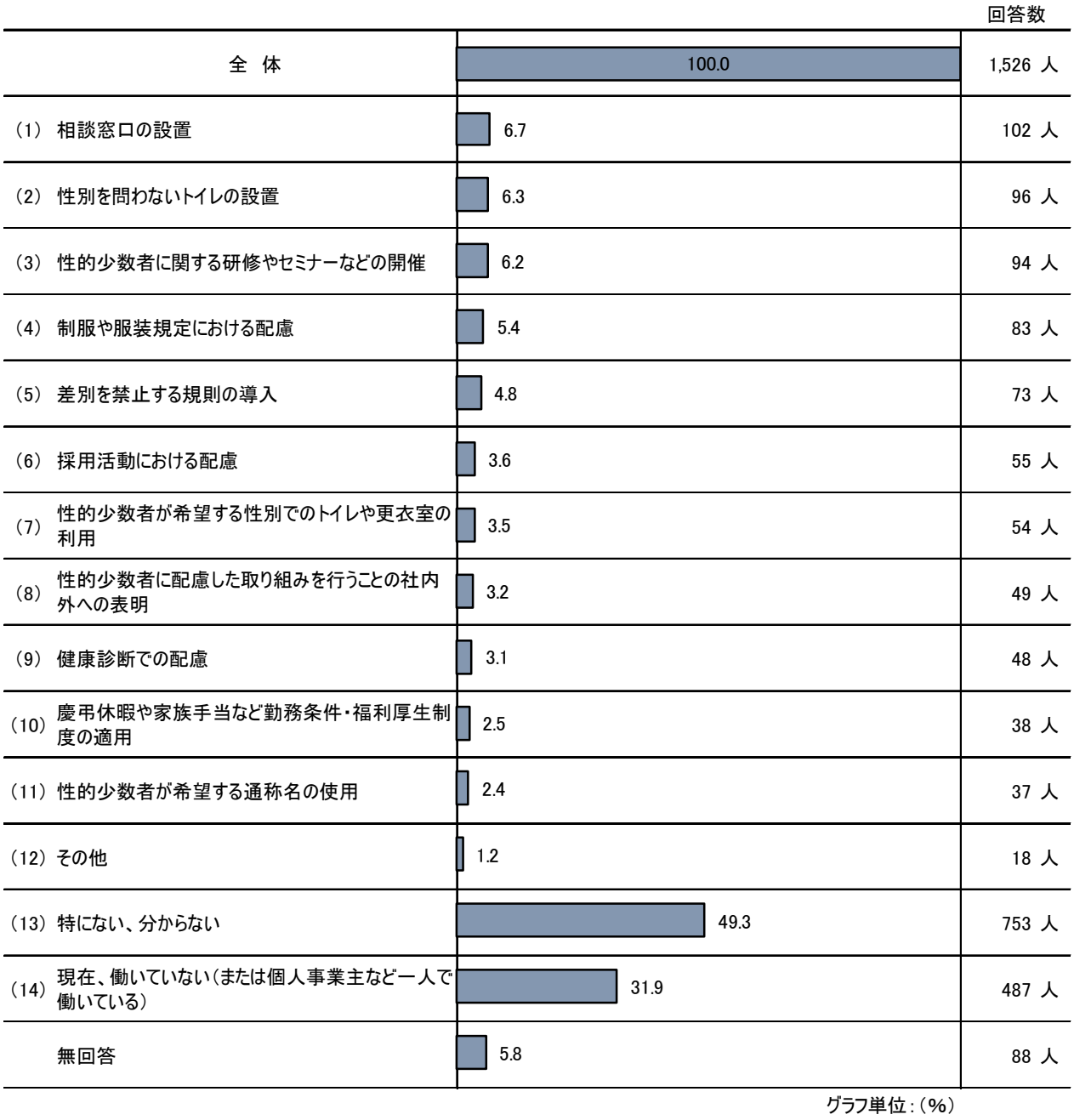
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】※回答数の多い順に並び替え

1	相談窓口の設置	6.7%(7.4%)
2	性別を問わないトイレの設置	6.3%(6.6%)
3	性的少数者に関する研修やセミナーなどの開催	6.2%(6.5%)
4	制服や服装規定における配慮	5.4%(5.6%)
5	差別を禁止する規則の導入	4.8%(5.1%)
6	採用活動における配慮	3.6%(3.8%)
7	性的少数者が希望する性別でのトイレや更衣室の利用	3.5%(3.3%)
8	性的少数者に配慮した取り組みを行うことの社内外への表明	3.2%(3.2%)
9	健康診断での配慮	3.1%(3.0%)
10	慶弔休暇や家族手当など勤務条件・福利厚生制度の適用	2.5%(2.4%)
11	性的少数者が希望する通称名の使用	2.4%(2.3%)
12	その他	1.2%(1.1%)
13	特にない、分からない	49.3%(50.0%)
14	現在、働いていない（または個人事業主など一人で働いている）	31.9%(30.4%)
（無回答）		5.8%(5.4%)

勤務先での性的少数者に対する配慮や支援の内容の現状について、「相談窓口の設置」6.7%が最も高く、次いで「性別を問わないトイレの設置」6.3%、「性的少数者に関する研修やセミナーなどの開催」6.2%、「制服や服装規定における配慮」5.4%などとなっている。

図表 4-(7)-1　勤務先での性的少数者に対する配慮や支援の内容の現状について



勤務先での性的少数者に対する配慮や支援の内容の現状について、性別にみると、『男性』では「相談窓口の設置」7.8%が最も高く、『女性』では「性別を問わないトイレの設置」6.2%が最も高くなっている。これに『男性』では「性的少数者に関する研修やセミナーなどの開催」7.2%、『女性』では「相談窓口の設置」5.6%と続いている。

年齢別にみると、『18～19 歳』、『20～29 歳』、『40～49 歳』では「相談窓口の設置」が最も高く、『30～39 歳』、『60～69 歳』、『70 歳以上』では「性別を問わないトイレの設置」が最も高く、『50～59 歳』では「性的少数者に関する研修やセミナーなどの開催」が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』、『主婦・主夫』では「性別を問わないトイレの設置」が最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「性的少数者に関する研修やセミナーなどの開催」が最も高く、『無職』では「相談窓口の設置」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』では「相談窓口の設置」が最も高く、『東讃圏域』、『小豆圏域』では「性別を問わないトイレの設置」が最も高く、『中讃圏域』では「相談窓口の設置」、「性的少数者に関する研修やセミナーなどの開催」が同率の 6.8%と最も高く、『西讃圏域』では「性的少数者に関する研修やセミナーなどの開催」が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『３年未満』、『20 年以上』では「相談窓口の設置」が最も高く、『３年以上～10 年未満』では「性別を問わないトイレの設置」が最も高く、『10 年以上～20 年未満』では「制服や服装規定における配慮」が最も高くなっている。

図表 4-(7)-2 【勤務先での性的少数者に対する配慮や支援の内容の現状について】

【表の見方】
単位＝比率(%)

		全体（人）	(1) 相談窓口の設置	(2) 性別を問わないトイレの設置	(3) 性的少数者に関する研修やセミナーなどの開催	(4) 制服や服装規定における配慮	(5) 差別を禁止する規則の導入	(6) 採用活動における配慮	(7) 性的少数者が希望する性別でのトイレや更衣室の利用	(8) 性的少数者に配慮した取り組みを行うことの社内外への表明	(9) 健康診断での配慮	(10) 慶弔休暇や家族手当など勤務条件・福利厚生制度の適用	(11) 性的少数者が希望する通称名の使用	(12) その他	(13) 特にない、分からない	(14) 現在、働いていない（または個人事業主など一人で働いている）	無回答
全体		1,526	6.7	6.3	6.2	5.4	4.8	3.6	3.5	3.2	3.1	2.5	2.4	1.2	49.3	31.9	5.8
性別	男性	640	7.8	5.9	7.2	6.4	6.6	4.4	3.3	3.3	3.6	4.1	3.0	1.6	50.2	29.2	4.2
	女性	817	5.6	6.2	4.9	4.7	3.4	2.9	3.3	2.9	2.7	1.1	1.8	0.9	48.8	34.1	6.6
年齢別	18～19歳	11	18.2	9.1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	45.5	36.4	－
	20～29歳	68	14.7	10.3	13.2	8.8	10.3	5.9	1.5	2.9	2.9	1.5	1.5	－	52.9	16.2	－
	30～39歳	139	8.6	9.4	7.9	7.9	5.8	7.2	2.2	2.9	2.2	2.2	1.4	1.4	64.0	12.9	1.4
	40～49歳	228	8.3	6.1	6.6	5.7	7.5	3.1	3.1	5.7	1.3	1.8	3.1	1.3	62.3	15.8	0.4
	50～59歳	256	8.6	4.7	10.2	6.6	5.9	3.1	1.6	2.3	3.5	3.5	3.1	2.0	59.8	17.2	2.3
	60～69歳	318	5.3	7.2	5.0	5.0	3.1	2.8	4.4	2.5	3.5	2.8	2.8	0.6	47.5	36.5	3.5
	70歳以上	474	3.8	5.3	3.0	4.0	3.2	3.4	4.9	3.2	4.2	2.3	1.9	1.3	35.0	51.5	13.1
職業別	農林漁業	66	4.5	7.6	6.1	4.5	4.5	4.5	1.5	3.0	6.1	3.0	1.5	1.5	50.0	48.5	6.1
	商工業、サービス業、自由業など	180	5.0	9.4	4.4	4.4	4.4	3.3	3.3	1.1	2.8	1.7	4.4	2.8	57.2	26.7	2.8
	会社、商店、官公庁などに勤務	648	9.1	7.1	9.3	7.4	6.5	4.3	2.9	4.0	2.5	2.8	2.5	1.2	69.9	3.2	1.7
	主婦・主夫	294	4.8	5.1	3.1	4.8	3.4	2.7	4.8	4.1	2.7	1.7	2.0	0.7	24.8	63.9	11.6
	無職	298	5.0	4.0	3.4	3.0	3.0	2.7	4.0	2.0	4.7	2.7	1.7	0.7	25.8	61.7	8.4
圏域別	高松圏域	773	6.5	6.3	5.0	5.6	4.4	3.6	3.5	3.0	3.5	2.7	3.1	1.4	49.7	34.5	4.3
	東讃圏域	126	6.3	8.7	6.3	4.8	3.2	1.6	4.8	2.4	2.4	3.2	2.4	1.6	39.7	33.3	9.5
	小豆圏域	46	2.2	10.9	2.2	2.2	－	－	－	－	－	－	2.2	－	47.8	37.0	10.9
	中讃圏域	384	6.8	3.9	6.8	6.0	5.7	4.2	2.9	3.4	2.6	2.1	1.3	1.0	51.8	27.9	7.0
	西讃圏域	192	8.9	8.3	10.4	5.2	6.8	4.7	5.2	5.2	4.2	2.6	2.1	0.5	49.0	27.6	5.7
居住年数別	3年未満	95	11.6	5.3	7.4	8.4	4.2	5.3	－	3.2	1.1	3.2	2.1	1.1	62.1	21.1	1.1
	3年以上～10年未満	195	8.7	9.7	5.6	5.6	6.7	4.1	2.6	2.6	2.6	1.0	1.0	2.1	56.9	22.1	－
	10年以上～20年未満	221	4.5	5.4	5.4	6.8	3.6	3.2	2.3	3.6	1.8	1.8	0.9	1.4	56.1	26.2	3.2
	20年以上	978	6.3	5.9	6.1	4.9	4.8	3.5	4.3	3.2	3.9	2.9	3.1	1.0	45.4	36.1	7.6

５．県政の重要度と満足度について

県では、令和３年度からの新たな香川づくりの指針として、「『みんなでつくるせとうち田園都市・香川』実現計画」※を策定し、「安全と安心を築く香川」、「新しい流れをつくる香川」、「誰もが輝く香川」の３つの基本方針のもと、さまざまな施策に取り組んできました。

この計画を着実に推進し、県民の皆さまのニーズ(要望)に対応した県政を進めるためには、皆さまが「県行政に対して何を求めているのか」、「現在の状況にどのくらい満足しているのか」を知り、それを県政に反映させていくことが重要となります。

そこで、この計画で示している２６の分野を対象に、皆さまが考える重要度と満足度についてお伺いします。以下の質問にお答えください。

「重要度」については、今の生活やこれからの生活を送っていく上でどのくらい重要かを、また、「満足度」については、現状にどのくらい満足しているかを、それぞれ５段階で評価するとともに、不満と思っている項目については、その具体的な内容についてもお答えください。

※「みんなでつくるせとうち田園都市・香川」実現計画

本県の進むべき基本的方向とそれを実現するための方策を明らかにした県政運営の基本指針となる総合計画で、計画期間は令和３年度から令和７年度の５年間です。

この計画は、令和 3 年 10 月に策定し、これまで各般の取組みを進めてきたところですが、昨今の社会経済情勢等の変化を踏まえ、施策を再構築するために、令和 5 年度中での見直しに向け検討を進めています。

(【香川県ホームページ】「みんなでつくるせとうち田園都市・香川」実現計画について)
https://www.pref.kagawa.lg.jp/seisaku/sogo/zikisougouplan/kfvn.html
(【香川県ホームページ】「みんなでつくるせとうち田園都市・香川」実現計画の見直しについて)
https://www.pref.kagawa.lg.jp/seisaku/sogo/sogokeikakuminaoshi/keikakuminaoshi.html

（1）安全と安心を築く香川（重要度）

問29　「みんなでつくるせとうち田園都市・香川」実現計画の基本方針「安全と安心を築く香川」についておたずねします。

「安全と安心を築く香川」の実現に向けて展開している［１］～［８］の分野について、あなたの＜重要度＞を、それぞれ（１）～（５）のうち、あてはまる番号を１つだけ選んで、○をつけてください。

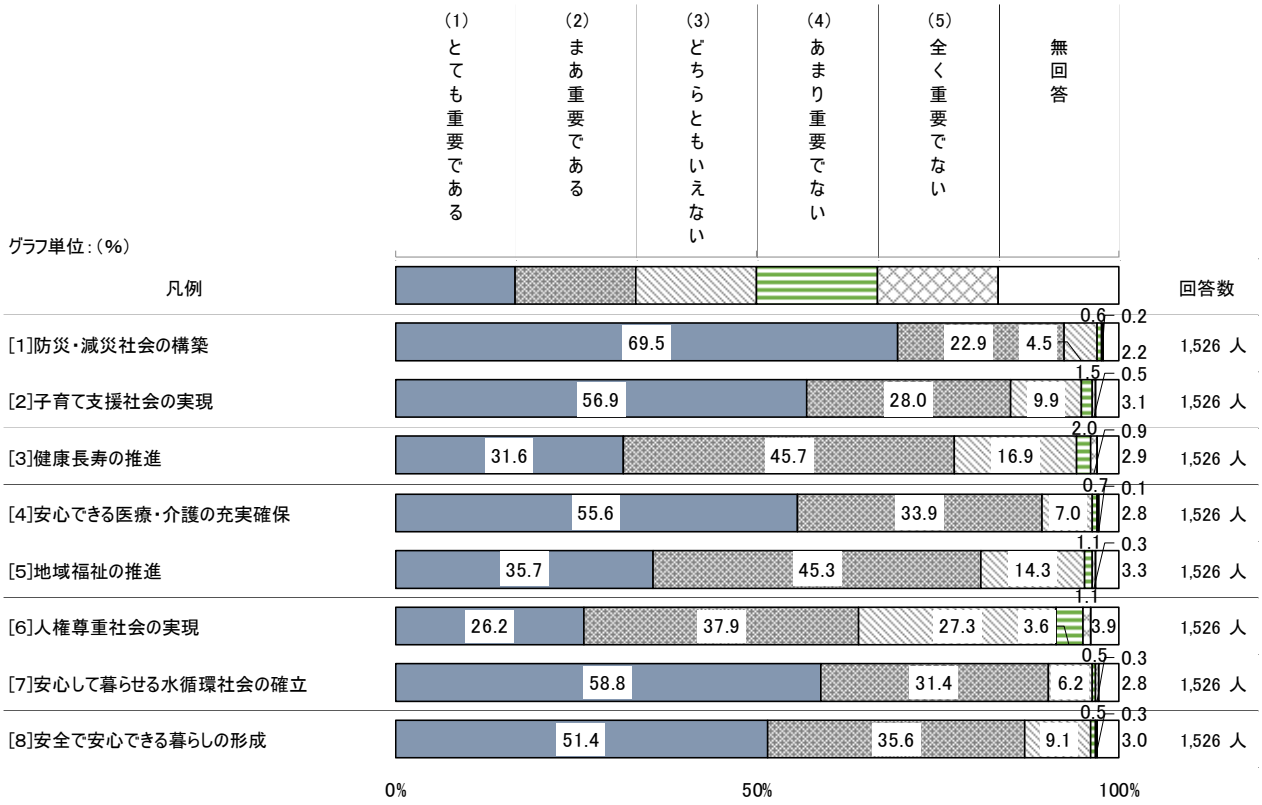
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】　（単位：％）

分　野	重要度					
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答
［１］　防災・減災社会の構築	69.5 (70.9)	22.9 (22.0)	4.5 (4.2)	0.6 (0.6)	0.2 (0.2)	2.2 (2.1)
［２］　子育て支援社会の実現	56.9 (60.2)	28.0 (25.8)	9.9 (9.2)	1.5 (1.3)	0.5 (0.5)	3.1 (2.9)
［３］　健康長寿の推進	31.6 (33.0)	45.7 (44.9)	16.9 (16.3)	2.0 (1.9)	0.9 (1.1)	2.9 (2.7)
［４］　安心できる医療・介護の充実確保	55.6 (56.4)	33.9 (33.5)	7.0 (6.7)	0.7 (0.6)	0.1 (0.1)	2.8 (2.6)
［５］　地域福祉の推進	35.7 (37.3)	45.3 (44.6)	14.3 (13.7)	1.1 (1.1)	0.3 (0.2)	3.3 (3.1)
［６］　人権尊重社会の実現	26.2 (28.2)	37.9 (37.7)	27.3 (25.9)	3.6 (3.5)	1.1 (1.1)	3.9 (3.7)
［７］　安心して暮らせる水循環社会の確立	58.8 (60.0)	31.4 (30.5)	6.2 (6.2)	0.5 (0.4)	0.3 (0.3)	2.8 (2.7)
［８］　安全で安心できる暮らしの形成	51.4 (53.2)	35.6 (34.7)	9.1 (8.7)	0.5 (0.4)	0.3 (0.2)	3.0 (2.8)

「安全と安心を築く香川」の重要度について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「防災・減災社会の構築」92.4％が最も高く、次いで「安心して暮らせる水循環社会の確立」90.2％、「安心できる医療・介護の充実確保」89.5％などとなっている。

図表 5-(1)　安全と安心を築く香川（重要度）



P295～P302　数表参照

(2)安全と安心を築く香川(満足度)

問29　「みんなでつくるせとうち田園都市・香川」実現計画の基本方針「安全と安心を築く香川」についておたずねします。

「安全と安心を築く香川」の実現に向けて展開している[１]～[８]の分野について、あなたの＜満足度＞を、それぞれ（１）～（５）のうち、あてはまる番号を１つだけ選んで、○をつけてください。

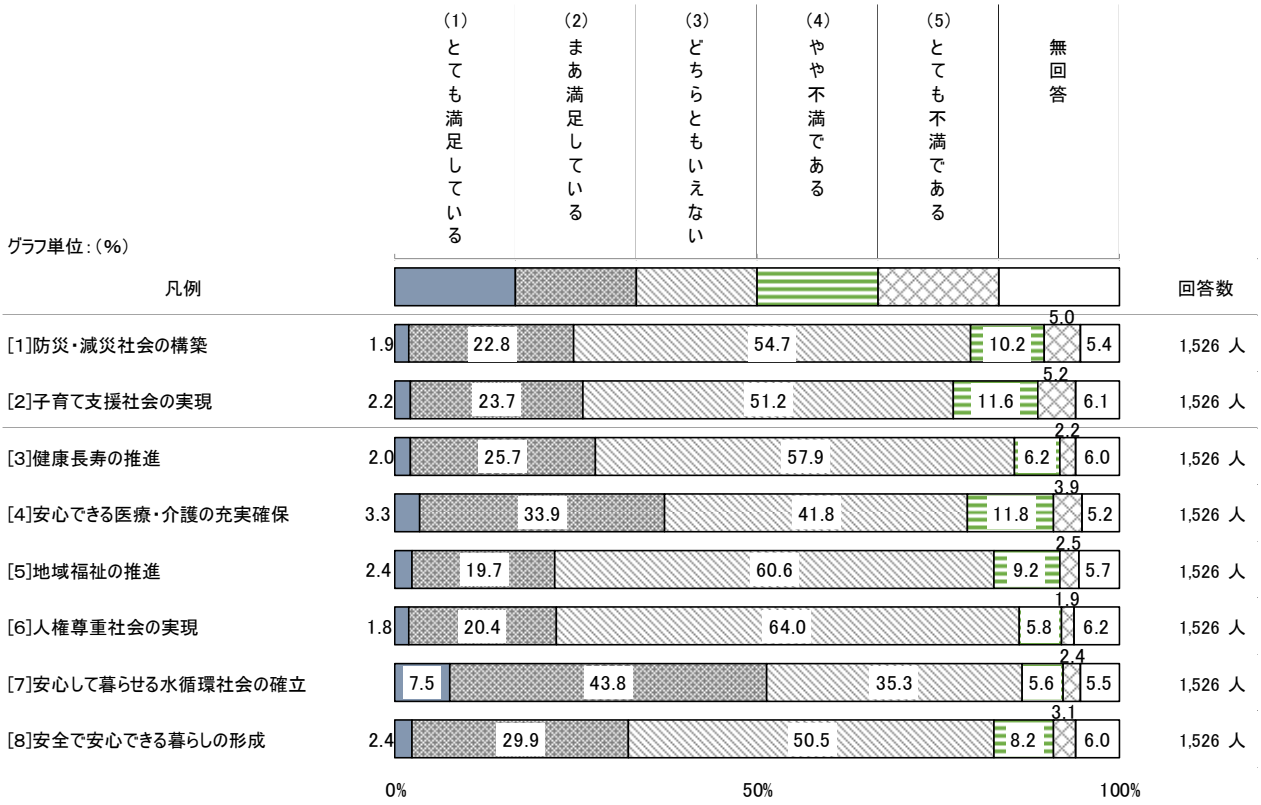
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】　（単位：%）

分　野	満足度					
	(1)とても満足している	(2)まあ満足している	(3)どちらともいえない	(4)やや不満である	(5)とても不満である	無回答
［１］　防災・減災社会の構築	1.9 (2.0)	22.8 (22.6)	54.7 (55.6)	10.2 (9.8)	5.0 (5.0)	5.4 (4.9)
［２］　子育て支援社会の実現	2.2 (2.4)	23.7 (22.8)	51.2 (50.3)	11.6 (12.9)	5.2 (6.1)	6.1 (5.6)
［３］　健康長寿の推進	2.0 (2.1)	25.7 (26.1)	57.9 (58.0)	6.2 (6.0)	2.2 (2.2)	6.0 (5.5)
［４］　安心できる医療・介護の充実確保	3.3 (3.2)	33.9 (34.4)	41.8 (42.4)	11.8 (11.4)	3.9 (3.7)	5.2 (4.8)
［５］　地域福祉の推進	2.4 (2.4)	19.7 (19.4)	60.6 (61.4)	9.2 (8.9)	2.5 (2.6)	5.7 (5.3)
［６］　人権尊重社会の実現	1.8 (2.0)	20.4 (21.1)	64.0 (63.2)	5.8 (6.2)	1.9 (1.9)	6.2 (5.7)
［７］　安心して暮らせる水循環社会の確立	7.5 (8.3)	43.8 (43.2)	35.3 (36.0)	5.6 (5.2)	2.4 (2.4)	5.5 (5.1)
［８］　安全で安心できる暮らしの形成	2.4 (2.4)	29.9 (29.7)	50.5 (50.6)	8.2 (8.6)	3.1 (3.2)	6.0 (5.5)

「安心と安全を築く香川」の満足度について、すべての分野で「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っており、特に「安心して暮らせる水循環社会の確立」の満足度が高くなっている。

図表 5-(2)　安全と安心を築く香川（満足度）



P295～P302　数表参照

(3)新しい流れをつくる香川(重要度)

問30　「みんなでつくるせとうち田園都市・香川」実現計画の基本方針「新しい流れをつくる香川」についておたずねします。

「新しい流れをつくる香川」の実現に向けて展開している[９]～[17]の分野について、あなたの＜重要度＞を、それぞれ（１）～（５）のうち、あてはまる番号を１つだけ選んで、○をつけてください。

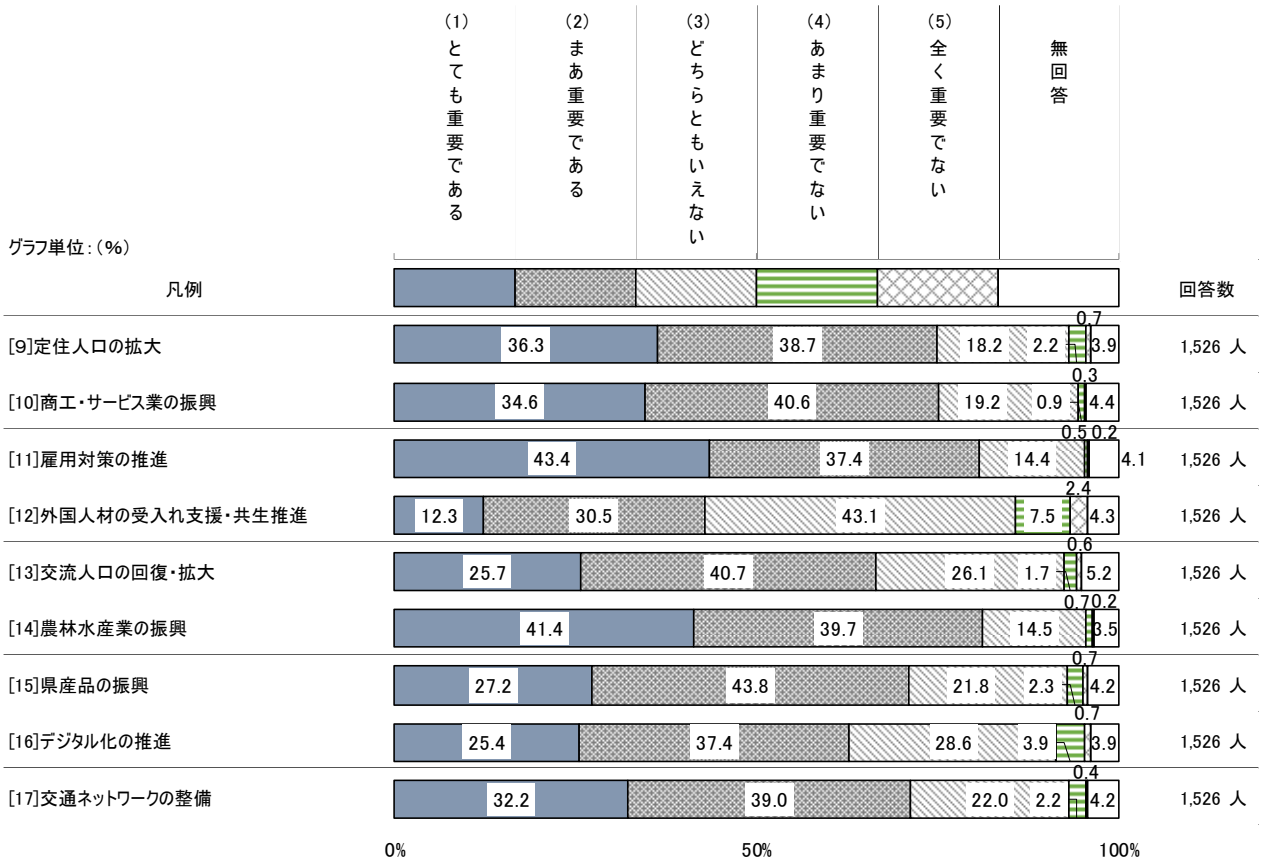
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】　（単位：%）

分　野	重要度					
	(1)とても重要である	(2)まあ重要である	(3)どちらともいえない	(4)あまり重要でない	(5)全く重要でない	無回答
［９］　定住人口の拡大	36.3 (36.5)	38.7 (38.7)	18.2 (17.9)	2.2 (2.5)	0.7 (0.8)	3.9 (3.7)
［10］　商工・サービス業の振興	34.6 (35.2)	40.6 (40.7)	19.2 (18.7)	0.9 (0.9)	0.3 (0.3)	4.4 (4.2)
［11］　雇用対策の推進	43.4 (45.1)	37.4 (36.3)	14.4 (14.1)	0.5 (0.5)	0.2 (0.2)	4.1 (3.9)
［12］　外国人材の受入れ支援・共生推進	12.3 (13.6)	30.5 (30.7)	43.1 (41.7)	7.5 (7.4)	2.4 (2.6)	4.3 (4.1)
［13］　交流人口の回復・拡大	25.7 (27.2)	40.7 (40.9)	26.1 (24.7)	1.7 (1.6)	0.6 (0.6)	5.2 (4.9)
［14］　農林水産業の振興	41.4 (42.2)	39.7 (39.5)	14.5 (14.1)	0.7 (0.7)	0.2 (0.2)	3.5 (3.3)
［15］　県産品の振興	27.2 (27.6)	43.8 (43.7)	21.8 (21.7)	2.3 (2.3)	0.7 (0.7)	4.2 (4.1)
［16］　デジタル化の推進	25.4 (27.1)	37.4 (36.6)	28.6 (27.9)	3.9 (3.9)	0.7 (0.7)	3.9 (3.7)
［17］　交通ネットワークの整備	32.2 (33.7)	39.0 (38.3)	22.0 (21.6)	2.2 (2.0)	0.4 (0.4)	4.2 (4.0)

「新しい流れをつくる香川」の重要度について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「農林水産業の振興」81.1%が最も高く、次いで「雇用対策の推進」80.8%、「商工・サービス業の振興」75.2%などとなっている。

図表 5-(3)　新しい流れをつくる香川（重要度）



P303～P311　数表参照

（4）新しい流れをつくる香川（満足度）

問30　「みんなでつくるせとうち田園都市・香川」実現計画の基本方針「新しい流れをつくる香川」についておたずねします。

「新しい流れをつくる香川」の実現に向けて展開している［９］～［17］の分野について、あなたの＜満足度＞を、それぞれ（１）～（５）のうち、あてはまる番号を１つだけ選んで、○をつけてください。

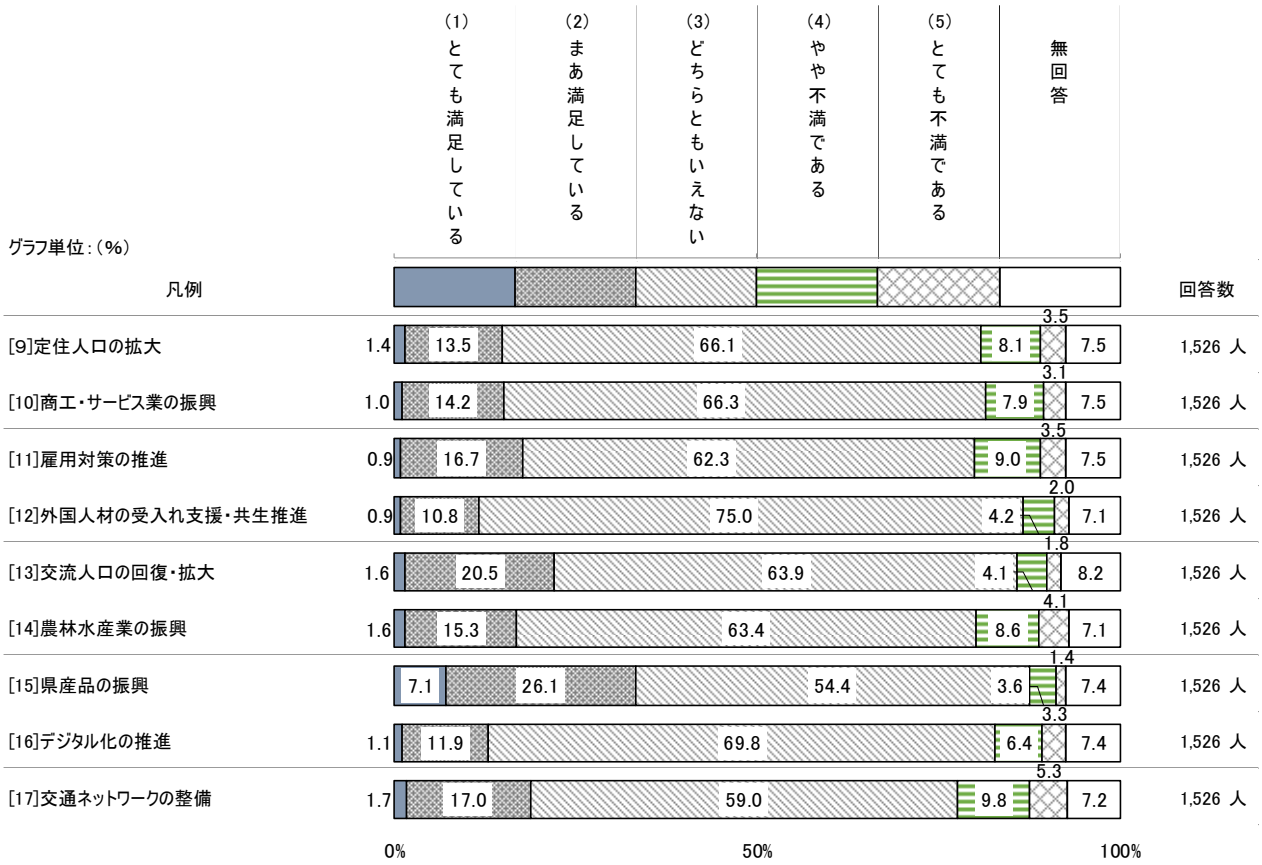
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】　（単位：％）

分　野	満足度					
	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	無回答
［９］　定住人口の拡大	1.4 (1.8)	13.5 (13.6)	66.1 (65.8)	8.1 (8.4)	3.5 (3.4)	7.5 (7.1)
［10］　商工・サービス業の振興	1.0 (1.2)	14.2 (14.5)	66.3 (65.5)	7.9 (8.5)	3.1 (3.3)	7.5 (7.0)
［11］　雇用対策の推進	0.9 (1.1)	16.7 (17.5)	62.3 (61.3)	9.0 (9.4)	3.5 (3.7)	7.5 (7.0)
［12］　外国人材の受入れ支援・共生推進	0.9 (1.1)	10.8 (11.7)	75.0 (73.9)	4.2 (4.6)	2.0 (2.2)	7.1 (6.6)
［13］　交流人口の回復・拡大	1.6 (1.8)	20.5 (21.6)	63.9 (63.1)	4.1 (4.2)	1.8 (1.8)	8.2 (7.6)
［14］　農林水産業の振興	1.6 (1.8)	15.3 (16.1)	63.4 (63.0)	8.6 (8.4)	4.1 (4.2)	7.1 (6.6)
［15］　県産品の振興	7.1 (8.2)	26.1 (26.9)	54.4 (53.1)	3.6 (3.3)	1.4 (1.4)	7.4 (7.0)
［16］　デジタル化の推進	1.1 (1.3)	11.9 (12.7)	69.8 (69.1)	6.4 (6.5)	3.3 (3.4)	7.4 (6.9)
［17］　交通ネットワークの整備	1.7 (1.9)	17.0 (17.9)	59.0 (58.4)	9.8 (10.0)	5.3 (5.1)	7.2 (6.7)

「新しい流れをつくる香川」の満足度について、すべての分野で「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っており、特に「県産品の振興」の満足度が高くなっている。

図表 5-(4)　新しい流れをつくる香川（満足度）



P303～P311　数表参照

(5)誰もが輝く香川(重要度)

問31　「みんなでつくるせとうち田園都市・香川」実現計画の基本方針「誰もが輝く香川」についておたずねします。

「誰もが輝く香川」の実現に向けて展開している[18]～[26]の分野について、あなたの＜重要度＞を、それぞれ（１）～（５）のうち、あてはまる番号を１つだけ選んで、○をつけてください。

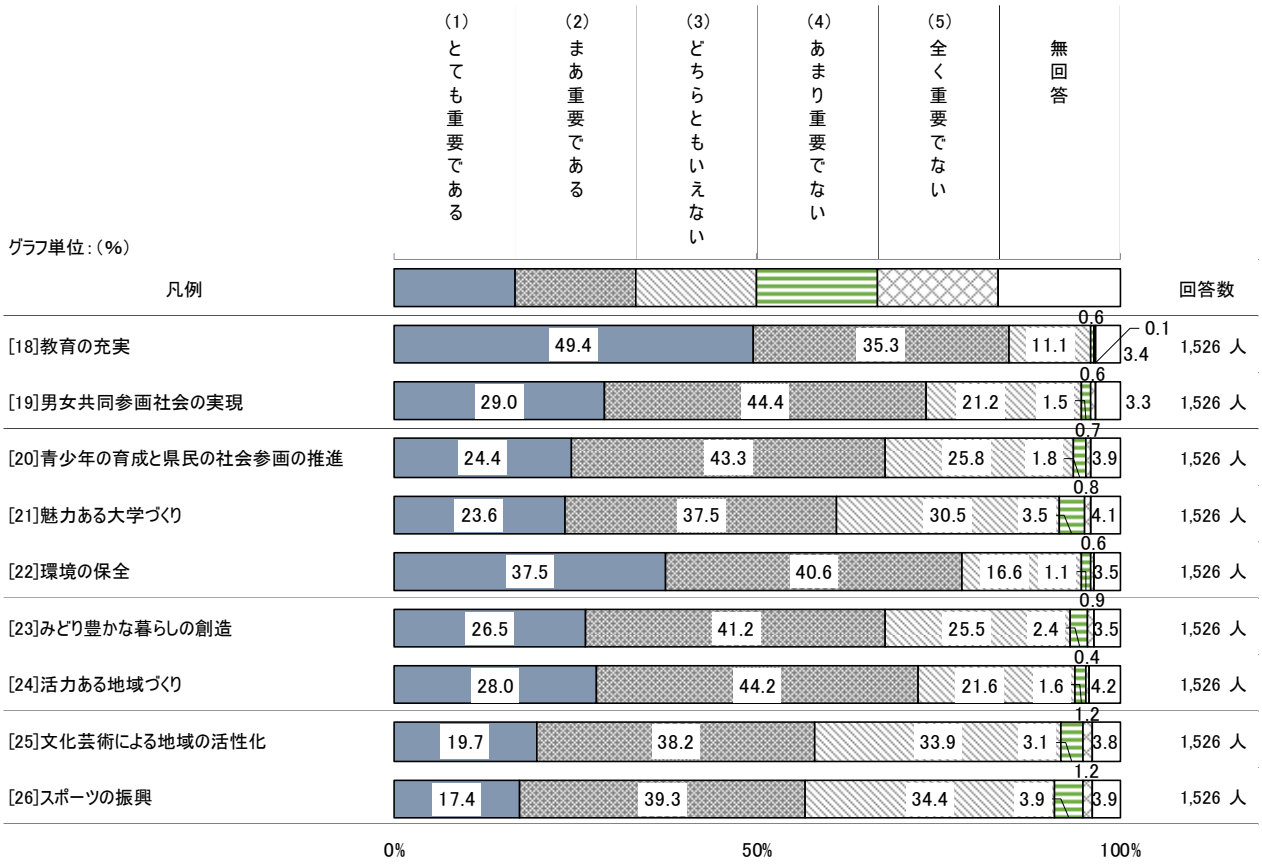
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】　（単位：%）

分　野	重要度					
	(1)とても重要である	(2)まあ重要である	(3)どちらともいえない	(4)あまり重要でない	(5)全く重要でない	無回答
[18]　教育の充実	49.4 (51.4)	35.3 (33.9)	11.1 (10.7)	0.6 (0.7)	0.1 (0.1)	3.4 (3.2)
[19]　男女共同参画社会の実現	29.0 (31.3)	44.4 (42.9)	21.2 (20.3)	1.5 (1.5)	0.6 (0.8)	3.3 (3.2)
[20]　青少年の育成と県民の社会参画の推進	24.4 (25.6)	43.3 (42.9)	25.8 (25.1)	1.8 (1.9)	0.7 (0.8)	3.9 (3.7)
[21]　魅力ある大学づくり	23.6 (24.4)	37.5 (37.7)	30.5 (29.8)	3.5 (3.4)	0.8 (0.9)	4.1 (3.8)
[22]　環境の保全	37.5 (38.4)	40.6 (40.1)	16.6 (16.3)	1.1 (1.2)	0.6 (0.6)	3.5 (3.4)
[23]　みどり豊かな暮らしの創造	26.5 (27.6)	41.2 (41.1)	25.5 (24.7)	2.4 (2.4)	0.9 (0.9)	3.5 (3.3)
[24]　活力ある地域づくり	28.0 (29.1)	44.2 (44.0)	21.6 (21.0)	1.6 (1.5)	0.4 (0.3)	4.2 (4.0)
[25]　文化芸術による地域の活性化	19.7 (20.6)	38.2 (38.5)	33.9 (33.0)	3.1 (3.1)	1.2 (1.3)	3.8 (3.6)
[26]　スポーツの振興	17.4 (18.4)	39.3 (39.2)	34.4 (33.6)	3.9 (3.9)	1.2 (1.2)	3.9 (3.6)

「誰もが輝く香川」の重要度について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「教育の充実」84.7%が最も高く、次いで「環境の保全」78.1%、「男女共同参画社会の実現」73.4%などとなっている。

図表 5-(5)　誰もが輝く香川（重要度）



P312～P320　数表参照

(6)誰もが輝く香川(満足度)

問31　「みんなでつくるせとうち田園都市・香川」実現計画の基本方針「誰もが輝く香川」についておたずねします。

「誰もが輝く香川」の実現に向けて展開している[18]～[26]の分野について、あなたの＜満足度＞を、それぞれ（１）～（５）のうち、あてはまる番号を１つだけ選んで、○をつけてください。

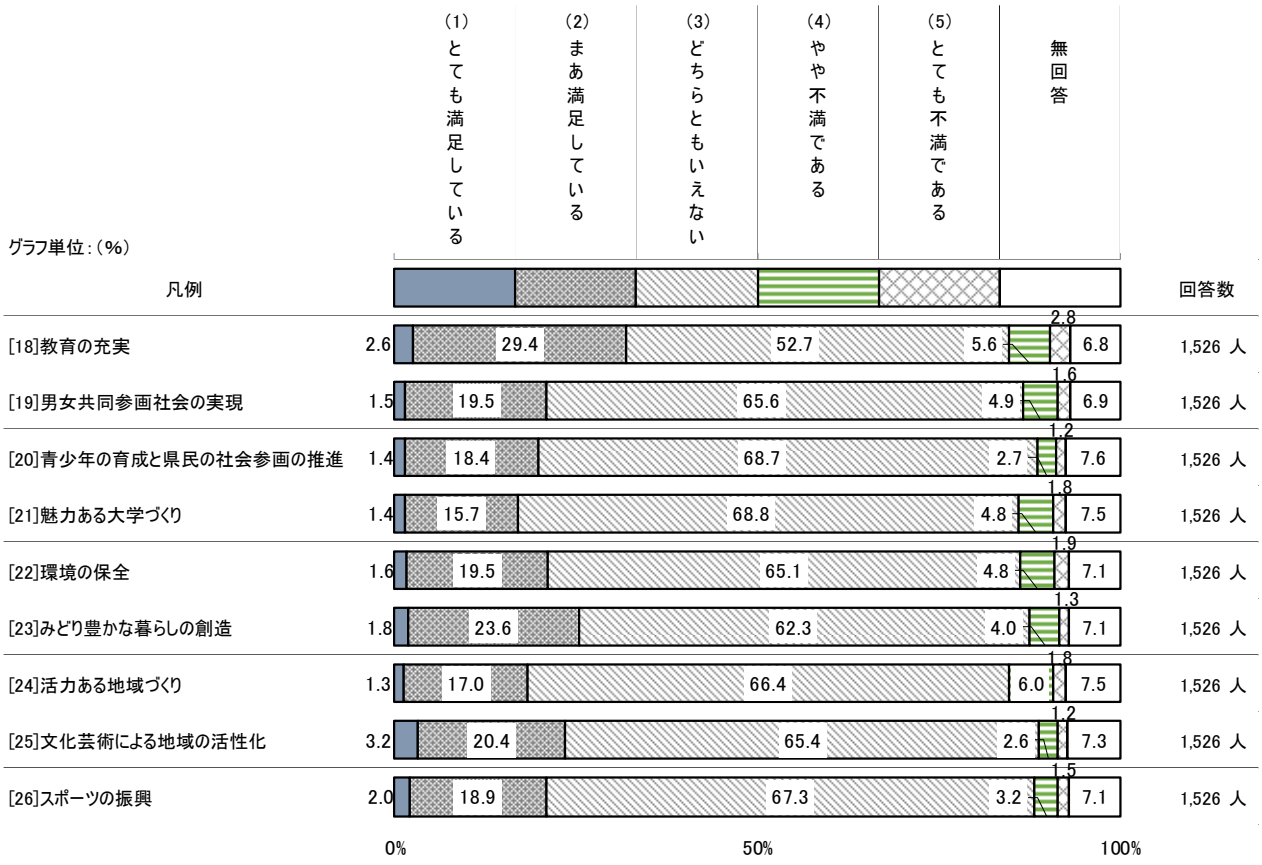
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】　（単位：%）

分　野	満足度					
	(1)とても満足している	(2)まあ満足している	(3)どちらともいえない	(4)やや不満である	(5)とても不満である	無回答
[18]　教育の充実	2.6 (3.0)	29.4 (29.4)	52.7 (52.2)	5.6 (6.0)	2.8 (3.0)	6.8 (6.3)
[19]　男女共同参画社会の実現	1.5 (1.7)	19.5 (20.1)	65.6 (64.7)	4.9 (5.5)	1.6 (1.7)	6.9 (6.4)
[20]　青少年の育成と県民の社会参画の推進	1.4 (1.4)	18.4 (19.3)	68.7 (68.2)	2.7 (2.8)	1.2 (1.2)	7.6 (7.1)
[21]　魅力ある大学づくり	1.4 (1.7)	15.7 (16.3)	68.8 (68.1)	4.8 (4.8)	1.8 (2.1)	7.5 (7.0)
[22]　環境の保全	1.6 (1.7)	19.5 (20.1)	65.1 (65.1)	4.8 (4.8)	1.9 (1.7)	7.1 (6.6)
[23]　みどり豊かな暮らしの創造	1.8 (1.9)	23.6 (24.4)	62.3 (62.0)	4.0 (3.9)	1.3 (1.2)	7.1 (6.6)
[24]　活力ある地域づくり	1.3 (1.4)	17.0 (17.7)	66.4 (65.8)	6.0 (6.3)	1.8 (1.7)	7.5 (7.1)
[25]　文化芸術による地域の活性化	3.2 (3.7)	20.4 (21.2)	65.4 (64.7)	2.6 (2.4)	1.2 (1.1)	7.3 (6.8)
[26]　スポーツの振興	2.0 (2.2)	18.9 (19.6)	67.3 (66.9)	3.2 (3.2)	1.5 (1.5)	7.1 (6.6)

「誰もが輝く香川」の満足度について、すべての分野で「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っており、特に「教育の充実」の満足度が高くなっている。

図表 5-(6)　誰もが輝く香川（満足度）



P312～P320　数表参照

防災・減災社会の構築の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』90.8%、『女性』94.4%と、いずれも９割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも９割を超え、『18～19 歳』において 100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも８割を超え、『主婦・主夫』において 94.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも９割を超え、『東讃圏域』において 94.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも９割を超え、『３年未満』において 95.7%と最も高くなっている。

防災・減災社会の構築の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』25.0%、『女性』25.0%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』17.7%、『女性』13.1%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

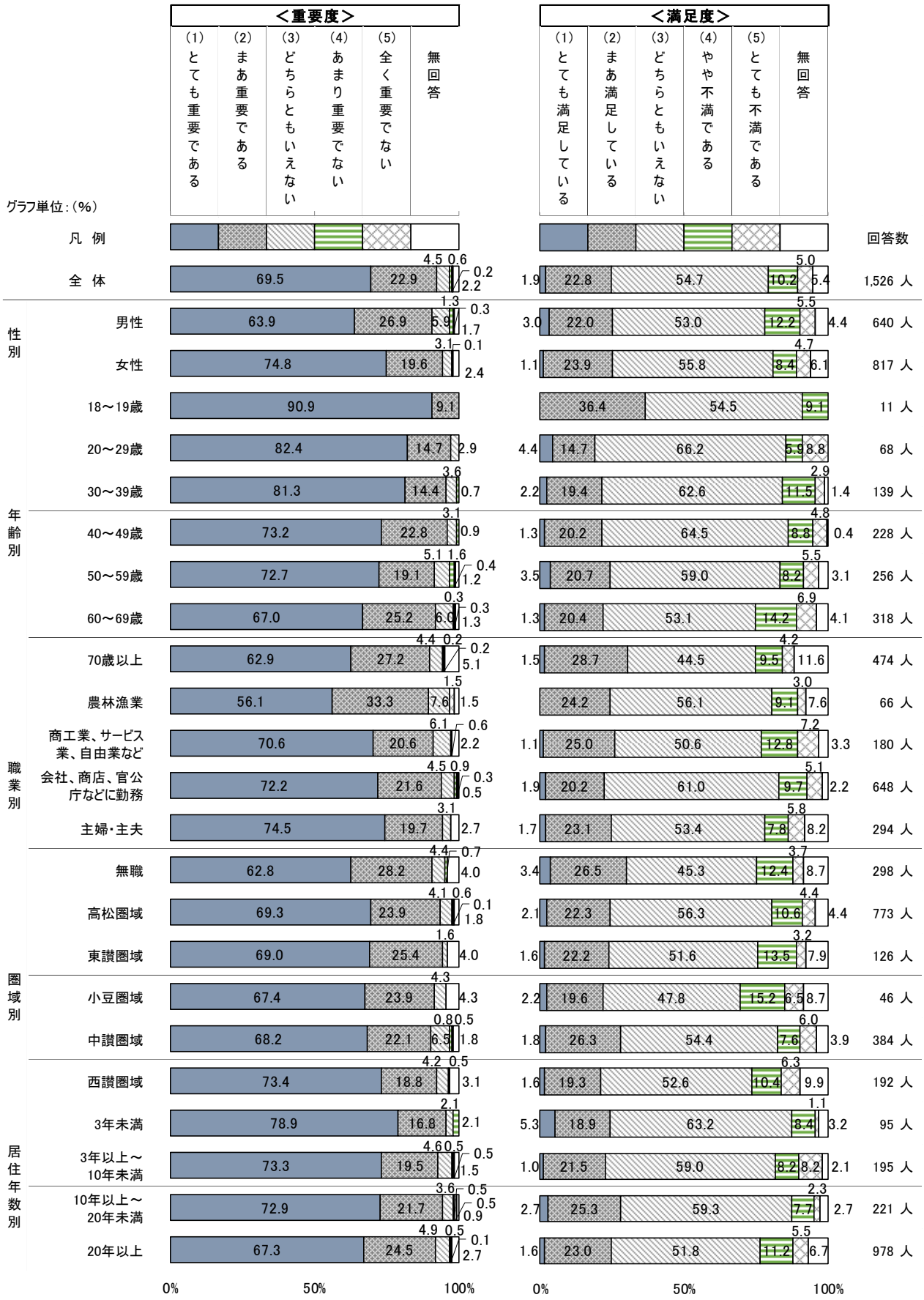
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(1)【防災・減災社会の構築】



P295　数表参照

子育て支援社会の実現の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』84.1%、『女性』85.8%と、いずれも８割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも７割を超え、『18～19 歳』において 100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも８割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において 88.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも８割を超え、『小豆圏域』において 91.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも８割を超え、『３年未満』において 93.7%と最も高くなっている。

子育て支援社会の実現の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』24.1%、『女性』28.2%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』20.7%、『女性』13.8%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

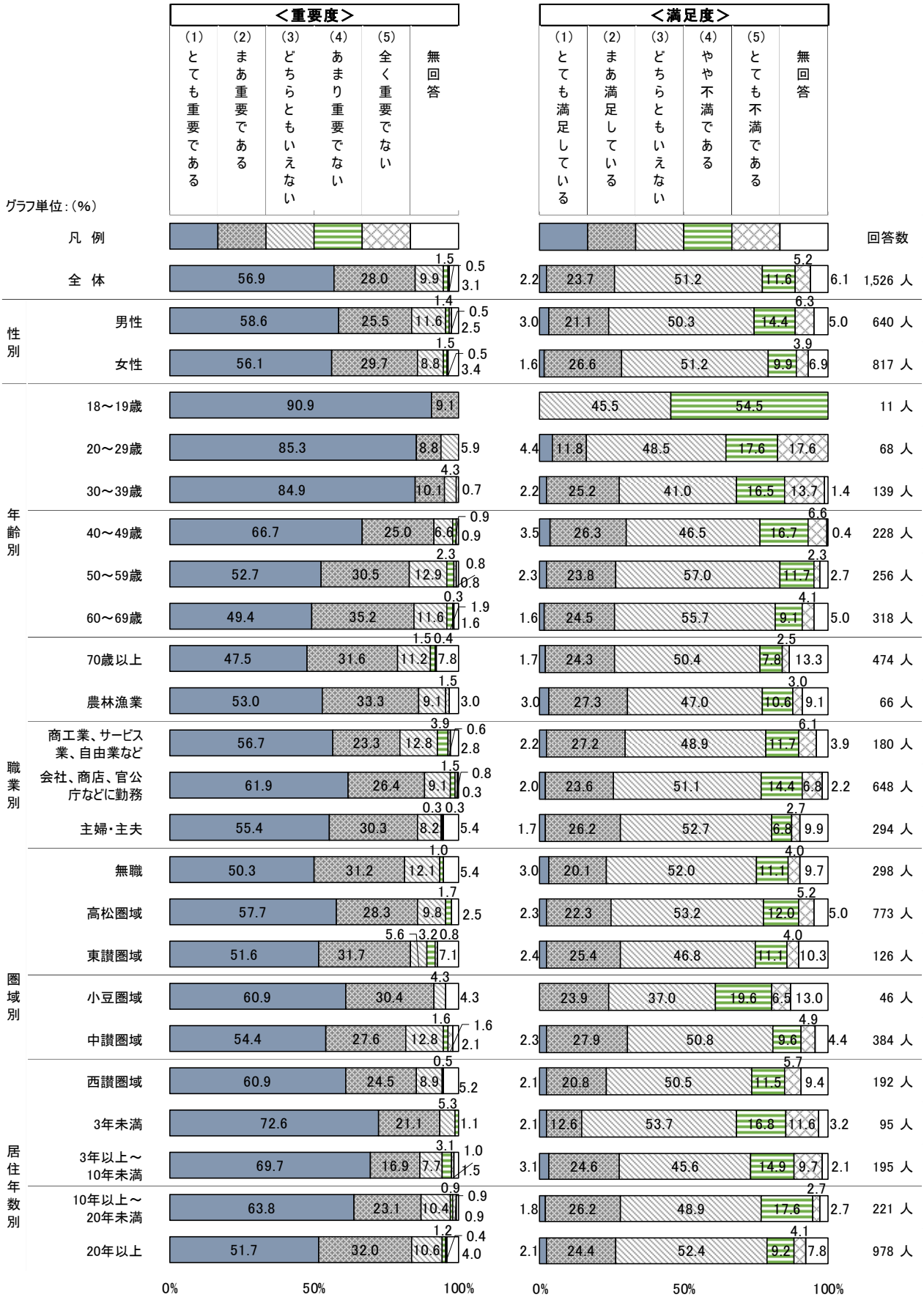
年齢別にみると、『18～19 歳』、『20～29 歳』、『30～39 歳』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、そのほかの年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』を除くすべての圏域で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『小豆圏域』では【不満である】の割合 26.1%が【満足している】の割合 23.9%を上回っている。

居住年数別にみると、『３年未満』を除くすべての居住年数で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『３年未満』では【不満である】の割合 28.4%が【満足している】の割合 14.7%を上回っている。

図表 6-(2)【子育て支援社会の実現】



P296　数表参照

健康長寿の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』72.2%、『女性』82.2%と、いずれも７割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも７割を超え、『18～19 歳』において 100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも７割を超え、『主婦・主夫』において 81.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも７割を超え、『小豆圏域』において 78.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも７割を超え、『３年未満』において 83.2%と最も高くなっている。

健康長寿の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』23.1%、『女性』31.3%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』9.6%、『女性』7.7%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

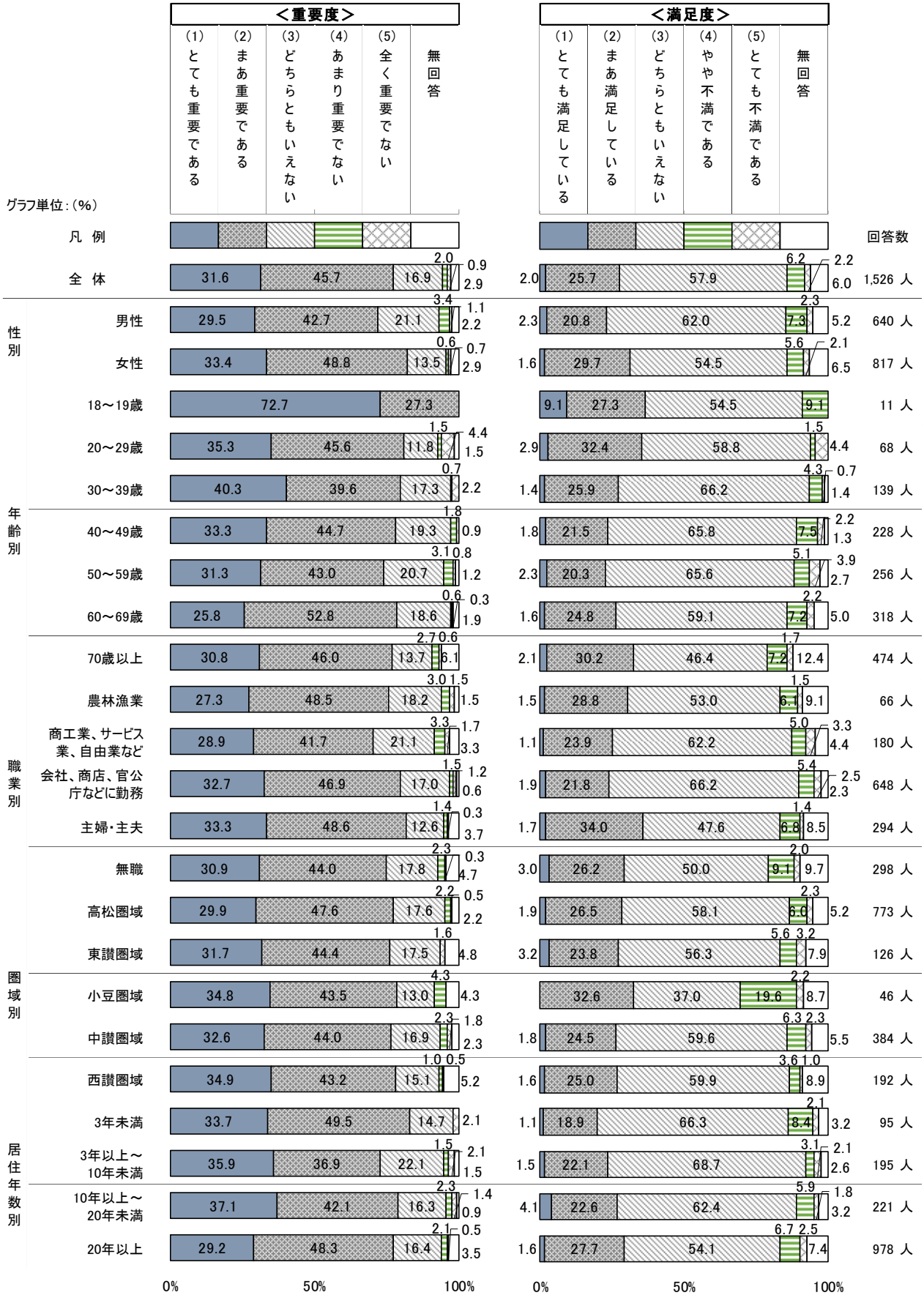
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(3)【健康長寿の推進】



P297　数表参照

安心できる医療・介護の充実確保の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』87.7%、『女性』91.4%と、いずれも８割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも８割を超え、『18～19 歳』において 100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも８割を超え、『主婦・主夫』において 91.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも８割を超え、『西讃圏域』において 91.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも８割を超え、『３年未満』において 92.6%と最も高くなっている。

安心できる医療・介護の充実確保の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』37.3%、『女性』38.3%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』16.7%、『女性』14.3%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

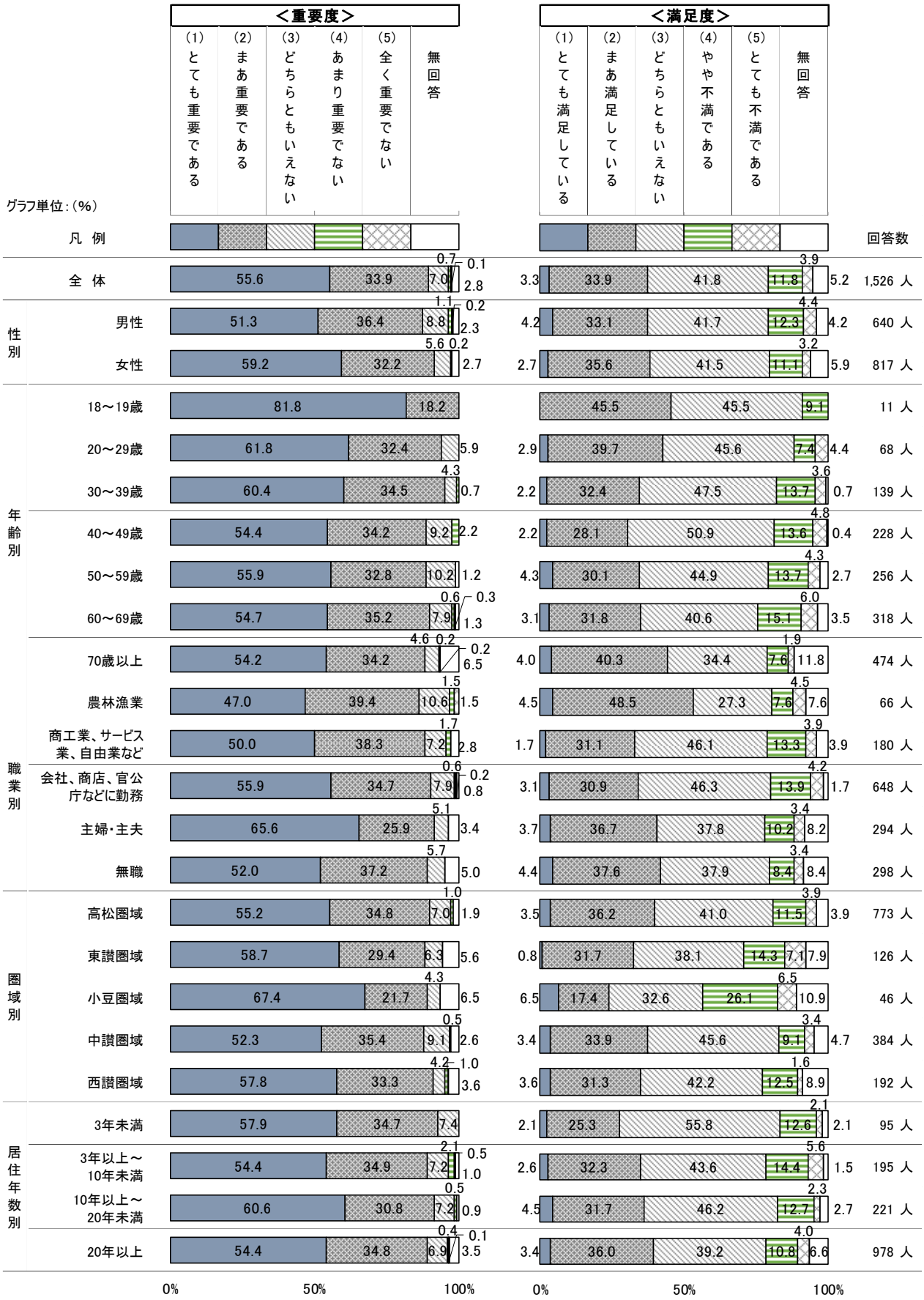
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』を除くすべての圏域で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『小豆圏域』では【不満である】の割合 32.6%が【満足している】の割合 23.9%を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(4)【安心できる医療・介護の充実確保】



P298　数表参照

地域福祉の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』78.0%、『女性』84.5%と、いずれも７割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも７割を超え、『18～19 歳』において 100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも６割を超え、『主婦・主夫』において 85.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも７割を超え、『小豆圏域』において 89.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも８割を超え、『３年未満』において 84.2%と最も高くなっている。

地域福祉の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』22.4%、『女性』22.4%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』12.2%、『女性』11.3%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

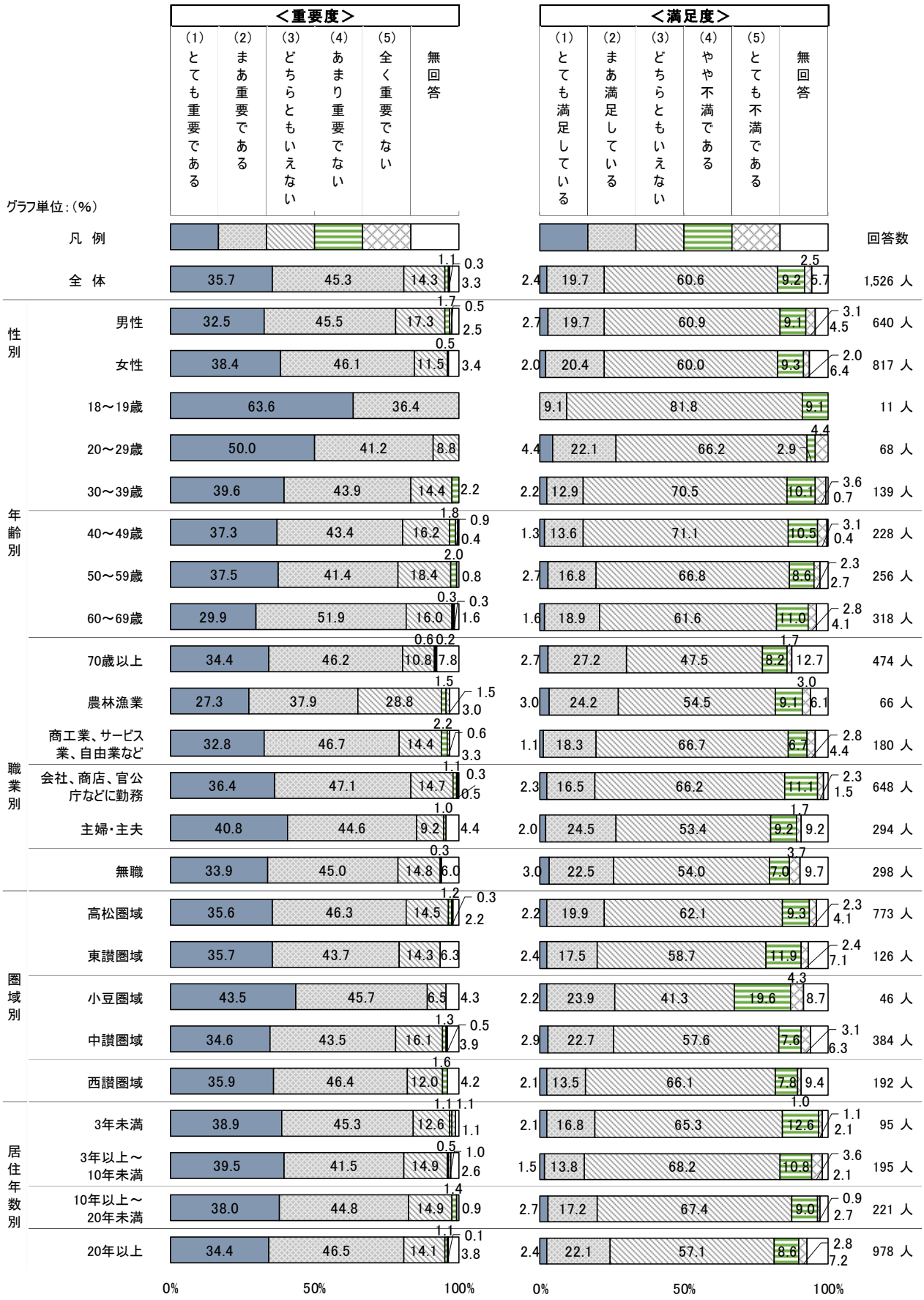
年齢別にみると、『18～19 歳』において、【満足している】と【不満である】の割合が同率の 9.1%で、そのほかの年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(5)【地域福祉の推進】



P299　数表参照

人権尊重社会の実現の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』61.1％、『女性』66.5％と、いずれも６割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも５割を超え、『18～19 歳』において 100.0％と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも５割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において 66.2％と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも５割を超え、『小豆圏域』において 69.5％と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも６割を超え、『３年未満』において 70.6％と最も高くなっている。

人権尊重社会の実現の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』23.3％、『女性』22.0％で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』8.4％、『女性』6.6％となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

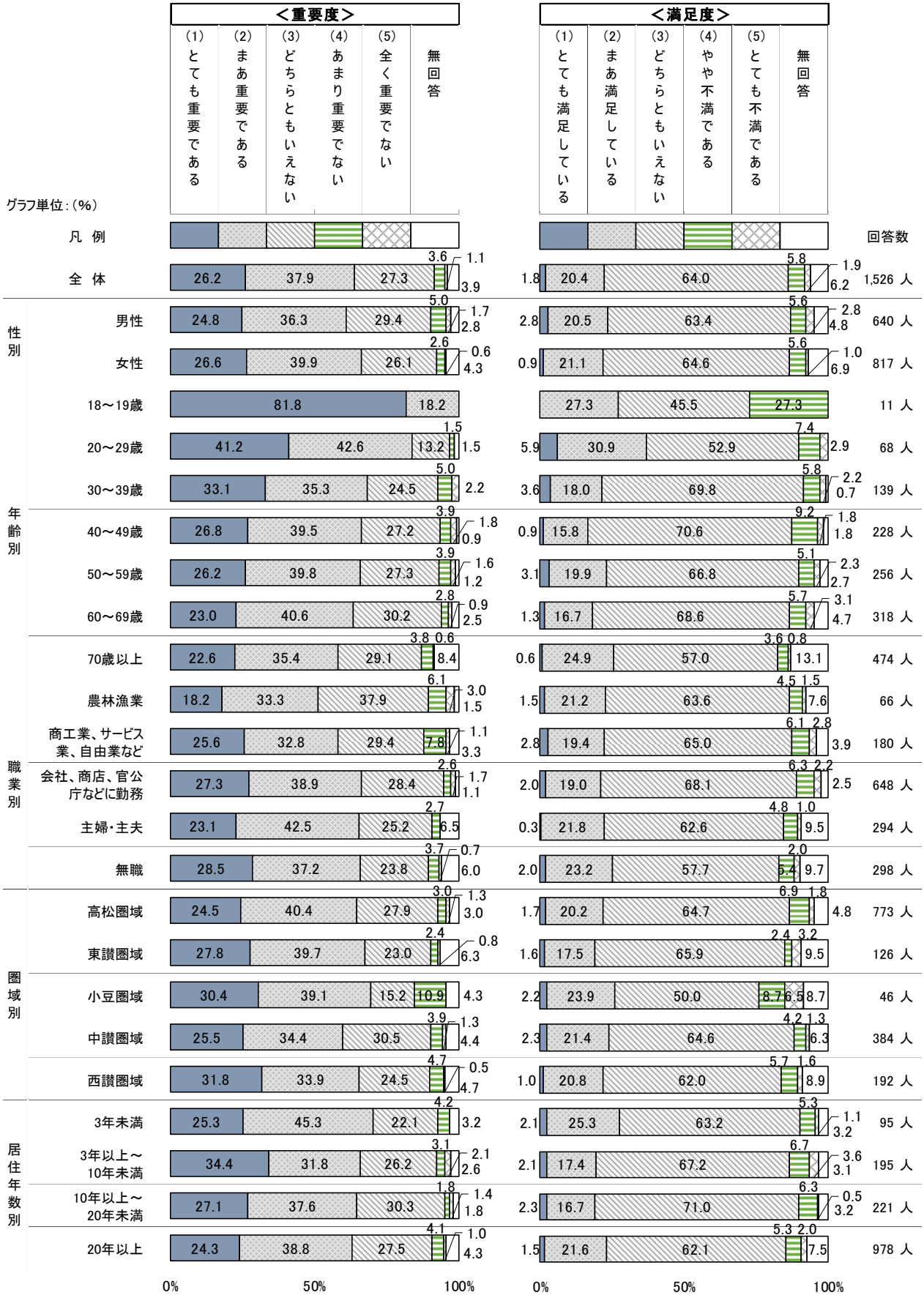
年齢別にみると、『18～19 歳』において、【満足している】と【不満である】の割合が同率の 27.3％で、そのほかの年齢では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(6)【人権尊重社会の実現】



P300　数表参照

安心して暮らせる水循環社会の確立の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』89.2%、『女性』91.4%と、いずれも８割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも８割を超え、『18～19 歳』において 100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも８割を超え、『主婦・主夫』において 92.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも８割を超え、『高松圏域』において 91.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも８割を超え、『３年未満』において 92.7%と最も高くなっている。

安心して暮らせる水循環社会の確立の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』52.2%、『女性』52.1%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』9.0%、『女性』7.0%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

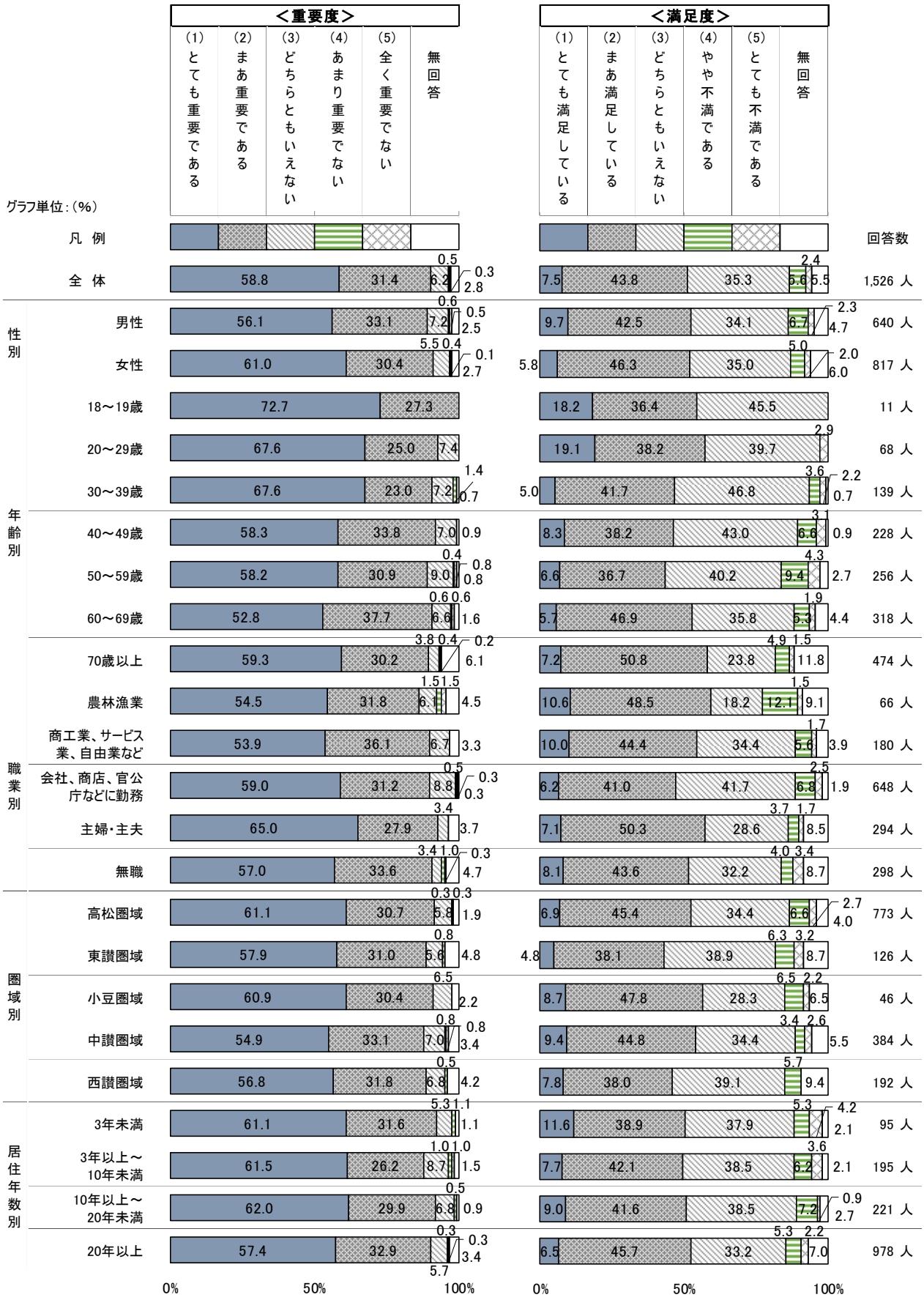
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(7)【安心して暮らせる水循環社会の確立】



P301　数表参照

安全で安心できる暮らしの形成の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』85.2%、『女性』89.2%と、いずれも８割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも８割を超え、『18～19 歳』において 100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも８割を超え、『主婦・主夫』において 90.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも８割を超え、『高松圏域』において 87.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも８割を超え、『３年未満』において 94.7%と最も高くなっている。

安全で安心できる暮らしの形成の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』34.7%、『女性』31.5%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』12.8%、『女性』10.2%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

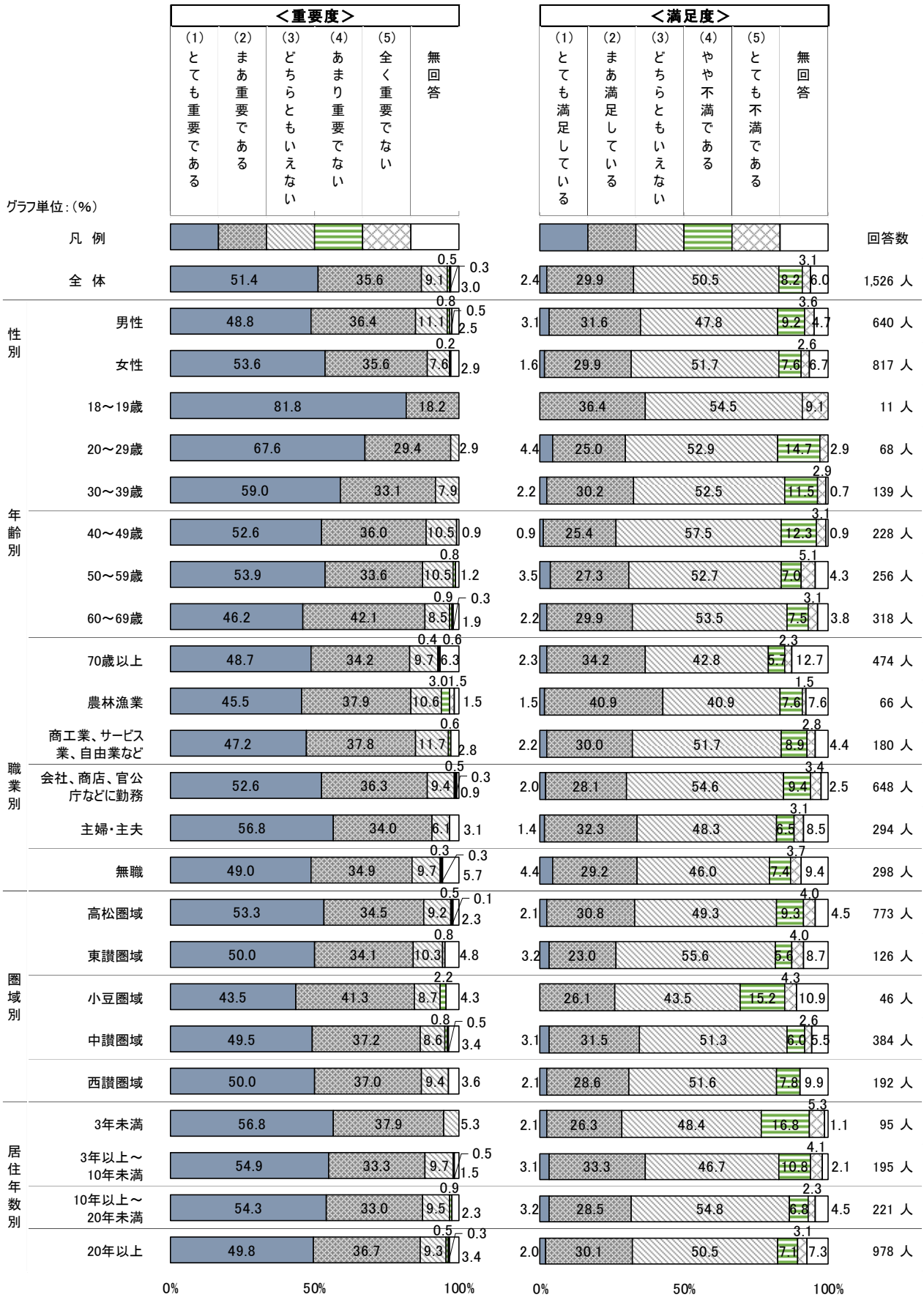
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(8)【安全で安心できる暮らしの形成】



P302　数表参照

定住人口の拡大の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』76.3%、『女性』75.0%と、いずれも７割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも７割を超え、『30～39 歳』において 79.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも６割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において 78.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも７割を超え、『小豆圏域』において 89.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも７割を超え、『３年未満』において 82.1%と最も高くなっている。

定住人口の拡大の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』13.7%、『女性』16.3%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』15.3%、『女性』8.8%となっており、『男性』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っており、『女性』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

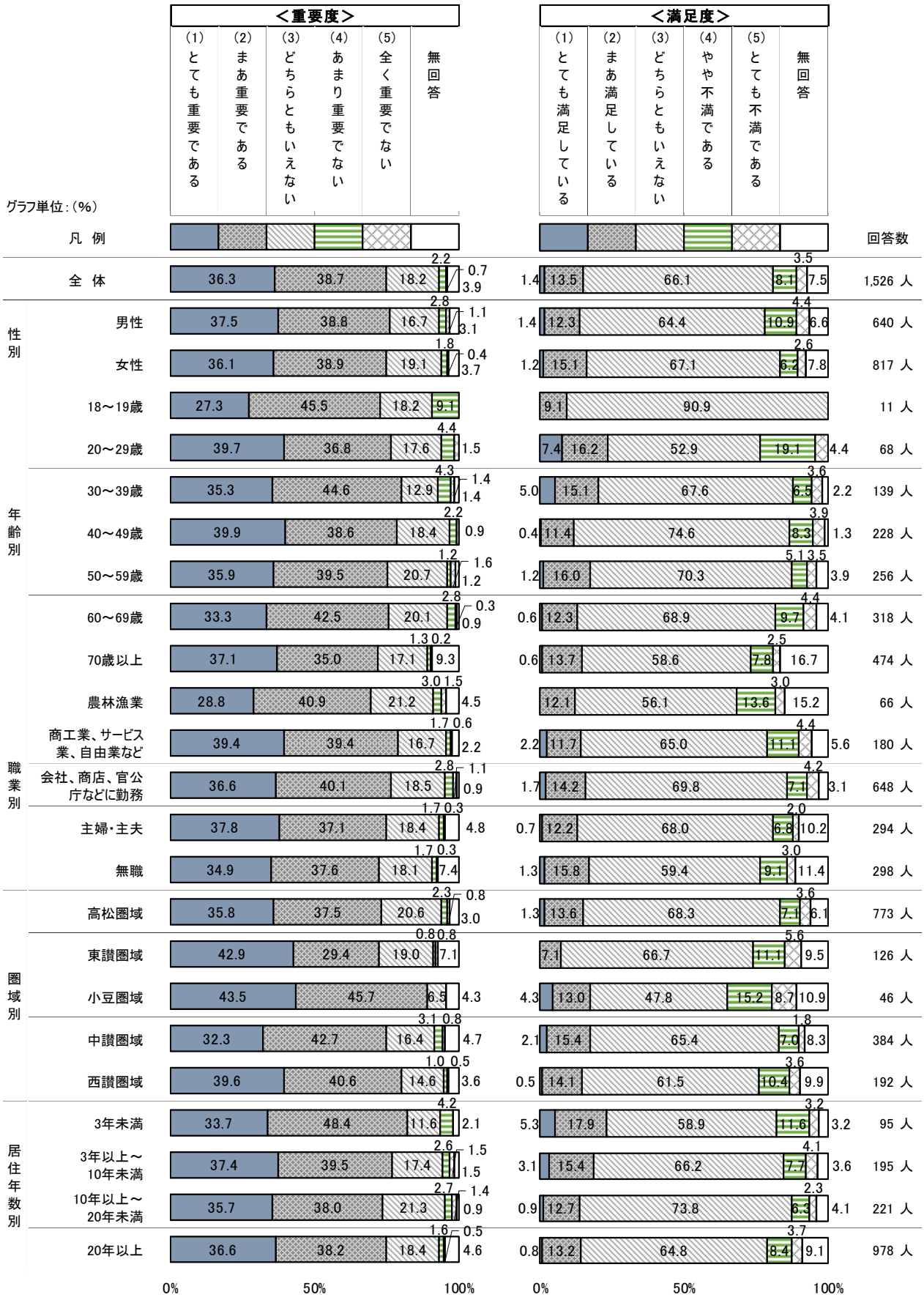
年齢別にみると、『40～49 歳』、『60～69 歳』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『40～49 歳』、『60～69 歳』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』、『小豆圏域』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『東讃圏域』、『小豆圏域』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(9)【定住人口の拡大】



P303　数表参照

商工・サービス業の振興の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』74.4%、『女性』76.2%と、いずれも７割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも６割を超え、『40～49 歳』において 83.3%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも６割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において 82.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも６割を超え、『小豆圏域』において 86.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも７割を超え、『３年未満』において 84.2%と最も高くなっている。

商工・サービス業の振興の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』14.5%、『女性』16.2%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』13.6%、『女性』9.2%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

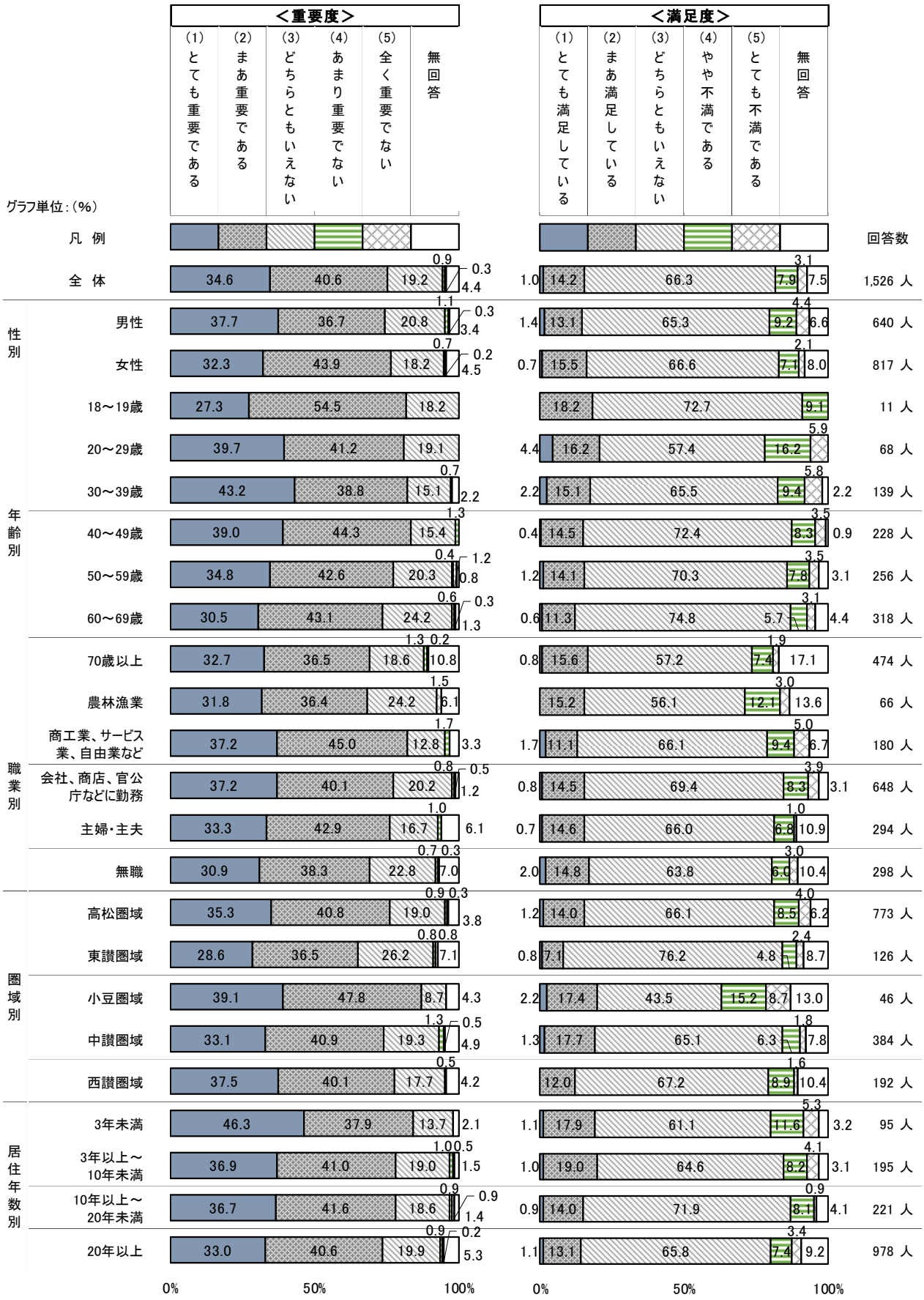
年齢別にみると、『20～29 歳』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『20～29 歳』では【不満である】の割合 22.1%が【満足している】の割合 20.6%を上回っている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』を除くすべての職業で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『商工業、サービス業、自由業など』では【不満である】の割合 14.4%が【満足している】の割合 12.8%を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』を除くすべての圏域で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『小豆圏域』では【不満である】の割合 23.9%が【満足している】の割合 19.6%を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】割合を上回っている。

図表 6-(10)【商工・サービス業の振興】



P304　数表参照

雇用対策の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』80.4%、『女性』81.6%と、いずれも８割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも７割を超え、『30～39 歳』において 89.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも７割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において 85.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも７割を超え、『小豆圏域』において 82.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも７割を超え、『３年未満』において 88.4%と最も高くなっている。

雇用対策の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』15.9%、『女性』19.7%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』14.4%、『女性』11.3%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

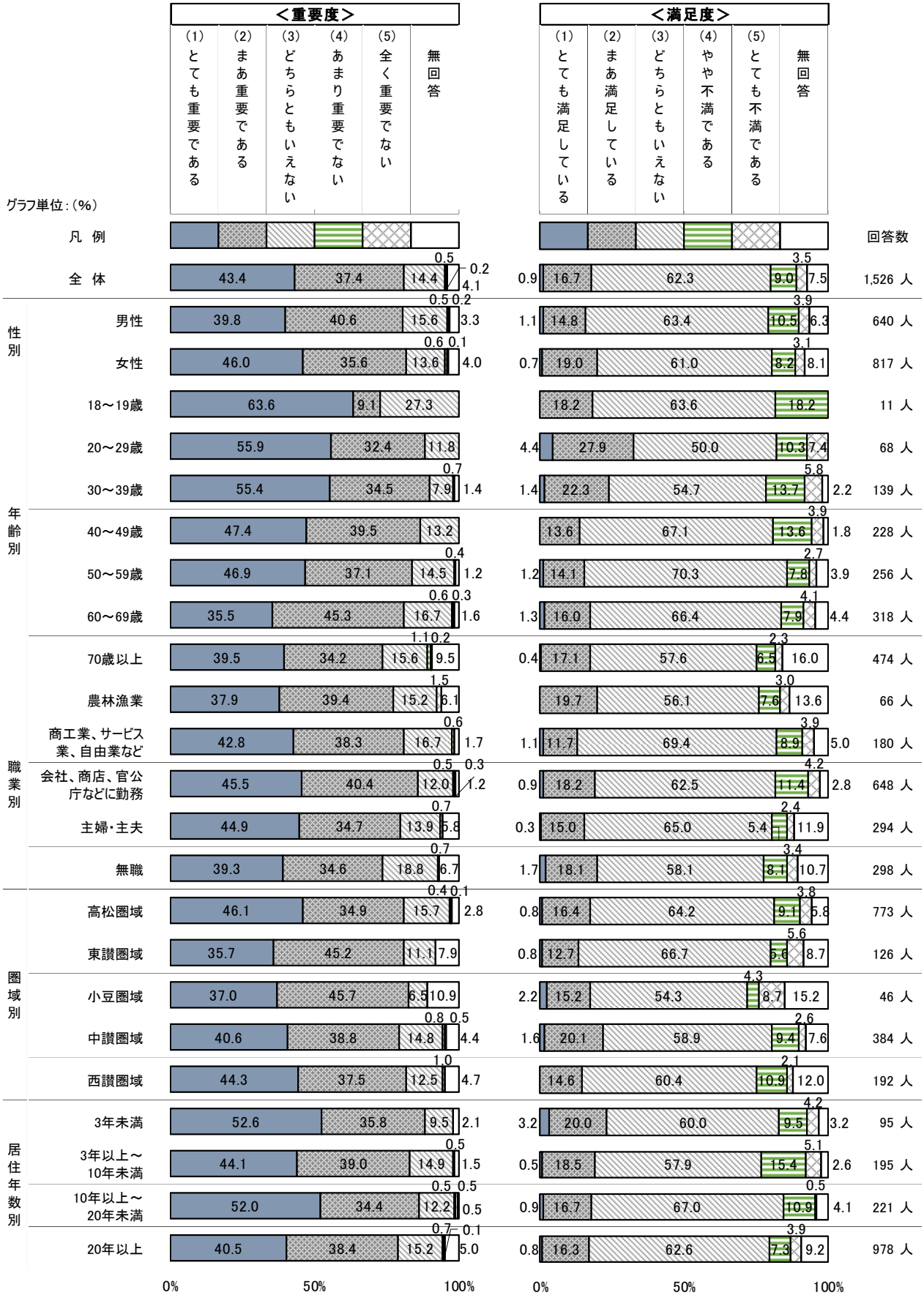
年齢別にみると、『18～19 歳』、『40～49 歳』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『18～19 歳』では【満足している】と【不満である】の割合が同率の 18.2%で、『40～49 歳』では【不満である】の割合 17.5%が【満足している】の割合 13.6%を上回っている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』を除くすべての職業で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『商工業、サービス業、自由業など』では【満足している】と【不満である】の割合が同率の 12.8%となっている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『３年以上～10 年未満』を除くすべての居住年数で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『３年以上～10 年未満』では【不満である】の割合 20.5%が【満足している】の割合 19.0%を上回っている。

図表 6-(11)【雇用対策の推進】



P305　数表参照

外国人材の受入れ支援・共生推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』41.4%、『女性』44.4%と、いずれも４割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも３割を超え、『18～19 歳』において 72.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも３割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において 44.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも３割を超え、『西讃圏域』において 45.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも４割を超え、『３年未満』において 55.8%と最も高くなっている。

外国人材の受入れ支援・共生推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』10.5%、『女性』13.3%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』7.8%、『女性』5.0%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

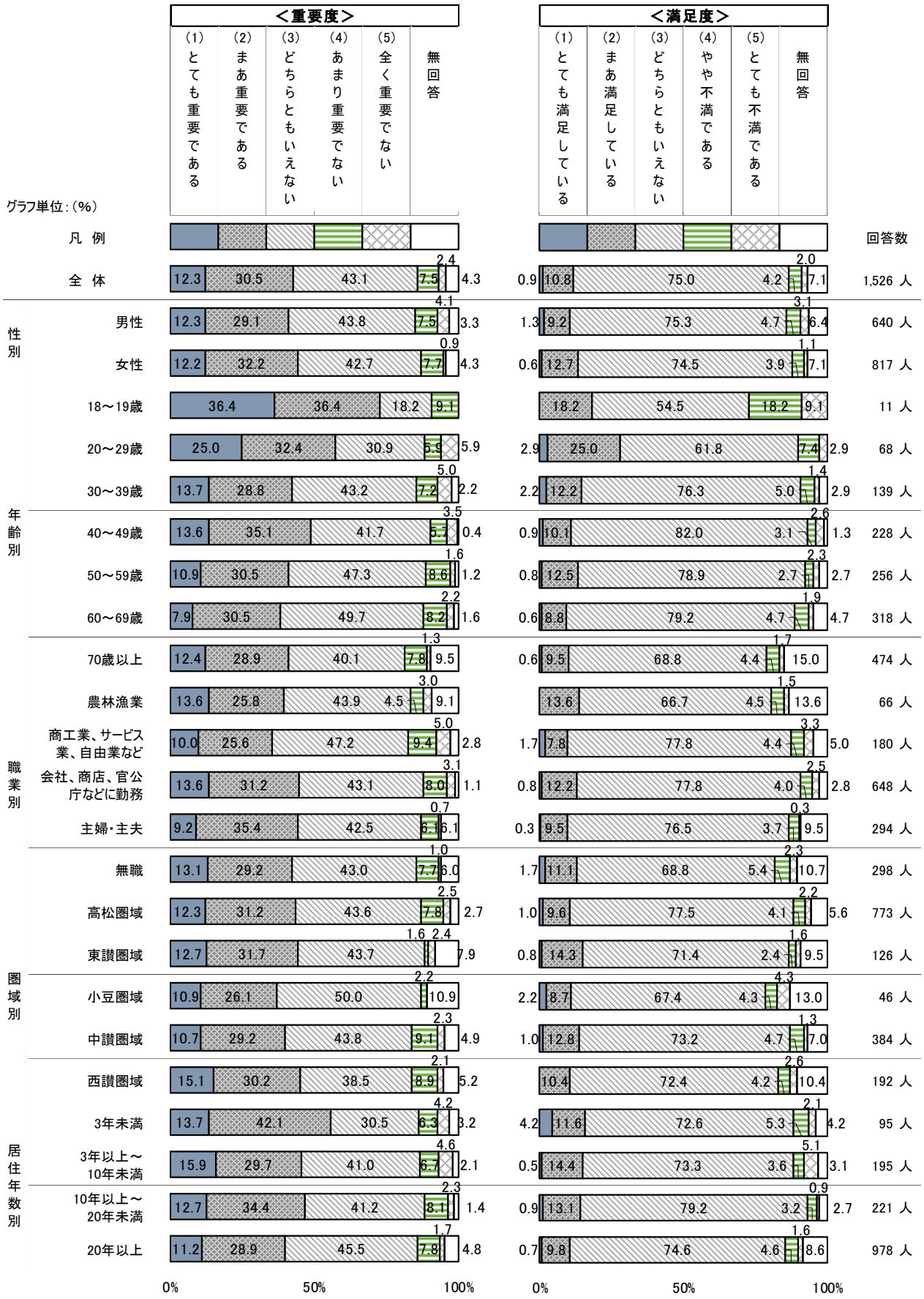
年齢別にみると、『18～19 歳』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『18～19 歳』では【不満である】の割合 27.3%が【満足している】の割合 18.2%を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(12)【外国人材の受入れ支援・共生推進】



P306　数表参照

交流人口の回復・拡大の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』65.0%、『女性』67.9%と、いずれも６割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも５割を超え、『20～29 歳』において 83.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも５割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において 69.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも５割を超え、『小豆圏域』において 71.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも６割を超え、『３年未満』において 74.7%と最も高くなっている。

交流人口の回復・拡大の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』22.1%、『女性』22.9%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』7.5%、『女性』4.6%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

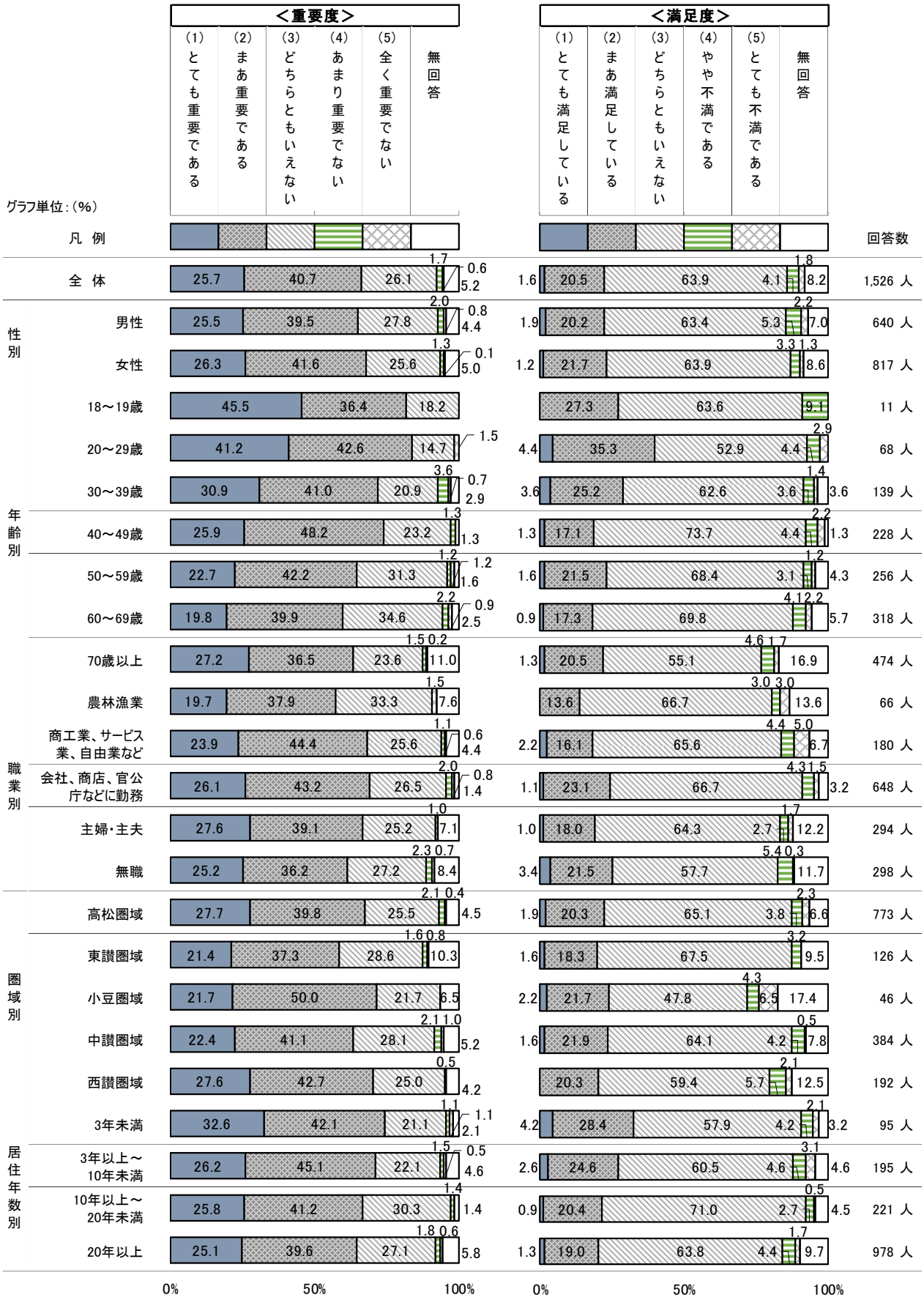
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(13)【交流人口の回復・拡大】



P307　数表参照

農林水産業の振興の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』81.2%、『女性』81.7%と、いずれも８割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも７割を超え、『18～19 歳』において 90.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも７割を超え、『農林漁業』において 84.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも７割を超え、『小豆圏域』において 84.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも８割を超え、『３年以上～10 年未満』において 83.1%と最も高くなっている。

農林水産業の振興の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』16.9%、『女性』17.6%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』15.7%、『女性』10.4%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

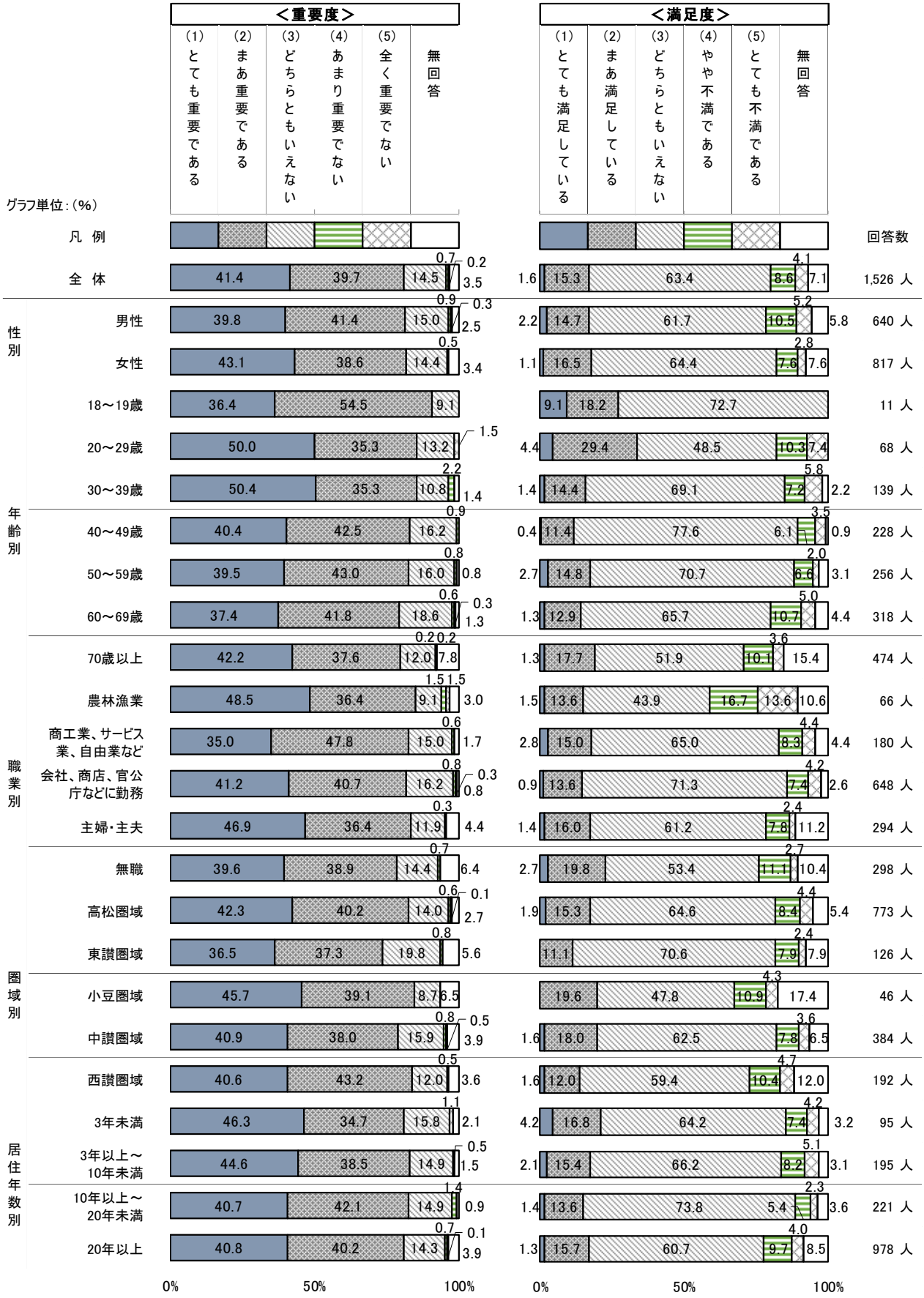
年齢別にみると、『60～69 歳』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『60～69 歳』では【不満である】の割合 15.7%が【満足している】の割合 14.2%を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』を除くすべての職業で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『農林漁業』では【不満である】の割合 30.3%が【満足している】の割合 15.1%を上回っている。

圏域別にみると、『西讃圏域』を除くすべての圏域で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『西讃圏域』では【不満である】の割合 15.1%が【満足している】の割合 13.6%を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(14)【農林水産業の振興】



P308　数表参照

県産品の振興の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』69.4%、『女性』73.0%と、いずれも６割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも６割を超え、『18～19 歳』において 81.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも６割を超え、『主婦・主夫』において 74.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも６割を超え、『高松圏域』において 73.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも６割を超え、『３年未満』において 72.7%と最も高くなっている。

県産品の振興の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』30.6%、『女性』35.9%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』7.2%、『女性』3.4%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

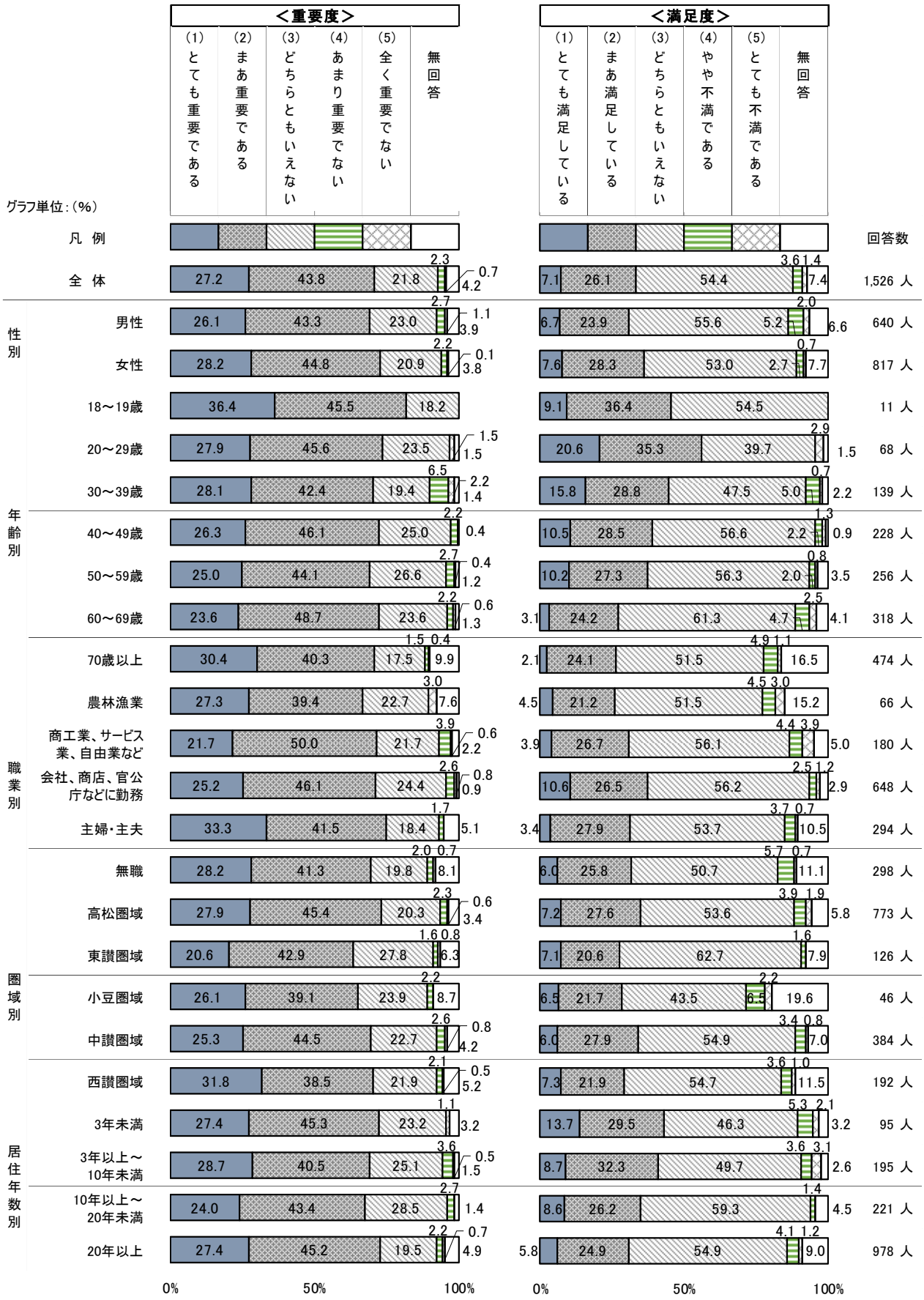
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(15)【県産品の振興】



P309　数表参照

デジタル化の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』64.5%、『女性』62.2%と、いずれも６割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも５割を超え、『18～19 歳』において 81.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも４割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において 68.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも５割を超え、『西讃圏域』において 65.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも６割を超え、『３年未満』において 71.5%と最も高くなっている。

デジタル化の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』12.1%、『女性』14.3%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』13.1%、『女性』7.1%となっており、『男性』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っており、『女性』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

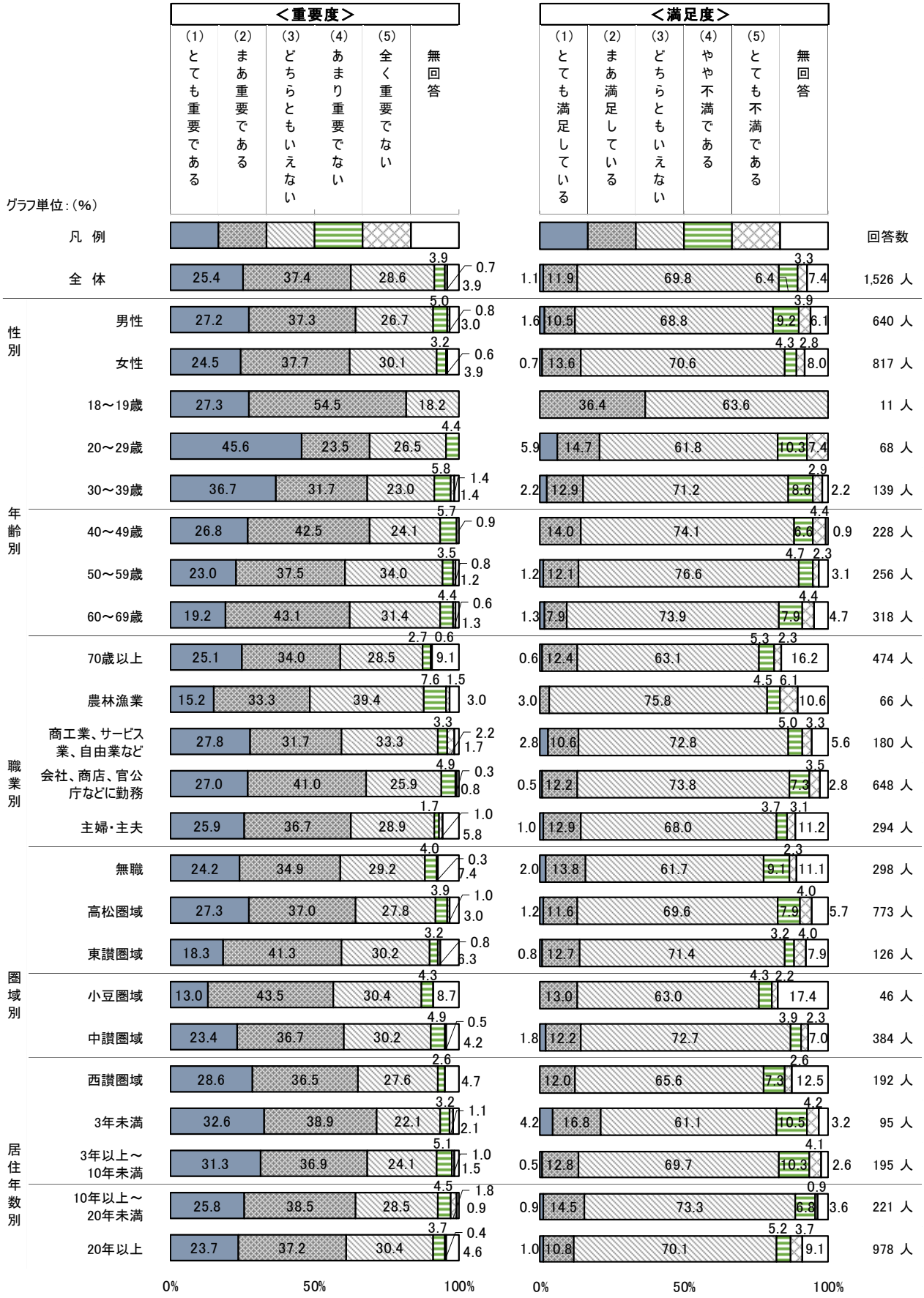
年齢別にみると、『60～69 歳』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『60～69 歳』では【不満である】の割合 12.3%が【満足している】の割合 9.2%を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』を除くすべての職業で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『農林漁業』では【不満である】の割合 10.6%が【満足している】の割合 3.0%を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『３年以上～10 年未満』を除くすべての居住年数で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『３年以上～10 年未満』では【不満である】の割合 14.4%が【満足している】の割合 13.3%を上回っている。

図表 6-(16)【デジタル化の推進】



P310　数表参照

交通ネットワークの整備の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』71.2%、『女性』72.4%と、いずれも７割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも６割を超え、『18～19 歳』において 90.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも６割を超え、『主婦・主夫』において 76.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも６割を超え、『高松圏域』において 73.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも７割を超え、『３年未満』において 74.7%と最も高くなっている。

交通ネットワークの整備の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』19.8%、『女性』18.8%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』16.6%、『女性』14.4%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

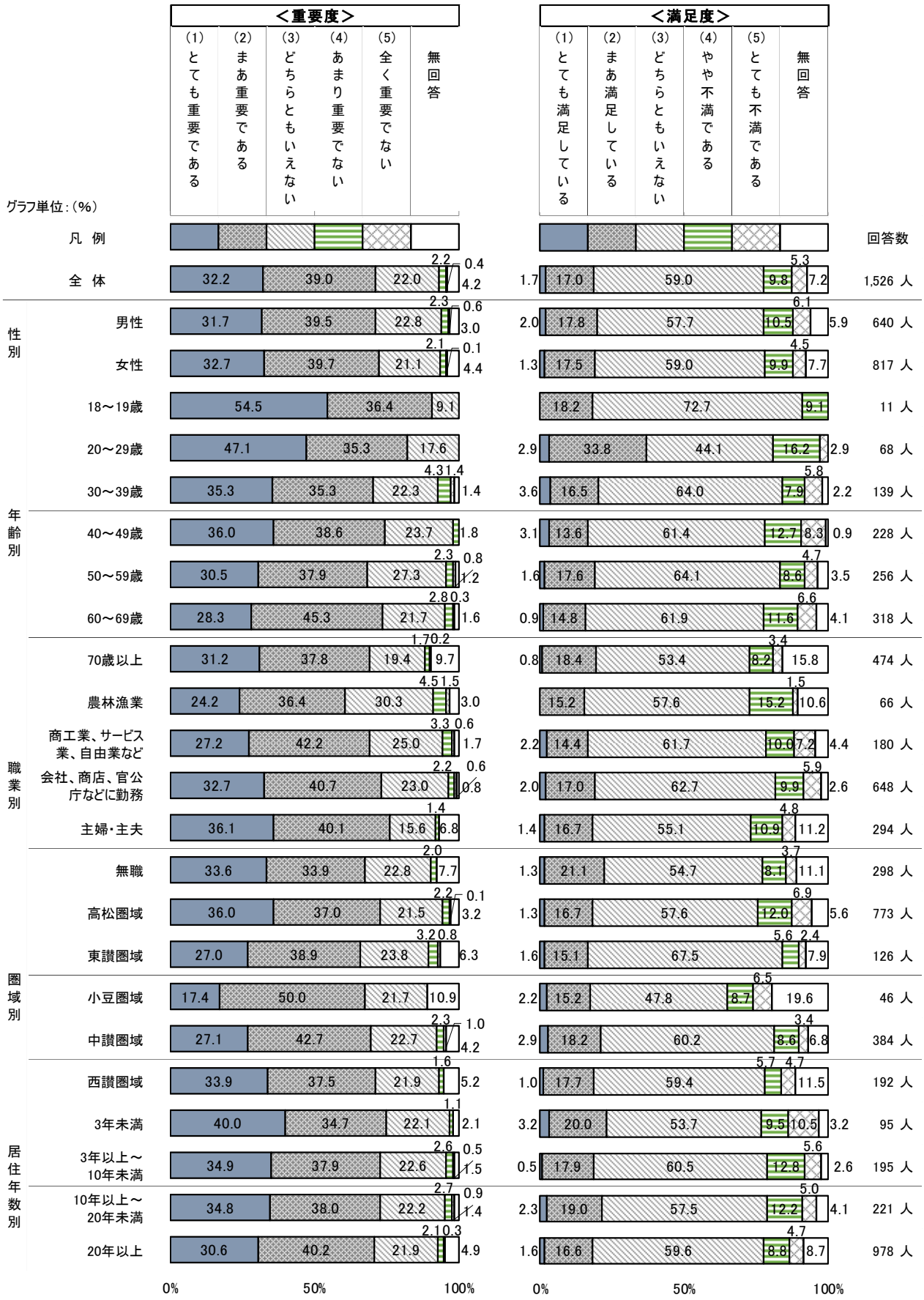
年齢別にみると『40～49 歳』、『60～69 歳』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『40～49 歳』、『60～69 歳』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』を除くすべての職業で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『高松圏域』を除くすべての圏域で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『高松圏域』では【不満である】の割合 18.9%が【満足している】の割合 18.0%を上回っている。

居住年数別にみると、『３年以上～10 年未満』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『３年以上～10 年未満』では【満足している】と【不満である】の割合が同率の 18.4%となっている。

図表 6-(17)【交通ネットワークの整備】



P311　数表参照

教育の充実の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』85.5%、『女性』84.4%と、いずれも８割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも８割を超え、『20～29 歳』において 92.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも８割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において 86.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも８割を超え、『西讃圏域』において 87.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも８割を超え、『３年未満』において 92.6%と最も高くなっている。

教育の充実の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』32.8%、『女性』32.9%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』9.1%、『女性』7.5%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

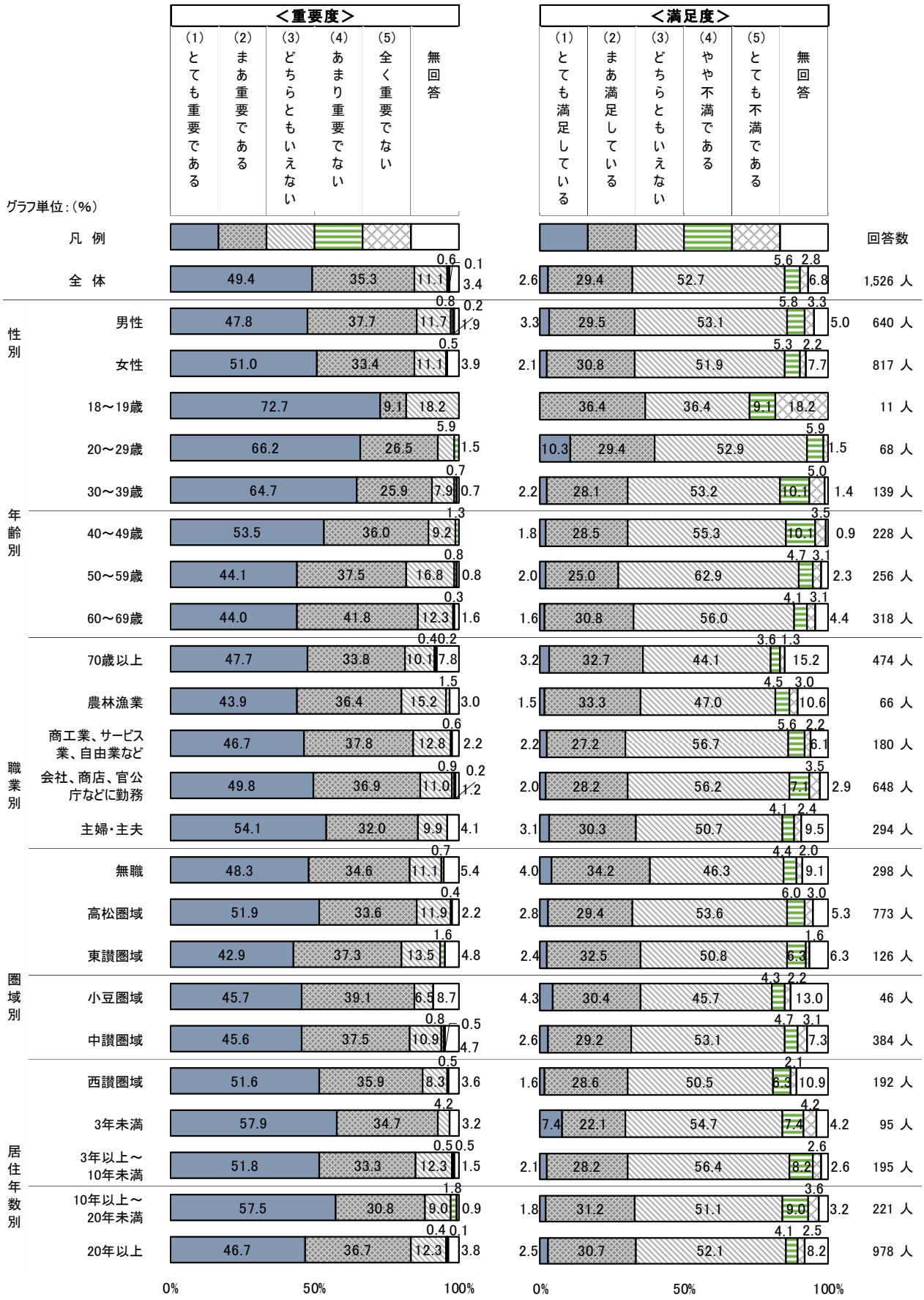
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(18)【教育の充実】



P312　数表参照

男女共同参画社会の実現の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』72.2%、『女性』74.6%と、いずれも７割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも７割を超え、『20～29 歳』において 83.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも６割を超え、『主婦・主夫』において 76.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも６割を超え、『小豆圏域』において 76.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも７割を超え、『３年未満』において 79.0%と最も高くなっている。

男女共同参画社会の実現の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』21.2%、『女性』21.8%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』6.1%、『女性』6.6%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

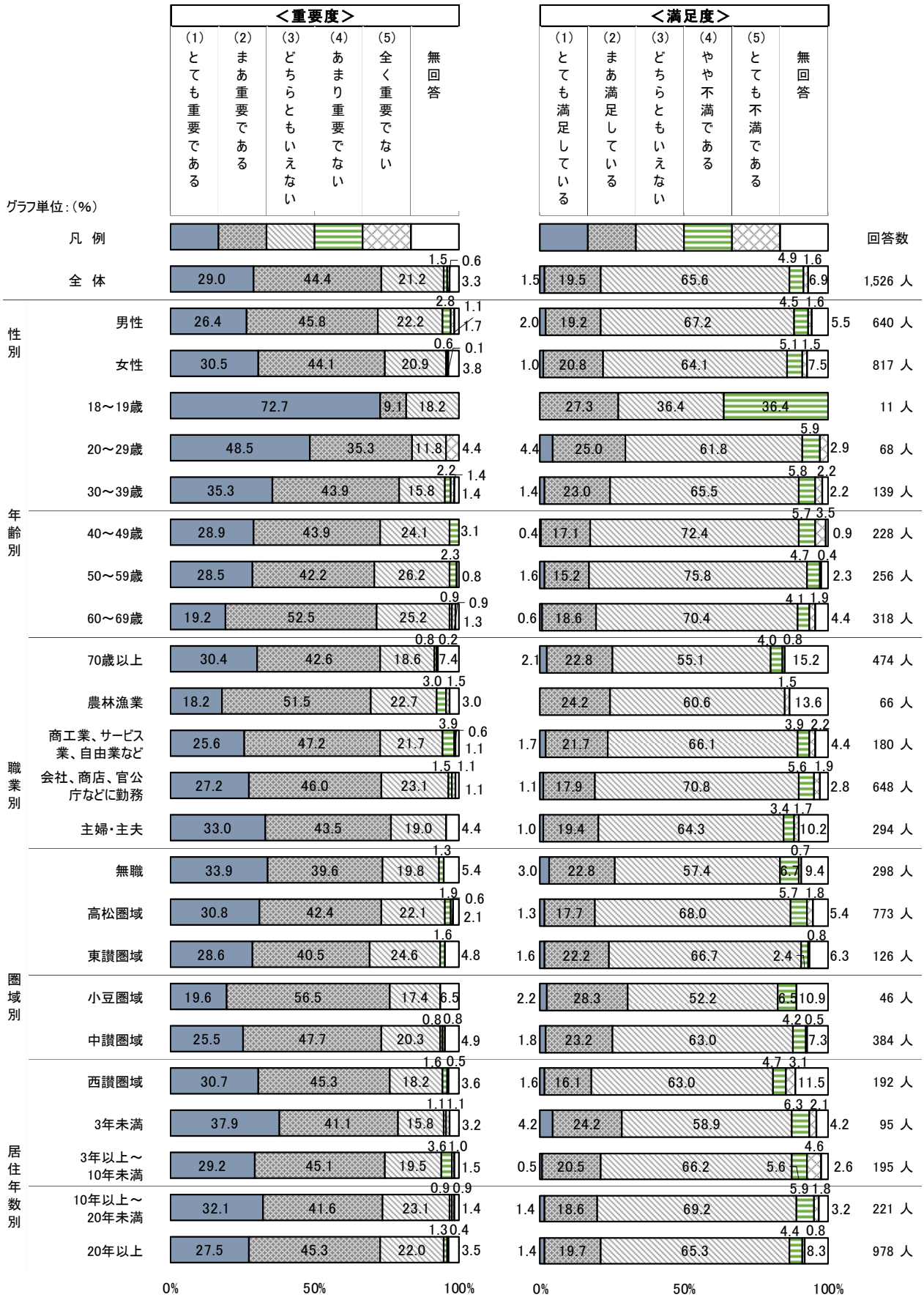
年齢別にみると、『18～19 歳』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『18～19 歳』では【不満である】の割合 36.4%が【満足している】の割合 27.3%を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(19)【男女共同参画社会の実現】



P313　数表参照

青少年の育成と県民の社会参画の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』66.4%、『女性』69.6%と、いずれも６割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも６割を超え、『18～19 歳』において 81.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも６割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において 72.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも６割を超え、『西讃圏域』において 74.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも６割を超え、『３年以上～10 年未満』において 71.3%と最も高くなっている。

青少年の育成と県民の社会参画の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』18.3%、『女性』21.8%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』4.3%、『女性』3.4%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

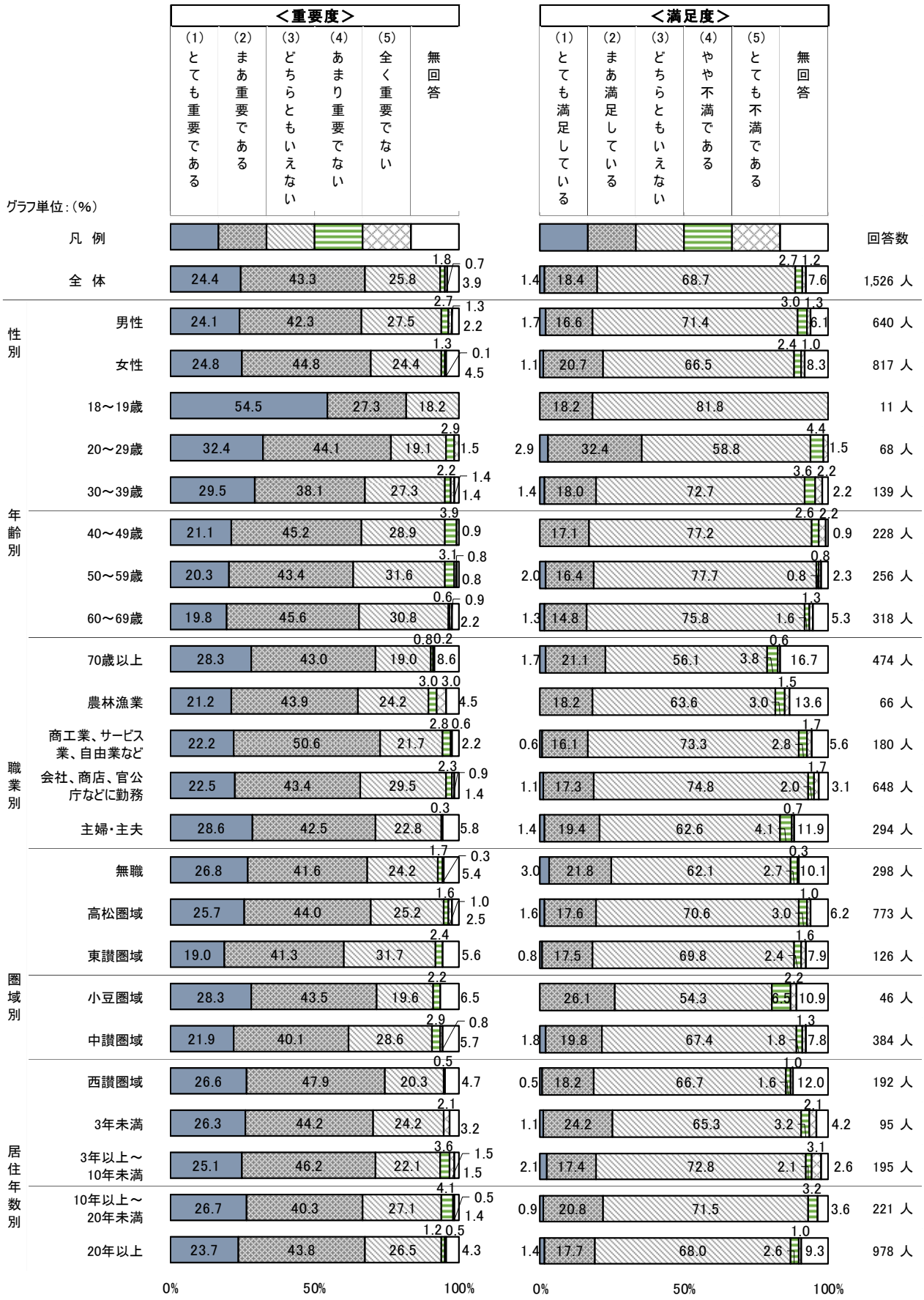
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(20)【青少年の育成と県民の社会参画の推進】



P314　数表参照

魅力ある大学づくりの【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』58.8%、『女性』63.7%と、いずれも５割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも５割を超え、『20～29 歳』において 73.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも５割を超え、『主婦・主夫』において 63.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも５割を超え、『西讃圏域』において 66.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも５割を超え、『３年未満』において 68.5%と最も高くなっている。

魅力ある大学づくりの【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』16.7%、『女性』18.0%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』7.7%、『女性』5.7%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

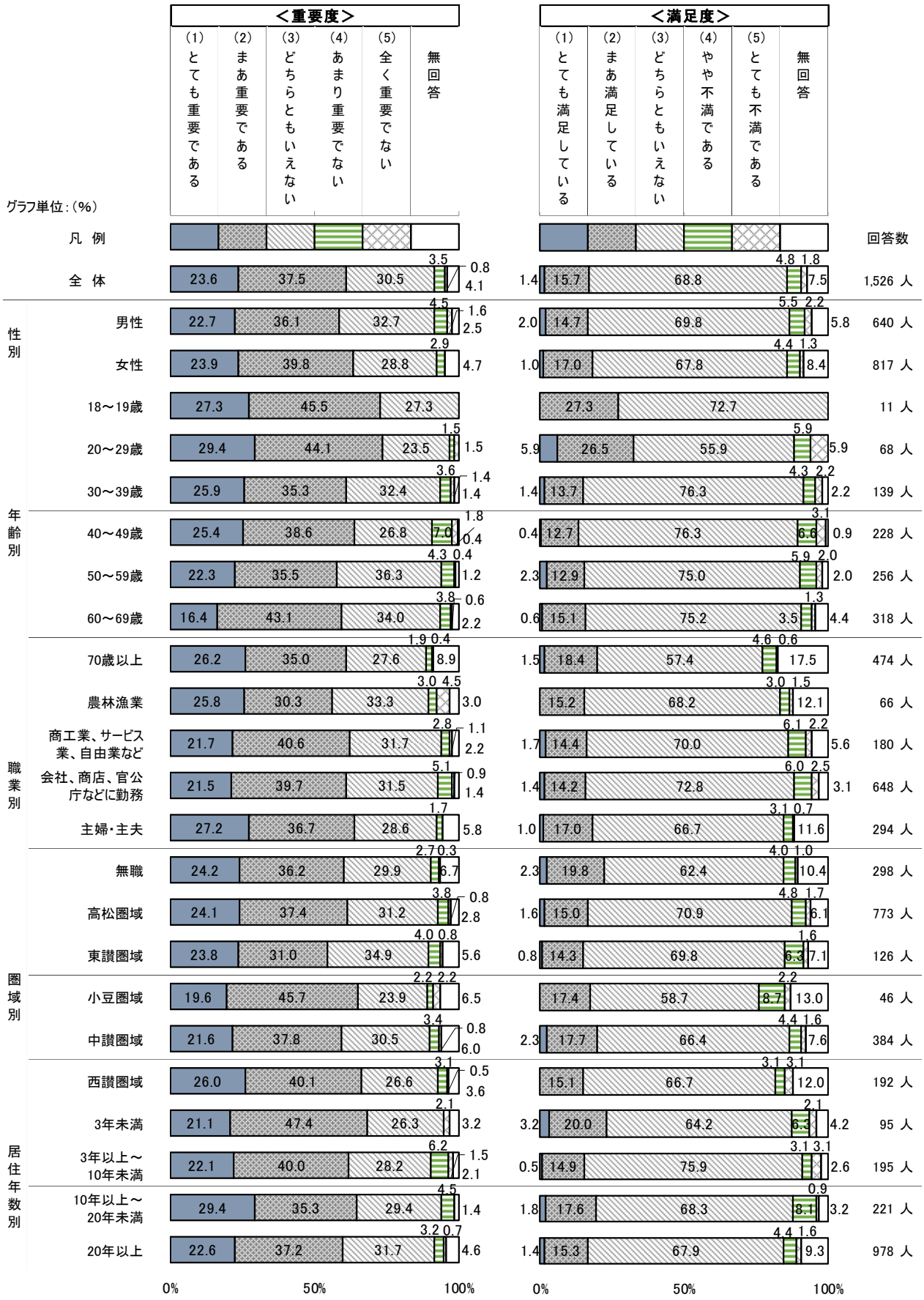
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(21)【魅力ある大学づくり】



P315　数表参照

環境の保全の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』76.0%、『女性』80.6%と、いずれも７割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも７割を超え、『18～19 歳』において 90.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも７割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』において同率の 79.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも７割を超え、『西讃圏域』において 82.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも７割を超え、『10 年以上～20 年未満』において 83.7%と最も高くなっている。

環境の保全の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』18.6%、『女性』23.7%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』8.4%、『女性』5.5%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

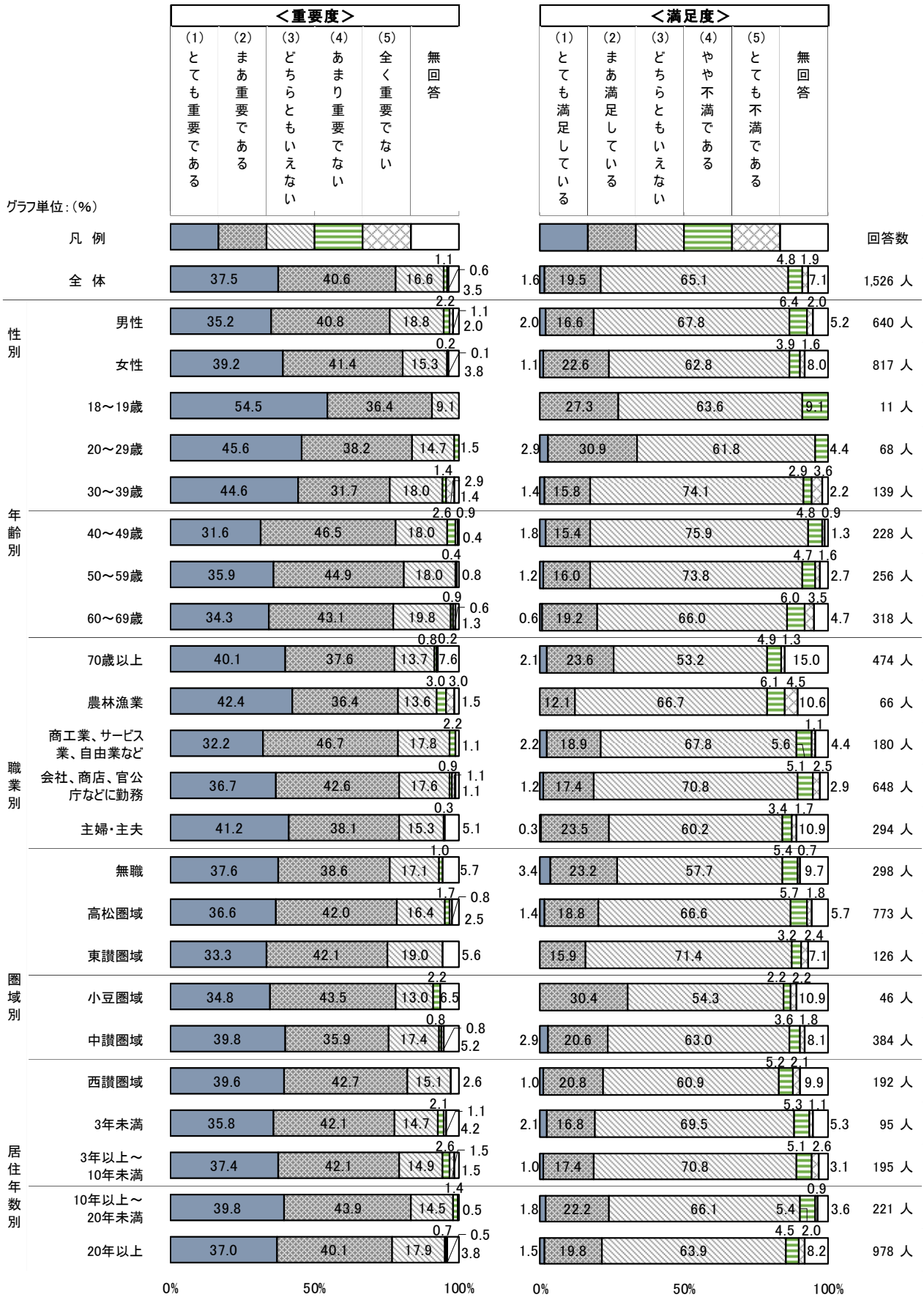
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(22)【環境の保全】



P316　数表参照

みどり豊かな暮らしの創造の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』64.8％、『女性』70.4％と、いずれも６割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも６割を超え、『18～19 歳』において 81.9％と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも６割を超え、『主婦・主夫』において 71.4％と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも６割を超え、『西讃圏域』において 69.2％と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも６割を超え、『３年未満』において 72.6％と最も高くなっている。

みどり豊かな暮らしの創造の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』22.5％、『女性』28.6％で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』6.7％、『女性』4.1％となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

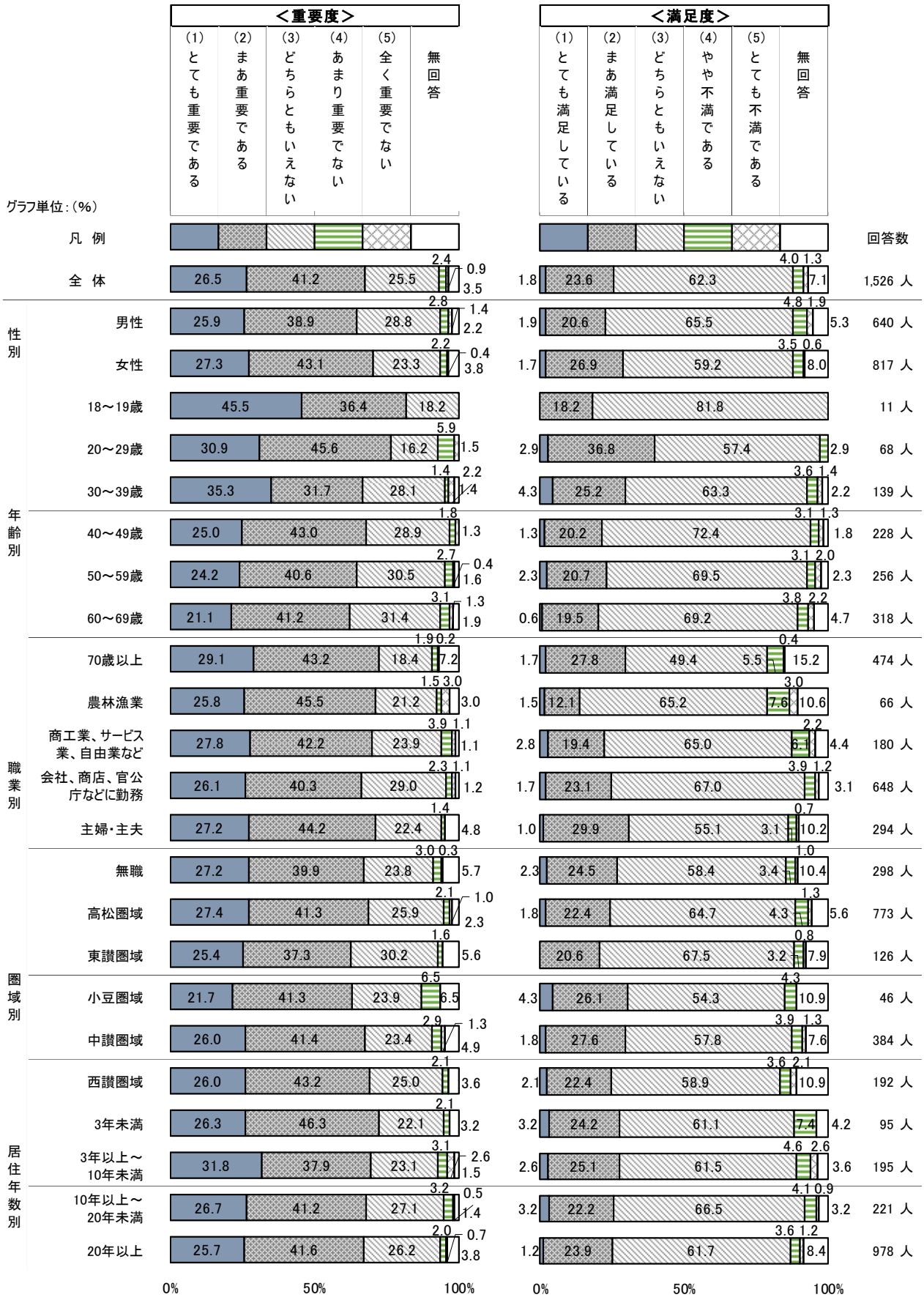
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(23)【みどり豊かな暮らしの創造】



P317　数表参照

活力ある地域づくりの【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』70.8%、『女性』73.5%と、いずれも７割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも６割を超え、『20～29 歳』において 85.3%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも６割を超え、『主婦・主夫』において 75.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも６割を超え、『西讃圏域』において 78.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも７割を超え、『３年未満』において 78.9%と最も高くなっている。

活力ある地域づくりの【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』17.8%、『女性』19.5%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』10.2%、『女性』5.9%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

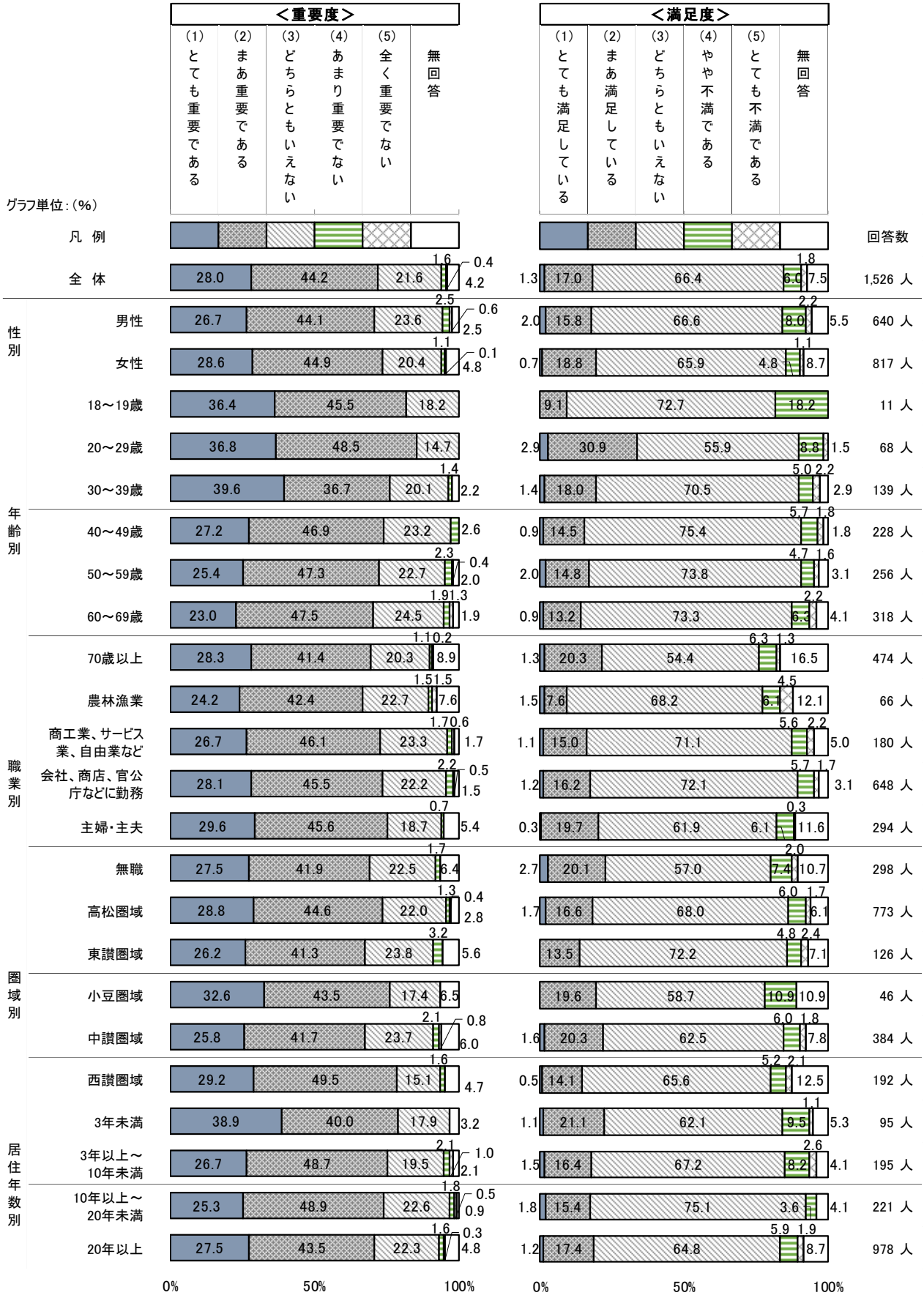
年齢別にみると、『18～19 歳』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『18～19 歳』では【不満である】の割合 18.2%が【満足している】の割合 9.1%を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』を除くすべての職業で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『農林漁業』では【不満である】の割合 10.6%が【満足している】の割合 9.1%を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(24)【活力ある地域づくり】



P318　数表参照

文化芸術による地域の活性化の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』54.7%、『女性』60.6%と、いずれも５割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも５割を超え、『20～29 歳』において 76.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも４割を超え、『主婦・主夫』において 62.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも５割を超え、『高松圏域』において 59.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも５割を超え、『３年未満』において 63.2%と最も高くなっている。

文化芸術による地域の活性化の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』22.5%、『女性』24.8%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』4.5%、『女性』3.2%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

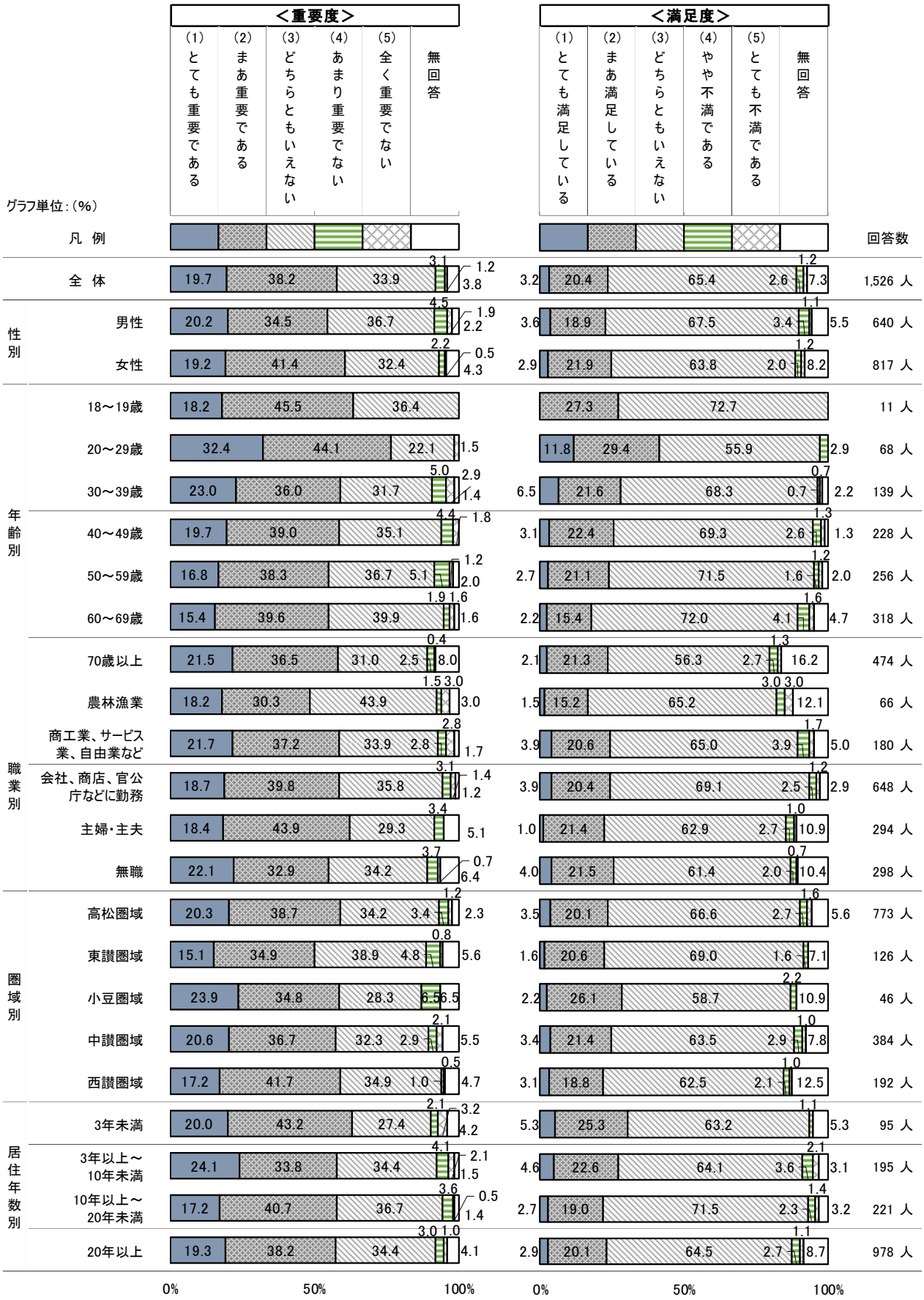
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(25)【文化芸術による地域の活性化】



P319　数表参照

スポーツの振興の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』54.7%、『女性』59.1%と、いずれも５割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも５割を超え、『20～29 歳』において 70.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも４割を超え、『主婦・主夫』において 61.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも４割を超え、『小豆圏域』において 63.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも５割を超え、『３年未満』において 61.1%と最も高くなっている。

スポーツの振興の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』19.8%、『女性』22.2%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』5.7%、『女性』3.9%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

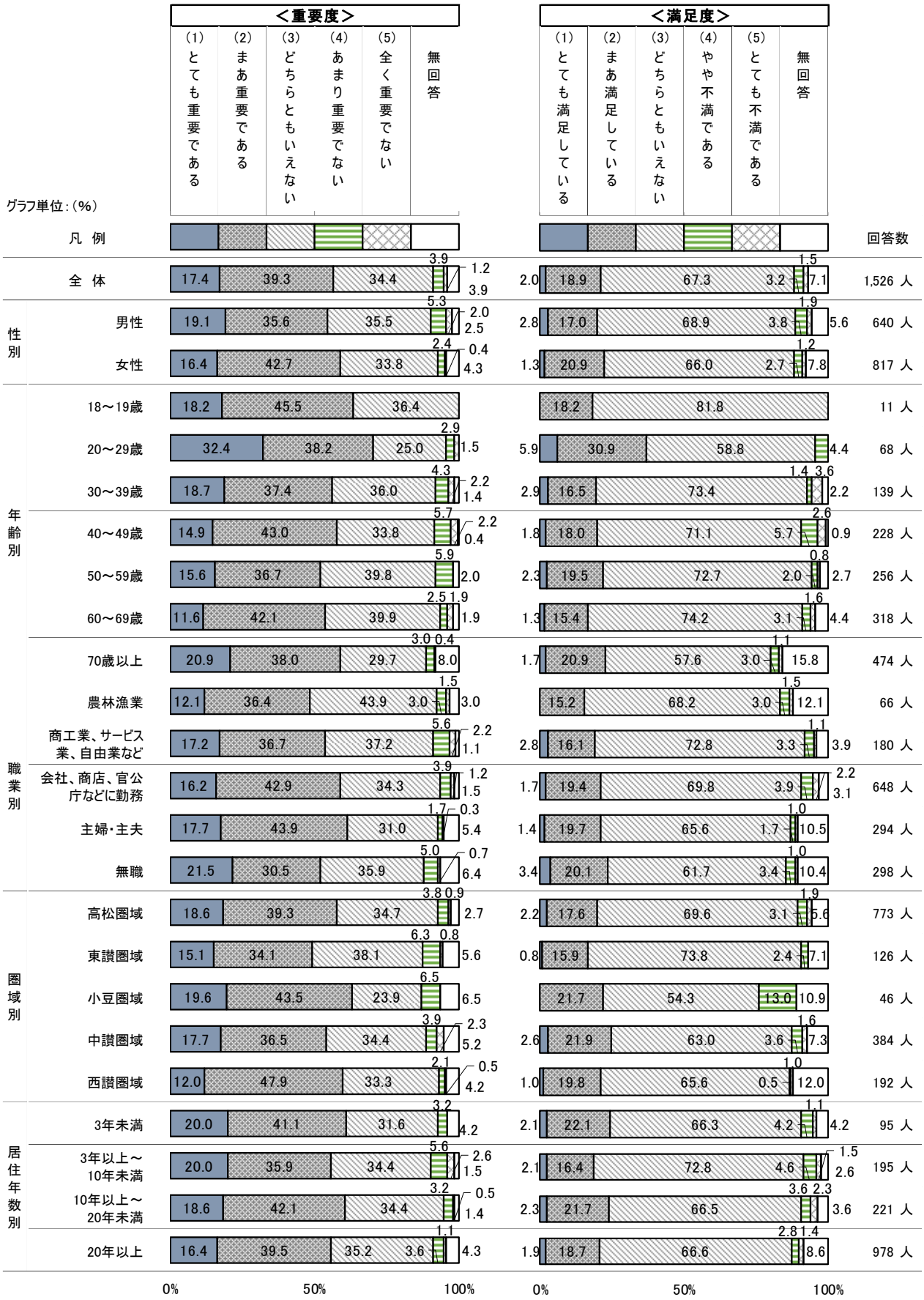
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 6-(26)【スポーツの振興】



P320　数表参照

(7)不満と思っている具体的な内容

付問8～10　問29～31で＜満足度＞が「やや不満である」または「とても不満である」と答えた方は、よろしければ、不満と思っている具体的な内容と、どのような改善が必要であるとお考えかをお答えください。

※記載いただいた内容は、「みんなでつくるせとうち田園都市・香川」実現計画で定めた施策体系（26 分野 83 施策）に沿った形に整理し、要約・抜粋した意見を記載しているため、回答の原文とは異なる場合があります。

【１．　防災・減災社会の構築】(93 件中意見を要約・抜粋)

○南海トラフ地震・津波対策の推進
南海トラフ地震に対する具体的な対応をもっと広報してほしい。
満潮時の津波を想定して対策してほしい。
津波が遡上する河川の堤防のかさ上げができていない。
避難先の耐震性が不安である。
県立中央病院が海の近くにあるのは不安である。
○大規模な風水害に強いまちづくりの推進
一時的な集中豪雨の際の安全確保に不安がある。
ため池や河川の改修など、防災対策の工事を速やかに行ってほしい。
河川内の草木の除去など河川の管理を定期的に実施してほしい。
居住地域の大雨時の排水が悪い。
土砂崩れ、土石流に対する対策が遅れている。
○危機管理体制の強化
情報が県民一人一人に届いていない。
対策や避難場所が周知できていない。
避難場所が大きな池の隣だったり、近所の高いビルが指定されていないなど、適切ではない。
避難所の収容人数や備蓄物資に不安がある。
一人暮らしの高齢者や障害者の把握及び避難体制の確立ができてない。
福祉避難所の場所や利用の仕方について障害者等に周知できていない。
幼児・妊婦・障害者・高齢者を助けるために、階段のある所にはスロープが必要である。
ペットがいる場合の避難についても具体的に知りたい。
核の脅威に対して、地下シェルターが必要である。
○防災意識の向上
香川県は災害が少ないため、防災意識が低い。
防災・減災対策について、認知度・理解度を上げる必要がある。
災害時に具体的にどう対応すべきなのかが知りたい。
地域に出向いての講座や指導・助言をもっと実施してほしい。
防災意識の低い人に対して、イベントや備蓄のためのサポート体制を充実させてほしい。
地域等での防災訓練が不十分である。
対策ができている地域とできていない地域がある。
○安心につながる社会資本の整備
防災対策が不十分。後手ではなく先手の対応をしてほしい。
現実的な防災対策の工事をもっと進めてほしい。
防災対策について、地域間で進捗に差がみられる。
自分の住んでいる地域で社会資本の整備が十分できているとは思えない。
水門等の防災施設について、故障等により十分機能していないものがある。

【２．子育て支援社会の実現】（103 件中意見を要約・抜粋）

○結婚･妊娠期からの支援
結婚に前向きになれるように、安心できる環境や対策が必要である。
不妊治療への支援をもっと充実してほしい。
妊娠中に、かなり交通費がかかった。交通機関で席をゆずってもらえず、立っていたこともあった。体調が悪く、しんどかった。
出産や子育てに関する施設の選択肢が少ない。無痛分娩を取り入れてほしい。
産後のサポートサービスが少ない。あっても高い。
産後ケアも高額で、周りに家族がいない私たちにとって頼れない制度と感じた。
○子ども･子育て支援の充実
保育士の配置人数を増やしてほしい。保育士不足。個々の性格に合わせた教育が必要である。
保育園に入れない。保育園の補助金がない。「一時預かり」が非常に利用しづらい。
夫婦共働きで、保育園等に早目にお願いしたいが、費用が高い。
子どもの病気や休校のときなど、出産から義務教育の間は手厚い支援が必要である。子どもの急な発熱などで親がどうしても対応できない時、医療や一時預かりなどの手助けがほしい。
学童保育が不足している。３年生からは入れない。学童保育が有料で、週３回からの利用でないと預けられない。学童保育を充実させるべき。以前住んでいた場所は、誰でも無料で週１回でも利用できた。
発達障害の子どもへの対応。
ひとり親家庭へは、手当を増額してほしい。
○子どもや子育て家庭にやさしい環境の整備
働きやすい職場環境になっていない。
女性の産休・育休が短い。出産・復職などで不利にさらされている。男性の育休がまだあまりない。
小さい子どもがいた時点で不採用になるが、国の支援が少ない。むしろマイナスでないか。
給料が上がらないのに、税金を納めないとならず、支援がないので子育てができない。
少子化を止めたいならもっと支援が必要だと思う。今大学生だが、将来子どもを育てたいと思えない。
支援に関する所得制限等を撤廃し、少子化対策を全面的に実施してほしい。
給食費・医療費の無償化を推進する。
幼児から義務教育までよりも、高校大学の時期にお金がかかる。
高校生の医療費を無償化してほしい。
児童手当を増額してほしい。また、年齢が上がるとお金はかかるのに、児童手当の金額が減るのは困る。
子どもが遊べる施設が少ない。
給付金ばかり支給するのではなく、子育て支援となる社会制度の改革をしてほしい。
子どもに手当をだしているが、子どものいない家庭や高齢者にも生活難の人もいるのが不公平でないかと思う。
子育て支援をもっと充実させるべきである。
どのような支援があるのか、知る機会が少ないため、十分に活用できていないのではないかと思う。
○児童虐待防止対策・社会的養育の充実
児童虐待について、もっと早期発見できるような対策があればよいと思う。
児童虐待の対応が不十分。虐待を受けている側は死活問題。
事件があったから、連携とか、広範囲の正しい協力体制が必要。
支援まで辿り着けないケースがまだまだたくさんあると思う。

【３．健康長寿の推進】(28 件中意見を要約・抜粋)

○健康づくりの推進
40 才より若い人にも人間ドックや健診の負担軽減をしてほしい。
誰でも気軽に健康づくりに参加できる機会がもっとほしい。
高齢者も健康で生きがいのある生活が必要。長生きしても生活に不安があったり、健康でなかったりするなら長生きの意味がない。
情報発信が少ない。参加しやすい内容と情報発信の工夫が必要。
○社会参加の促進と生きがいづくりの推進
あまりやっているのを見ていない。見えるように分かりやすく。
情報収集が得意ではなく、友達もいないような高齢者でも参加できる仕組みを考えてほしい。
子育て支援に対して、高齢者への対策がみえない。
高齢者の増加に伴い、地域づきあいの促進や独居老人への対応などが必要。

【４．安心できる医療・介護の充実確保】(87 件中意見を要約・抜粋)

○新型コロナウイルス等の感染症対策の強化
過剰なコロナ対策により、生活、文化が犠牲となり、若年層の自殺、思い出、失業など、つらい３年間となった。
新型コロナウイルス感染症への対応について、どの医療機関でも診療してもらえるようにしてほしい。診療人数の制限などがないようにしてほしい。
新型コロナウイルス感染症の後遺症に関する医療体制の確保が心配である。
新型コロナウイルス感染症に対応する自治体のサービスが最低であり、自治体によって差がある。
新型コロナウイルス感染症が５類感染症へ移行されたが、どの医療機関で診療しているか分からないので情報発信してほしい。
５類感染症移行前に感染した際、電話がつながらなかったり、患者が多かった際、対応が満足できるものではなかったりしたので、人員を増やしてほしい。
新型コロナウイルス感染症等の感染症対策の今の状況は高齢者にとって不安。
○安全で質の高い医療の確保
医療の充実度が地域により異なる。農村部や島嶼部はどうしても手薄。
医療施設のレベル平準化を図ってほしい。
公的医療機関を利用しやすくしてほしい。
土、日、夜間など救急時に受診できる医療機関を充実してほしい。
医療費が高い。
○医師・看護職員の確保
人手不足が原因で診察してくれる病院が限られているため、医療従事者が安心して働ける環境の整備が必要。
優秀な医師の確保が出来ていない。
小児科や産婦人科が少ない。
○介護サービス等の充実
介護認定手続きに不満がある。
今でも施設や介護士等が不足でショートステイなど希望しても受け入れてくれない。デイサービスに、地域でここに行けばみてくれる人がいたり、老人同士で助けあいができるような場所も必要になる。介護士等の待遇改善等力を入れ魅力ある職種にすべきと思う。
入居型介護施設の空室の不足。長期の入居待ち。医療機関における夜間診療を少しでも拡充してもらえると安心。
認知症のグループホームが少ない。入れる所は、高額で支払いができない。認知症は、脳の障害で身体は、元気なので介護１ をもらえるのがやっと。
介護を受けるのに、十分な年金がないと家族に負担がかかる。
介護サービス充実以前に介護職員の確保ができていない。介護について学ぶ場、職員の養成が必要だと思う。

介護職員が少なく一人一人の負担が大きい。介護を十分に受けられていない人がいる。
介護サービスと言っても、働く人が減ってきているのに行政は何もしてくれない。その内、介護する職員が居なくなり、施設の運営が出来なくなっている。早急に賃金ＵＰでもしないと数年後職員は居なくなる。

【５．地域福祉の推進】（41 件中意見を要約・抜粋）

○ ともに支え合う社会づくりの推進
地域社会のつながりがあまりない。
バリアフリー化がまだすすんでいない。
高齢者の移動手段が不足している。
介護保険制度が実態に合っていない。
○障害者の自立と社会参加の促進
障害者が働きやすい環境がない。
障害者の方が就労しても、低賃金で、自立できない。
障害者自身の活動の場が少なく思う。
障害者と交流する機会が少ない。
○高齢者の安全の確保
運転免許証を自主返納した高齢者への支援が不十分である。
不便な場所に住む高齢者が運転免許証を返納した場合、たちまち生活に困る事になる。

【６．人権尊重社会の実現】（36 件中意見を要約・抜粋）

○人権啓発の推進
未だに部落差別がある。
未だに部落差別に対する発言を聞くことがある。
外国人差別がある。外国人が気楽に暮らせるようにするべき。
高松駅やＦＬＡＧなどで（丸亀駅、多度津駅も）、たれ幕など香川県の意志を示してほしい！
やはりまだ高齢者の方だとまだ偏見が残っていると思う。もっと幅広い人に伝えることができるような情報発信が必要だと思う。
人権・同和問題の県民の理解が低い。
意識が変化していると思えない。
あまりやっているのを見ていない。見えるように分かりやすく。
人権啓発擁護、同和教育など、わかっているようでわかりにくく取り組み方がわからない。
○人権・同和教育の推進
いじめがある学校もあったため、人権が尊重されているとは言えないと思った。
制服など決まりが多すぎで、人権がない。学校から小学生は真冬でも半ズボンを履くことをすすめられる。
人権啓発擁護、同和教育など、わかっているようでわかりにくく取り組み方がわからない。
人権、同和教育を学校で子どもたちに教育してほしい。
教育現場での性的マイノリティや同和問題に関する授業実践が少ない。
○人権擁護活動の充実
あまりやっているのを見ていない。見えるように分かりやすく。
人権啓発擁護、同和教育など、わかっているようでわかりにくく取り組み方がわからない。

【７．安心して暮らせる水循環社会の確立】（43 件中意見を要約・抜粋）

○水の安定供給の確保
毎年のように水不足で取水制限がある。早明浦ダムだけでは無理がある。
水道管が老朽化しており、水の安定供給については不安である。

県内にもっと水源を確保する施設が必要。
水不足の時の対応策を十分検討すべき。
安全でおいしい水を提供して欲しい。
○水循環の促進
水源地域との交流を増やすべき。
節水意識の向上にむけて、もっと県民への啓発を行うべき。

【８．安全で安心できる暮らしの形成】(76 件中意見を要約・抜粋)

○安全な交通社会の実現
交通事故が多い。
交通ルールが守られておらず、交通マナーも悪い。
高齢者の運転免許返納促進とあわせて返納後の生活支援が必要。
交通取締りを強化してほしい。
自転車を含む交通マナー向上のため広報啓発をしてほしい。
高齢者や子どもに優しい交通社会であってほしい。
交通安全教育を進めてほしい。
○犯罪に強い社会の実現
不審者情報が多いのでもっとパトロールをしてほしい。
防犯意識を高める対策が必要。
防犯カメラをもっと充実させてほしい。
○暮らしにおける安全確保
老人への犯罪対策や災害対策などが必要。
○セーフティネットの充実
暮らしていくのが苦しい方が受けるセーフティネットである生活保護を受けづらい環境である。
○人と動物との調和のとれた共生社会の実現
犬猫の殺処分が多い。犬猫の保護や譲渡に力を入れてほしい。
野犬や野良猫に餌を与える人がいて、野犬や野良猫が増える原因となっている。
野良猫がゴミステーションを荒らして、不衛生である。

【９．定住人口の拡大】(55 件中意見を要約・抜粋)

○移住の促進
香川の良さ、住みやすさをアピールすると良い。
空き家に人が入り、定住することを勧めてほしい。
子育て支援に魅力がなく、子育て世帯が移住してこない。
○若者の定住促進
若い人たちが県外に進学すると帰ってこない。県内で就職するにも魅力的な企業が少ない。
若者を引きつける魅力ある香川になるよう工夫してほしい。

【10．商工・サービス業の振興】(29 件中意見を要約・抜粋)

○成長産業の育成･集積
商工、サービス業が活発とは思えないし、見えない。
地方経済の維持向上に関する基本的な考え方や方針が全く見えない、分からない。
欲しい物が無い場合がある。
具体的にこれというものが無いのではないか。
既成概念に捉われず、社会の変化に対応するべき。

○創業や新事業展開の促進
起業、新事業展開への支援は、仕事があり、オフィスや住居が確保できることが何より大事である。
○独自の強みを持つ企業の競争力の強化
行政の支援体制の強化や企業のマーケティング力の強化が必要である。
販路開拓の支援は行政主体でもっと多く行うべき。少ないと感じる。
○企業の海外展開の促進
他県に比べ海外展開の規模が小さいので、規模の大きな海外展開も見据えた取り組みが必要である。
○産業の成長を支える人材の育成
人材が不足しているのではないか。若年層の育成が必要。
○中小企業の経営支援
中小企業が苦しくなっている。
古くからある伝統産業や老舗企業の後継者問題、活性化について支援してほしい。
後継者不足で特産品が消えている。
○企業立地の促進と産業基盤の強化
企業誘致を強く進めないと、企業の香川県離れが進んでいる。
人口減少が止まらない。若者の働き口がない。

【11. 雇用対策の推進】(63 件中意見を要約・抜粋)

○安定した雇用の創出と就労支援
新規雇用機会の拡大を図ってもらいたい。
非正規社員の減少に向けた取組を積極的に推進してもらいたい。
若者の働くところを確保してもらいたい。
60 歳以上の高齢者雇用の安定を図ってもらいたい。
取組内容を実感できない。
○働き方改革の推進
働き方改革をもっと推進してほしい。
子どもがいる女性は遅くまで働けないため、パートなど安定しない雇用ばかり。女性が時短でも働けたり、リモートもできるような企業が増えたらいいと思う。
働き方改革と言っても企業任せでは何も変わらない。
ＳＤＧｓの取組みにおいて、働き方改革が必要、特に女性（家庭、職場の両立）、若い人の確保が必要。
働き方改革といっているが、生活者としては改革をしているという実感が全くない。
女性が働きやすい職場の増！女性も正社員になりやすい環境。

【12. 外国人材の受入れ支援・共生推進】(24 件中意見を要約・抜粋)

○外国人材の受入れ支援
外国人材よりも日本人の就労支援や人材育成に力を入れるべきではないか。
○外国人との共生推進
生活環境の違いや理解不足で、お互いが信用できない。
地域に外国人が増え、道にゴミが捨てられているようになったので、文化の違いや交通マナーを含めたモラルを学べる場があればいいと思う。
言語、文化、習慣の違いは大きい。日本語や文化、習慣をもっと理解して欲しい。

【13. 交流人口の回復・拡大】(15 件中意見を要約・抜粋)

○観光かがわの推進
屋島山上交流拠点施設「やしまーる」の活用方法や建設理由がよくわからない。
高松空港国際線の充実（東南アジア路線の開設）や高級ホテルを活用した富裕層の誘客を強化すべき。
新型コロナウイルス感染症対策の継続が、前提条件である。
塩江温泉が見捨てられている。
もっと観光に、力を入れるべきだと思う。
施設の老朽化が進んでいるが、流行に沿った改善や新規取組みがないため、広い土地を利用したアウトレットなどの施設や海の近くの道の駅のリニューアルなどが必要。
観光客の足（海上交通）が重要。
若い人にも好まれるような、観光資源の発信や充実を図るべき。
ゴミ、渋滞、自然環境に配慮した、受入環境を整備してほしい。
○地域の活性化につながる交流の推進
インバウンドは目先の金としてはいいですが、治安悪化などの問題点も含みます。国内での交流を重要視してください。

【14. 農林水産業の振興】(51 件中意見を要約・抜粋)

○農業の担い手の確保･育成
農業の担い手を本気で育成するべき。
若い世代が農業で生計を立てられるためのノウハウ、支援、補助金の提供が必要。
農業者の高齢化が進んでいるため、若い担い手の育成が必要。
農業関係の学校の充実や若手の教育が必要。
農業の相談窓口を土・日にも開設してほしい。
農地の集積法人化も重要であるが、小規模農家で頑張っている人にも支援が必要。
儲かる仕事として完成した体系・体制を整えきれていない。魅力ある仕事になるようにする必要がある。
農家の困っていることを吸い上げて、解決するブレイン的な組織をつくるべき。
休耕田などを、自治体が買い取り、働き場所として様々な人の受皿として活用願いたい。
○農産物の安定供給
香川県の特色を生かした農業の実現を。
輸入に頼らず、食料自給率を上げるべき。
物価が上がり資材が高く農家経営が厳しいため支援が必要。
○農産物の需要拡大
農業は賃金が安すぎる。農作物の買取施策をするなど考えてほしい。
農産品は価格が低すぎる。競り市をやめて生産者が出荷価格を設定できるようにする等の仕組みづくりが必要。
香川県の農産物（野菜、果物、畜産物など）は日本ひいては世界に誇れるレベル。オリーブ牛だけでなくもっとアピールが必要。
おいしい新鮮な食材で地元のものを買える場が他県に比べとても少ないので、定期的な市場など買える機会・場所を増やしてほしい。
産直などでレシピや旬のものをもっとアピールしてほしい。
○生産性を高める農業の基盤整備
水田も畑も狭すぎる。農地の大区画化をしないと世界に勝てない。
耕作放棄地対策が必要。
農業にもっと若者が集まるようデジタルを生かしたりした工夫が必要。
狭い農地で個々に作付けしても赤字になるので、農地を借り上げるなどして大規模化することが必要。

○森林整備と森林資源循環利用の推進
若い世代が見当たらない。林業で生計を立てるためのノウハウや支援の提供が不十分である。
森林が野放しになっているので、もっと活用したらいいと思う。
森林整備に関する現状把握や、状況にあった対応をしているのかが不明瞭であるため、もっと広報が必要と考える。
○水産物の安定供給と需要拡大
香川の持つ資源にもっと力を入れて、大きく成長させるべき。
水産資源の減少に対しての対策が必要。
養殖に係る費用の高騰の影響が出ているため、ブランド化して価値を高める必要がある。
○漁業の担い手の確保・育成と生産性を高める基盤整備
漁業の担い手を本気で育成するべき。
若い担い手の育成が必要。

【15. 県産品の振興】(13 件中意見を要約・抜粋)

○県産品の販路開拓
値上げの影響で雇用創出の安定化が難しいため、県からの支援が必要である。
県内スーパーでももっと県産品を取扱って欲しい。
うどん以外の新たな県産品の発掘が必要である。
県産品のアピール度を高め、持続可能な生産消費を図る必要がある。
○県産品の認知度向上
うどん以外に県民自体が県産品の良さなどの認知が低い。
県の農産物は日本・世界に誇れるレベルなので、オリーブ牛だけでなくもっとアピールしてほしい。
ブランド化や広報活動が目立っていない。
おいしい新鮮な食材で地元のものを買える場が他県に比べとても少ない。
○アンテナショップの充実・強化
県産品を他県へ紹介するのは個人事業主ではなかなか難しい。アンテナショップへの卸業者について、もっと広く募集するべきだと思う。

【16. デジタル化の推進】(50 件中意見を要約・抜粋)

○デジタルトランスフォーメーションを支えるデジタル人材の育成
デジタル技術を若い人だけでなく、県民全員に学べる機会がほしい。
デジタル化によって生活しにくいと感じる高齢者等への対応が不十分。
○生産性の向上のための産業のデジタル化の加速
医療分野での紙資源によるやり取りなどは時代にそぐわない。
香川は中小企業が多くデジタル化の推進には支援が必要である。
地場企業の賃金が安く、他の都市に人材を取られてしまう。
中小企業の取組みの支援は他県に先んじた取組みになっているとは思えない。
○行政のデジタル化の推進
自治体での届出（手続き、証明書など）が書面であることなど、デジタル化が進んでいない。
デジタル化の必要性を見極めて要否を判断すべき。むやみにデジタル化を推進すべきではない。
デジタル化を進める上でネットのみでしか手続きが出来ないということにならないよう、パソコンやスマホを持ってない人や扱えない人のサポートの方法も同時に考えてほしい。
行政のデジタル化の推進は非常に重要であると考えるが、保険証などマイナンバーカードに係る信頼性が無くなっている状況にあることから慎重に推進していただきたい。

【17. 交通ネットワークの整備】(106 件中意見を要約・抜粋)

○広域交通ネットワークの充実・強化
公共交通網が不足している。
公共交通機関の利便性の向上。
四国全体として鉄道ネットワークの維持等に取組むべきである。
新幹線の整備が必要である。
四国新幹線ではなく、地域交通ネットワークの充実に注力すべき。
○地域交通ネットワークの整備
公共交通ネットワークが整備されていない。
高齢者の移動手段が不足しており、免許返納後の生活が不安である。
山間部や過疎地、離島の公共交通が不便であり、充実させてほしい。
鉄道駅やバス停まで遠く、また運行回数が少ない。
鉄道やバス、タクシーの運賃が高い。

【18. 教育の充実】(55 件中意見を要約・抜粋)

○学校教育の充実
いろいろな分野を学べる多様な学校があると良いと思う。
他県に子供が流出している。
学力が足らず困っていても補助はなく、塾に行くしかない。昔は放課後にしてくれた。
香川の教育力が落ちており、教育の質を上げる必要がある。
交通マナーなど他の人を思いやってない事が多い。学力でなく人間性が重要。先生がこの様な重要な事にしっかり取り組めるような環境・整備も必要。
不登校の児童が安心出来る環境整備や教師の質の向上。
学校の教育が充実しているか分からない。情報がない。
高校まで義務教育にするべき。
多忙な教員がもっと子どもに向きあえる時間が増えるように、教員を増やす必要がある。
教員のレベルの向上。
英語教育などは、特に会話ができなくてはこれからのグローバル社会についていけない。
学校の統合が進んでいるが、学校が無くなれば地域はますます廃れてくる。子供もいなくなり、悪循環である。
性教育を小学校のうちからしっかりしてほしい。ＬＧＢＴＱ＋について学校の授業で説明をしてほしい。
外国人のサポートをしっかりとして欲しい。
医療的ケア児が多く在籍しているが、学校看護師の人数が足りていない。ケアの重さが全く違うので重症度も考慮して学校看護師を配置して欲しい。
施設管理などは専門家にまかせ、教員は子どもたちへの対応と授業に専念できるようにして欲しい。
学校の負担が大きすぎる。学校は教育の場であり、躾や、常識、公共でのルールなどは親、家族の責任、給食費や高校以上の無料化も不要、子供を育てるのも高等教育をするのも親の責任で行なうものである。
○家庭や地域の教育力の向上
家庭の教育力は年々差が大きくなっている。地域力も地域に目を向ける子の親世代が年々減っている。
挨拶できない親子がいる。心温かい魅力ある教育が魅力ある人を育てるのではないか。
家庭での教育は各家庭の多様性が尊重されるべき。子の不利益が明らかな場合を除き、「教育力の向上」の名のもとに介入になりかねない行為は厳に抑制的であるべき。
学校は教育の場であり、躾や、常識、公共でのルールなどは親、家族の責任、給食費や高校以上の無料化も不要、子供を育てるのも高等教育をするのも親の責任で行なうものである。

【19. 男女共同参画社会の実現】(34 件中意見を要約・抜粋)

○男女共同参画社会の実現に向けた基盤づくりの推進
逆に女性だから優偶されることが心配。女性だから、男だから、ではなく優良な人材をとっていく。
男女共に出来ること考えが違うので適材適所。
女性の活躍とは耳障りのいい言葉だが、子育て家庭、仕事と女性の負担が増えただけ。男と女はそもそも肉体構造、精神構造が違うので同列に考えるのはおかしい。男女の特性に応じて考えなければならない。
私はジェンダーに不和はないが、男らしく、女らしくと言われるのは苦痛である。
人数だけ目標に達してもどうにもならない！男女お互いの意識改革。
全国、社会で女性はもっと優遇されるべきだと思う。
生産年齢人口が減少しているのに、まだ女性の働く場所や権利がない事自体理解できない。
全く男女は平等になっていない（仕事面でも、日常でも）。
○あらゆる分野における女性の活躍の推進
女性の働きやすい環境をつくる。
女性を全ての面において、半数以上参加した方がよい。
女性が社会参加するためのサポートが足りないし、企業や人の理解も足りない。
高松でも子供がいる女性は働きにくい環境。時短勤務やリモート勤務など、選択肢が増えれば良い。
女性の役員を増やす事を義務化すべきでは。
もっと女性の活躍が広げられることを望む。
やはり女性にやさしい働きやすい仕事が少ない。
政治や雇用で海外に比べても遅れていると感じる。
言葉ばかりが先行し、雇用ばかり増えても、実際の職場環境を充実しないと持続ができない。
男性の社会における優位さを感じます。議員も男性ばかり。
市議会、県議会何処を見ても女性の人数が全く少ない。

【20. 青少年の育成と県民の社会参画の推進】(8 件中意見を要約・抜粋)

○青少年の健全育成
香川のことではないが、いじめに対する学校、教育委員会の無責任な対応がしょっちゅう報道されている。懸念が生じた時は真剣に対応してほしい。
ここ数年はコロナで進んでいないのでないかと思う。
素行の悪い若者が増えてきている。
○ＮＰＯ・ボランティア活動の促進
NPO は安価な下請けだという認識を転換し、人件費を含む適切な対価に基づく業務委託の実施。県職員の地域活動における有報酬の従事制限の緩和。
地域で集える場を増やして欲しい。
○生涯学習の促進
地域で集える場を増やして欲しい。
行政が県民にあまり働きかけしていない気がする。
ここ数年はコロナで活動が止まっているかと思う。

【21. 魅力ある大学づくり】(21 件中意見を要約・抜粋)

○県内大学等の充実強化
県内に高等教育機関が少なく、学びに選択肢がない。
若者を引き寄せる魅力ある大学が必要。
トップレベルの大学への強化が必要。
○県内大学等との連携強化
地元大学の教育が社会のニーズに即していない。
地域との交流ができれば良い。

【22. 環境の保全】(27 件中意見を要約・抜粋)

○環境を守り育てる地域づくりの推進
環境に対する取組みに、もっと力を入れるべきと考える。
実際、どれくらいの取組みが行われているのかが見えない。
SDGs に向けた支援の具体性がほしい。
小学校教育から SDGs の時間を設け、地球環境を守りぬく精神を身につけてほしいと思う。
環境問題に、もっと身近に取り組める環境を作ってほしい。
環境保全のボランティア活動に参加する人が限定されているので、広げてほしいと思う。
○脱炭素社会の実現に向けて地域とともに取り組む地球環境の保全
山を削ったり田んぼに太陽光発電システムを設置するのは無駄である。田んぼに田植えをする人材育成や補助をするべきである。
ソーラーパネルの設置は、環境破壊でしかない。
今後、電気や水素が燃料となるのに、自動車社会の香川県にはそのインフラが整備されていない。
燃料の高騰により冷暖房費がかさむようになった。電気に依存しがちであるが、電気代も高騰しているし、停電時の対応策も必要である。
もはや「異常」気象ではなく、常態化している。早急な対策が必要。
脱炭素を進めたいのなら、なぜ原発を動かさないのか。
脱炭素社会の実現に向けた施策が見えてこない。
○持続可能な循環型社会の形成
野焼きが日常的に行われている。
ごみ拾いの活動を続けている。件数は少なくなったが、常習的で悪質な不法投棄は続いている。防犯カメラ設置をお願いしたい。
プラスチックごみ等の不法投棄、海洋汚染は続いている。まずごみを捨てないということが大事だと考える。また、ごみはごみを呼ぶので、とにかく川のごみなどを放置しないようにするべきである。
ごみ焼却炉の高性能化が必要である。三豊市のような方法で可燃ごみの処理を行う自治体が増えるようにしてほしい。
○自然とともに生きる地域づくりの推進
現状はそんなに悪くはないと思うが、開発よりも保護・保全がさらに必要と考える。
○生活環境の保全
野焼き、工場の臭いが酷いのでどうにかしてほしい。
PM2.5 の情報（飛散予想）を積極的に発信してほしい。

【23. みどり豊かな暮らしの創造】(16 件中意見を要約・抜粋)

○暮らしを支えるみどりの充実
街路樹で、植樹されるよりも伐採される方が多いように思う。維持に力を入れるべきではないか。
維持費がかからないように工夫した政策である必要がある。
せっかく山に囲まれているので、キャンプ施設やアスレチックなどを充実させてほしい。
緑や公園が減っているように思う。緑の多い公園をもっと大切に、失くさないようにしてほしい。
外国資本が山林を買い占めるようなことが起きないようにしてほしい。
高知県の牧野植物園に行き、取組みの素晴らしさを実感した。もう一度、違う季節にも行きたいと思ったが、香川県にはそのような施設がなかったので残念です。
動物愛護と同様に、植物愛護の心が必要だと思います。
○県民総参加のみどりづくり
県民総参加のみどりづくりなんて、県民だけど一度も参加したことがない。
どのような取組みをしているのか分からない。アピールが少ない。
里山を守ってほしい。

【24. 活力ある地域づくり】(27 件中意見を要約・抜粋)

○都市・集落機能の向上
デパートが１つしかない。自宅近くにはスーパーも銀行もなく、将来、買い物難民になりそう。
空き家、放置された田畑、森林など整備し、活用したい土地がたくさんある。地域全体で他地区から人を呼べるような魅力がほしい。
人口を増やさないと活性化はない。活力があるためには若い世代が継続的に必要。
○活力あふれる農山漁村の振興
島への移住は多いが、それ以外の場所への移住アピールがもっと必要。
山間地の山林や農地を手入れする人がいなくなり、荒廃して住みにくくなっている。
農山漁村に若い人を取り込む環境や仕事を作り、定着させる方法を考えるべき。
○地域を支える活動の促進
広域活動への参加者が減少傾向にあり、住民へのＰＲ活動等に努めていただきたい。
地域の交流を増やし、持続可能な地域づくりを目指すべき。

【25. 文化芸術による地域の活性化】(18 件中意見を要約・抜粋)

○文化芸術の振興
香川県の文化の重要性をもっと知ったほうがいいと思う。
県（自治体)、国がやるべき事と、個人がやるべき事を再検すべき。何でも国、自治体が解決すべきとの意見には反対である。
地域の活動、発表の場を設けてほしい。
文化芸術を必要とする意識が低い。
有名な芸術家にデザイン等を依頼するより、香川県出身で次世代の芸術家を育ててほしい。
文化芸術にふれる機会が少ない。地元で、コンサート等を楽しむ機会を増やしてほしい。
美術館やミュージアムを充実してほしい。
文化活動は身近に行われているようだが、個人的に魅力を感じられる内容でない。
芸術といえば瀬戸芸しかないという感じだし、それに頼りすぎている。
○文化芸術による地域づくりの推進
瀬戸芸は良いと思う。
各市でやっている、島プロジェクト（歴史分野）を、瀬戸芸（歴史巡り）的な方向でも盛り上げてみてはどうか。香川県民もきっと知らない歴史が多い。
文化芸術については掘り出せばいくらでもある宝庫であり、子ども達も含め教育、観光の面で、地域活性化に役立ててはどうか。

【26. スポーツの振興】(22 件中意見を要約・抜粋)

○スポーツ参画人口の拡大
球技ができない公園が増えており、運動ができる公園を増やしてほしい。ゲーム条例の前にすべき。
スポーツの振興に力を入れているように思えない。屋島レクザムフィールドの改修や県立アリーナに期待。
最近の岡山県の活躍を見て、県を挙げて盛り上がっているのがうらやましい。
中学校の部活動が減ったり、クラブ化しているので、全体的にスポーツをする子が減っている。
スポーツ施設を充実させてほしい。アクセスの良さも含めて。
瀬戸大橋マラソンの実現。四国で香川県のみ県を挙げてのフルマラソンがない。
サッカーゴールやバスケットゴールを設置してほしい。
○競技力の向上
プロスポーツへの支援が少ない。
県が介入するものではない。
有名なスポーツ選手の育成ができていない。
個人に委ねられており、スポーツの重要性が教えられていない。

(8)「節水」について

問32　あなたは、普段の生活で節水をしていますか。次の中から１つだけ選んでください。

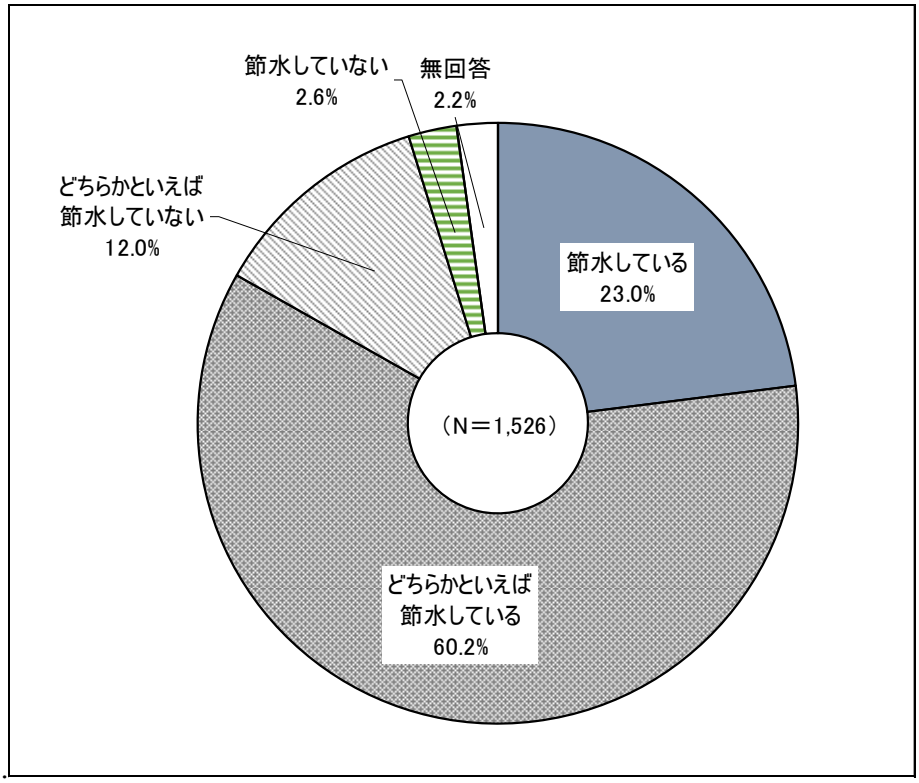
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】

1　節水している	23.0%(22.0%)
2　どちらかといえば節水している	60.2%(60.2%)
3　どちらかといえば節水していない	12.0%(12.9%)
4　節水していない	2.6%(2.7%)
（無回答）	2.2%(2.2%)

「節水」について、「どちらかといえば節水している」60.2%が最も高く、次いで「節水している」23.0%、「どちらかといえば節水していない」12.0%、「節水していない」2.6%となっている。

図表 7-(1)-1 「節水」について



「節水」について、性別にみると、男女とも「どちらかといえば節水している」が最も高く、『男性』59.7%、『女性』62.9%で、これに男女とも「節水している」が『男性』23.9%、『女性』22.9%と続いている。

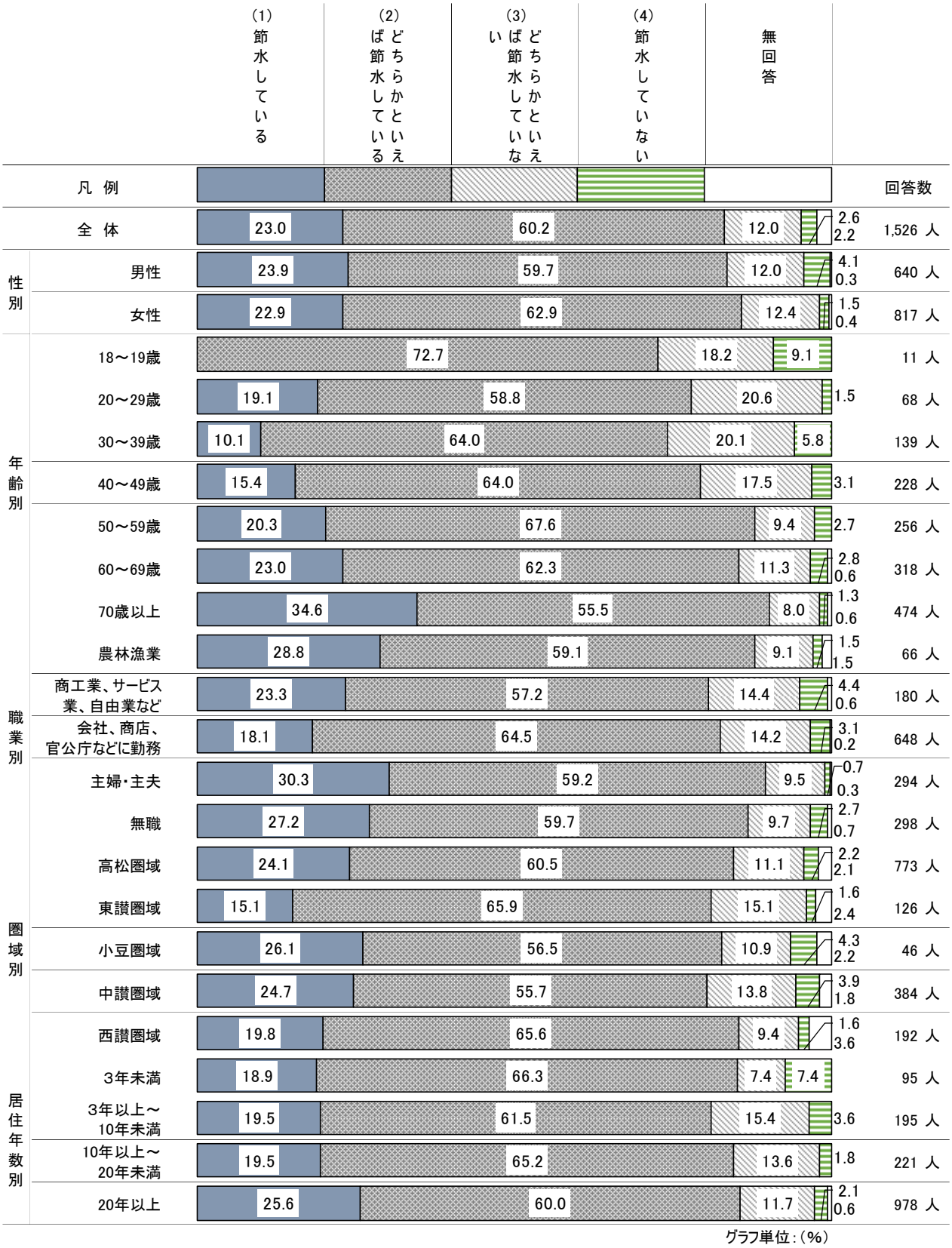
年齢別にみると、いずれも「どちらかといえば節水している」が５～７割台と最も高く、『18～19歳』で72.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「どちらかといえば節水している」が５～６割台と最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』で64.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「どちらかといえば節水している」が５～６割台と最も高く、『東讃圏域』で65.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「どちらかといえば節水している」が６割台と最も高く、『３年未満』で66.3%と最も高くなっている。

図表 7-(1)-2 【「節水」について】



(9)「男女共同参画」について

問33　あなたは、社会全体における男女の地位について、平等になっていると思いますか。次の中から１つだけ選んでください。

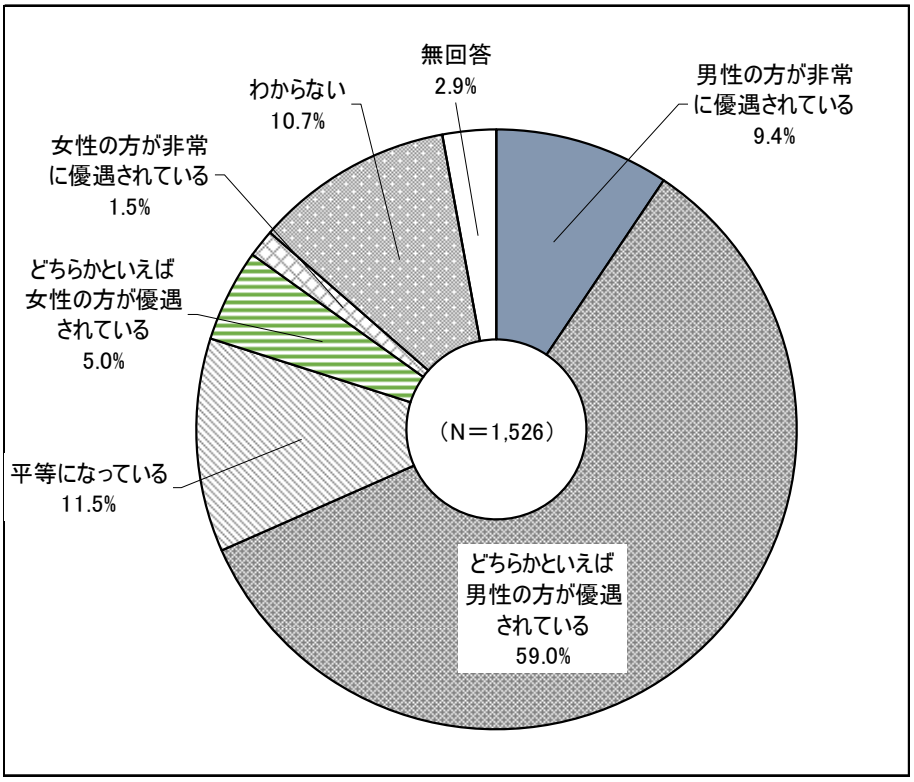
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】

1	男性の方が非常に優遇されている	9.4%(9.5%)
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	59.0%(58.0%)
3	平等になっている	11.5%(11.4%)
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	5.0%(5.9%)
5	女性の方が非常に優遇されている	1.5%(1.6%)
6	わからない	10.7%(10.8%)
	(無回答)	2.9%(2.8%)

「男女共同参画」について、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」59.0%が最も高く、次いで「平等になっている」11.5%、「わからない」10.7%、「男性の方が非常に優遇されている」9.4%などとなっている。

図表 7-(2)-1 「男女共同参画」について



「男女共同参画」について、性別にみると、男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高く、『男性』55.6%、『女性』64.4%で、これに『男性』は「平等になっている」16.4%、『女性』は「男性の方が非常に優遇されている」12.5%が続いている。

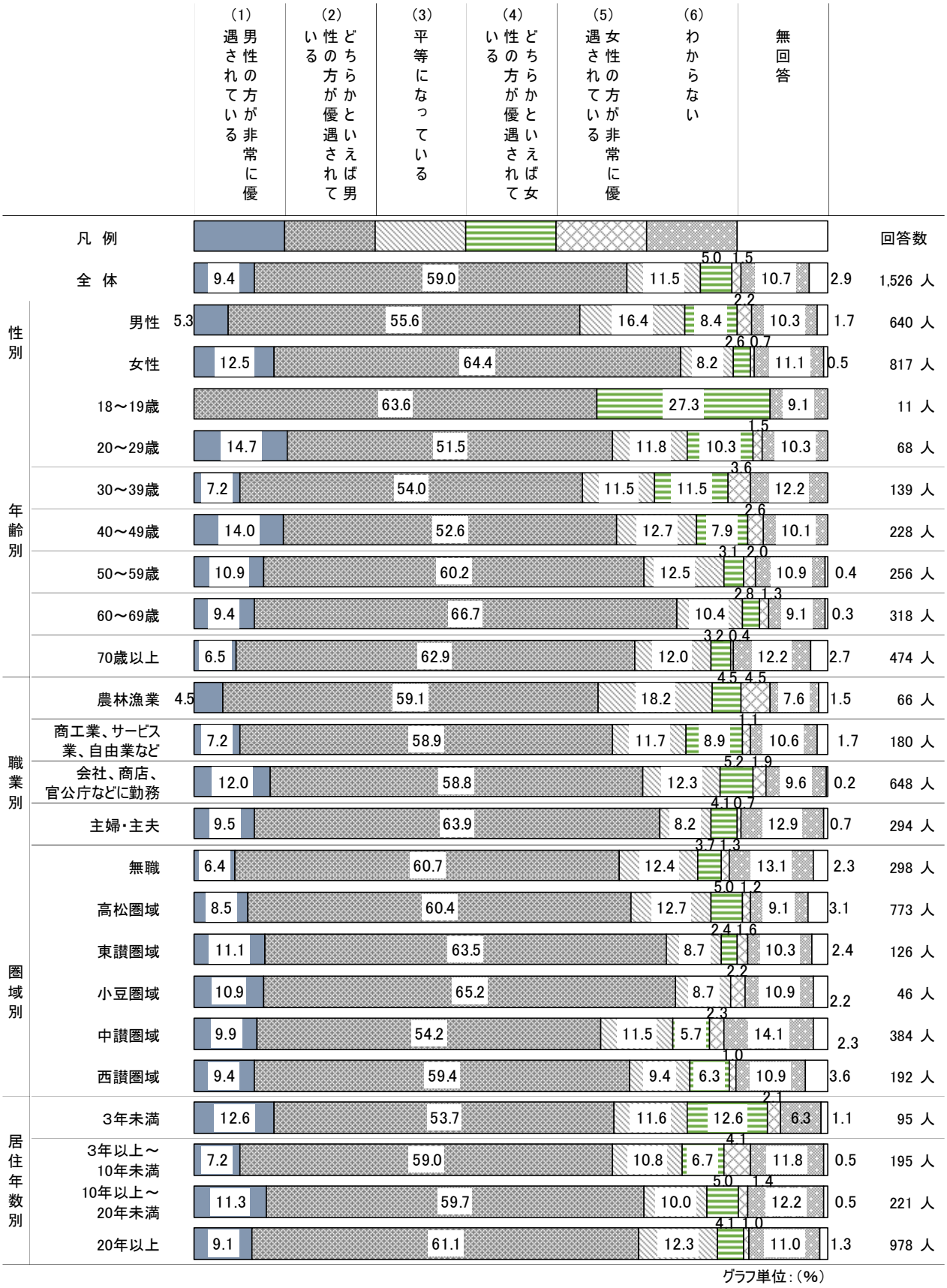
年齢別にみると、いずれも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が５～６割台と最も高く、『60～69 歳』で 66.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が５～６割台と最も高く、『主婦・主夫』で 63.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が５～６割台と最も高く、『小豆圏域』で 65.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が５～６割台と最も高く、『20 年以上』で 61.1%と最も高くなっている。

図表 7-(2)-2 【「男女共同参画」について】



(10)「配偶者等からの暴力」について

【事実婚や別居中の夫婦、生活の本拠を共にしている交際相手などを含む配偶者等からの暴力（身体的暴力、精神的暴力、性的暴力、生活費を渡さないなど経済的暴力）を受けた経験のある方にお聞きします】

問34　あなたは、あなたの配偶者等から暴力を受けたとき、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

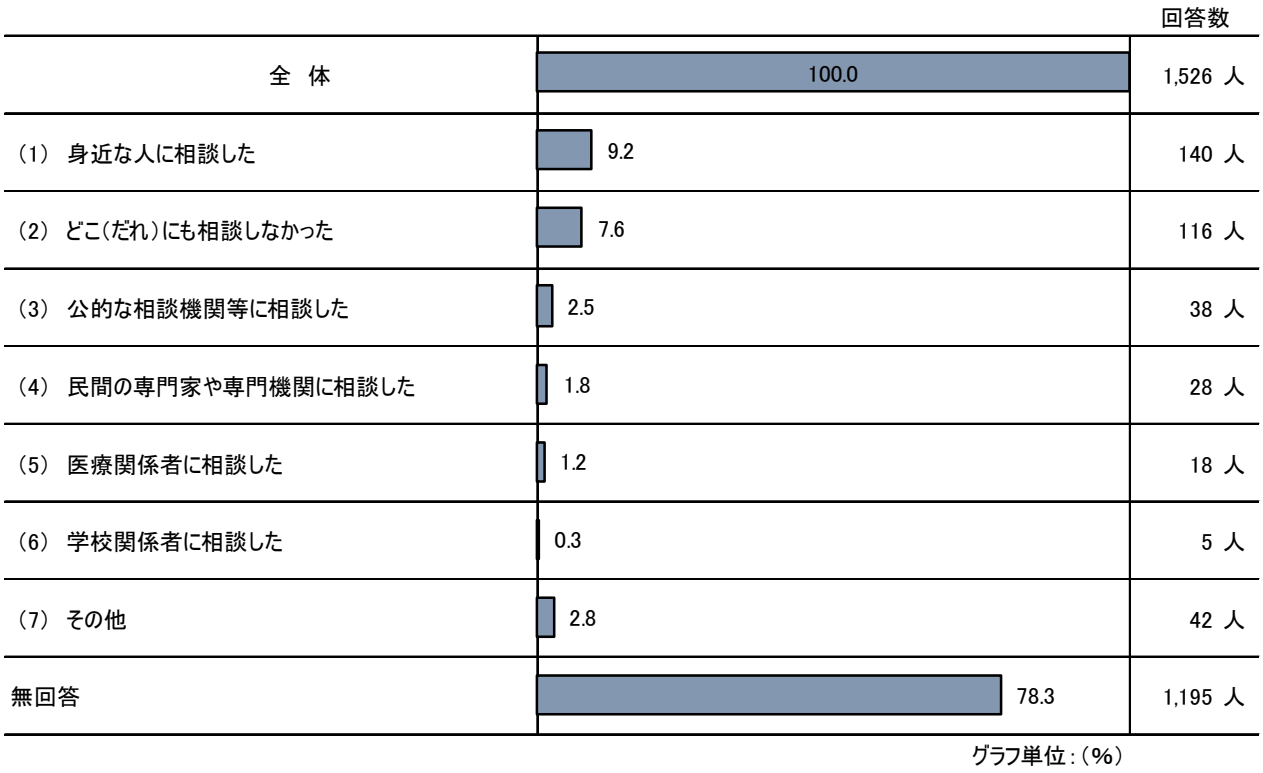
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】※回答数の多い順に並び替え

1	身近な人に相談した	9.2%(9.2%)
2	どこ（だれ）にも相談しなかった	7.6%(7.2%)
3	公的な相談機関等に相談した	2.5%(2.6%)
4	民間の専門家や専門機関に相談した	1.8%(1.7%)
5	医療関係者に相談した	1.2%(1.2%)
6	学校関係者に相談した	0.3%(0.4%)
7	その他	2.8%(2.7%)
（無回答）		78.3%(78.8%)

「配偶者等からの暴力」について、「身近な人に相談した」9.2%が最も高く、次いで「どこ（だれ）にも相談しなかった」7.6%、「公的な相談機関等に相談した」2.5%、「民間の専門家や専門機関に相談した」1.8%などとなっている。

図表 7-(3)-1 「配偶者等からの暴力」について



「配偶者等からの暴力」について、性別にみると、『男性』では「どこ（だれ）にも相談しなかった」9.2%が最も高く、『女性』では「身近な人に相談した」12.0%が最も高くなっている。これに『男性』では「身近な人に相談した」5.8%、『女性』では「どこ（だれ）にも相談しなかった」6.5%と続いている。

年齢別にみると、『70 歳以上』を除くすべての年齢で「身近な人に相談した」が最も高く、『70 歳以上』では「どこ（だれ）にも相談しなかった」10.3%が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『無職』を除くすべての職業で「身近な人に相談した」が最も高く、『農林漁業』、『無職』では「どこ（だれ）にも相談しなかった」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『小豆圏域』を除くすべての圏域で「身近な人に相談した」が最も高く、『高松圏域』、『小豆圏域』では「身近な人に相談した」、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が同率で最も高くなっている。

居住年数別にみると、『20 年以上』を除くすべての居住年数で「身近な人に相談した」が最も高く、『20 年以上』では「どこ（だれ）にも相談しなかった」7.9%が最も高くなっている。

図表 7-(3)-2 【「配偶者等からの暴力」について】

【表の見方】
単位＝比率(%)

		全体（人）	(1) 身近な人に相談した	(2) どこ（だれ）にも相談しなかった	(3) 公的な相談機関等に相談した	(4) 民間の専門家や専門機関に相談した	(5) 医療関係者に相談した	(6) 学校関係者に相談した	(7) その他	無回答
全体		1,526	9.2	7.6	2.5	1.8	1.2	0.3	2.8	78.3
性別	男性	640	5.8	9.2	1.9	1.7	1.3	0.5	3.1	79.5
	女性	817	12.0	6.5	2.9	2.0	1.0	0.1	2.4	76.9
年齢別	18～19歳	11	9.1	－	－	－	－	－	－	90.9
	20～29歳	68	7.4	2.9	5.9	1.5	1.5	－	4.4	80.9
	30～39歳	139	10.8	6.5	2.2	－	0.7	0.7	1.4	79.9
	40～49歳	228	12.7	5.7	3.9	2.6	1.8	1.3	0.9	78.9
	50～59歳	256	9.4	7.4	2.7	3.1	1.6	－	1.2	79.3
	60～69歳	318	8.5	7.5	2.5	2.2	1.3	－	3.8	77.0
	70歳以上	474	8.2	10.3	1.5	1.3	0.8	0.2	4.0	75.9
職業別	農林漁業	66	9.1	19.7	4.5	3.0	4.5	3.0	7.6	65.2
	商工業、サービス業、自由業など	180	9.4	5.0	2.2	2.8	2.2	－	4.4	78.3
	会社、商店、官公庁などに勤務	648	10.2	7.4	2.6	2.5	1.1	0.5	2.0	77.8
	主婦・主夫	294	9.9	5.8	1.7	0.7	0.7	－	2.0	80.6
	無職	298	7.0	9.4	3.0	1.0	0.7	－	3.4	77.9
圏域別	高松圏域	773	8.4	8.4	2.3	1.9	1.2	0.3	2.8	78.1
	東讃圏域	126	11.1	4.0	2.4	0.8	2.4	－	－	81.7
	小豆圏域	46	4.3	4.3	2.2	－	－	－	2.2	87.0
	中讃圏域	384	9.4	7.6	3.4	2.9	0.8	0.5	3.6	77.3
	西讃圏域	192	11.5	7.8	1.6	0.5	1.6	0.5	2.1	77.1
居住年数別	3年未満	95	11.6	7.4	3.2	1.1	2.1	1.1	－	80.0
	3年以上～10年未満	195	11.8	5.1	3.1	2.6	1.0	－	2.1	78.5
	10年以上～20年未満	221	12.7	10.0	3.2	3.2	1.8	1.4	1.4	73.8
	20年以上	978	7.8	7.9	2.2	1.5	1.0	0.1	3.6	78.5

(11)「運動・スポーツ」について

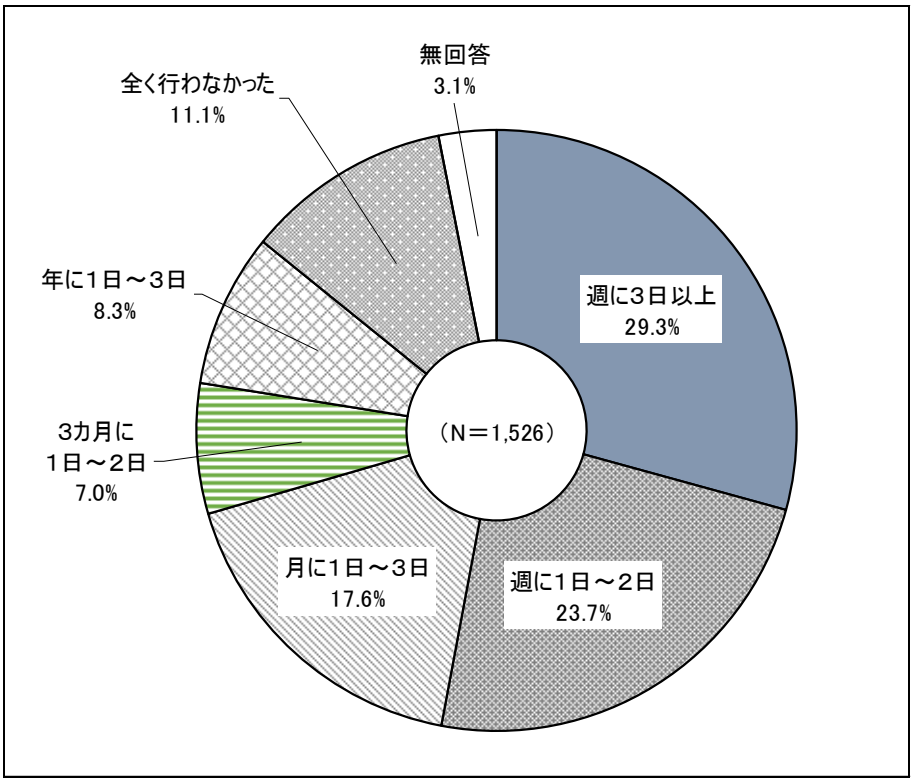
問35　過去１年間に、運動やスポーツ（ウォーキング（例：散歩・ぶらぶら歩き・一駅歩き）、階段昇降、軽い体操（例：ラジオ体操・職場体操・美容体操）、野外活動（例：登山・キャンプ・釣り）などを含む。）を行った日数はどのくらいありますか。次の中から１つだけ選んでください。　※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数＝1,526】

1	週に３日以上	29.3%(28.7%)
2	週に１日～２日	23.7%(24.5%)
3	月に１日～３日	17.6%(18.1%)
4	３カ月に１日～２日	7.0%(7.0%)
5	年に１日～３日	8.3%(8.0%)
6	全く行わなかった	11.1%(10.4%)
	(無回答)	3.1%(3.4%)

「運動・スポーツ」について、「週に３日以上」29.3%が最も高く、次いで「週に１日～２日」23.7%、「月に１日～３日」17.6%、「全く行わなかった」11.1%などとなっている。

図表 7-(4)-1 「運動・スポーツ」について

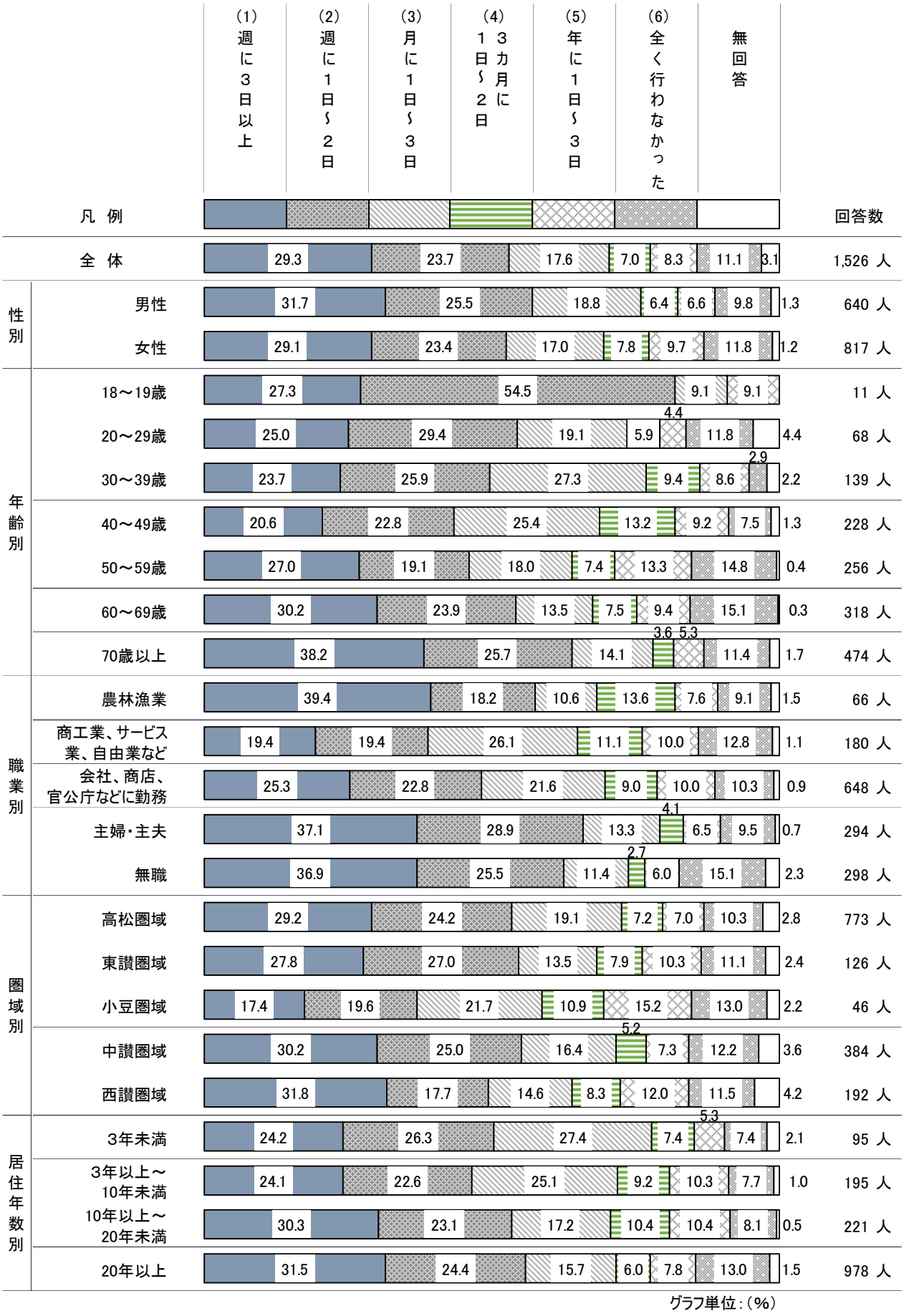


「運動・スポーツ」について、性別にみると、男女とも「週に３日以上」が最も高く、『男性』31.7%、『女性』29.1%で、これに男女とも「週に１日～２日」が『男性』25.5%、『女性』23.4%と続いている。

年齢別にみると、『18～19 歳』、『20～29 歳』では「週に１日～２日」が最も高く、『30～39 歳』、『40～49 歳』では「月に１日～３日」が最も高く、『50～59 歳』、『60～69 歳』、『70 歳以上』では「週に３日以上」が最も高くなっている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』を除くすべての職業で「週に３日以上」が２～３割台と最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』では「月に１日～３日」26.1%が最も高くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』を除くすべての圏域で「週に３日以上」が２～３割台と最も高く、『小豆圏域』では「月に１日～３日」21.7%が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『３年未満』、『３年以上～10 年未満』では「月に１日～３日」が最も高く、『10 年以上～20 年未満』、『20 年以上』では「週に３日以上」が最も高くなっている。

図表 7-(4)-2 【「運動・スポーツ」について】